公益財団法人八尾市文化財調査研究会報告142

弓削遺跡

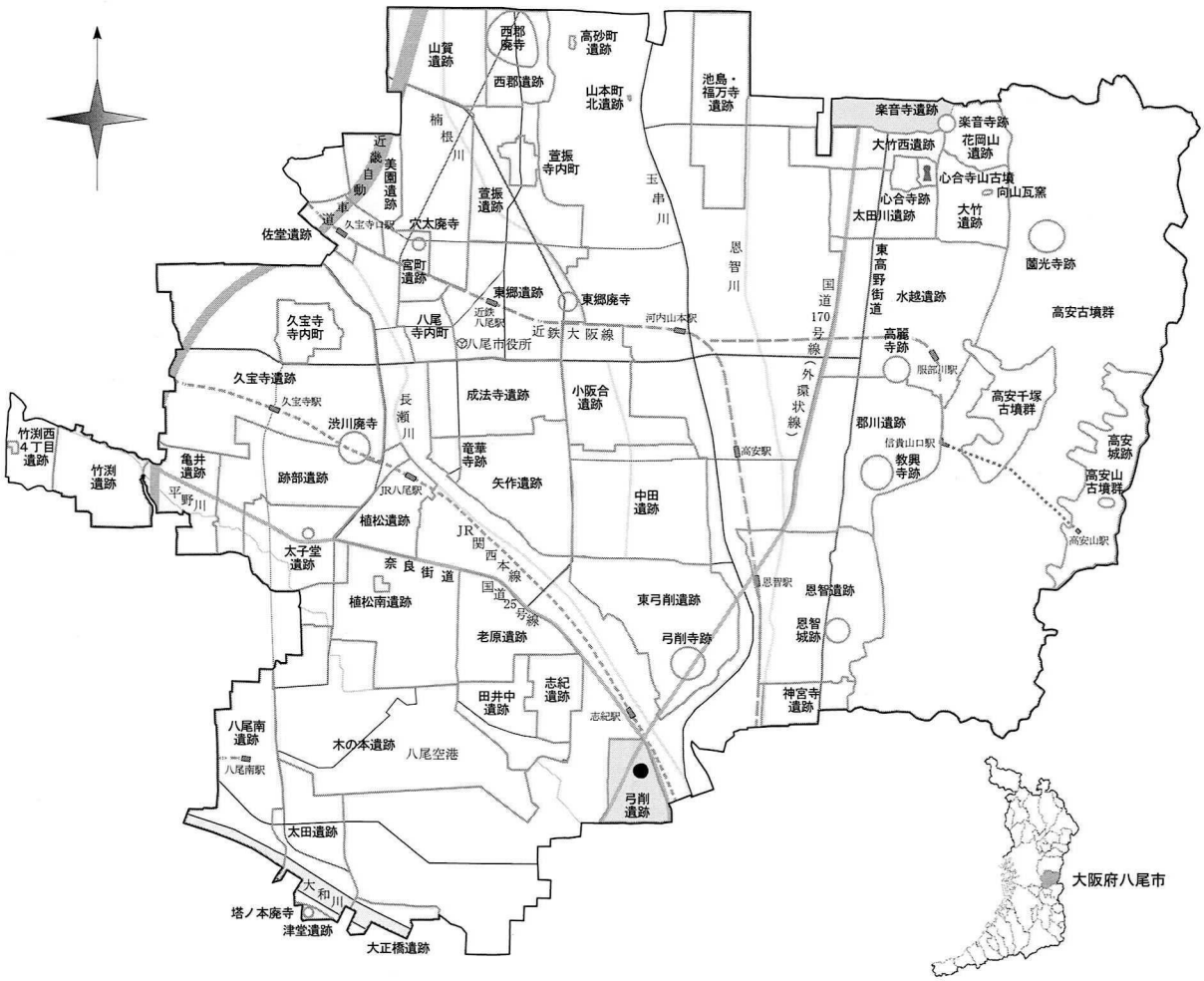
第1次調査

2013年

公益財団法人八尾市文化財調査研究会

弓削遺跡

第1次調査



2013年

公益財団法人八尾市文化財調査研究会

はしがき

八尾市は、大阪府の中央部東に位置し、西は上町台地、東は生駒山地、南は羽曳野丘陵に囲まれた山麓・丘陵先端から平野部にかけて立地しています。山麓や丘陵先端部には、古くは旧石器時代に遡り得る人々の生活の痕跡が点在しています。また、平野部では旧大和川水系の河川が運び続ける土砂が厚く堆積しており、その中に弥生時代以降の生活の跡が連綿と積み重なっています。

このような先人達の残した埋蔵文化財(遺産)は、市民が共有すべき財産であります。しかし、市民生活の利便性や豊かさを追求するための開発は、一方ではこのような共有の財産を破壊することになります。そこで私どもは、開発によって壊される埋蔵文化財について事前に発掘調査を行い、記録保存・研究に努めているところであります。

本書は、昭和59年度に実施しました共同住宅建設に伴う発掘調査の報告であります。この調査では、弥生時代中期以降、奈良時代に至るまでの遺構や遺物が検出されました。なかでも特筆すべき遺構には、弥生時代後期の遺物が大量に出土した溝や奈良時代末期～平安時代初頭の土器とともに銅銭『神功開寶』が出土した井戸があります。これらの遺構は同時期の生活を知る上で貴重な資料であります。

本書が八尾市の歴史のみならず中河内地域の地域史、ひいては日本史解明の一助となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査に際しまして、事業者ならびに関係各機関の方々に、多くのご協力をいただきましたことを心から厚く御礼申し上げます。

平成25年10月

公益財団法人八尾市文化財調査研究会

理事長　西浦　昭夫

例　言

1．本書は、大阪府八尾市志紀町南二丁目 74、75-１、76 で実施した共同住宅建設に伴う発掘調査の報告書である。
1．本書で報告する弓削遺跡第１次調査（ＹＧＥ84－１）の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の指示書に基づき財団法人八尾市文化財調査研究会が申請者から委託を受けて実施したものである。
1．現地調査は昭和 59 年４月２日～同年７月 27 日にかけて西村公助を担当者として実施した。調査面積は 1260 ㎡を測る。なお、調査においては相松　隆、麻田　優、太田修司、北尾耕三、米野成幸、笹井伸彦、多田　謙、徳谷貢正、中野健太郎、中野龍介、西森忠幸、前田芳継、森山健一、山西嘉彦が参加した。
1．本書に関わる業務は、遺物実測－市森千恵子、伊藤静江、岩沢玲子、北原清子、坂田典彦、徳谷尚子、中西明美、西岡千恵子、西村和子、樋口　薫、古川晴久、宮崎寛子、村井俊子、村田知子、森本めぐみ、山内千惠子、遺物観察表－西村公助、原田昌則、小野聡美、図面レイアウト・トレース－西村公助、原田、山内が行った。本書の執筆・編集は西村公助、原田が行い、執筆分担は目次末に記した。
1．本書作成に際して以下の方々からご教示を賜った。記して感謝の意を表します。
杉本厚典、高野陽子、田中元浩、野島　稔、肥後弘幸、森岡秀人（五十音順　敬称略）
1．調査に際しては、写真・実測図の記録を作成した。これらの記録や出土遺物は八尾市立埋蔵文化財調査センターで保管しているので、各方面での幅広い活用を希望する。

凡　例

1．本書掲載の地図は，大阪府八尾市役所発行の2,500分の１地形図（平成８年７月発行）・八尾市教育委員会発行の『八尾市埋蔵文化財分布図』（平成24年度版）をもとに作成した。
1．本書で用いた標高の基準は東京湾標準潮位（T.P.）である。
1．本書で用いた方位は、磁北及び日本測地系（第Ⅳ系）座標北を示している。
1．遺構は下記の略号で示した。
井戸－ＳＥ　　土坑－ＳＫ　　溝－ＳＤ　　小穴・柱穴－ＳＰ
1．遺物図面の縮尺は、一部の1/8と1/10を除き1/4に統一した。
1．遺物実測図の断面表示は、須恵器が黒、瓦が斜線で、その他を白とした。
1．出土遺物のうち土器の土色については『新版標準土色帖』1997年後期版　農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修を使用した。
1．土器の形式・編年および出土例などの参考とした文献については、79～80頁に提示した。

本　文　目　次

第１章　はじめに……（西村、原田）１
第２章　調査概要……５
　第１節　調査の方法と経過……（西村、原田）５
　第２節　基本層序……（西村）６
　第３節　検出遺構と出土遺物……（西村、原田）９
第３章　まとめ……（西村）78

挿　図　目　次

第１図　弓削遺跡周辺図…… ２
第２図　調査区設定図…… ５
第３図　壁面図…… 7･8
第４図　Ｂ区ＳＥ101 平・断面図 …… ９
第５図　Ｂ区ＳＥ101 出土遺物実測図 …… ９
第６図　Ａ～Ｄ区第１面平面図 …… 10
第７図　Ｂ区ＳＥ102 平・断面図 …… 11
第８図　Ｂ区ＳＥ102 出土遺物実測図 …… 11
第９図　Ｃ区ＳＥ103 平・断面図 …… 12
第10図　Ｃ区ＳＥ103出土遺物実測図…… 13
第11図　Ｂ区ＳＫ101出土遺物実測図…… 13
第12図　Ｂ区ＳＫ101平・断面図…… 14
第13図　Ｃ区ＳＫ102・103平・断面図 …… 14
第14図　Ｃ区ＳＫ102・103出土遺物実測図…… 15
第15図　Ａ区ＳＤ103・104　Ｂ区ＳＤ117　Ｃ区ＳＤ129・131出土遺物実測図…… 16
第16図　Ａ区第２面平面図…… 18
第17図　Ｂ区ＳＫ301平・断面図…… 20
第18図　Ａ～Ｄ区第３面平面図…… 21
第19図　Ｂ区ＳＫ303平・断面図 …… 22
第20図　Ｂ区ＳＫ301・303出土遺物実測図 …… 22
第21図　Ａ・Ｂ区ＳＤ301断面図…… 23
第22図　Ａ～Ｃ区ＳＤ301平面図…… 24
第23図　土器分類図１…… 25
第24図　土器分類図２…… 26
第25図　Ａ区ＳＤ301上層出土遺物位置図…… 29･30
第26図　Ａ区ＳＤ301上層出土遺物実測図－１…… 32

第27図　A区ＳＤ301上層出土遺物実測図-２…… 33
第28図　A区ＳＤ301上層出土遺物実測図-３…… 34
第29図　A区ＳＤ301上層出土遺物実測図-４…… 35
第30図　A区ＳＤ301下層出土遺物位置図(北部)…… 41・42
第31図　A区ＳＤ301下層出土遺物位置図(南部)…… 43・44
第32図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-１…… 45
第33図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-２…… 46
第34図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-３…… 47
第35図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-４…… 48
第36図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-５…… 49
第37図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-６…… 50
第38図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-７…… 51
第39図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-８…… 52
第40図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-９…… 53
第41図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-10…… 54
第42図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-11…… 55
第43図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-12…… 56
第44図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-13…… 57
第45図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-14…… 58
第46図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-15…… 59
第47図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-16…… 60
第48図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-17…… 61
第49図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-18…… 62
第50図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-19…… 63
第51図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-20…… 64
第52図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-21…… 65
第53図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-22…… 66
第54図　B区ＳＤ301出土遺物実測図…… 66
第55図　B区ＳＤ302～304断面図…… 67
第56図　B区ＳＤ302～304出土遺物実測図…… 68

表　目　次

第１表　弓削遺跡・本郷遺跡(柏原市)発掘調査地一覧表…… 3
第２表　第１面溝法量表…… 17
第３表　A区　第２面小穴法量表…… 19
第４表　第３面小穴法量表…… 67

第５表　出土遺物観察表……69

図　版　目　次

図版１　Ａ区　第１面　全景
Ｂ区　第１面　全景
図版２　Ｃ区　第１・３面全景
Ｄ区　第１面　全景
図版３　Ｂ区　第１面　ＳＥ101 井戸枠内断面
Ｂ区　第１面　ＳＥ101
Ｂ区　第１面　ＳＥ101 井戸枠内部
図版４　Ｂ区　第１面　ＳＥ102 断面
Ｃ区　第１面　ＳＥ103
Ｃ区　第１面　ＳＥ103 井戸枠検出状況
図版５　Ａ区　第２面　全景
Ａ区　第３面　全景
図版６　Ｂ区　第３面　全景
Ｂ区　第３面　ＳＫ303
Ｂ区　第３面　ＳＰ301～304、ＳＫ301
図版７　Ａ区　第３面　ＳＤ301 上層遺物出土状況
Ａ区　第３面　ＳＤ301 上層遺物出土状況
図版８　Ａ区　第３面　ＳＤ301 北部下層遺物出土状況
Ａ区　第３面　ＳＤ301 南部下層遺物出土状況
図版９　Ａ区　第３面　ＳＤ301 上層(X45～42 ライン付近)遺物出土状況
Ａ区　第３面　ＳＤ301 上層(X45～42 ライン付近)遺物出土状況
Ａ区　第３面　ＳＤ301 下層(X43・42 ライン付近)遺物出土状況
図版10　Ａ区　第３面　ＳＤ301完掘状況
Ｂ区　第３面　ＳＤ301
図版11　ＳＥ101、ＳＥ102、ＳＥ103出土遺物
図版12　ＳＥ103、ＳＫ102出土遺物
図版13　ＳＫ102、ＳＫ103、ＳＤ104、ＳＤ117出土遺物
図版14　ＳＤ103、ＳＤ129、ＳＫ301、ＳＫ303
図版15　Ａ区　ＳＤ301上層　出土遺物
図版16　Ａ区　ＳＤ301上層　出土遺物
図版17　Ａ区　ＳＤ301上層　出土遺物

図版18　A区　ＳＤ301上層　出土遺物
図版19　A区　ＳＤ301上層　出土遺物
図版20　A区　ＳＤ301下層　出土遺物
図版21　A区　ＳＤ301下層　出土遺物
図版22　A区　ＳＤ301下層　出土遺物
図版23　A区　ＳＤ301下層　出土遺物
図版24　A区　ＳＤ301下層　出土遺物
図版25　A区　ＳＤ301下層　出土遺物
図版26　A区　ＳＤ301下層　出土遺物
図版27　A区　ＳＤ301下層　出土遺物
図版28　A区　ＳＤ301下層　出土遺物
図版29　A区　ＳＤ301下層　出土遺物
図版30　A区　ＳＤ301下層　出土遺物
図版31　A区　ＳＤ301下層　出土遺物
図版32　A区　ＳＤ301下層　出土遺物
図版33　A区　ＳＤ301下層　出土遺物
図版34　A区　ＳＤ301下層　出土遺物
図版35　A区　ＳＤ301下層　出土遺物
図版36　A区　ＳＤ301下層　出土遺物
図版37　A区　ＳＤ301下層　出土遺物
図版38　A区　ＳＤ301下層　出土遺物
図版39　A区　ＳＤ301下層　出土遺物
図版40　A区　ＳＤ301下層、ＳＤ302、ＳＤ304　出土遺物

第１章　はじめに

弓削遺跡は、大阪府八尾市の南東部に位置する。現在の行政区画では、志紀町南二丁目・四丁目・弓削町三丁目・弓削町南三丁目の一部にあたり、東西約 0.5 ㎞、南北 0.7 ㎞の範囲に広がる弥生時代中期以降の複合遺跡である。

地理的には、東を生駒山地、南を羽曳野丘陵、西を上町台地、北を淀川に囲まれた河内平野の南東部に位置する。本遺跡範囲の東部には、奈良県の大和盆地内の中小河川ならびに金剛・葛城山地を源とする石川を集約した旧大和川の本流である長瀬川が南東から北西方向に流れている。当遺跡は、この長瀬川左岸の自然堤防から西方に広がる後背湿地に所在する。

当遺跡の周辺には、長瀬川を挟んで北東側に東弓削遺跡、北西側には志紀遺跡、田井中遺跡、木の本遺跡があり、南側には本郷遺跡(柏原市)が隣接している他、遺跡東部の長瀬川左岸の自然堤防上には奈良街道が通る。この街道は、難波と大和を結ぶ古代の街道である渋河道(竜田道・亀瀬越道・奈良街道)と推定されている。

当遺跡では、大阪府教育委員会・八尾市教育委員会・(公財)八尾市文化財調査研究会 による発掘調査が継続して行われている。隣接する本郷遺跡では柏原市教育委員会により発掘調査が行われている。

以下、第１図に示した弓削遺跡・本郷遺跡の調査番号で各時期の概要を列記する。

縄文時代：縄文時代の遺跡は本郷遺跡北部の 37 で縄文時代中期末の土器、36 で縄文時代晩期の長原式の深鉢を用いた埋甕が検出されている。

弥生時代前期・中期：弥生時代前期の遺構は検出されていない。弥生時代中期の遺構・遺物は、弓削遺跡中南部の１・６・８・９・19・22・25・27・33、本郷遺跡北部の 35・37・38・43 などで検出している。中期の遺構はいずれも中期後葉(畿内第Ⅳ様式)に比定できるもので、弓削遺跡から本郷遺跡の東西約 400m、南北約 500mの範囲に居住域が想定される。

弥生時代後期：弥生時代後期の遺構・遺物は両遺跡で多く検出されている。弓削遺跡の４では、弥生時代後期前葉の井戸・土坑を、６では遺物包含層を、33 では溝を検出し、後期前葉は遺跡北西部に居住域があると考えられる。後期後半の遺構・遺物は弓削遺跡では、１～３・５～８・11・18・27、本郷遺跡では 43 で確認されており、その範囲は東西約 400m、南北約 700mに及ぶ。中でも弓削遺跡の１では、大量の土器が出土した溝を検出し、本郷遺跡の 43 では溝から小銅鐸が出土している。

古墳時代初頭・前期：初頭(庄内式期)の遺構・遺物は、弓削遺跡では 27・34、本郷遺跡では 37・43・48 で検出されている。中でも、北東部の 34 で、一括性の高い古墳時代初頭の土器類の中に、東海系Ｓ字口縁甕や阿波地方の複合口縁壺が出土している。本郷遺跡の 43 からは、方形周溝墓２基や大溝が検出されており、当該期の墓域が形成されている。一方、前期(布留式期)の遺構・遺物は、弓削遺跡の 20、本郷遺跡の 36・43 で検出されており、弓削遺跡南西部から本郷遺跡北部を中心に居住域が形成されている。

古墳時代中期・後期：中期には、弓削遺跡南西部の７で土坑、本郷遺跡北部の 43 で竪穴住居・大溝が検出されている。後期には、本郷遺跡の 39・40・44 で遺構・遺物が確認されている。

弓削遺跡
本郷遺跡
弓削町一丁目
弓削町二丁目
弓削町三丁目
弓削町南三丁目
弓削町南
弓削公園
志紀町南二丁目
志紀町南三丁目
志紀町南四丁目
弓削豊園
弓削変電所
大和防水布
富士電線工業
本郷五丁目
本郷四丁目
本郷三丁目
本郷二丁目
本郷一丁目
コーアゴルフプラザ
二俣一丁目
二俣三丁目
タカラスタンダード八尾工場
大三興業
八尾志紀スカンハイツ
新田ゼラチングラ
0
(1:5000)
200m

第１図　弓削遺跡周辺図

第１表　弓削遺跡（八尾市）・本郷遺跡（柏原市）の発掘調査地一覧表

遺跡	番号	調査名	所在地	調査主体	主な成果	文献/発行年
弓削（八尾市）	1	ＹＧＥ84－１	志紀町南二	研究会	弥生中期：土坑・溝、弥生後期・溝、古墳中期：溝、古墳後期：井戸、奈良：井戸・土坑、平安初頭：井戸	本書
	2	90--553	志紀町南四	八教委	弥生後期末：土器	1992『八尾市内遺跡平成３年度発掘調査報告書Ⅰ』八尾市文化財調査報告25
	3	94－631	志紀町南四	八教委	弥生後期末：土器	1996『八尾市内遺跡平成７年度発掘調査報告書Ⅰ』八尾市文化財調査報告33
	4	97－444	弓削町南三	八教委	弥生後期：井戸・溝	1999『八尾市内遺跡平成10年度発掘調査報告書Ⅱ』八尾市文化財調査報告41　2000『弓削遺跡発掘調査報告書』八尾市文化財紀要10
	5	98－380	志紀町南三	八教委	河川堆積層（弥生土器・須恵器・埴輪）、弥生後期：土器	1999『八尾市内遺跡平成10年度発掘調査報告書Ⅰ』八尾市文化財調査報告40
	6	ＹＧＥ99－２	志紀町南二	研究会	弥生中期以前：河川堆積　弥生中期末～後期前半：遺物包含層　弥生後期末～古墳初頭：土坑	2001『財団法人八尾市文化財調査研究会報告67』
	7	99－429	志紀町南四	八教委	弥生後期：土器、古墳中期：土坑、古墳中期後半：埴輪、中世以降：井戸	2001『八尾市内遺跡平成12年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告44
	8	99－524	志紀町南三	八教委	弥生中期：土器、弥生後期：溝状遺構・小穴・落込、古墳中期：溝	
		ＹＧＥ2000－３	志紀町南三	研究会	弥生後期：土器、古墳後期：埴輪、近世：溝	2002『八尾市立埋蔵文化財調査センター報告３　平成13年度』
	9	2002－23	志紀町南三	八教委	弥生中期～後期：土器・石器	2003『八尾市内遺跡平成14年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告48
	10	2002－66	志紀町南三	八教委	近世以降：溝	
	11	ＹＧＥ2002－４	志紀町南三	研究会	弥生後期：土坑	2003『財団法人八尾市文化財調査研究会報告75』
	12	ＹＧＥ2003－５	志紀町南三・四	研究会	河川堆積層	2004『財団法人八尾市文化財調査研究会報告78』
	13	2003－195	志紀町南二	八教委	平安以降：水田畦畔	2004『八尾市内遺跡平成15年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告49
	14	2003－319	志紀町南二	八教委	遺構・遺物なし	2005『八尾市内遺跡平成16年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告50
	15	2004－259	志紀町南二	八教委	古墳前期：堆積層	2005『八尾市内遺跡平成16年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告50
	16	2004－347	志紀町南三	八教委	近世以前：河川堆積層	2006『八尾市内遺跡平成17年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告53
	17	2005－160	志紀町南二	八教委	奈良：土師器	2006『八尾市内遺跡平成17年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告53
	18	2005－185	志紀町南二	八教委	弥生後期・古墳前期・奈良以降：土器	2006『八尾市内遺跡平成17年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告53
		ＹＧＥ2005－６	志紀町南二	研究会	弥生後期：土坑、奈良：土坑、平安・鎌倉：土坑・溝	2007『財団法人八尾市文化財調査研究会報告97』
	19	2005－504	弓削町三	八教委	弥生中期末～後期初：土器　近世：土坑	2006『八尾市内遺跡平成18年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告55
	20	ＹＧＥ2007－７	弓削町南二・志紀町西四	研究会	古墳時代前期後半：落込、古墳時代中期後半：溝	2008『財団法人八尾市文化財調査研究会報告112』
	21	2007－54	志紀町南四	八教委	奈良前期：土器群	2008『八尾市内遺跡平成19年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告57
	22	ＹＧＥ2008－８	志紀町南四	研究会	弥生時代中期・奈良時代：土器	2010『弓削遺跡第８次調査　財団法人八尾市文化財調査研究会報告129』
	23	ＹＧＥ2008－９	志紀町南三	研究会	河川堆積層	2008『弓削遺跡第９次調査　財団法人八尾市文化財調査研究会報告118』
	24	2008-403	弓削町三	八教委	遺構・遺物なし	2010『八尾市内遺跡平成21年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告61
	25	2009-433	弓削町南三	八教委	弥生中～後期：遺物包含層　古墳時代初頭：遺物包含層	2011『八尾市内遺跡平成22年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告65
	26	ＹＧＥ2010－10	志紀町南四	研究会	古墳：河川　奈良：溝　中世～近世：河川	2011『弓削遺跡第10次調査　財団法人八尾市文化財調査研究会報告132』
	27	ＹＧＥ2010－11	弓削町南三	研究会	弥生中～後期：遺物包含層　古墳時代初頭～前期：遺物包含層	2011『弓削遺跡第11次調査　財団法人八尾市文化財調査研究会報告135』
	28	ＹＧＥ2010－12	志紀町南三	研究会	近世：河川	2012『弓削遺跡第12次調査　財団法人八尾市文化財調査研究会報告136』
	29	ＹＧＥ2010－13	志紀町南四	研究会	弥生中期末～後期：遺物包含層	2012『弓削遺跡第13次調査　財団法人八尾市文化財調査研究会報告136』
	30	ＹＧＥ2011－14	志紀町南二	研究会	時期不明：溝	2012『弓削遺跡第14次調査　財団法人八尾市文化財調査研究会報告136』
	31	ＹＧＥ2011－15	志紀町南四	研究会	弥生後期～古墳初頭：遺物包含層	2012『弓削遺跡第15次調査　財団法人八尾市文化財調査研究会報告136』
	32	ＹＧＥ2011－16	志紀町南二	研究会	古墳後期～奈良：遺物包含層	2013『弓削遺跡第16次調査　公益財団法人八尾市文化財調査研究会報告141』
	33	2011－422	志紀町南三	八教委	弥生中期末～後期：溝　遺物包含層	2012『八尾市内遺跡平成23年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告69
		ＹＧＥ2011－17	志紀町南三	研究会	弥生中期末～後期：井戸　土坑　小穴　溝　遺物包含層	2012『弓削遺跡第16次調査　財団法人八尾市文化財調査研究会事業報告』

遺跡	番号	調査名	所在地	調査主体	主な成果	文献/発行年
弓削・志紀	34		志紀町一・二	府教委	古墳前期：土器【東海系甕、阿波系壺など】　中世：土器	1995『寝屋川南部流域下水道事業に伴う中垣内・志紀・弓削・太平寺遺跡発掘概要』
本郷（柏原市）	35	80－1次	本郷五	府教委	弥生時代中期中葉：方形周溝墓　後期：土壙	1982『柏原市埋蔵文化財発掘調査概要 1981年度』 1999『本郷遺跡―公共下水道管埋設に伴う―』柏原市文化財概報 1998－Ⅳ
	36	81－1次	本郷三	柏教委	縄文晩期：埋甕、古墳初頭・前期：井戸、古墳中期後半：埴輪	1982『柏原市埋蔵文化財発掘調査概要 1981年度』
	37	83－1次	本郷三	柏教委	縄文中期末：土器、弥生中期～古墳前期：土器	1984『柏原市所在遺跡発掘調査概報―大県・田辺・本郷遺跡― 1983年度』柏原市文化財報告　1983－Ⅳ
	38	83－2次	本郷三	柏教委	弥生中期中葉：溝状遺構、弥生中期～古墳中期：土器、古墳後期：埴輪	
	39	84－2次	本郷三	柏教委	古墳後期：溝(須恵器・獣骨)	1984『本郷遺跡・玉手山遺跡―マンション建設に伴う―』柏原市文化財概報　1984－Ⅵ
	40	85－1次	本郷五	柏教委	古墳後期：須恵器・土師器・製塩土器	1986『柏原市埋蔵文化財発掘調査概報 1985年度』
	41	88－1次	本郷三	柏教委	遺物包含層	1989『柏原市埋蔵文化財発掘調査概報 1988年度』柏原市文化財報告 1988－Ⅰ
	42	89－2次	本郷三	柏教委	中世以降：洪水層	1990『高井田遺跡・本郷遺跡―1989年度公共事業に伴う―』柏原市文化財概報　1989－Ⅳ
	43	91－1次	本郷五	柏教委	弥生中期：土坑、弥生後期後半：溝(小銅鐸)　弥生後期～古墳前期：方形周溝墓、古墳中期：竪穴住居	1993『本郷遺跡 1991・1992年度』柏原市文化財概報　1992－Ⅲ
	44	91－2次	本郷三	柏教委	古墳後期～飛鳥時代末：溝	1992『柏原市遺跡群発掘調査概報 1991年度』柏原市文化財概報　1991－Ⅳ
	45	93－3次	本郷五	柏教委	土師器：須恵器の破片	1997『柏原市所在遺跡群発掘調査概報 1996年度』柏原市文化財概報 1996－Ⅱ
	46	94－1次	本郷三	柏教委	中近世：包含層	1995『柏原市埋蔵文化財発掘調査概報 1994年度』柏原市文化財報告 1994－Ⅰ
	47	94－2次	本郷三	柏教委	中世：遺物包含層、近世：溝	
	48	95－1次	本郷五	柏教委	弥生時代後期：土器・焼土塊、古墳～奈良：土器・鞴羽口	1997『柏原市所在遺跡発掘調査概報 1996年度』柏原市文化財概報　1996－Ⅱ
	49	96－1次	本郷五	柏教委	近世：耕作土、近世以前：洪水層	1998『柏原市所在遺跡発掘調査概報 1996年度』柏原市文化財概報　1996－Ⅰ
	50	98－1次	本郷五	柏教委	縄文晩期：土器、弥生後期～古墳前期：溝状の落込み(土器)	1999『本郷遺跡―公共下水道管埋設に伴う―』柏原市文化財概報 1998－Ⅳ
	51	2005-1次	本郷五	柏教委	遺構・遺物なし	2007『柏原市内遺跡群発掘調査概報　平成16(2004)年度』柏原市文化財概報　2006-Ⅰ

※　調査主体名称の省略についは以下の通り。八尾市教育委員会：八教委、大阪府教育委員会：府教委、柏原市教育委員会：柏教委、(財)八尾市文化財調査研究会：研究会

また、弓削遺跡中部から本郷遺跡北東部にかけての**1・6～8・36・38**からは5世紀後半から6世紀前半の円筒・朝顔・形象埴輪が散発的に出土しており、この周辺を中心に多くの埋没古墳の存在が推定される。

飛鳥時代～奈良時代：弓削遺跡の**1・17・18・21・33**、本郷遺跡の**44**で遺構・遺物が検出されている。当該期においては、遺跡範囲の東部を南北に通る奈良街道が存在する。この街道は渋河道と推定されている。同時期の居住域を示す遺構の分布位置から見て、道路に沿った集落の展開が認められる。なかでも、弓削遺跡の**1**では、奈良時代末期～平安時代初頭の井戸から墨書人面土器・銅銭『神功開寶』が出土しており、墨書人面土器を用いた祭祀行為をでき得た特定の人々の居住域であったと推定される。

平安時代～中世：弓削遺跡の**13**で平安時代の水田、**18・34**で中世の遺物、本郷遺跡の**46・47**で中世の遺物を含む包含層が検出されている。

第２章　調査概要

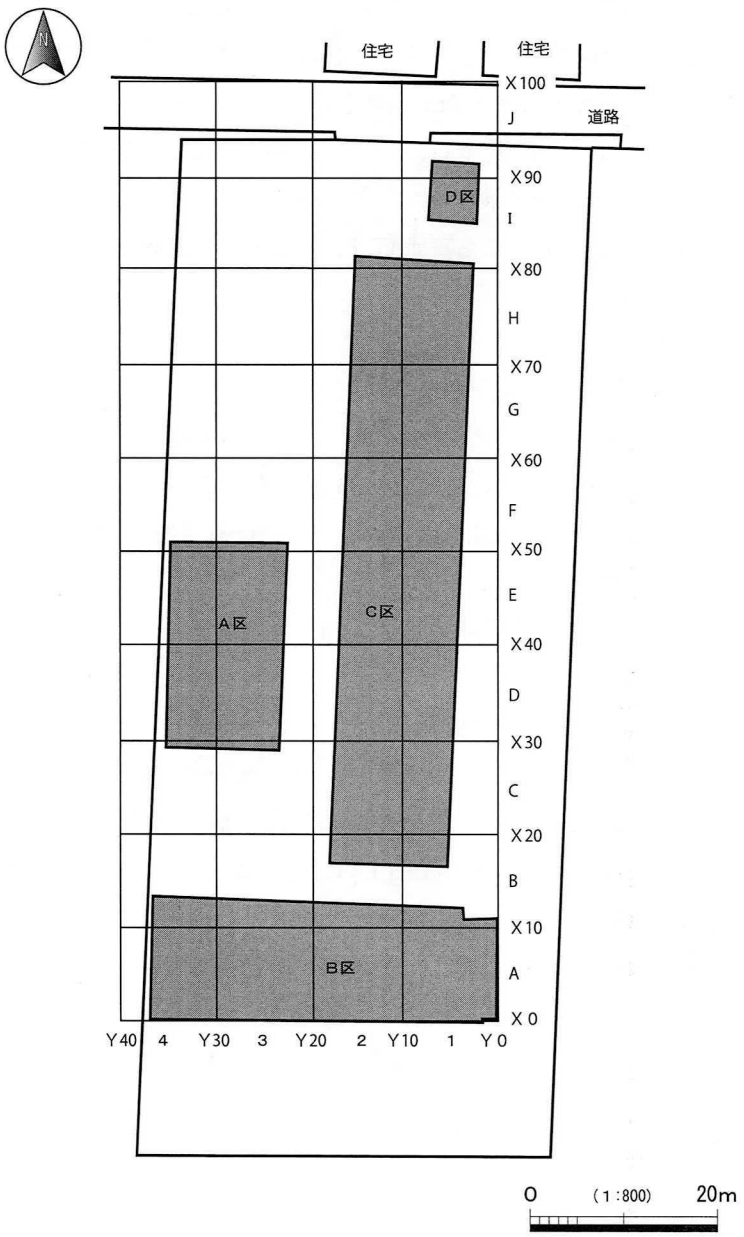
第１節　調査の方法と経過

今回の調査は、共同住宅建設に伴うもので、当調査研究会が弓削遺跡内で行った第１次調査にあたる。

調査区は合計４箇所で、浄化槽部分をＡ区、建物の南側棟をＢ区、北側棟をＣ区、防火水槽部分をＤ区と名付けた。調査はＡ区から行い、Ｂ区・Ｃ区・Ｄ区の順で行った。

今回の調査地では、調査地の南東隅に任意の基準点を設け、そこを基点として東西方向に40m（Ｙ０～Ｙ40）、南北方向に100m（Ｘ０～Ｘ100）を10m単位で区画した。地区の名称については、Ｙ軸を１～４、Ｘ軸をＡ～Ｊとし、両軸が交差する地区を１Ａ～４Ｊ地区と呼称する方法をとった。

調査における掘削は市教委による埋蔵文化財調査指示書に従い、現地表下約1.6m前後までを機械で行なったのち、約0.6～0.8mの範囲を人力により調査を進め、遺構・遺物の検出に努めた。ただし、Ｃ区については、調査の対象となる面は１面で、以下は建物の基礎杭が打ち込まれる部分の２×２m範囲24箇所（Ｇ１～Ｇ24）を調査した。



第２図　調査区設定図

調査の結果、奈良時代～平安時代（第１面）、古墳時代後期（第２面）、弥生時代中期～後期（第３面）の遺構を検出した。なお遺構番号は、遺構略号の後に面番号を付与し、遺構を検出したＡ区からＣ区の順に２桁の遺構番号とあわせて表記した。

第２節　基本層序

現地表面の高さはT.P.＋13.8m前後で、深さ約2.6mまで調査を行い、13層の地層を確認した。以下に各層の特徴について述べる。

第０層：現代の盛土・客土および攪乱(T.P.＋13.8m)で、層厚約1.0～1.6mを測る。

第１層：暗灰色細砂混粘質土(T.P.＋13.0～13.1m)。昭和年代まで耕していた作土層で、全体的に土壌化している。層厚0.1～0.2mを測る。

第２層：青灰色シルト混粘質土(T.P.＋12.8m)。作土層で、全体的に撹拌を受け土壌化している。層厚0.1～0.3mを測る。

第３層：灰褐色砂質土(T.P.＋12.7～12.8m)。細粒砂が優勢の近世頃の河川堆積層で、層厚0.1～0.6mを測る。

第４層：灰色細砂混粘質土(T.P.＋12.6～12.7m)。上部は撹拌を受け土壌化している。層厚0.2～0.3mを測る。

第５層：灰色粗砂混粘質土(T.P.＋12.5～12.6m)。上部は撹拌を受け土壌化している。層厚0.1～0.3mを測る。

第６層：灰色細～粗砂混粘土(T.P.＋12.3～12.5m)。上部は撹拌を受け土壌化している。層厚0.1～0.4mを測る。４～６層は中世の作土層である。

第７層：褐色細砂混粘土。(T.P.＋12.1～12.3m)平安時代～中世の作土層で、層厚0.1～0.4mを測る。

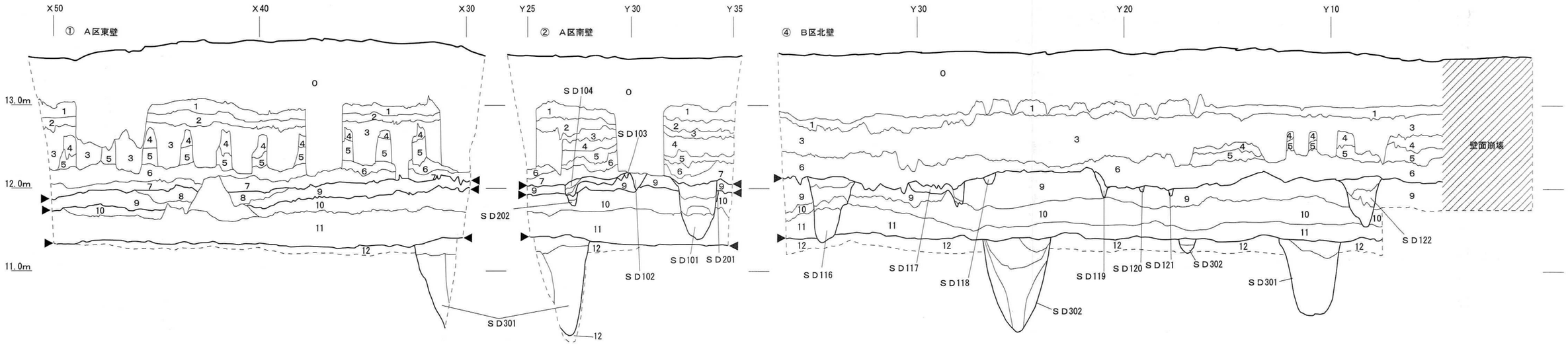
第８層：灰色細砂混粘土(T.P.＋12.0～12.1m)。平安時代の遺物包含層で、層厚0.1～0.2mを測る。

第９層：褐色細砂混粘質土(T.P.＋12.0～12.1m)。古墳時代後期～奈良時代の遺物包含層で、上部は土壌化し、奈良時代～平安時代の遺構を検出した。また、層中からは古墳時代後期に比定できる遺構を検出した。層厚0.1～0.4mを測る。

第10層：灰褐色シルト混粘土(T.P.＋11.8～11.9m)。古墳時代中期～後期の遺物包含層で、上部は土壌化し、古墳時代後期頃に比定できる遺構を検出した。層厚0.1～0.3mを測る。

第11層：青灰色粘土(T.P.＋11.5～11.7m)。弥生時代後期～古墳時代前期の遺物包含層で、全体的に土壌化している。層厚0.1～0.4mを測る。

第12層：灰色シルト混粘質土(T.P.＋11.3～11.4m)。湿地性堆積層で、上部は土壌化し、弥生時代中期～後期の遺構を検出した。層厚0.5m以上を測る。



0：客土・盛土層
1：暗灰色細粒砂混粘質土（旧作土層）
2：青灰色シルト混粘質土（作土層）
3：灰褐色砂質土（近世 河川堆積層）
4：灰色細砂混粘質土（中世 作土層）
5：灰色粗砂混粘質土（中世 作土層）
6：灰色細～粗砂混粘土（中世 作土層）
7：褐色細砂混粘土（平安時代～中世 作土層）
8：灰色細砂混粘土（平安時代 遺物包含層）
9：褐色細砂混粘質土（上面土壌化 奈良時代～平安時代の遺構検出）
10：灰褐色シルト混粘土（上面土壌化 古墳時代後期頃の遺構検出）
11：青灰色粘土（弥生時代後期～古墳時代前期 遺物包含層）
12：灰色シルト混粘質土（上面土壌化 弥生時代中期～後期の遺構検出）

◀ 調査面

第３節　検出遺構と出土遺物

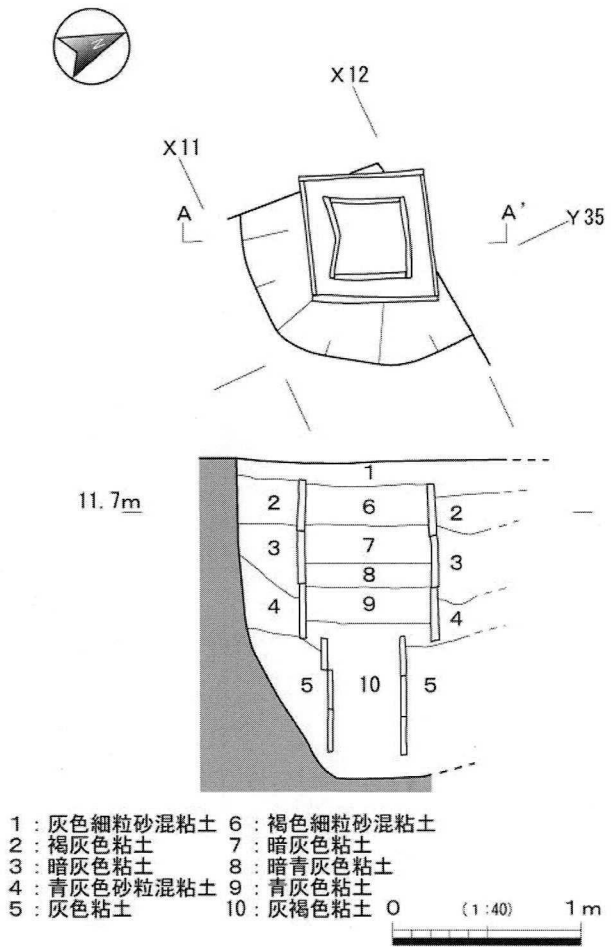
＜第１面＞

第９層上面で、奈良時代～平安時代の井戸３基(ＳＥ101～103)、土坑３基(ＳＫ101～103)、溝 31 条(ＳＤ101～131)を検出した。なお、ＳＥ102 は第９層中から検出した古墳時代後期の遺構である。

井戸(ＳＥ)

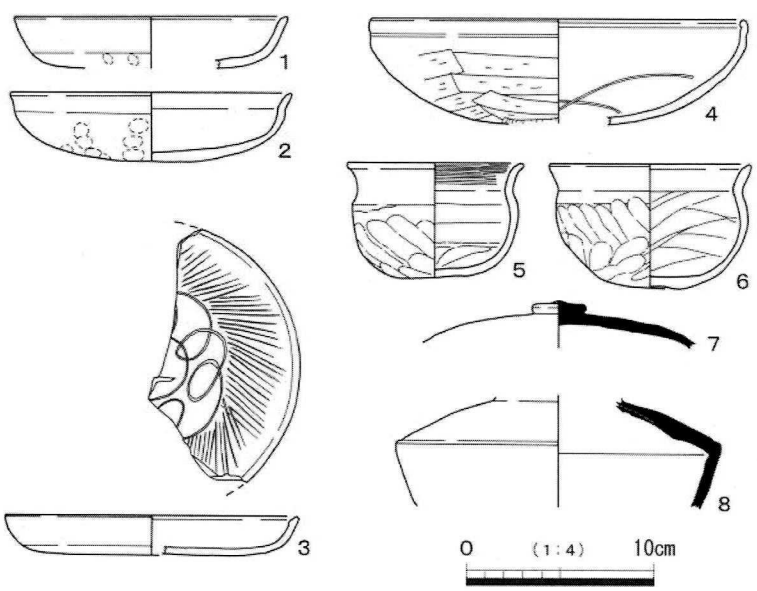
ＳＥ101

Ｂ区北西端の４Ｂ地区で検出した横板井籠組井戸である。掘方の北部および西部が調査区外に至るため全容は不明である。検出部分で東西長 1.05m、南北長 0.9m、深さ 1.7mを測る。井戸枠は、上部井戸枠と下部井戸枠の二重構造である。下部井戸枠は、長辺 0.4m、短辺 0.2m、厚さ２～３㎝を測る板材４枚を井籠組したものを３段に重ねたもので、水溜の機能を果たしている。上部井戸枠は、長辺 0.6m、短辺 0.3m、厚さ２～３㎝を測る板材を井籠組したものを、下部と同様３段に重ねている。埋土は、最上層および掘方内が５層(１～５層)、井戸枠内が５層(６～10 層)で、遺物は井戸枠内から土師器・須恵器が出土している。

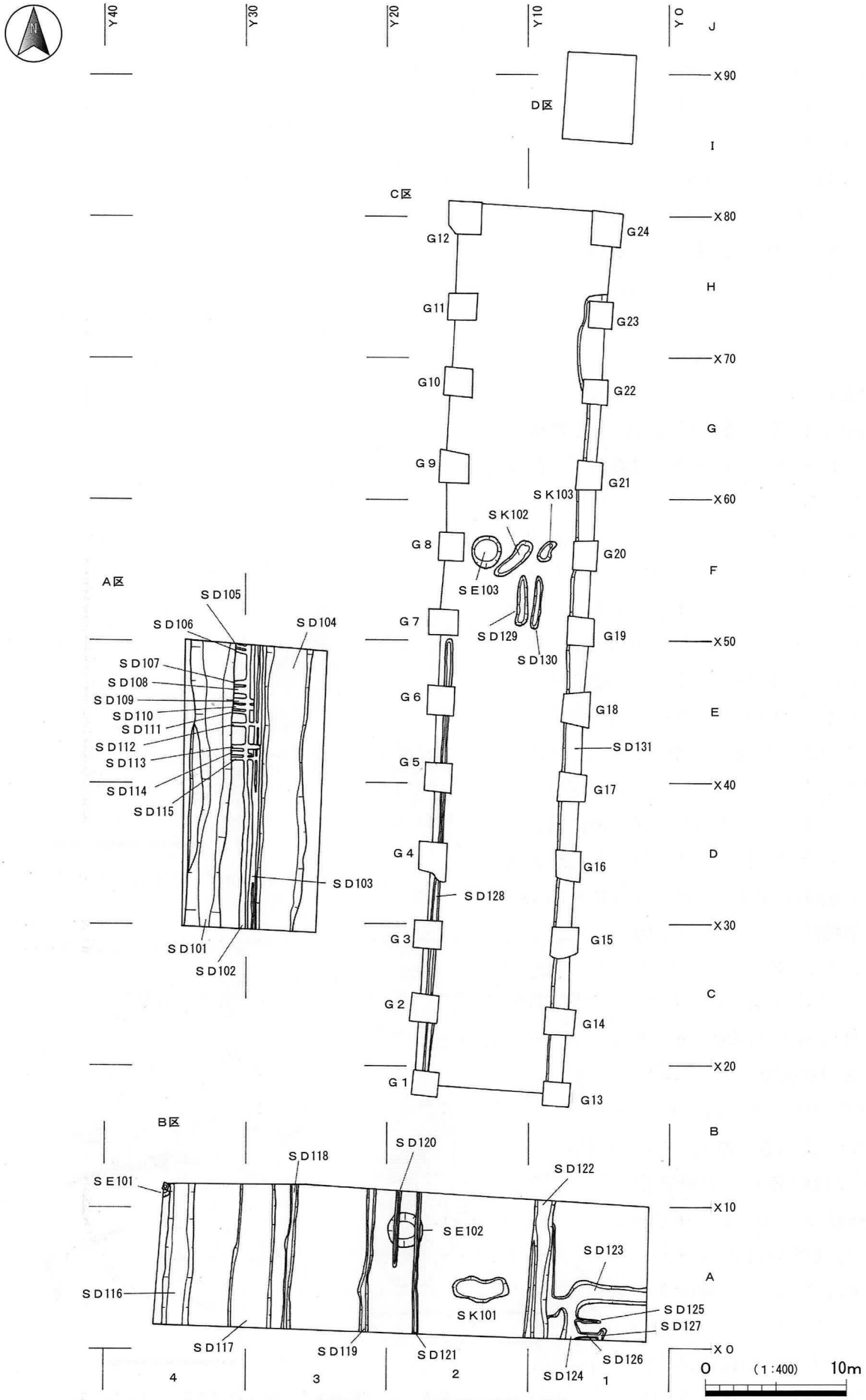


第４図　Ｂ区ＳＥ101平・断面図

８点(１～８)を図化した。１～６は土師器である。１・２は杯Ａで、１は口縁端部に内向きの小端面を持つものである。３は皿Ａで、内底面には螺旋状と放射状暗文を施している。４は鉢である。体部外面は、ヘラケズリ、体部内面は、螺旋暗文を施している。５・６は壺Ｂである。ともに、口縁部は短く外反し、底部は平底を有する



第５図　Ｂ区ＳＥ101出土遺物実測図

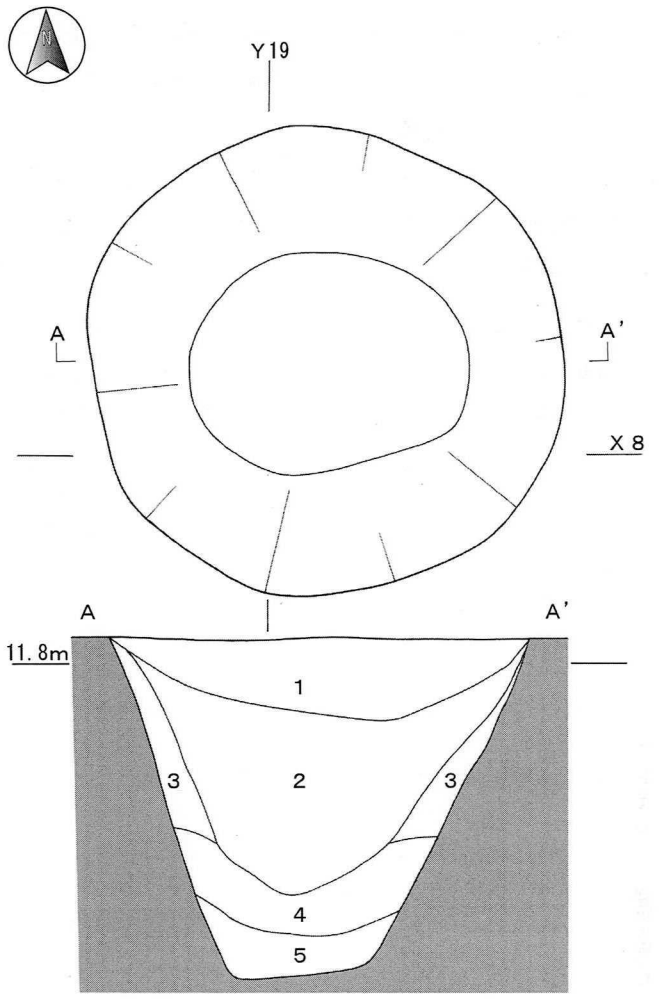


第６図　Ａ～Ｄ区第１面平面図

広口の小形壺である。内外面ともにナデを施す。５は完形で、６も口縁部の一部を欠く以外は完存している。７は、須恵器杯Ｂ蓋で平らな天井部に大きな宝珠形のつまみが付く。８は須恵器長頸壺で、稜角を有する体部を持つ体部片と推定される。出土遺物からみて遺構の帰属時期は奈良時代中期が考えられる。

ＳＥ102

Ｂ区中央北の２Ａ地区で検出した。１面の調査終了後の掘削段階で検出したもので、９層中に構築された遺構である。平面の形状は円形で、径2.5ｍを測る。断面の形状は逆台形で、埋土は粘土を主体とした５層（１～５層）が堆積していた。遺物は古墳時代後期中葉に比定される須恵器短頸壺（９）が出土している。９は、扁球形の体部に外反する頸部が付く短頸壺である。口径13.2㎝、器高15.3㎝、体部最大径18.6㎝を測る。田辺編年のＴＫ10型式（６世紀中葉）に比定される。遺構の帰属時期は古墳時代後期中葉が推定される。



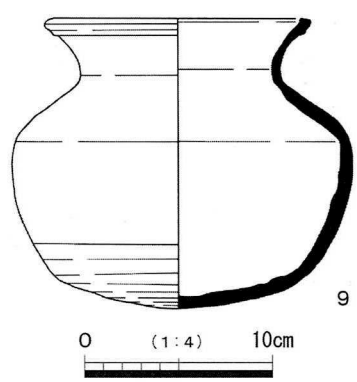
１：青灰色粘土　２：暗灰色粘土　３：青灰色シルト混粘土
４：暗灰色粘土　５：黒色粘土

0　(1:40)　1m

第７図　Ｂ区ＳＥ102平・断面図

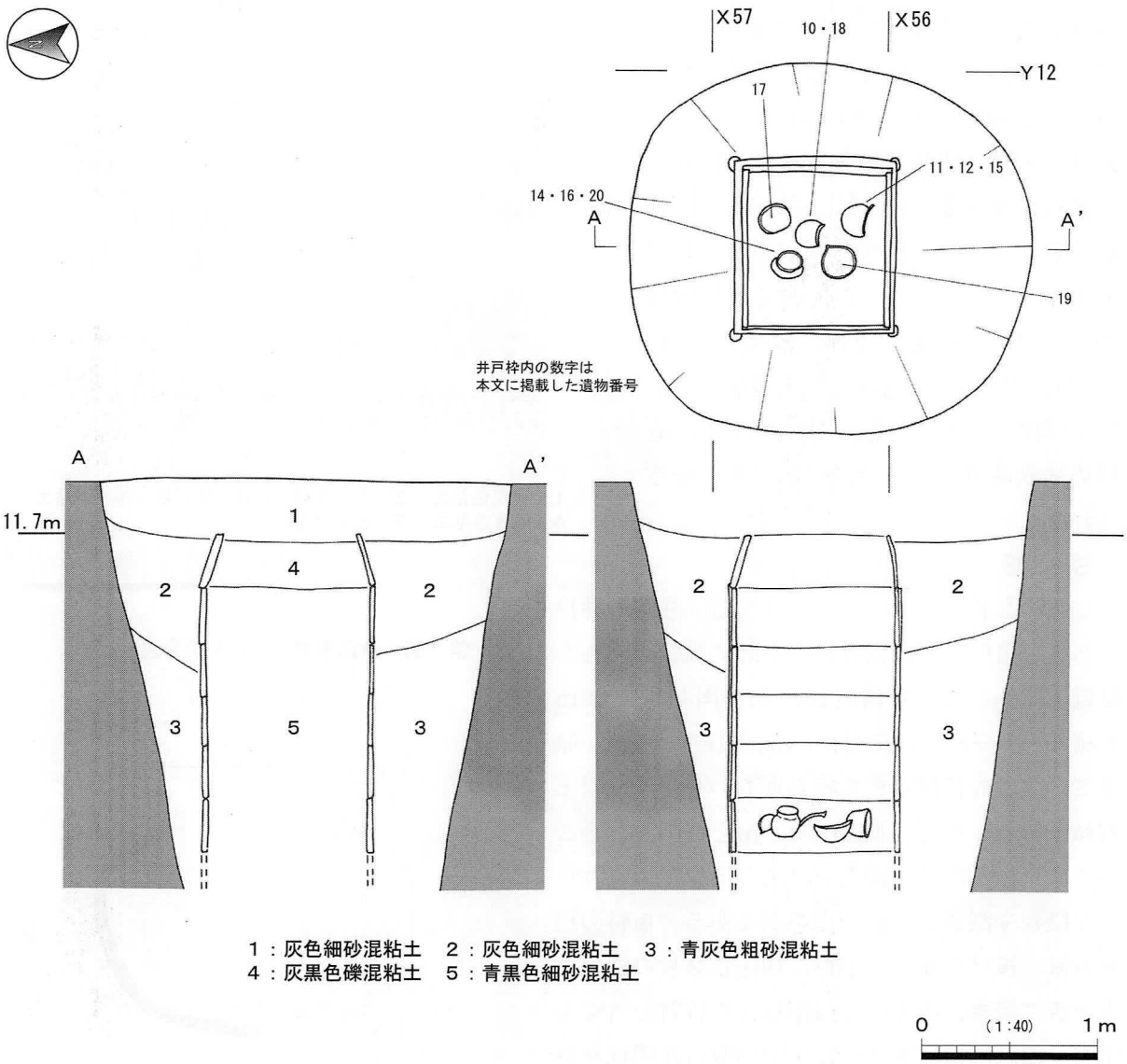
ＳＥ103

Ｃ区の２Ｆ地区で検出した横板組隅柱型の井戸である。円形の井戸掘方の中央部に横板組隅柱を設置するもので、東西径2.28ｍ、南北径2.11ｍを測る。井戸枠は、長辺0.8ｍ、短辺0.33ｍ、厚さ２～３㎝の板材４枚を組んだものを、６段以上重ねている。ただ、調査中約２ｍを掘削したところで井戸枠が崩れ、調査を打ちきったため、井戸枠の段数や深さ等の詳細は不明である。板材の組み方は、板材の端をＬ字形に切込む２枚の板材を東と西に置き、南と北には未加工の板材を置くもので、四隅には、丸木の1/4を切取った隅柱を外側にあてて固定している。埋土は、最上層の１層灰色細砂混粘土、掘方内の２層灰色細砂混粘土、



第８図　Ｂ区ＳＥ102出土遺物実測図

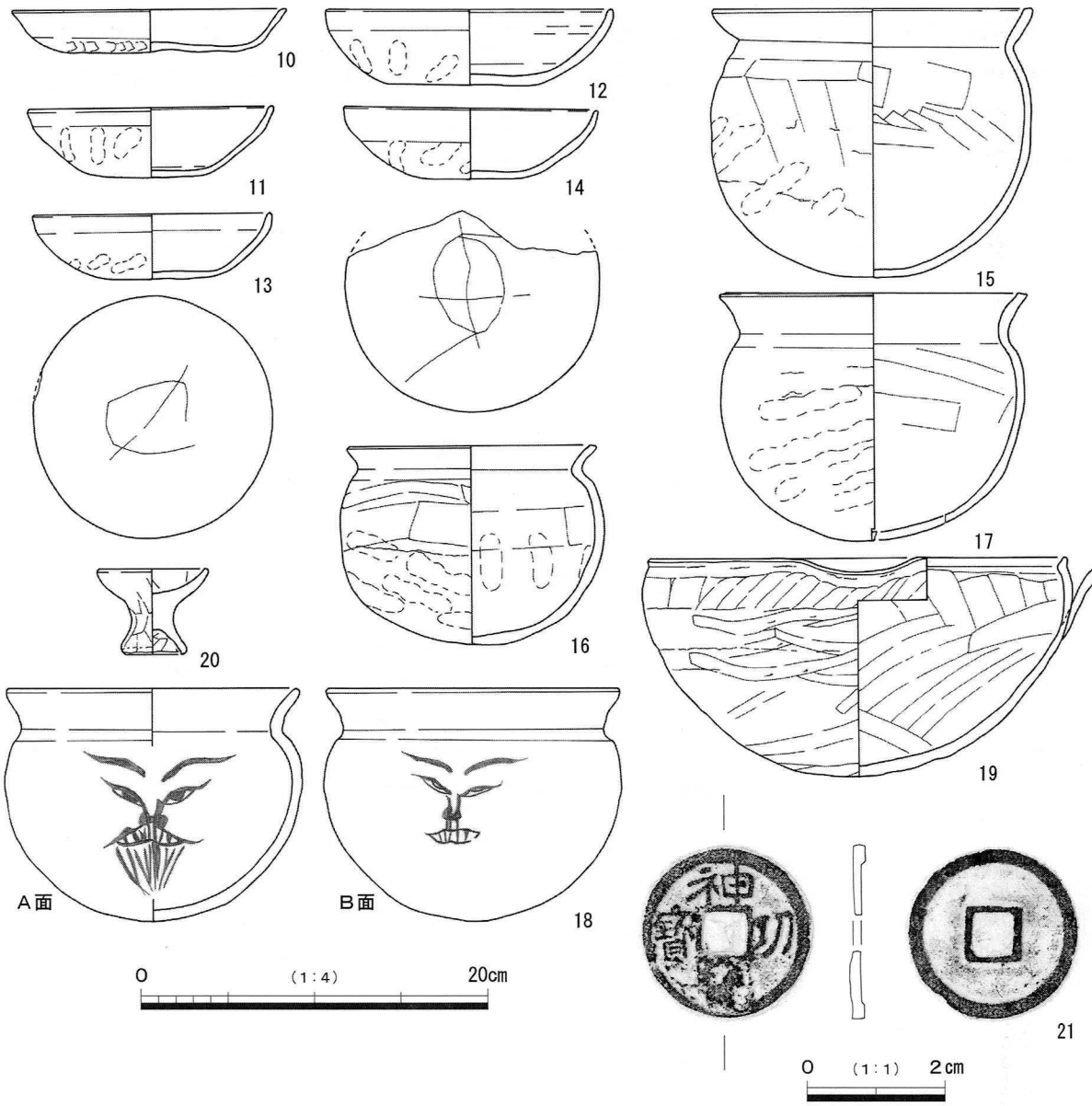
３層青灰色粗砂混粘土、井戸枠内上部の４層灰黒色礫混粘土、同下部の５層青黒色細砂混粘土である。遺物は、井戸枠内下部の５層から奈良時代末期～平安時代初頭に比定される土師器椀・皿・甕・鉢・高杯・墨書人面土器の他、銅銭『神功開寶』が出土している。12点（10～21）を図化した。10は土師器皿、11～14は土師器椀である。椀の体部外面は指ナデが残る。平安時代の土器編年（佐藤1992）の平安時代Ⅱ期古に比定できる。13・14の裏面には、工具による記号文がある。15～18は土師器甕で、16・17の底部内面にはコゲ、口縁部から体部下位には煤が付着している。18は墨書人面土器である。２面（Ａ・Ｂ面）に墨書により人の顔を描いている。両面共に人面の墨書は体部上位から下位にかけて丁寧に描かれている。Ａ面では、両眉ともに眉根から眉尻に向かって緩やかに湾曲し、眉尻がつり上がる表現が行われている。目は瞳を内にして目尻がつり上がる吊目である。目元から続く鼻は、小鼻部分を黒く塗りつぶして誇張させており、そこから口髭・顎鬚が表現されている。Ｂ面は、Ａ面に比して小さく書かれておりＡ面と同様、眉尻を上げ、目は吊目で、髭は無く、



１：灰色細砂混粘土　２：灰色細砂混粘土　３：青灰色粗砂混粘土
４：灰黒色礫混粘土　５：青黒色細砂混粘土

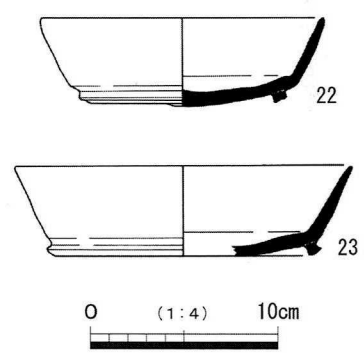
0　(1:40)　1m

第９図　Ｃ区ＳＥ103平・断面図



第 10 図　C区ＳＥ103 出土遺物実測図

口および歯が表現されている。19 は土師器片口鉢である。20 は、手づくね品の土師器ミニチュア高杯である。21 は銅銭『神功開寶』〔初鋳 765 年（天平神護元年９月）〕で、奈良時代最後の銅銭である。18 の墨書人面土器および 10 ～ 17・19 ～ 21 は、出土状況から同時期に廃棄されたと考えられ、井戸の廃絶時に行われた祭祀行為に伴う遺物群であると推定される。



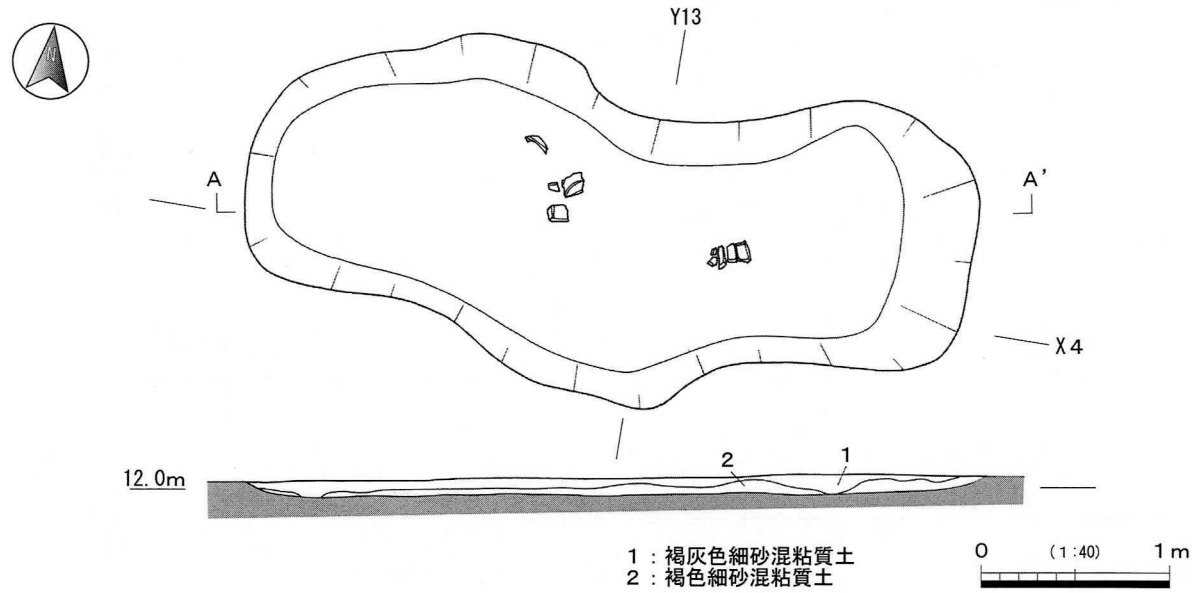
第 11 図　Ｂ区ＳＫ101 出土遺物実測図

土坑（ＳＫ）

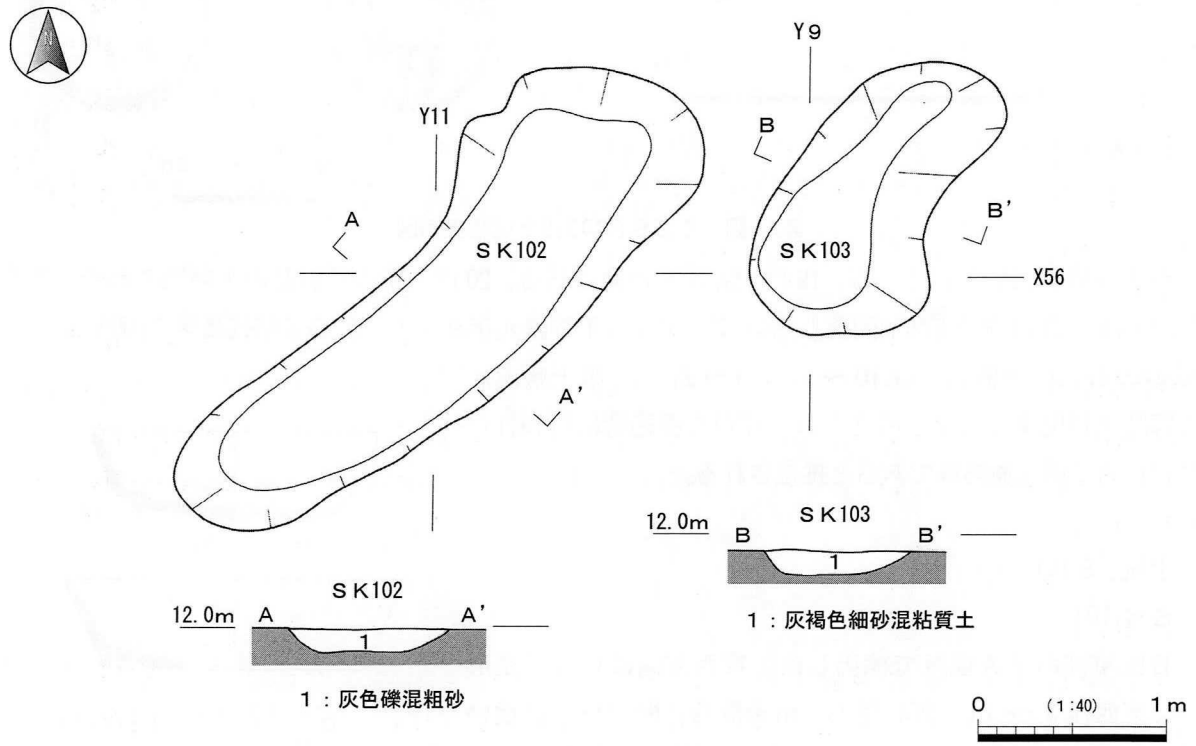
ＳＫ 101

Ｂ区東部の２Ａ地区で検出した。東西方向に長い不定形で、東西径 3.88 ｍ、南北径 1.5 ｍを測る。断面形状は浅い皿状で深さ 0.1 ｍを測る。埋土は１層が炭を含む褐灰色細砂混粘質土、２層が褐色細砂混粘質土である。遺物は１層

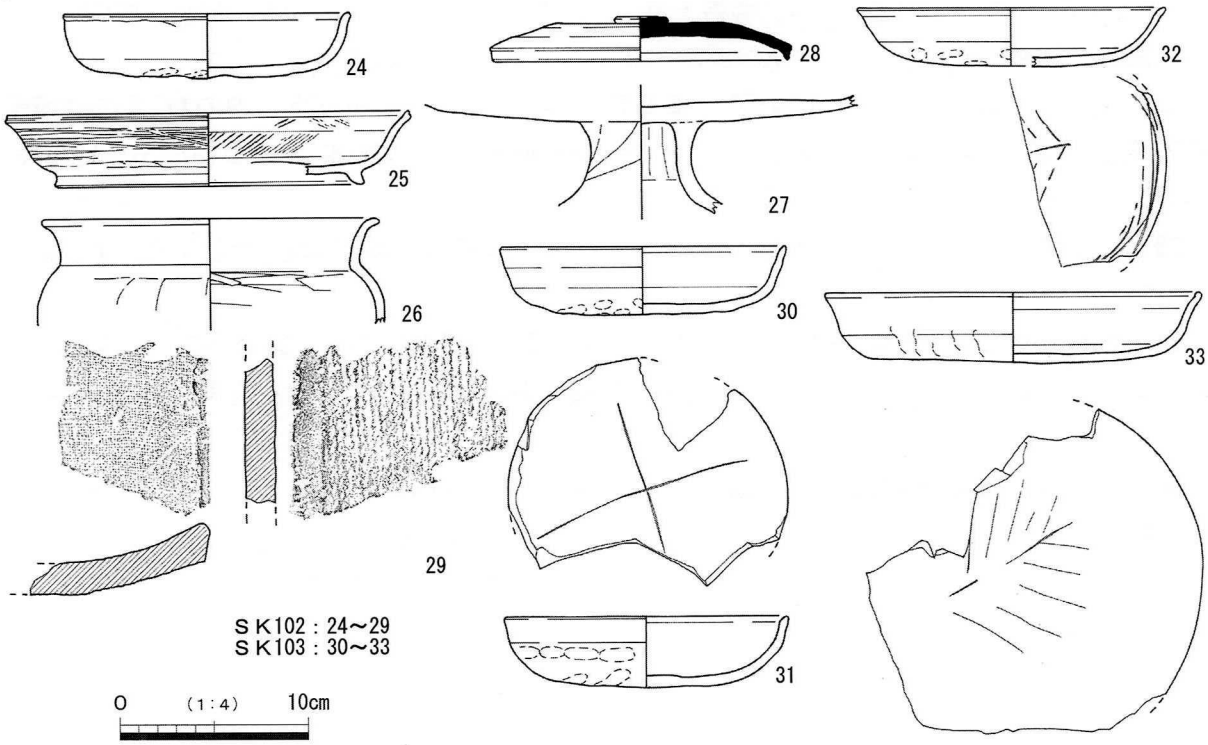
から奈良時代後半の土師器・須恵器杯身等が少量出土している。２点（22・23）を図化した。共に須恵器杯Ｂである。22が1/2、23が1/3程度残存している。22は高台下部より底部外面が突出している。共に高台底面の接地部が水平でなく、斜上方に向くものである。奈良時代後半に比定される。



第12図　Ｂ区ＳＫ101平・断面図



第13図　Ｃ区ＳＫ102・103平・断面図



第14図　C区SK102・103出土遺物実測図

SK102

C区の2F地区で検出した。SE103の東に隣接している。北東～南西方向に長い楕円形で、長径3.36m、短径0.83m、深さ0.13mを測る。埋土は灰色礫混粗砂である。遺物は奈良時代中期の土師器・須恵器・瓦片が出土している。6点(24～29)を図化した。24は土師器杯Aである。25は高台を有する土師器皿Bである。26は土師器甕である。27は低脚の土師器高杯である。28は須恵器杯B蓋である。29は平瓦片で、凹面に布目、凸面に縄目叩きが認められる。出土遺物から遺構の帰属時期は奈良時代中期が推定される。

SK103

C区の1F地区で検出した。楕円形で、長径1.68m、短径0.73m、深さ0.15mを測る。埋土は灰褐色細砂混粘質土である。遺物は奈良時代中期の土師器・須恵器が少量出土している。4点(30～33)を図化した。30～33は土師器杯Aである。31の内底部には「×」のヘラ記号が施文されている。32・33の裏面には木葉文が残されている。出土遺物から遺構の帰属時期は奈良時代中期が推定される。

溝(SD)

A～C区の総数で31条(SD101～131)を検出した。南北に伸びるものと、それに直交して東西方向に伸びるものがある。南北方向のものは17条(SD101～104、116～122、124、127～131)、東西方向に伸びるものは14条(SD105～115・123、125・126)である。規模は幅0.2～0.4m、深

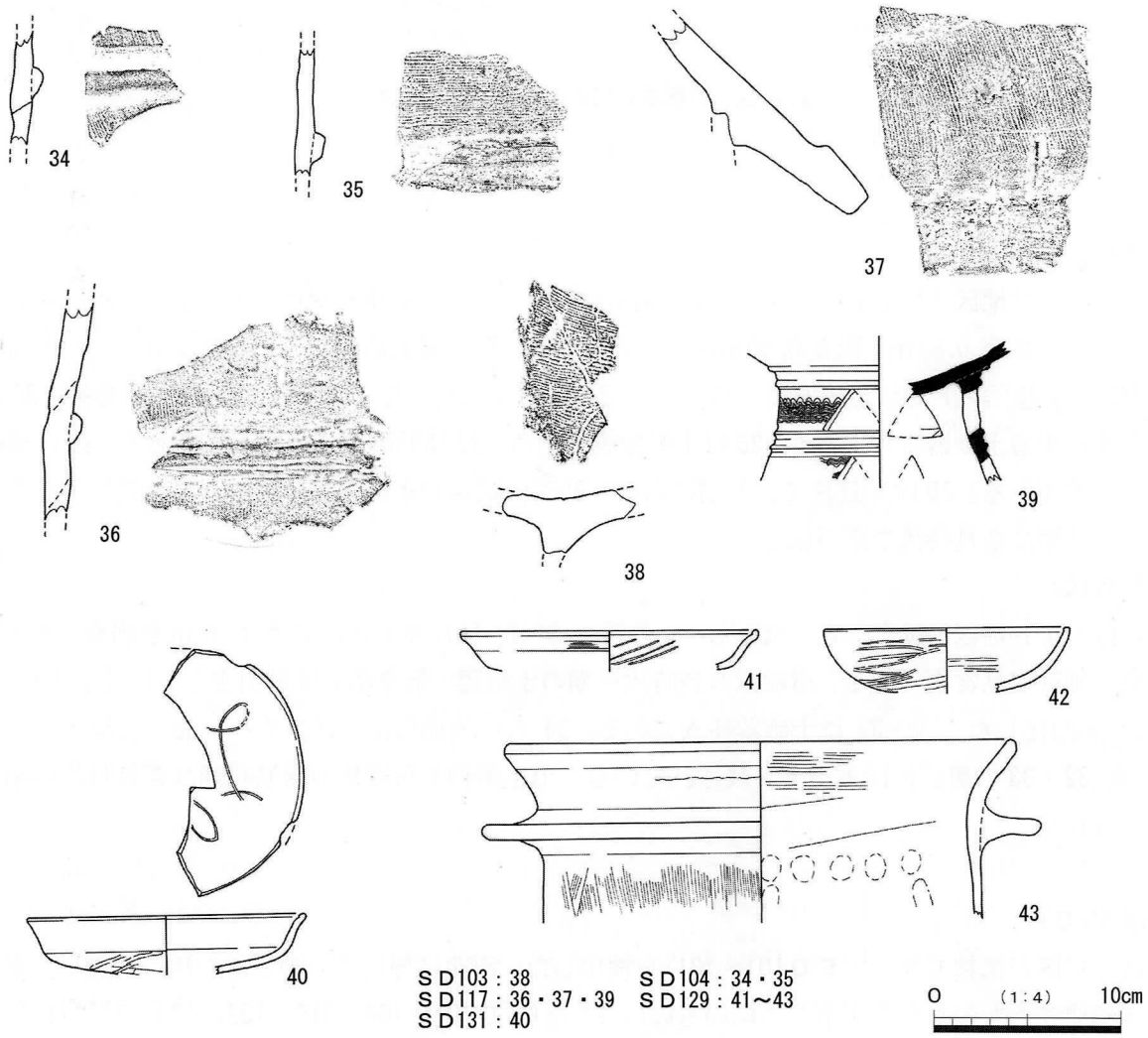
さ 0.1～0.2mを測る。内部からは土師器・須恵器の細片が少量出土している。形状・規模から耕作に関連した溝と推定される。法量および詳細については第２表に示した。

このうちＳＤ103からは形象埴輪(38)、ＳＤ104からは円筒埴輪(34・35)、ＳＤ117からは埴輪(36・37)、須恵器器台(39)、ＳＤ129からは土師器杯(41・42)や羽釜(43)、ＳＤ131からは土師器杯(40)が出土した。

38は盾形埴輪の盾面側部片と推定される。ヨコハケによる器面調整の後ヘラ状工具による施文がある。

34・35は、共に円筒埴輪の細片で、34が土師質、35が須恵質である。34は外面にタテハケを施している。突帯はやや低く断面三角形である。35は外面にＢ種ヨコハケを施す。突帯はM字状を呈する。

36は土師質の円筒埴輪である。外面にタテハケを施す。突帯は三角形を呈し、幅は 1.5～２㎝を測る。



第15図　Ａ区ＳＤ103・104　Ｂ区ＳＤ117　Ｃ区ＳＤ129・131出土遺物実測図

第２表　第１面溝法量表(単位m)

遺構名	調査区	地区	全長 (検出長)	幅 (最大)	深さ	埋土	出土遺物
ＳＤ101	Ａ区	４Ｃ～Ｅ	20.20	2.97	0.44	灰色粘土 灰褐色粘土 灰色細砂混粘土 青灰色シルト混粘土	弥生土器・土師器・須恵器・瓦器
ＳＤ102	〃	３・４Ｃ～Ｅ	20.00	0.37	0.07	褐色細砂混粘土	土師器・須恵器
ＳＤ103	〃	３Ｃ～Ｅ	20.00	0.54	0.04	褐色細砂混粘土	土師器・須恵器 埴輪(38)
ＳＤ104	〃	〃	19.90	3.35	0.25	灰色粘土 青灰色粘土 灰褐色粘土	土師器・須恵器 ・埴輪(34・35)
ＳＤ105	〃	３・４Ｅ	0.92	0.11	0.05	褐色細砂混粘土	土師器・須恵器・瓦器
ＳＤ106	〃	〃	0.97	0.16	0.07	褐色細砂混粘土	
ＳＤ107	〃	〃	0.89	0.24	0.09	褐色細砂混粘土	土師器・須恵器
ＳＤ108	〃	〃	0.89	0.49	0.03	褐色細砂混粘土	
ＳＤ109	〃	〃	1.46	0.31	0.06	褐色細砂混粘土	
ＳＤ110	〃	〃	1.49	0.39	0.06	褐色細砂混粘土	土師器・須恵器
ＳＤ111	〃	〃	1.03	0.15	0.06	褐色細砂混粘土	
ＳＤ112	〃	〃	1.58	0.27	0.08	褐色細砂混粘土	平瓦
ＳＤ113	〃	〃	2.10	0.29	0.06	褐色細砂混粘土	土師器・須恵器
ＳＤ114	〃	〃	1.40	0.19	0.03	褐色細砂混粘土	土師器・黒色土器
ＳＤ115	〃	〃	1.50	0.20	0.08	褐色細砂混粘土	
ＳＤ116	Ｂ区	４ＡＢ	9.80	2.00	0.32	灰色粘土 灰褐色粘土 灰色細砂混粘土 青灰色シルト混粘土	弥生土器・土師器
ＳＤ117	〃	３・４ＡＢ	10.10	2.80	0.19	灰色粘土 青灰色粘土 灰褐色粘土	弥生土器・土師器・須恵器 (39)・埴輪(36・37)
ＳＤ118	〃	３ＡＢ	10.10	0.70	0.08	褐色細砂混粘土	弥生土器・須恵器・平瓦
ＳＤ119	〃	〃	10.30	0.75	0.10	褐色細砂混粘土	土師器・須恵器
ＳＤ120	〃	２ＡＢ	5.40	0.35	0.04	褐色細砂混粘土	
ＳＤ121	〃	〃	10.05	0.40	0.05	褐色細砂混粘土	
ＳＤ122	〃	１・２ＡＢ	9.80	1.90	0.32	灰色細粒砂混粘土 暗灰色細粒砂混粘土 青灰色細粒砂混粘土	土師器・須恵器
ＳＤ123	〃	１Ａ	6.50	1.70	0.10	褐色細砂混粘土	
ＳＤ124	〃	〃	2.35	1.00	0.10	褐色細砂混粘土	
ＳＤ125	〃	〃	1.85	0.30	0.05	褐色細砂混粘土	
ＳＤ126	〃	〃	1.50	0.30	0.07	褐色細砂混粘土	
ＳＤ127	〃	〃	0.90	0.40	0.06	褐色細砂混粘土	
ＳＤ128	Ｃ区	２Ｂ～Ｆ	30.45	0.50	0.04	褐色細砂混粘土	
ＳＤ129	〃	２Ｆ	3.60	0.75	0.14	褐色細砂混粘土	土師器(41～43)
ＳＤ130	〃	１Ｆ	3.70	0.55	0.12	褐色細砂混粘土	
ＳＤ131	〃	１Ｂ～Ｈ	55.06	1.85	0.15	褐色細砂混粘土	土師器(40)

37は家形埴輪の屋根部分の細片である。屋根部分外面はタテハケで、軒先部分の押縁には幅3.5cm、高さ0.5cm程度の貼り付け突帯が廻る。内面は指ナデによる横方向のナデで、屋根と壁部分の接合部分は逆「Ｌ」字状を呈している。39は須恵器器台の台部から脚部にかけての細片である。脚部の外面には凸帯間に波状文と三角形スカシが施文されている。焼成は良好堅緻で器壁断面は赤紫色を呈する。５世紀後半と推定される。34～39は古墳時代中期～後期のもので、9・10層からの混入と考える。

41は土師器杯Ａで、体部の内面に放射状暗文を施す。42は土師器杯Ｃ。43は土師器羽釜である。奈良時代中期に比定できる。

40は土師器杯Ａである。体部の内面には螺旋暗文を施す。奈良時代中期に比定できる。

＜第２面＞

第２面はＡ地区のみで検出した。第10層上面を構築面とするもので、古墳時代後期頃の土坑７基(ＳＫ201～207)、溝２条(ＳＤ201・202)、小穴５個(ＳＰ201～205)を検出した。

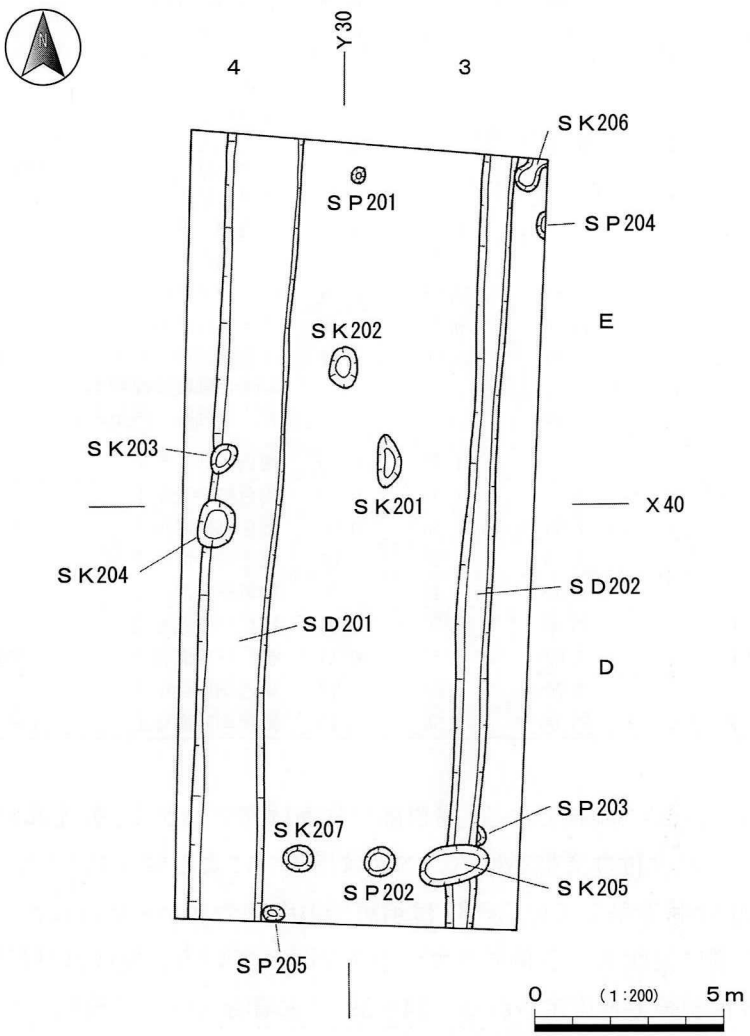
土坑(ＳＫ)

ＳＫ201

３Ｅ地区で検出した。平面形状は南北方向に長い楕円形を呈し、長径1.35m、短径0.6mを測る。断面形状は半円形で、深さ0.21mを測る。埋土は粘土を主体とする２層から成る。遺物は土師器・須恵器の細片が少量出土しているが時期を明確にし得たものはない。

ＳＫ202

３・４Ｅ地区で検出した。平面形状は方形を呈し、長径1.0m、短径0.75mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.2mを測る。埋土は粘土を主体とする２層から成る。遺物は土師器・須恵器の



第16図　Ａ区第２面平面図

細片が少量出土しているが時期を明確にし得たものはない。

ＳＫ203

４Ｅ地区で検出した。平面形状は楕円形を呈し、長径 0.65m、短径 0.6mを測る。断面形状は逆台形で、深さ 0.37mを測る。埋土は粘土を主体とする２層から成る。遺物は土師器・須恵器の細片が出土しているが時期を明確にし得たものはない。

ＳＫ204

４Ｄ地区で検出した。平面形状は楕円形を呈で、長径 1.1m、短径 0.95mを測る。断面形状は皿形で、深さ 0.27mを測る。埋土は粘土を主体とする２層から成る。遺物は土師器の細片が極少量出土しているが時期を明確にし得たものはない。

ＳＫ205

３Ｄ地区で検出した。平面形状は東西方向に長い楕円形を呈し、長径 1.35m、短径 0.75mを測る。断面形状は逆三角形で、深さ 0.33mを測る。埋土は３層から成る。遺物は土師器の細片が少量出土しているが、時期を明確にし得たものはない。

ＳＫ206

調査区北西隅の３Ｅ地区で検出した。北側は調査区外に至る。検出部分で東西幅 0.62m、南北幅 0.83mを測る。断面形状は逆台形で、深さ 0.24mを測る。埋土は粘土を主体とする２層から成る。遺物は土師器の細片が少量出土しているが時期を明確にし得たものはない。

ＳＫ207

４Ｄ地区で検出した。平面形状は隅丸方形を呈し、長径 0.87m、短径 0.58mを測る。断面形状は浅い皿形で、深さ 0.1mを測る。埋土は粘土を主体とする２層から成る。遺物は土師器・須恵器の細片が出土しているが時期を明確にし得たものはない。

溝（ＳＤ）

ＳＤ201

４Ｄ・Ｅ地区で検出した。南北方向に直線的に伸びる。検出長 20.9m、幅 1.9m、深さ 0.12mを測る。埋土は灰色粘土である。遺物は出土していない。

ＳＤ202

３Ｄ・Ｅ地区で検出した。南北方向に直線的に伸びる。検出長 20.5m、幅 0.8m、深さ 0.13mを測る。埋土は青灰色粘土・暗青灰色粘土である。遺物は出土していない。

小穴（ＳＰ）

小穴は５個（ＳＰ201～205）検出した。検出した小穴は建物などを構成するものはなかった。法量などの詳細は第３表に記載した。

第３表　Ａ区　第２面小穴法量表（単位m）

遺構名	地　区	平面形	長径	短径	深さ	埋　土	出土遺物
ＳＰ 201	３Ｅ	楕円形	0.37	0.33	0.27	青灰色粘土・暗青灰色粘土	なし
ＳＰ 202	３Ｄ	楕円形	0.72	0.69	0.13	暗青灰色粘土	なし
ＳＰ 203	３Ｄ	不定形	0.51	(0.23)	0.12	暗青灰色粘土	なし
ＳＰ 204	３Ｅ	不定形	0.55	(0.22)	0.15	暗青灰色粘土	なし
ＳＰ 205	４Ｄ	楕円形	0.43	0.33	0.11	暗青灰色粘土	なし

＜第３面＞

12層上面で、弥生時代中期～後期の井戸２基(ＳＥ301・302)、土坑３基(ＳＫ301～303)溝４条(ＳＤ301～304)、小穴５個(ＳＰ301～305)を検出した。

井戸(ＳＥ)

ＳＥ301

Ｂ区の４Ａ地区で検出した素掘り井戸である。平面形状は西部が調査区外に至るため不明である。検出した部分は東西幅1.0m、南北幅1.6mを測る。断面形状は逆台形で、深さ1.22mを測る。埋土は暗灰色細砂混粘土で、遺物の出土はなかった。時期の特定はできない。しかし、ＳＫ301を切っていることから、弥生時代中期後半～後期に比定できる。

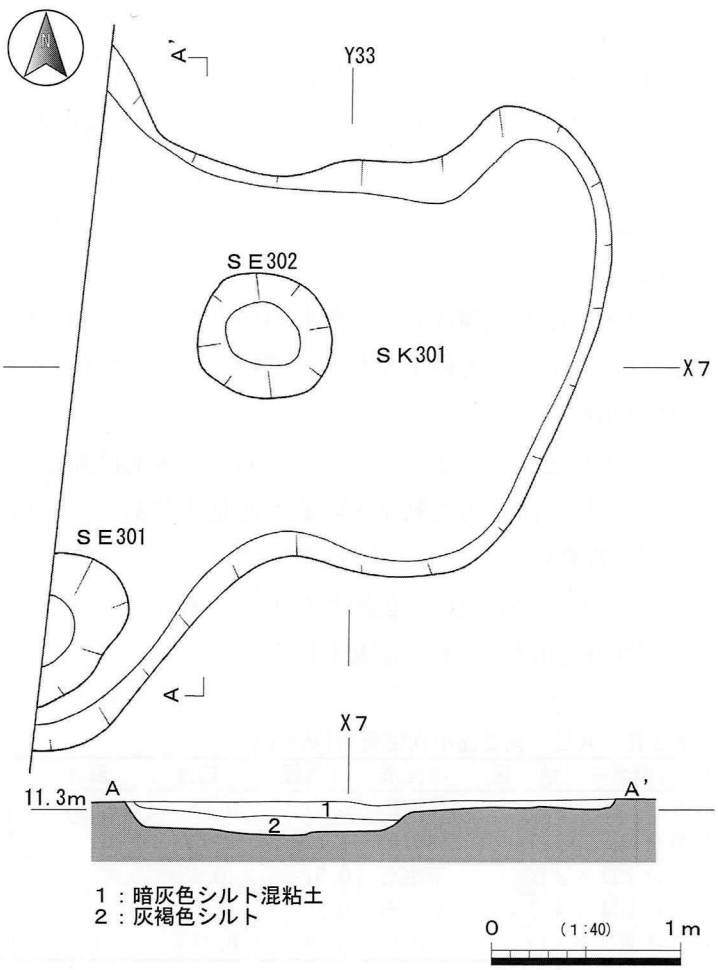
ＳＥ302

Ｂ区の４Ａ地区で検出した。平面形状は円形の素掘り井戸である。東西径1.4m、南北径1.32mを測る。断面形状は筒形で、深さ1.2mを測る。埋土は暗灰色細砂混粘土で、遺物の出土はなかった。時期の特定はできない。しかし、ＳＫ301を切っていることから、弥生時代中期後半～後期に比定できる。

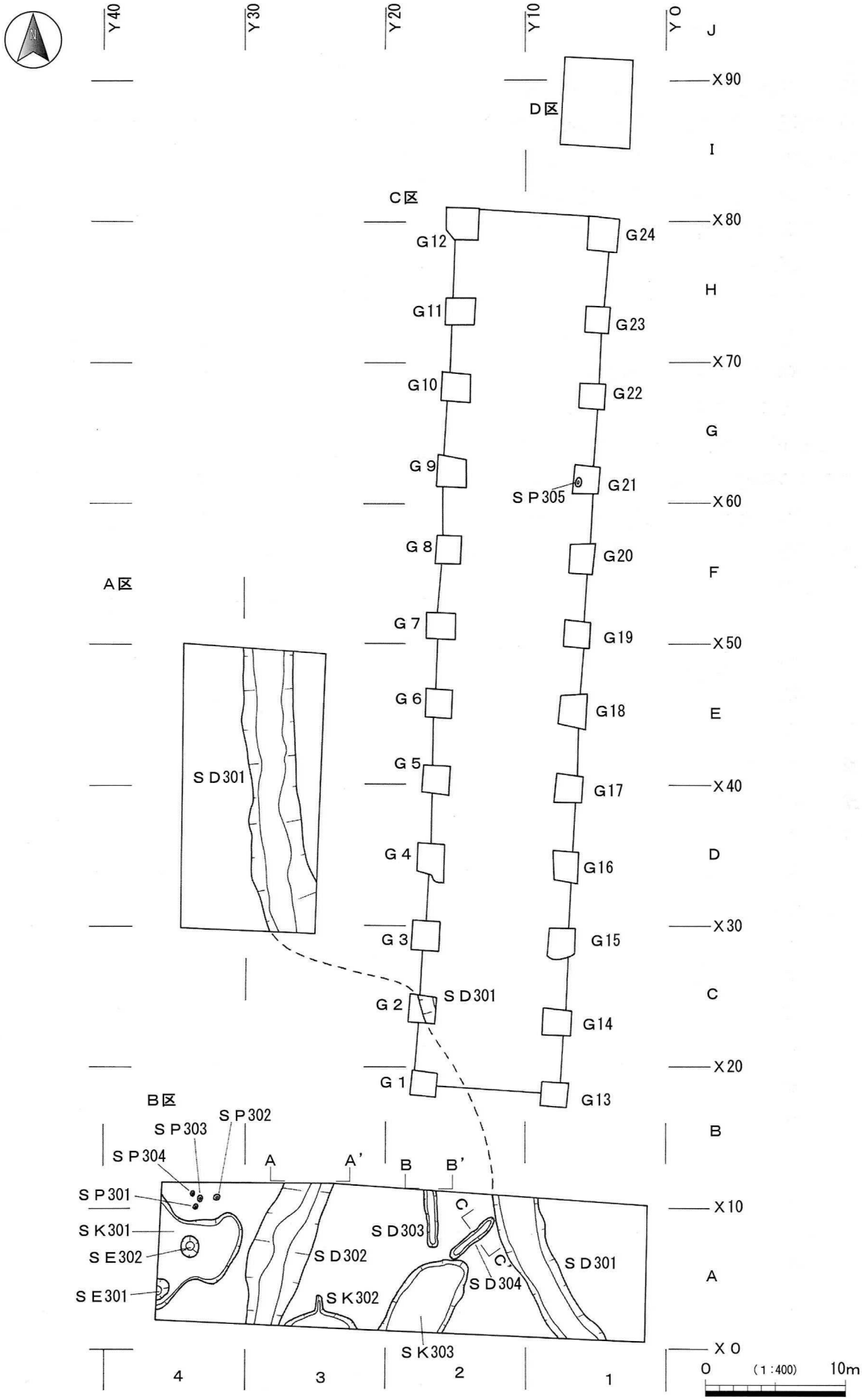
土坑(ＳＫ)

ＳＫ301

Ｂ区の４Ａ地区で検出した。不定形で西部が調査区外に至る。また、ＳＥ301・302に切られている。検出部分で東西幅5.6m、南北幅7.5mを測る。断面形状は皿形で深さ0.35mを測る。埋土は暗灰色シルト混粘土、灰褐色シルトで、弥生時代中期後半に比定される弥生土器が少量出土した。９点(44～52)を図化した。44・45は、付加状口縁を持つ広口壺である。口縁端面の施文は44が上下二段の櫛描簾状文間に刺突文、45が上部から順に櫛描列点文、櫛描扇形文、刺突文、櫛描簾状文、櫛描扇形文である。また45は、頸部にも櫛描簾状文を施している。46は壺の体部の破片で、櫛描簾状文と円形浮文を施す。47は、壺の底部である。48は大形の甕で、49・50は小形の甕である。48は、口縁端部が下方へ少し拡張し面を形成する。



第17図　Ｂ区ＳＫ301平・断面図

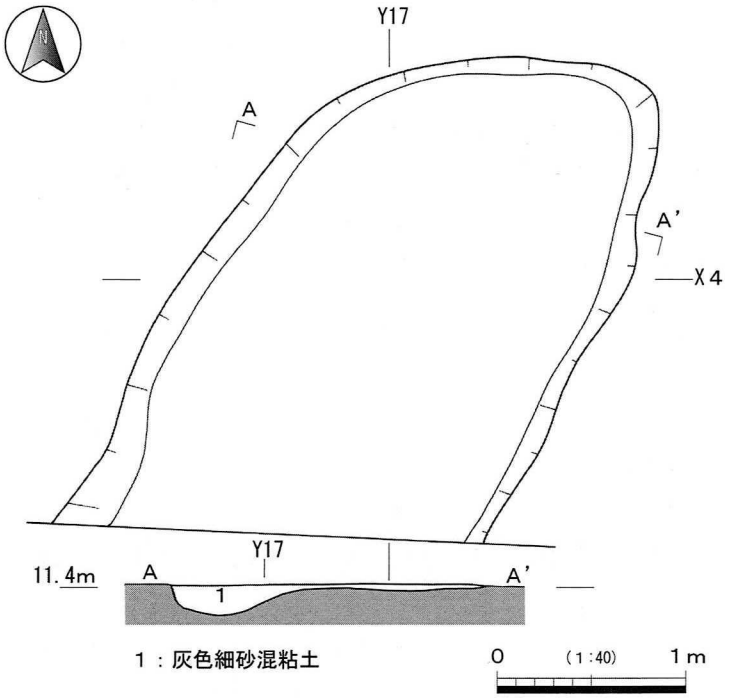


第18図　A～D区第3面平面図

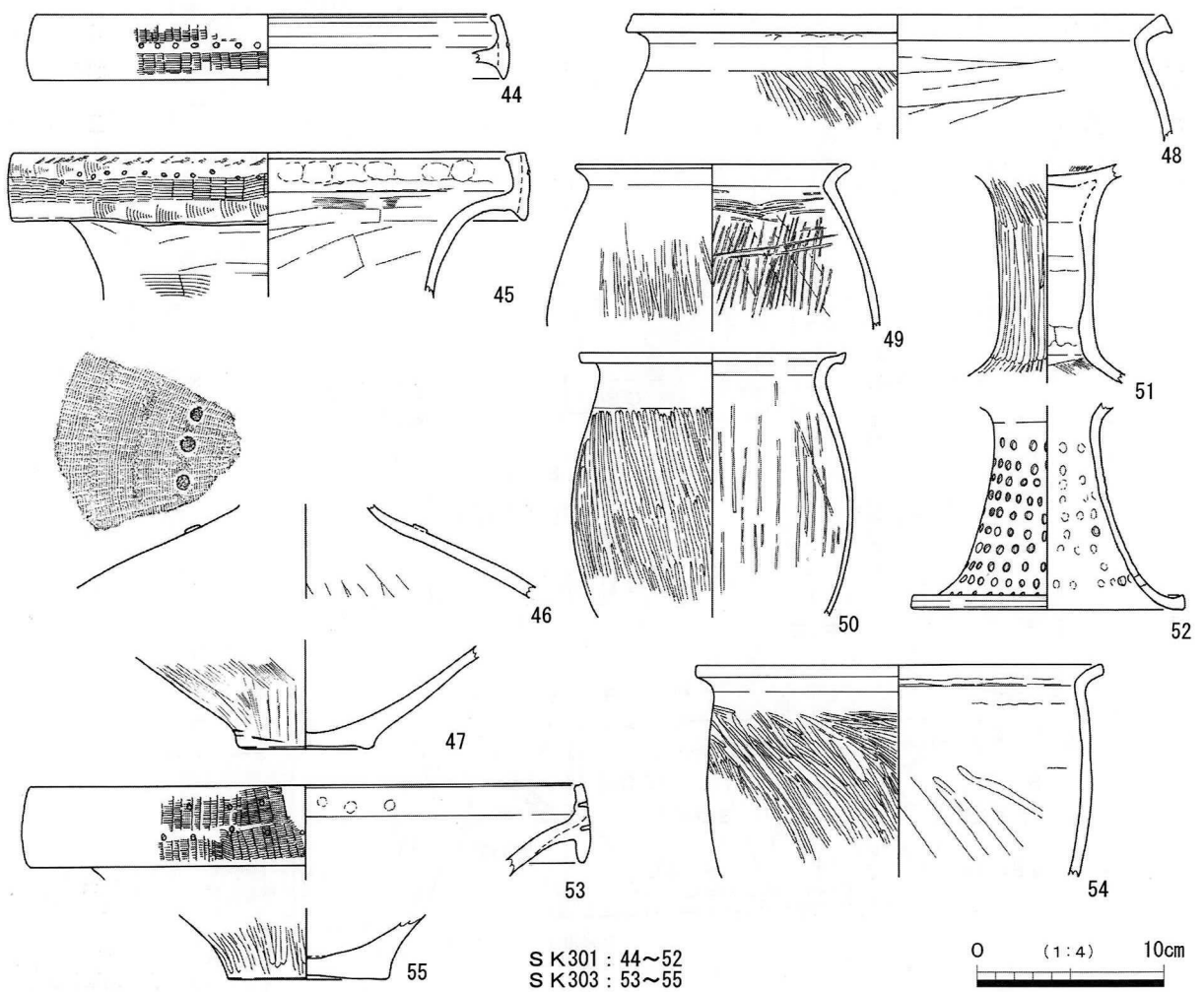
49は、口縁部が「く」の字に屈曲する。50の口縁部は、外反した後、端部を摘み上げる。51は高杯、52は鉢の脚部である。52の脚部外面には、竹管文を施す。遺構の帰属時期は弥生時代中期後半(河内Ⅳ－１様式) と考えられる。

ＳＫ302

Ｂ区の３Ａ地区で検出した。南部が調査区外に至るため全容は不明である。検出部分では半球形状の部分の中央部付近から北に 1.1m程度小溝が伸びる。東西幅 5.05m、南北幅 1.2mを測る。断面形状は、底部がほぼ水平で深さ 0.18mを測る。埋土は灰色細砂混粘土で遺物の出土はなかった。



第 19 図　Ｂ区ＳＫ303 平・断面図



第 20 図　Ｂ区ＳＫ301・303 出土遺物実測図

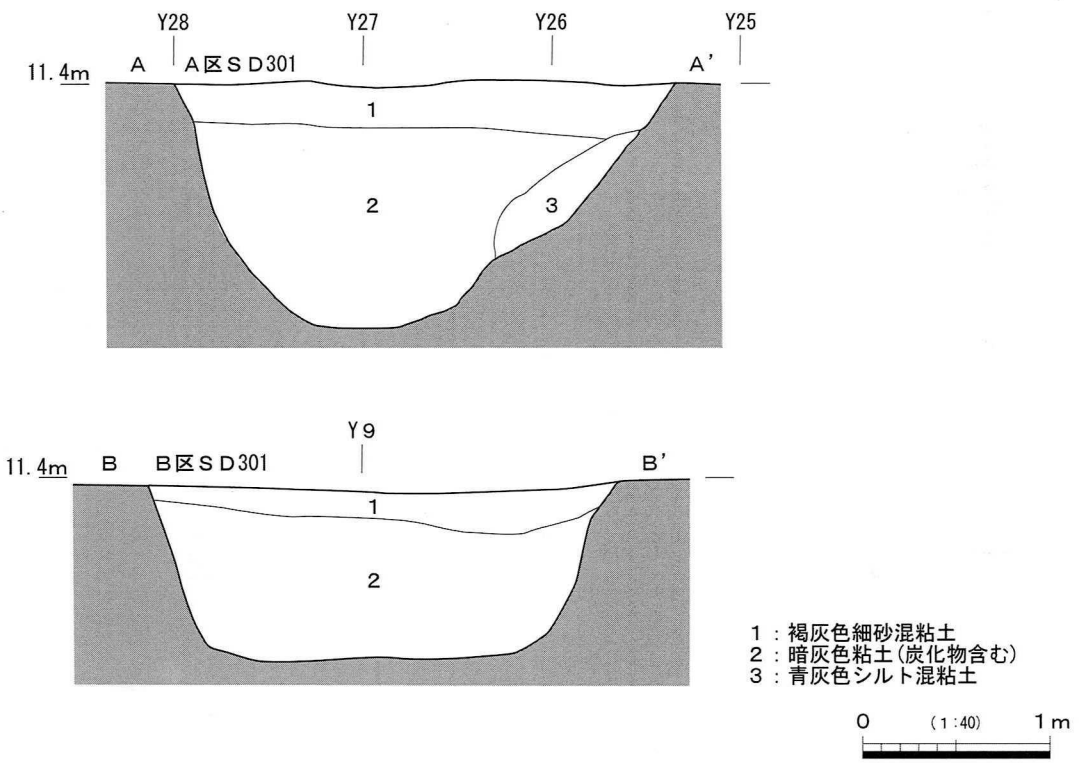
ＳＫ303

Ｂ区の２・３Ａ地区で検出した。南部は調査区外に至るため全容は不明である。検出部分で東西幅 4.1m、南北幅 5.7mを測る。断面形状は皿状で、深さ 0.34mを測る。底面は西肩に沿って溝状に窪む部分がある。埋土は灰色細砂混粘土で、弥生時代中期後半に比定される弥生土器が出土している。３点(53～55)を図化した。53 は付加状口縁を持つ広口壺である。端面には上下二条の簾状文と刺突文を施す。54・55 は甕である。54 はいわゆる如意形口縁を呈する甕である。55 は底部である。遺構の帰属時期は弥生時代中期後半(河内Ⅳ－１様式)と考えられる。

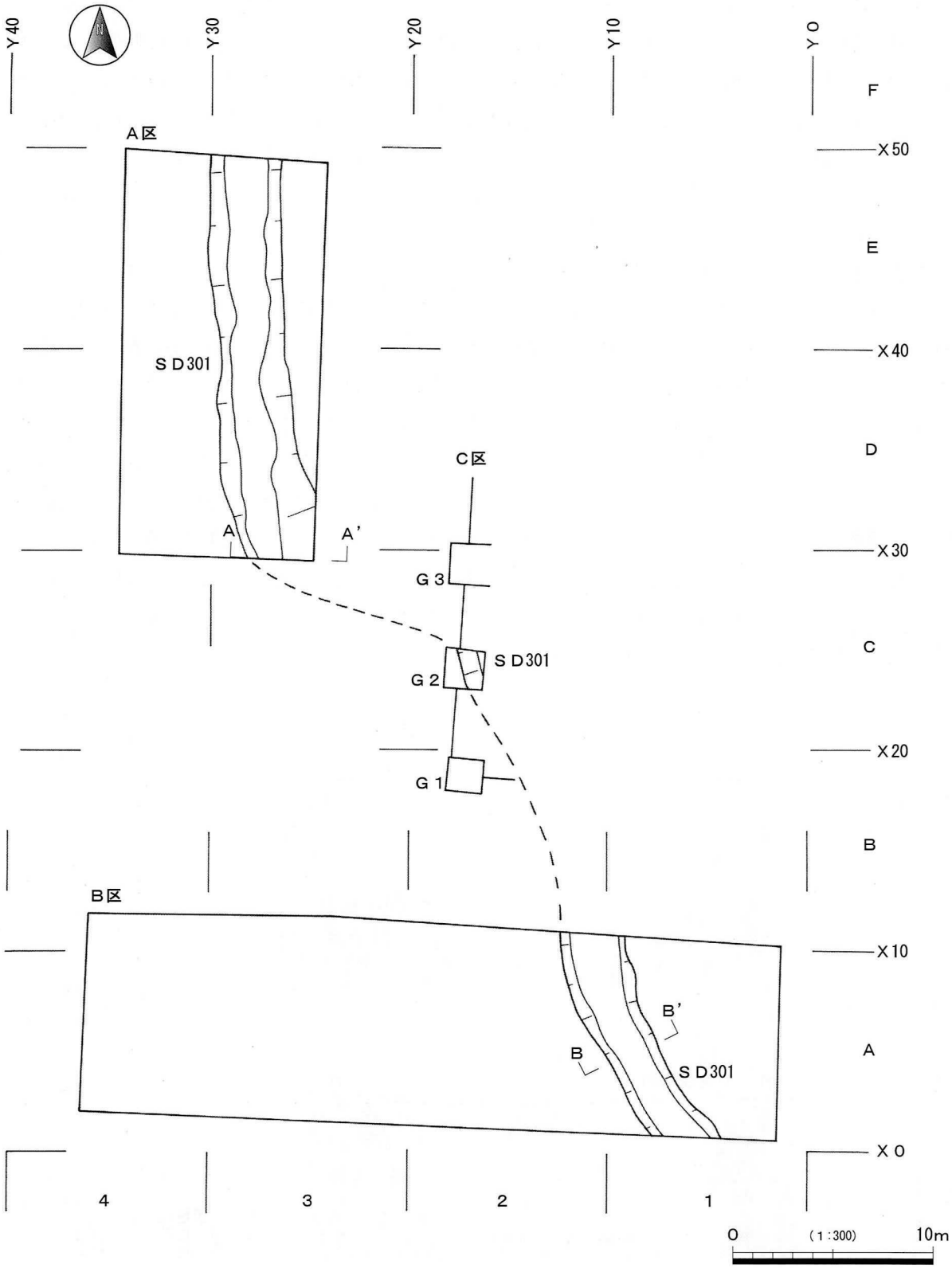
溝(ＳＤ)

ＳＤ301

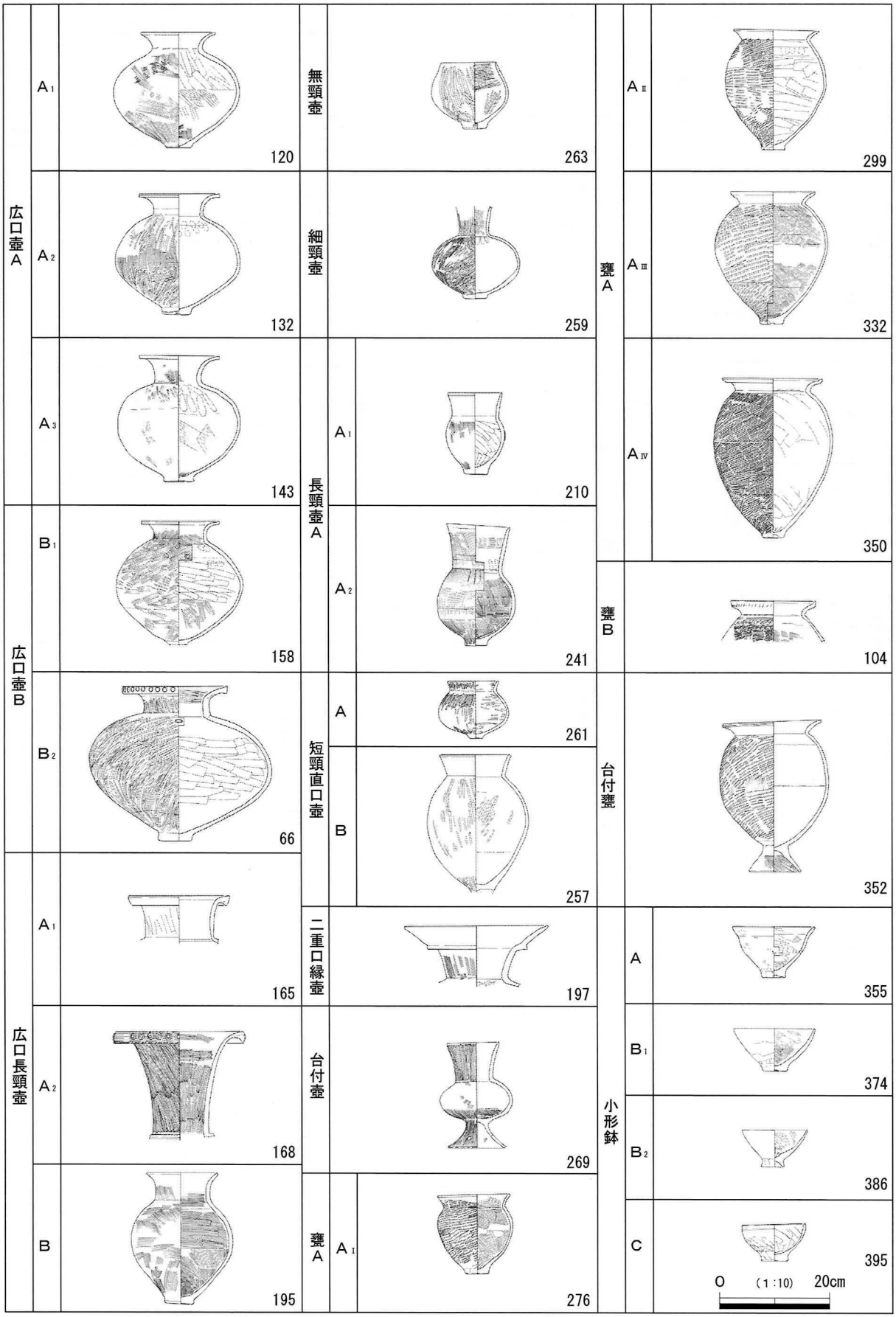
Ａ区の東部、Ｂ区の東部、Ｃ区の南西部で検出した。南東～北西方向に蛇行し伸びる溝である。検出部分で検出長 54.0m、幅 3.5～4m、深さ 1.2～1.5mを測る。埋土は３層からなり、特にＡ区の１・２層からは、弥生時代後期後半(畿内第Ⅴ様式後半)古相(原田 2003)に比定される完形品の土器および完形近くにまで復元可能な土器の破片が密集した状態で出土した。出土量はＡ区だけでコンテナ約 150 箱を数える。Ａ区では、調査時点において１層を中心としたものを上層遺物、２層のものを下層遺物として取り上げたことから、図化した遺物を掲載するにあたり、上層遺物と下層遺物の順に記載した。図化したものはＡ区 408 点(56～463)、Ｂ区１点(464)である。同遺構からの遺物は膨大であることから、器種別に分類して記述をおこなった(第 23・24 図参照)。なお、土器分類は久宝寺遺跡第 29 次調査の「中・南河内地域における弥生時代後期後半～古墳時代初頭前半(庄内式古相)の土器の細分試案について」(原田 2003)を参考に作成した。



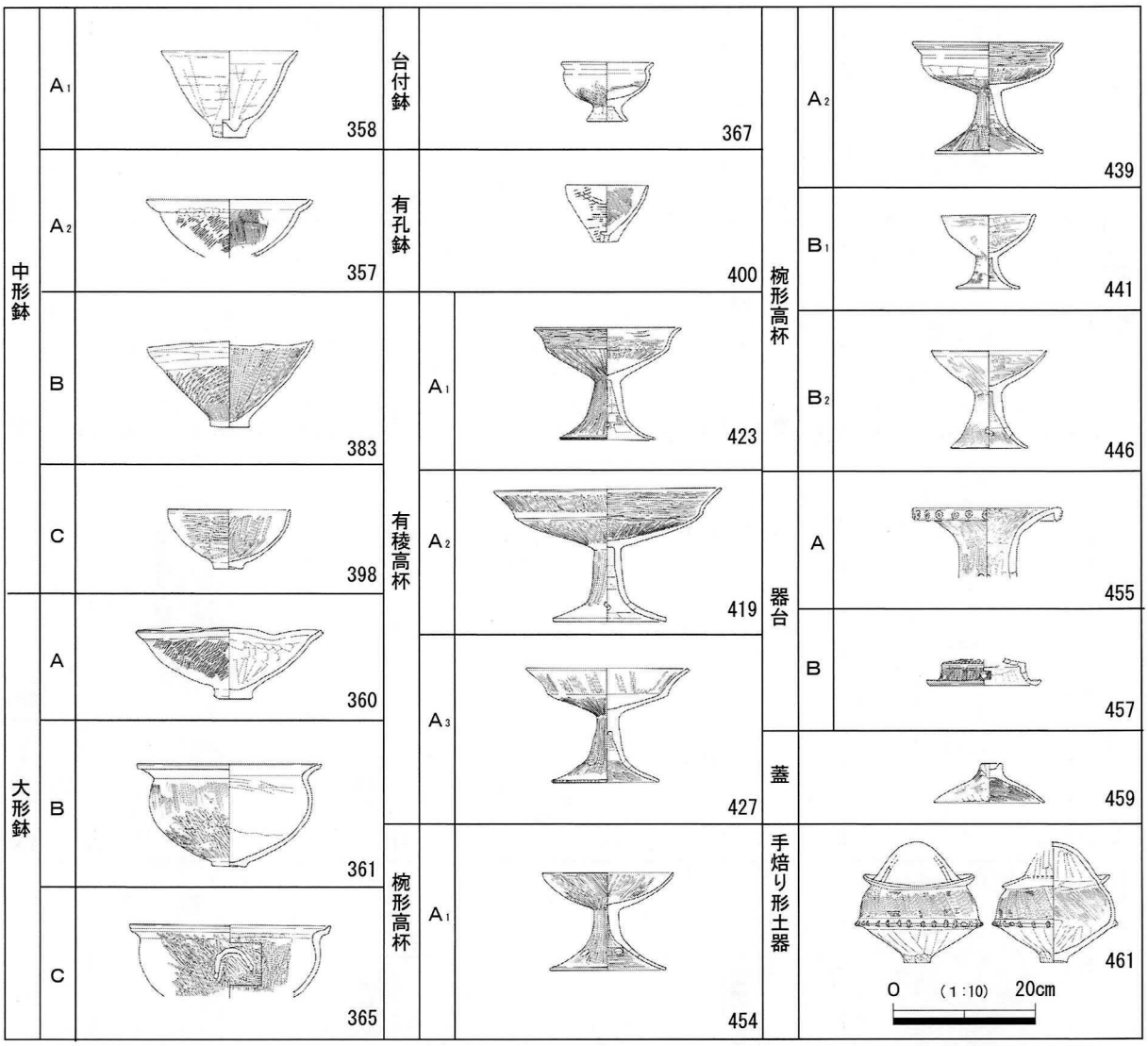
第 21 図　Ａ・Ｂ区ＳＤ301 断面図



第22図　A～C区SD301平面図


広口壺A
A1
120
A2
132
A3
143
広口壺B
B1
158
B2
66
広口長頸壺
A1
165
A2
168
B
195
無頸壺
263
細頸壺
259
長頸壺A
A1
210
A2
241
短頸直口壺
A
261
B
257
二重口縁壺
197
台付壺
269
甕A
A1
276
甕A
AII
299
AIII
332
AIV
350
甕B
104
台付甕
352
小形鉢
A
355
B1
374
B2
386
C
395
0 (1:10) 20cm

第 23 図　土器分類図 1



第 24 図　土器分類図２

・壺

広口壺Ａ　口縁部が外反する小・中形の壺。

Ａ１　口頸部が小さく外反するもの。体部は球形と扁球形がある。

Ａ２　頸部が斜上方に伸びた後、口縁部が小さく外反する。

Ａ３　口頸部が大きく外反するもの

広口壺Ｂ　頸部が直上方に短く伸びた後、外折する口縁部を持つもの。

Ｂ１　頸部が直上方に短く伸びた後、口縁部が外折するもの。

Ｂ２　口縁部に垂下する端部がつくもので、端面に装飾を行うものが多い。

広口長頸壺Ａ　大きく外反する口縁部に垂下する端部がつき、端面に装飾を行うものが多い。

Ａ１　直上方に伸びる頸部から大きく外反する頸部が付く。

Ａ２　頸部が長くラッパ状に開くもので、垂下した口縁端面に装飾を施すもの。

広口長頸壺Ｂ　長頸壺Ａの体部から開き気味に伸びる口頸部を持つ小形・中形の壺。

無頸壺　球形の体部で頸部を持たない小形の壺。

細頸壺　扁球形の体部から口頸部が斜上方に直線的に伸びる壺。

長頸壺A　体部は球形または縦長や横長の楕円形で、垂直もしくは緩やかに外反して長く立ち上がる口頸部をもつ壺。

A_1　長頸壺A_2に比して口頸部長が半分程度のもの。

A_2　口頸部が、長く伸びるもの。

短頸直口壺A　玉葱形の体部に口頸部が斜上方に短く伸びる小形品

短頸直口壺B　球形の体部に口頸部が斜上方に短く伸びる小形・中形品。

二重口縁壺　2重に外反する口縁部を持つ壺。

台付壺　小形の壺に脚部が付くもの。

・甕

甕A　体部が叩き技法により製作された畿内第Ⅴ様式甕。器高数値からⅠ～Ⅳに分類した。

器高による分類

Ⅰ　器高が16㎝未満の小形品である。

Ⅱ　器高が16㎝以上23㎝未満の中形品。

Ⅲ　器高が23㎝以上27㎝未満のもの大形品。

Ⅳ　器高が27㎝以上の超大形品。

甕B　他地域産の影響を受けた甕。

台付甕　脚台を持つ甕。

・鉢

小形鉢A　擂鉢状の体部に短く外反する口縁部が付くもの。体部外面はタタキ調整およびナデ調整がある。

小形鉢B　口縁部が外反せず直口のもの。

B_1　平底を呈するもの。

B_2　底部が上げ底のもの。

小形鉢C　平底の底部から体部が内湾して伸びるもの。

中形鉢A　口縁部が短く外反または内湾気味に伸びるもの。

A_1　口縁部が外反して伸びるもの。

A_2　口縁部が内湾気味に伸びるもの。

中形鉢B　小形鉢B_1を大きくしたもの。

中形鉢C　小形鉢Cを大きくしたもの。

大形鉢A　中形鉢A_2を大きくしたもの。

大形鉢B　半球形の体部に外反する口縁部が付くもの。

大形鉢C　半球形の体部に二段に屈曲する口縁部が付くもの。

台付鉢　脚台を持つもの。

有孔鉢　底部に穿孔を持つもの。

・高杯

有稜高杯A　明瞭な稜を有し、口縁部が外反する高杯。

A_1　体部高が口縁高を凌駕している。

A_2　体部高と口縁高がほぼ等しい。

A_3　口縁高が体部高を凌駕している。

椀形高杯A　椀形の杯部が付く高杯。

A_1　浅い半球形の杯部が付く。

A_2　半球形でやや深めの杯部から口縁部が屈曲ないしは外折するもの。

椀形高杯B　椀形高杯Aに比して口径の小さい杯部を有する。

B_1　杯部径が15㎝以下の小形のもの。

B_2　杯部径が15㎝以上の中形のもの。

・器台

器台A　筒状の脚柱部からに大きく広がる口縁部と裾部を持つもの。

器台B　脚部が二段に屈曲するもの。

・蓋　傘形を呈するもので、つまみ部分が窪むもの。

・手焙り形土器　受口状口縁の鉢に覆部が付くもの。

A区SD301上層出土遺物

60点(56～115)を図化した。内訳は壺が23点(56～78)、甕が26点(79～104)、鉢が4点(105～108)、高杯が7点(109～115)である。

壺

壺は23点(56～78)で、内訳は、広口壺$A_1$4点(56～58・60)、広口壺$A_2$2点(59・61)、広口壺$B_1$4点(62～65)、広口壺$B_2$2点(66・67)、広口長頸壺$A_2$1点(75)、広口壺体部～底部1点(78)、長頸壺$A_1$1点(68)、長頸壺$A_2$5点(69～72・76)、短頸直口壺B1点(73)、細頸壺1点(77)、台付壺(74)である。

56～58・60は広口壺A_1である。球形の体部に口縁部が外反して伸びる広口壺である。体部外面の器面調整は57・58にはタテハケが施されている。60は球形の体部に外反する口縁部が付く壺である。口縁端部にキザミ目を施し、体部外面の器面調整は甕と同様三分割のタタキを施す。59・61は広口壺A_2である。共に、球形の体部から頸部が斜上方に伸びた後に外反する口縁部を有する。61の体部上位に竹管による記号文が1個施文されている。62～65は広口壺B_1である。直上に伸びる頸部から口縁部が外反する広口壺である。全容が明らかな64・65は共に扁球形の体部に突出した底部を有する。66・67は広口壺B_2である。僅かに上下に拡張する口縁端面を形成し、端面にはほぼ等間隔に竹管文が施文されている。体部は共に扁球形で、体部上位に竹管文1個が施されている。75は広口長頸壺A_2である。口縁部に垂下し端部は面を形成する。端面には竹管文がほぼ等間隔で施されている。78は広口壺の体部～底部である。68は長頸壺A_1である。長頸壺A_2を小型化したものである。69～72・76は長頸壺A_2である。球形状の体部から斜上方に伸びる口縁部が付く。70の体部外面上位にヘラによる縦位方向の記号文が施文されている。72の体部は、縦長の卵形を呈し、頸部は短い。73は短頸直口壺である。口縁部は体部上位から屈曲し、上外方へ短く直線に立ち上がるもので、体部と口縁部の境に刺突文と口縁部の外面に波状文が施文されている。77は口頸部を欠くが形状から細頸壺の体部と推定される。74は台付壺で、長頸壺に脚が付く。

遺物実測図の縮尺　S＝1/10
数字は本文に掲載した遺物番号

0　(1:50)　1m

第25図　A区SD301上層出土遺物位置図

甕

甕は26点(79～104)で、内訳は甕ＡⅠが８点(79～86)、甕ＡⅡが11点(87～97)、甕ＡⅢが３点(98～100)、甕ＡⅣが３点(101～103)、甕Ｂが１点(104)である。

79～86は器高が16㎝未満の小形品の甕ＡⅠである。上げ底で体部外面に縦位のヘラミガキを多用する82を除き、Ｖ様式甕に通有な二分割ないしは三分割にタタキ技法が行われている。85は、口縁部にタタキがおよんでいる。87～97は器高が16㎝以上23㎝未満の中形品の甕ＡⅡである。そのうち、タタキの後に縦方向のハケを散発的に施すものが93・94・96に認められた。93の体部下位には穿孔がある。98～100は器高が23㎝以上27㎝未満の大形品の甕ＡⅢである。99は最下段に縦位のヘラケズリや中位にタタキの後に部分的に縦方向のハケが認められる。100は口縁部を欠損しているが、受口状口縁になると思われる。101～103は器高が27㎝以上の超大形品の甕ＡⅣである。102は受口状口縁部で、体部上位に縦方向のハケを施す。103は口縁端面にキザミ目が施されている。口縁部にキザミ目が確認できる甕は、「淡路型叩き甕」もしくは「淡路型甕」と提唱されている(森岡2003・池田2013)ことからこの甕は、同型のものになる可能性が考えられる。104は甕Ｂである。受口状の口縁部を有するもので、口縁端面に櫛状の工具によるキザミ目、体部上位に直線文、列点文、波状文が施されている。施文は近江の影響を受けているが、胎土は角閃石を含む生駒西麓産である。

鉢

鉢は４点(105～108)で、内訳は小形鉢$Ａ_{1}$が１点(105)、小形鉢$Ｂ_{2}$が２点(107・108)、中形鉢$Ａ_{1}$が１点(106)である。

105は突出する平底の鉢で、体部に横方向のタタキを施している。107・108は、ともに底部周辺を外下方に拡張させ上げ底状にしたものである。106は突出する平底の鉢で、底部は上げ底状にしたものである。106・107は波状口縁を呈す。

高杯

高杯は７点(109～115)で、内訳は高杯$Ａ_{2}$が２点(109・110)、高杯$Ａ_{3}$が３点(111～113)、脚部片が２点(114・115)である。

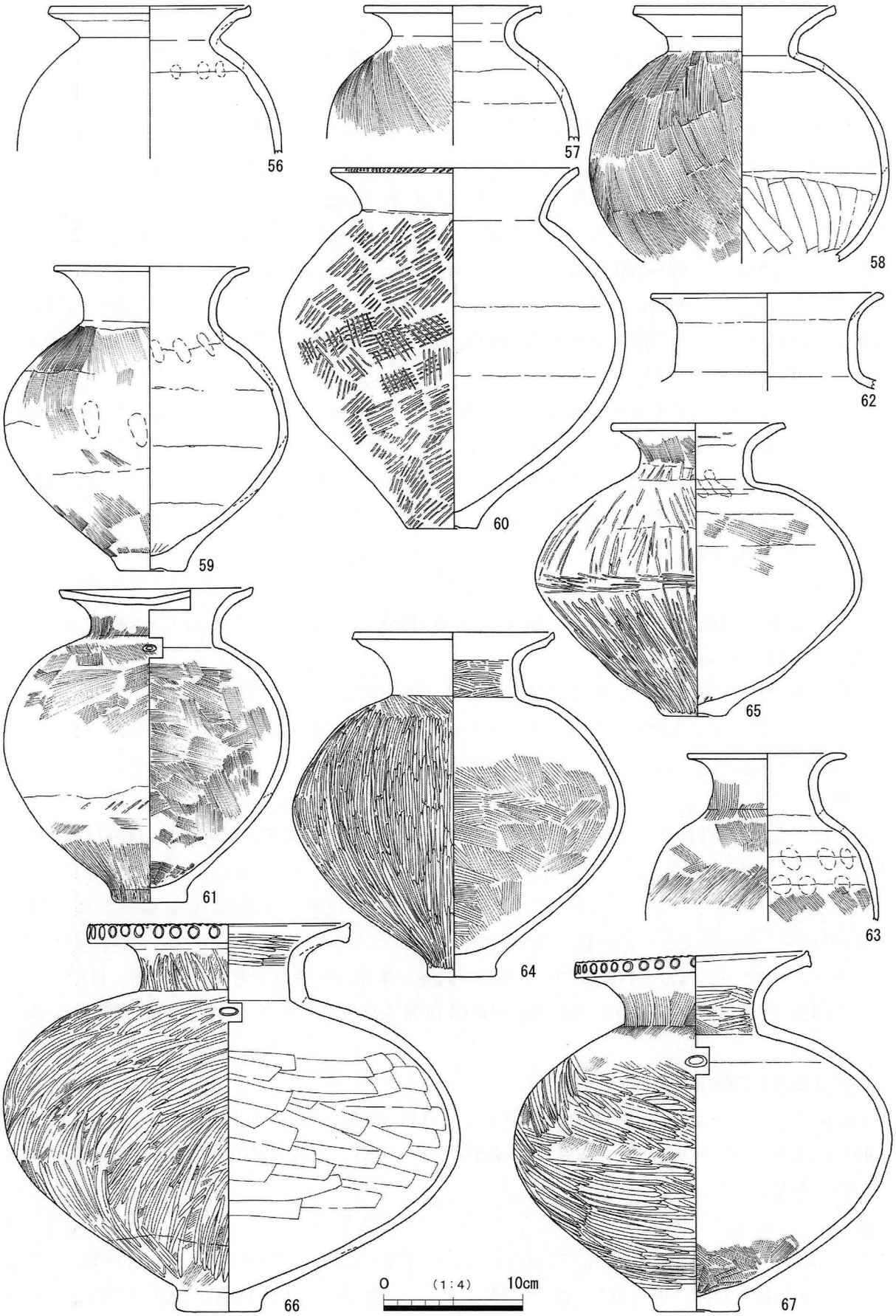
109は杯部のみ残存している。杯部の口縁部高と体部高の数値がほぼ等しいものである。110は口縁部径が17.7㎝を測る小形高杯で完形品である。口縁部外面には、波状文のようなジグザグのミガキを施している。111～113は、杯部の口縁部高が体部高を凌駕するものである。111・112は中空の脚部で、113は中実の脚部である。114・115は高杯脚部である。共に生駒西麓産である。

Ａ区ＳＤ301下層出土遺物

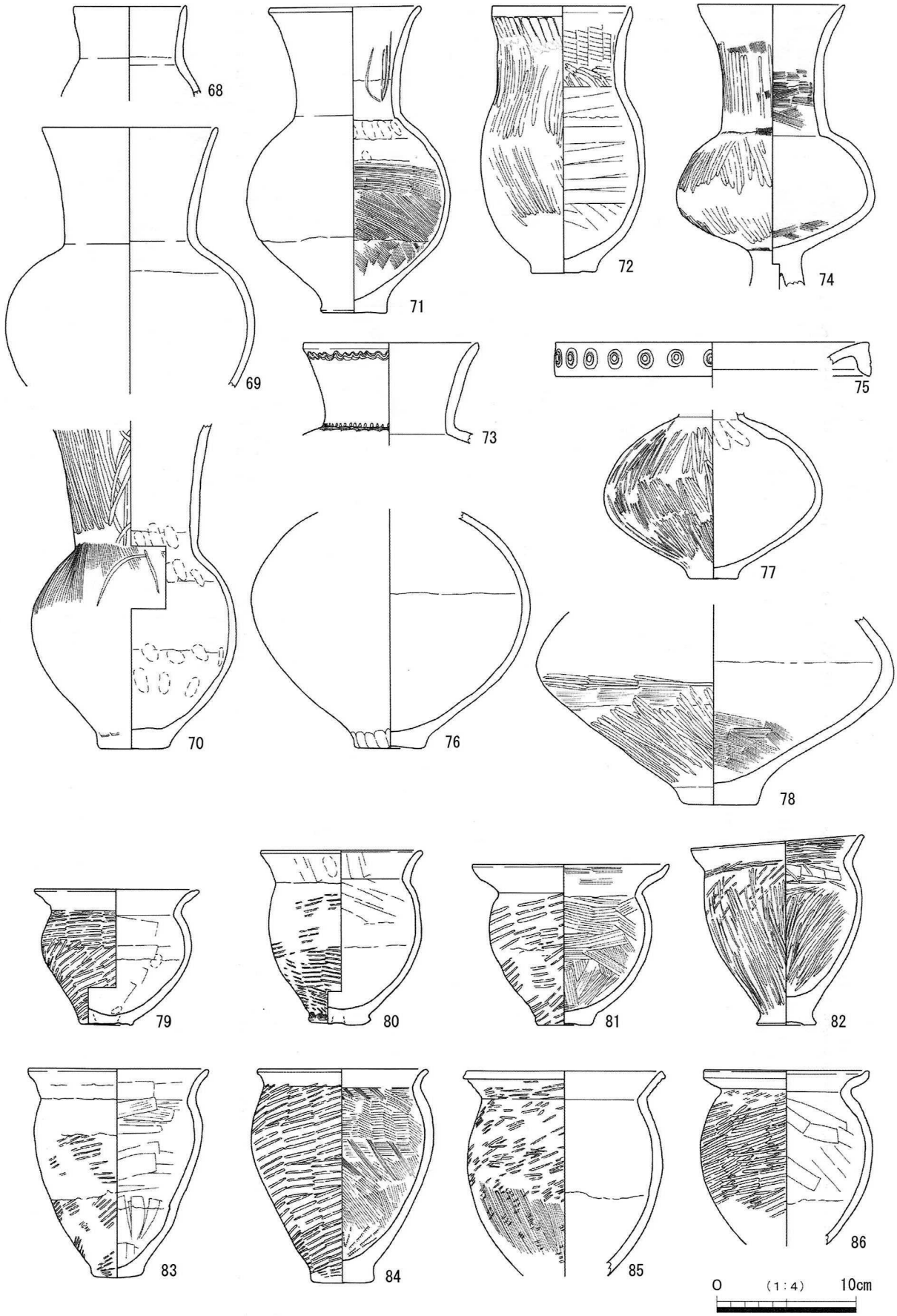
348点(116～463)を図化した。内訳は壺154点(116～269)、甕83点(270～352)、鉢57点(353～409)、高杯45点(410～454)、器台３点(455～457)、蓋３点(458～460)、手焙り形土器３点(461～463)である。

壺

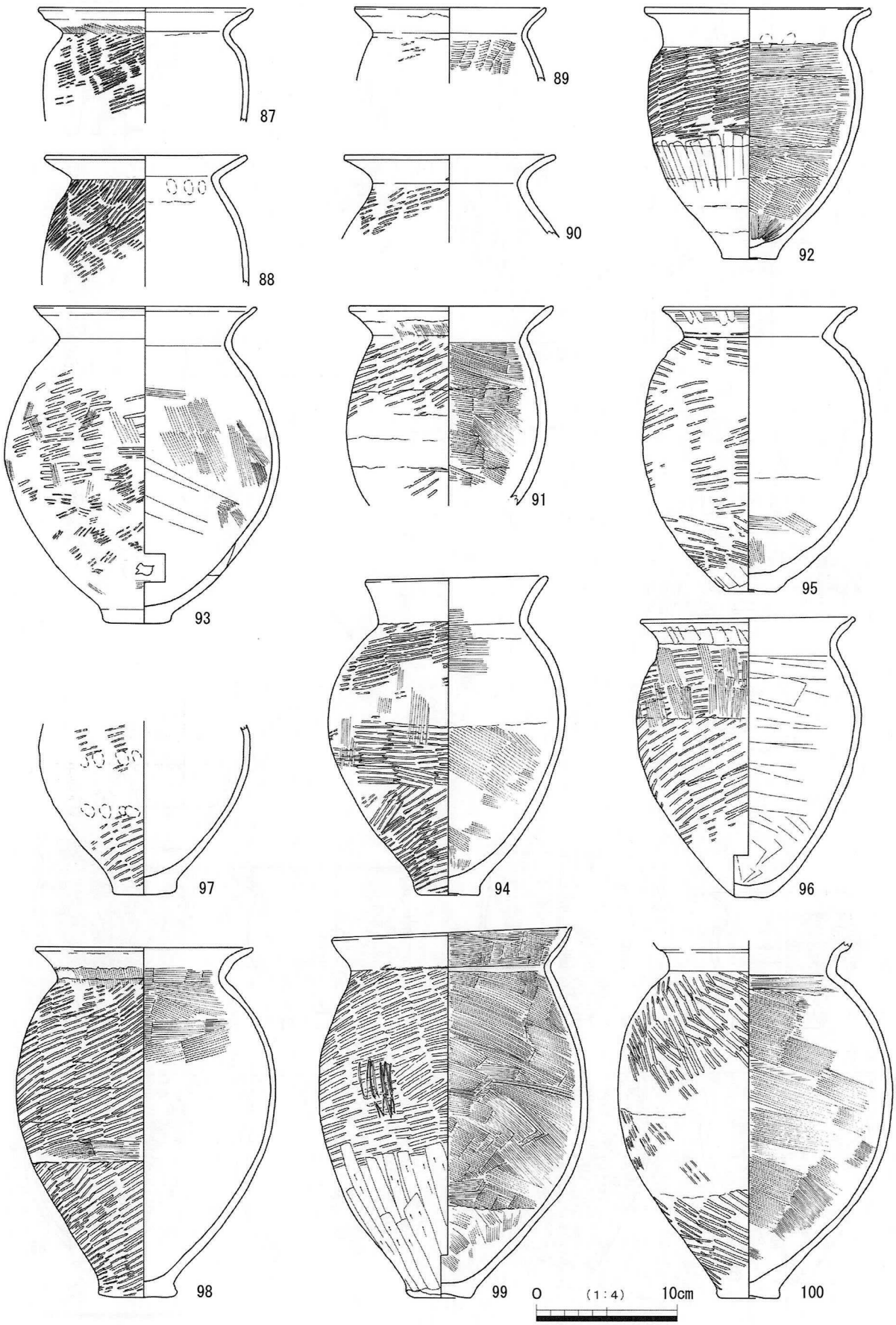
壺は154点(116～269)で、内訳は広口壺$Ａ_{1}$10点(116～125)、広口壺$Ａ_{2}$17点(126～142)、広口壺$Ａ_{3}$３点(143～145)、広口壺$Ｂ_{1}$17点(146～162)、広口壺$Ｂ_{2}$１点(163)、広口長頸壺$Ａ_{1}$２点(164・165)、広口長頸壺$Ａ_{2}$５点(166～170)、広口長頸壺Ｂ26点(171～196)、二重口縁壺２点(197・



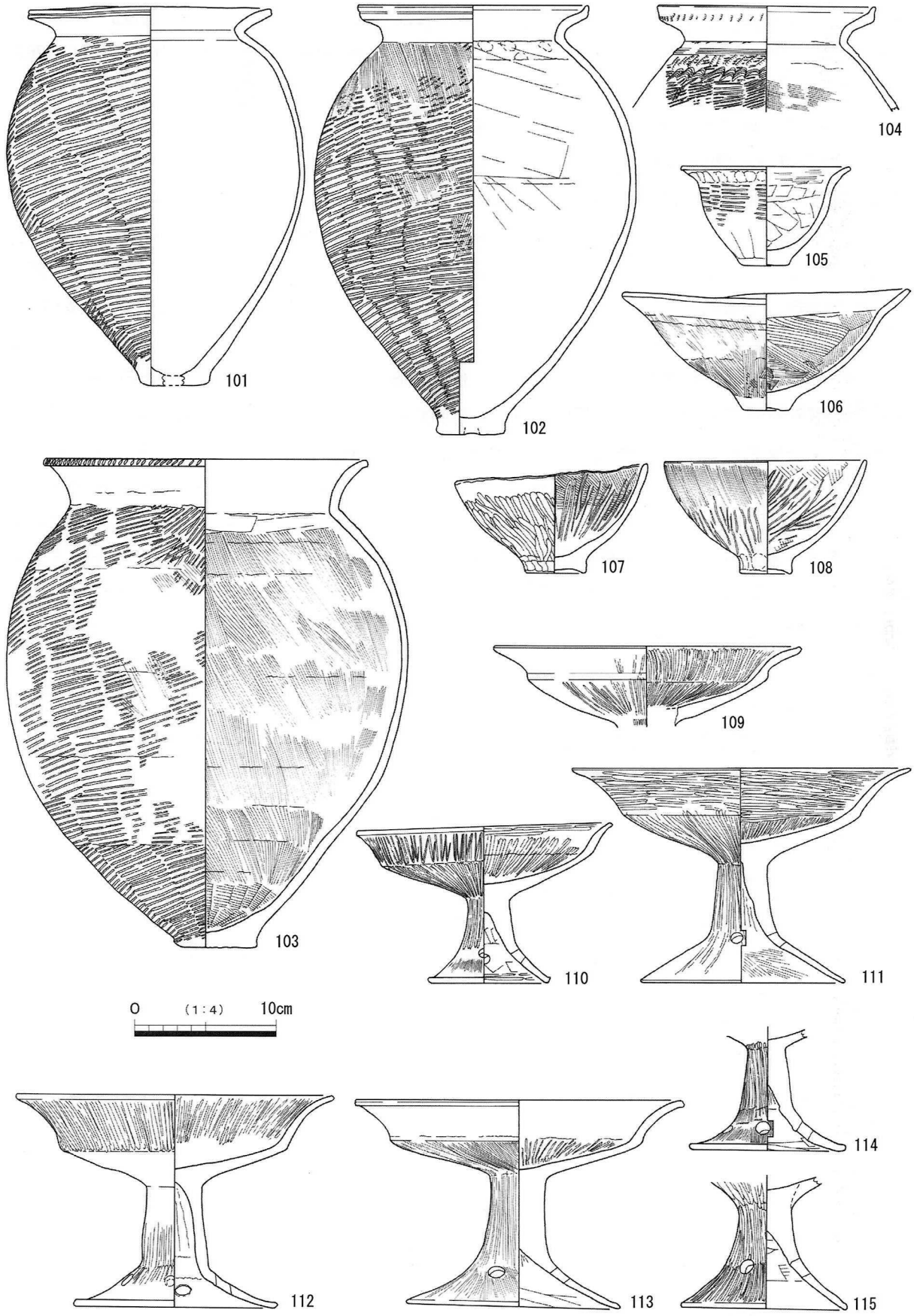
第 26 図　A区ＳＤ301 上層出土遺物実測図―１



第 27 図　A区ＳＤ301 上層出土遺物実測図―２



第 28 図　A区ＳＤ301 上層出土遺物実測図—３



第 29 図　A区ＳＤ301 上層出土遺物実測図—４

198)、長頸壺$A_1$27点(199～225)、長頸壺$A_2$29点(226～254)、短頸直口壺A１点(261)、短頸直口壺B３点(255～257)、細頸壺３点(258～260)、無頸壺４点(262～265)、台付壺４点(266～269)である。

116～125は、球形の体部に外反する口縁部を持つ壺である。口縁端部の形状は、丸味を持って終わる(117・118・120・121)、端部が外傾気味ないしは垂直方向に面を形成するもの(116・122～125)がある。口縁端面の施文は、124に径５㎜程度の円形竹管文が巡る。記号文は、122の体部上半に９本の縦位のヘラ描直線文、123の体部外面上位に竹管文１個が施文されている。116の体部上位には、突起が貼付けられている。122の体部のヘラミガキは上位と下位が縦方向、中位が横方向である。また、体部下位に穿孔が１箇所ある。体部中位を中心に煤が付着するものは、118・120・121に認められ煮炊具として使用されている。

126～142は、球形の体部から頸部が斜上方に伸びた後、口縁部が外反する壺である。そのうち、口縁部の端部付近で外反するもの126～134、受口状口縁を呈するもの135～142がある。口縁部の端部付近で外反するものは、外傾ないしは垂直方向の面を形成する。受口状口縁を呈するものにおいては、138・139・142が端部に面を形成する以外は、尖り気味に丸くおさめられたものが大半である。135は端部が直立ぎみで、外面には凹線状のくぼみがある特徴から北近畿系のものに類似する。口縁端面の施文では、１条の沈線文を持つ133・138、２条の沈線を持つ126、キザミ目を持つ141、端部内外面に竹管文を持つ139がある。体部外面における記号文は、体部外面上位に１個の円形貼付浮文を持つ133、体部と頸部の境の貼付け凸帯の下方に竹管文を施文する139、体部上位にヘラ先工具により落花生状の施文する140がある。頸部と体部の境に上面にキザミ目を持つ凸帯が巡る141がある。底部裏面では木葉文が137に認められる。139は、口径29.4㎝、器高64.6㎝、体部最大径52.7㎝を測る大形の壺で、体部下位はハケ、中位以上は縦方向のヘラミガキを施す。なお、129・130・132・134・142の体部外面には煤の付着の他、142は、火熱による器面剥離が認められ、煮炊き具としての利用が推定される。143～145は、球形ないしは扁球形の体部から口縁部が大きく外反する壺である。144の体部外面は、縦方向のヘラミガキで、中位以下に煤が認められる。また、底部の裏面に籾痕と「十」のヘラ記号が施文されている。146～162は、直上方向ないしは外傾気味に伸びる頸部を有した後に口縁部が外反して開く壺である。体部の形状には、球形・扁球形で、小形・中形・大形の三種がある。口縁端部は丸味を持つ146、外傾し面を形成するもの147～149・153・154・157・159、やや上方につまみ出す口縁で面を形成する150・152・155・156・158・162、受口状口縁を呈する161がある。148は、口縁端部に２条の沈線が廻る。口縁端面に加飾を持つものは147・149で、147はキザミ目文、149は２個一対の竹管文を施している。体部外面の記号文は、体部上位に２個一対の竹管文を施文している155、３個の竹管文を施文している158・161、ヘラ描による直線文を施文している154がある。体部外面に煤の付着が認められたものは155～157・160～162で、155・157の内面には、コゲ痕が認められた。155は、ほぼ全面にハケを施し、わずかにヘラミガキが認められる。163は広口壺Bのなかで、垂下口縁を作る広口壺B_2に分類される。大形品で口径17.7㎝、器高34.85㎝、体部最大径33.8㎝を測る。口縁端面に３条の沈線文が施文されている。また、体部のヘラミガキは、上位と下位が縦方向、中位が横方向である。164・165は、口頸部がラッパ状に開いた後、幅広の垂下口縁部を持つ壺である。166～170は、口縁端部が付加状口縁ないしは垂下口縁を呈する壺である。口縁端面におけ

る加飾文様は、166が３条の沈線文と竹管押圧円形浮文、167が竹管押圧円形浮文、168が口縁端面に２条の沈線文と竹管押圧円形浮文を６個一単位とするほか、下端部に斜方向のキザミ目、体部と頸部の境に上面にキザミ目を持つ凸帯が廻る。170は、復元口径が46㎝を測る大形のもので、大形器台になる可能性がある。垂下口縁端面に竹管押圧円形浮文を貼り付け、間には沈線を施す。171～196は、長頸壺Ａの体部から開き気味に伸びる口頸部が付く壺である。器高数値から19㎝未満の小形品と19㎝以上の中形品に区別される。器面調整は、172・175・179・196のようにタタキを残すものを除けば、縦位方向のヘラミガキまたはハケ調整を多用するものが大半を占める。外面に施文された記号文には、体部上位に３個の竹管文を配す177、頸部下位に２個の竹管文を配す180、体部上位に水平方向に刺突文を配す184・185・193、体部中位に４条の直線文を施文する187がある。体部中・上位に穿孔するものは、174・186である。体部外面に煤の付着が認められたものは、171・175・177・180・183・185・187・189・191・194で、内部にコゲ痕が確認できたものは、180・185・189・191である。197・198は、二重口縁壺で２点とも口頸部のみの残存である。199～225は、長頸壺に分類されるなかでも器高16㎝以下の小形品である。平底の底部で、無花果形または半球形の体部から口頸部が直線的に上外方に伸びる。207・210の口縁端部には凹線文を施している。216～218は底部に穿孔がある。218の頸部外面には記号文である竹管文が２個縦位に施文されている。217・223の体部外面にはタタキが認められる。体部外面に煤の付着が認められたものは212・213・220・221・225で、221の体部内面ではコゲ痕が確認できる。226～254は、長頸壺のなかでも器高16㎝以上の中形品である。そのうち、外面に記号文・突起を持つものは228・230・233・235～237・241・245・249・252～254である。記号文は、竹管文・ヘラ描き・浮文などの種々の施文法で表現されている。記号文・突起が施された部位としては、外面の全域に及んでいるが、そのうち体部上半に施文されたものが大半を占める。体部に施文された文様としては、複数直線文233・236・241・252、竹管文３個を三角形状245、竹管文４個を一列253、「Ｕ」の字状230・237、逆「Ｔ」の字状235がある。その他、口頸部と体部の両方にヘラ描きによる１条の直線文254、複数の直線文を施す228がある。226・234・245・246の口縁端部には凹線文を施している。243の口縁部は内湾している。体部に穿孔が穿たれているものは231・234がある。238・246・247の体部外面にはタタキが認められる。体部外面の煤付着から煮炊き用に使用されたと推定されるものは247・250の２点である。261は玉葱形の体部から上外方に短い口縁部が付く短頸直口壺Ａで、口縁部に波状文を施している。255～257は、３点ともに無花果形の体部に上外方に伸びる口縁部が付く。器高14.2～16.1㎝を測る小形品の255・256と、器高25㎝前後を測る大形品の257がある。256の口縁部は、内湾する。258～260は細頸壺であるが、全容を知り得たものはなかった。扁球形の体部から直上方に長く伸びる細目の頸部が付く。262～265は無頸壺で、262の口縁端部付近には、蓋形土器と本体を繋ぐ２個一対の紐孔が焼成前に穿たれている。263～265の口縁部は内湾し尖りぎみに丸く終わる。263は、底部に穿孔が焼成前に穿たれている。264の口縁端部には擬凹線文を施し、また、体部のヘラミガキは、上位と下位が縦方向、中位が横方向である。264は擬凹線を施すことや、器形から判断すると、北近畿系の可能性が考えられる。266～269は台付き壺である。壺部分の形状は、266が広口直口壺、267・268が短頸直口壺Ａ、269が細頸直口壺である。266の体部下位に縦位３条の記号文が施文されている。268は、口縁部に擬凹線文を施す。267・268の体部外面は縦方向のミガキを上下分割して施す。

甕

甕Aとしたものは、いわゆる「V様式甕」と呼称される甕で、器高の数値から四つに分類(甕AⅠ～Ⅳ)した。その内訳は、甕AⅠ16点(270～285)、甕AⅡ35点(286～320)、甕AⅢ22点(321～342)、甕AⅣ8点(343～350)である。その他、台付き甕2点(351・352)がある。

270～285は器高が16cm未満のものである。体部の形状は、上位に最大径を持つものが多い。体部の成形は二段ないしは三段分割成形で、分割に沿ってタタキ調整の方向を変えている。体部内面は板ナデおよびハケによる調整が行われている。なお体部の成形においてタタキを用いない275やタタキを消す278がある。271のタタキは、左上がりで、281のタタキは、下位が右上がりで、上位が左上がりである。底部の形状は、やや突出した平底が大半を占めるが、277のように突出しないものや271・275のように底部の側面をナデることにより端が下外方に拡張するものがある。口縁端部は丸く終わる271・272・273・275～279・282～284、外傾する平坦面を持つ274・280、端部が受口状のもの270・281があり、受口状を呈する270・281は広端面を有する。272は波状口縁である。281の体部内面にヘラケズリが認められる。

286～320は、器高が16cm以上22cm未満のものである。体部の製作技法としては、三分割成形とタタキ技法によるが、タタキの一部をハケで消すものやナデで消すものがある。また310のように上段・中段がハケ、下段がナデによるものがある。286のタタキは、下位と上位が右上がりで、中位が左上がりである。294・299・311・317のタタキは、下位と上位が右上がりで、中位が横方向である。316は下位から上位に向かい左上がりと横方向のタタキを交互に繰り替えし施している。口縁端部の形状は、丸く終わる286～300・319・320、尖り気味で終わる303～306、外傾する平坦面を持つ307～312、受口状を呈する313～318がある。底部の形状はやや突出した平底が大半を占めるが、288のように底部側面をナデることにより底部端が下外方に拡張し上げ底のものがある。292・293は、波状口縁である。304の体部上位には、棒状工具による縦位の直線文が全体に廻らされている。312は口縁タタキ出し技法により擬口縁を成形した後、口縁端部が形成されているが、全体に雑な成形である。306の底部は、上げ底である。

321～342は、器高が22cm以上27cm未満のものである。体部の形状は、325のように体部中位が大きく張り出すものを除けば、体部最大径が中位にある倒卵形を呈するものが大半をしめる。体部外面のタタキ調整は、三分割成形の部位に沿って方向を変えるものや、最下段の逆円錐台部の基本的なタタキ方向である右上がりタタキを上段・中段に踏襲するものがある。体部外面のタタキ調整をハケメにより消す行為は321・325・328・329・333～336・338・340～342に認められる。327には、口縁屈曲部外面に指頭による押圧文を残す粘土帯が廻る。口縁端部の形状は、丸く終わる339～342、外傾する面を形成する321～327・334、口縁端部が上方に摘み上げられるもの329・335、外傾する平坦面を形成し口縁下部が拡張されたもの337・338、受口状を呈する329～331・333・336がある。底部の形状は、やや突出した平底が大半を占め、底面が平底のものと底部がわずかに窪む上げ底のものがある。334の裏面には木葉痕が残る。口縁部に打欠きが認められるものは321・322である。

343～350は器高が27cm以上のものである。体部の形状は344のように球形のものを除けば、体部最大径が体部の中位より上部にある倒卵形を呈する。体部の分割成形は三分割のものと丈高の体部に相応した四分割のものが認められる。口縁端部の形状は、丸く終わる344、面を形成する

343・345～347、受口状を呈するものが348～350で、349には口縁端面下端にキザミ目が施されている。底部の形状は、やや突出した平底を呈し、底面が平底のもの343・345・346・349と底部がわずかに窪む上げ底348、ドーナツ状の底350がある。349のタタキは左上がりである。350の体部外面中位には、凹線状の窪みを施す。

351・352は台付き甕で、共に完形品である。351は、長胴の体部に「く」の字状に屈曲する口縁部が付く。口縁端部は面を形成する。台部は裾の拡張が少ない上げ底状を呈し、内面には指ナデによる圧痕が確認できた。352は体部最大径がほぼ中央にある縦長の器形で、「く」の字状に屈曲する口縁部が付く。口縁端部は面を形成し、凹線状の窪みが認められる。「ハ」の字状に開く底部が付き、内外面にハケを施している。

鉢

鉢には小形鉢Ａ３点(353～355)、小形鉢Ｂ$_1$15点(368～382)、小形鉢Ｂ$_2$10点(384～393)、小形鉢Ｃ４点(394～397)、中形鉢Ａ$_1$２点(358・359)、中形鉢Ａ$_2$２点(356・357)、中形鉢Ｂ１点(383)、中形鉢Ｃ４点(378・379・398・399)、大形鉢Ａ１点(360)、大形鉢Ｂ５点(361～364・366)、大形鉢Ｃ１点(365)、台付鉢Ａ１点(367)、有孔鉢Ａ10点(400～409)がある。

353～355のうち、353はミニチュア品である。354には注ぎ口がある。底部は外側面に指頭圧痕を残し「ハ」の字状を呈する353、平底で裏面が窪むものが354・355である。355の体部には、穿孔がある。これらの鉢はナデ・ハケ調整を多用している。368～382のうち、368・369はミニチュア品である。体部外面の器面調整は、382がタタキを用いるが、その他の鉢はナデ・ハケ調整を行っている。371の口縁端部は、器壁の厚みを減じて尖り気味で終わり、波状口縁を成す。また、379も波状口縁である。384～393は、ナデながら外側へ広げ、底部を成形する上げ底の鉢である。このうち波状口縁のものは387・388・393である。392は口縁端部に凹線状の浅い窪みがある。394～397は内湾して伸びる口縁部の鉢である。394～396は口縁端部付近に凹線状の窪みが確認できる。397は上げ底である。358・359の中形鉢には、体部が逆台形状の358と半球形の359がある。358の内底部には輪積み成形部分の粘土充填が行われておらず窪みとして残されている。356・357は、内湾する口縁部で、口縁端部は面を形成する。ともに体部外面にタタキを施し、体部と口縁部の境にはユビナデを施している。383の外面には、下位にハケ、中位にタタキ、上位にナデを、内面は縦方向のミガキを施している。378・379は内湾する口縁部で、端部は尖りぎみに丸く終わる。このうち379は波状口縁である。

360は、中形鉢Ａ$_2$を大きくした形状を持つ大形品である。波状口縁であり、体部外面に右上がりのタタキが施されている。361～364・366は、外反する口縁部をもつ大形鉢である。体部にはヘラミガキを多用する361・362・364・366、タタキとヘラミガキを併用する363がある。このうち364の体部外面は外面に左上がりのヘラミガキ、内面は縦方向のヘラミガキを密に施している。365は受け口状の口縁部を持つ大形鉢で、体部中位に逆「U」字状の把手が貼り付く。内外面には縦方向を基調とするヘラミガキが密に施され、口縁部の内面には指ナデが認められる。367は小形の台付鉢で、体部の内外面にはヘラミガキを施している。400～409は有孔鉢である。形態的には、小形鉢Ｂ$_1$の底部に穿孔を持ち、孔は全て焼成前に施している。401は波状口縁である。402の口縁端部は、キザミ目を施している。400・401・403・407・408の外面はタタキを施している。404・405の体部は内外面ともに指ナデが認められる。

高杯

高杯には、有稜高杯410～430と椀形高杯439～454があり、431～438は高杯脚部である。

有稜高杯には、421～423の高杯A_1、410～419の高杯A_2、420・424～430の高杯A_3がある。

421～423は杯部の体部高が口縁部高を凌駕したもので口縁部が外反するものである。脚部は中空で円筒状の長い脚部を持つ。スカシ孔は４個穿たれている。410～419は、杯部の口縁高と体部高がほぼ等しく口縁部が外反するもので、脚部は中空で円筒状の長い脚部を持つ。スカシ孔は４個穿たれている。器面調整のうち外面では、杯体部から裾部にかけて縦位のヘラミガキを行う共通した調整方法が用いられている。杯口縁部の外面のヘラミガキは、縦位に密に施す412・415・419と横位に施す411・413・416がある。410・414は波状文を施す。杯部の内面は、放射状ヘラミガキである点は共通しているが、口縁部のヘラミガキ調整は縦位のもの418、横位のもの410～413・416・419がある。423の裾端部にはキザミ目を施している。420・424～430は、杯部の口縁高が体部高を凌駕したもので、口縁部の外反度は強い。脚部は427・428が中実で、それ以外は中空の長い脚部を持ちスカシ孔は４個穿たれている。426・427の裾端部にはキザミ目を施している。

椀形高杯には、450～454の椀形高杯A_1、439・440の椀形高杯A_2、441～444の椀形高杯$B_1$４点、445～449の椀形高杯B_2がある。

450～454は浅い椀形の杯部に屈曲して開く脚部が付くものである。脚部は中空で、杯部との接合部は円盤充填による。452を除き体部内外面に放射状に丁寧なヘラミガキが行われている。451の脚部には上位に３条、下位に４条の沈線文を施している。439・440は椀形の杯体部から口縁部が外折ないしは外反するものである。439は口縁端面に擬凹線を施すもので、京都府や兵庫県の中・北部の丹後・丹波地域に類例が認められるいわゆる北近畿系の土器である。しかし、本例は角閃石を含むため生駒西麓産と推定される。440は内外面ともにヘラミガキを密に施している。441～444は小形の高杯で、脚部が中実の442・443と中空の441・444がある。445～449は中空の脚部をもつ高杯である。445・448・449の外面はヘラミガキ、446・447はハケを施している。

431～438は高杯の脚部である。全て中空で円錐状の脚部を有するもので、裾部が下方で小さく屈折して開く432・434の他は、柱状部から大きく開くものである。

器台

455・456は器台Ａである。455は脚から口縁部で、端面に円形竹管を押した円形浮文を貼り付ける。また、口縁部と端面の外面には、部分的に赤色顔料が塗布されている。456は円形のスカシ孔が３方向に開いている。457は段を有する器台Ｂで、裾部の端部と屈曲する部分にキザミ目を施している。裾部には円形のスカシ孔が開いている。

蓋

458～460は傘形を呈する蓋Ａである。３点ともにつまみ部分は窪む。458には２個一対の穿孔が認められる。

手焙り形土器

461～463は手焙り形土器で、受口状口縁の鉢に覆部が付く。底部の形状には、突出する平底461・462と尖りぎみの平底463がある。461・462の体部中位に貼り付く突帯にはキザミ目を施している。461の体部外面上位には横方向のタタキの後左上がりのハケを施している。462の体部外面上位と覆部にはヘラミガキを施している。463は、ほぼ全面にハケを丁寧に施している。

遺物実測図の縮尺　S＝1/10
数字は本文に掲載した遺物番号

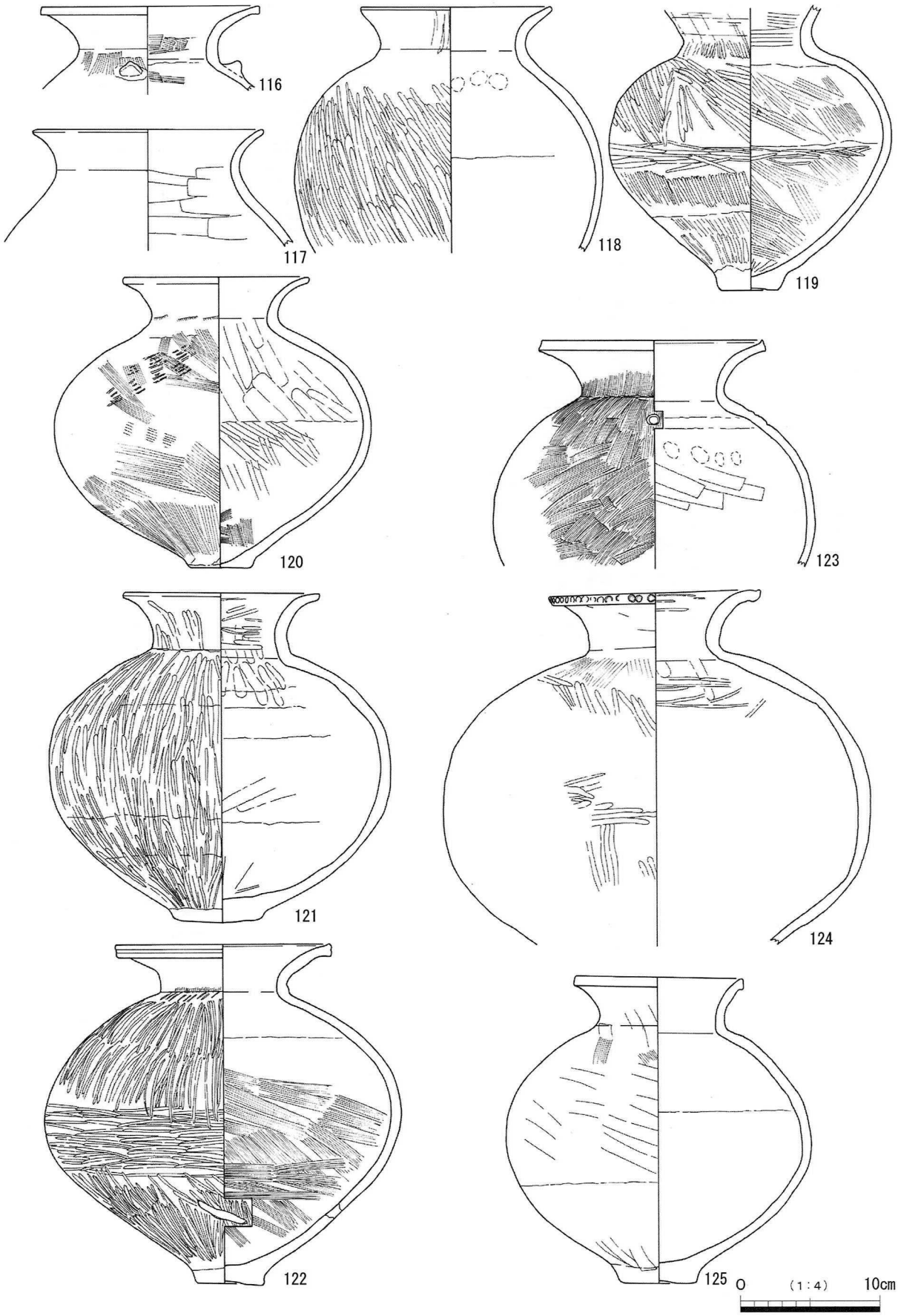
0　(1:50)　1m

第30図　A区SD301下層出土遺物位置図(北部)

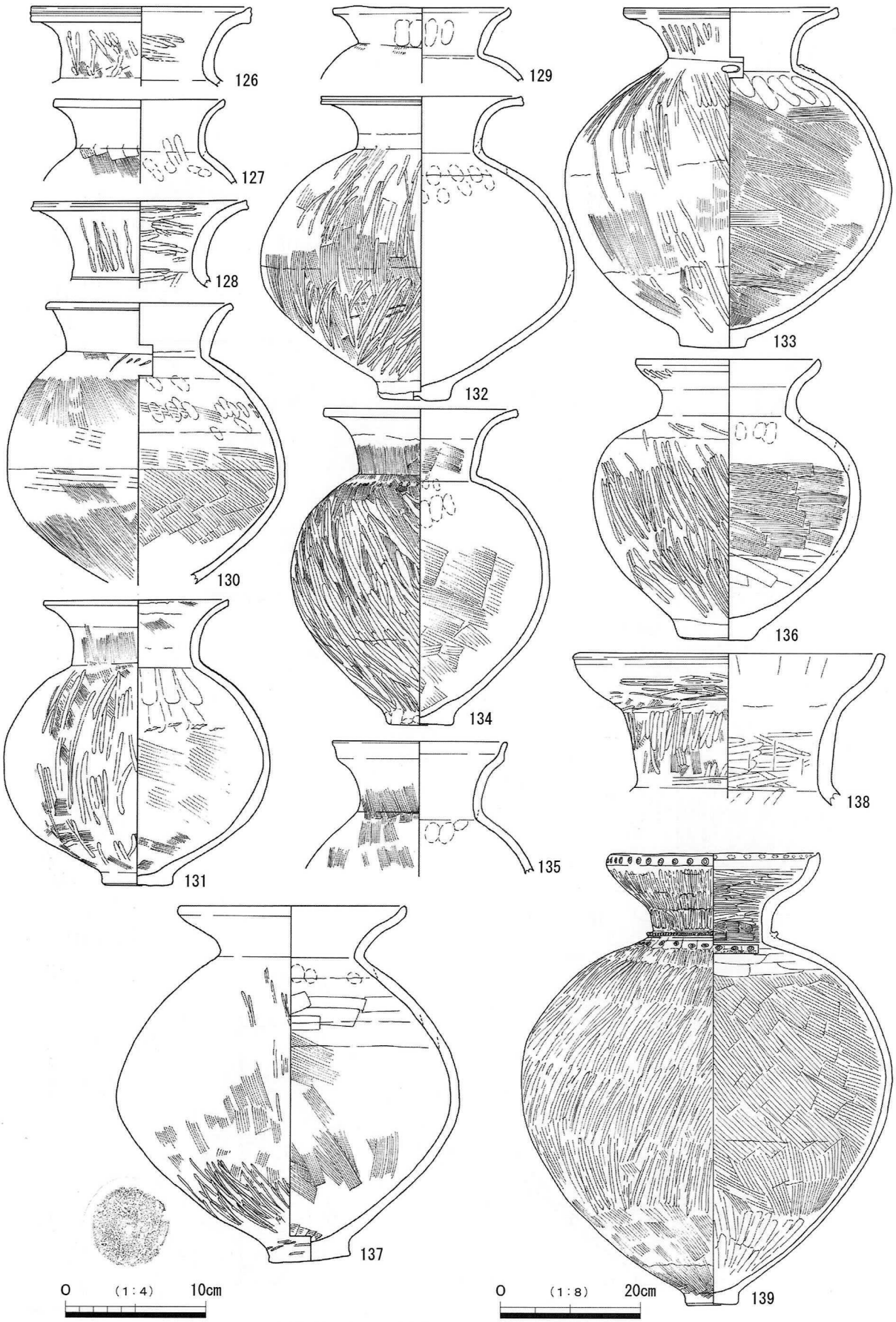
遺物実測図の縮尺　S＝1/10
数字は本文に掲載した遺物番号

0　(1:50)　1m

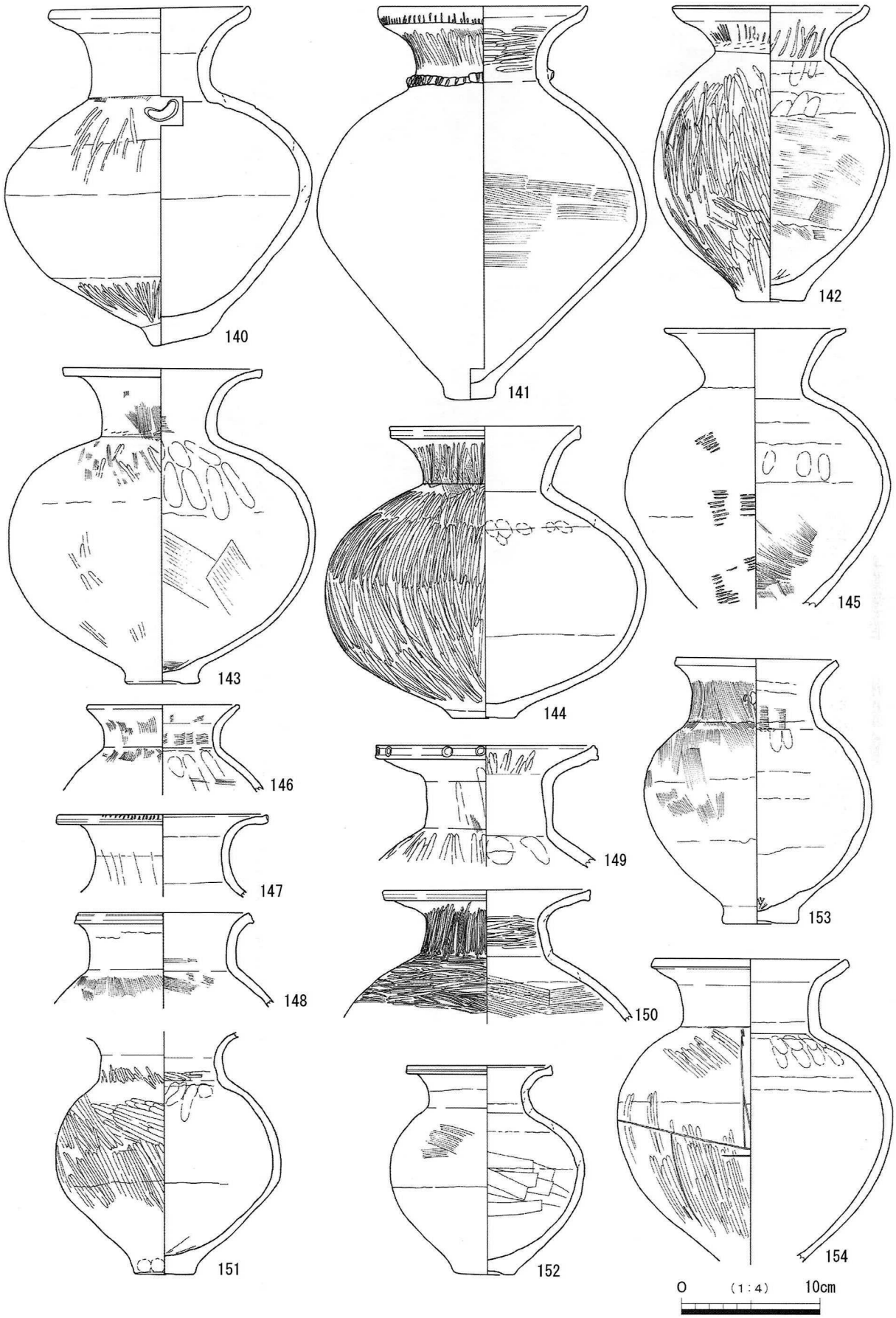
第31図　A区SD301下層出土遺物位置図(南部)



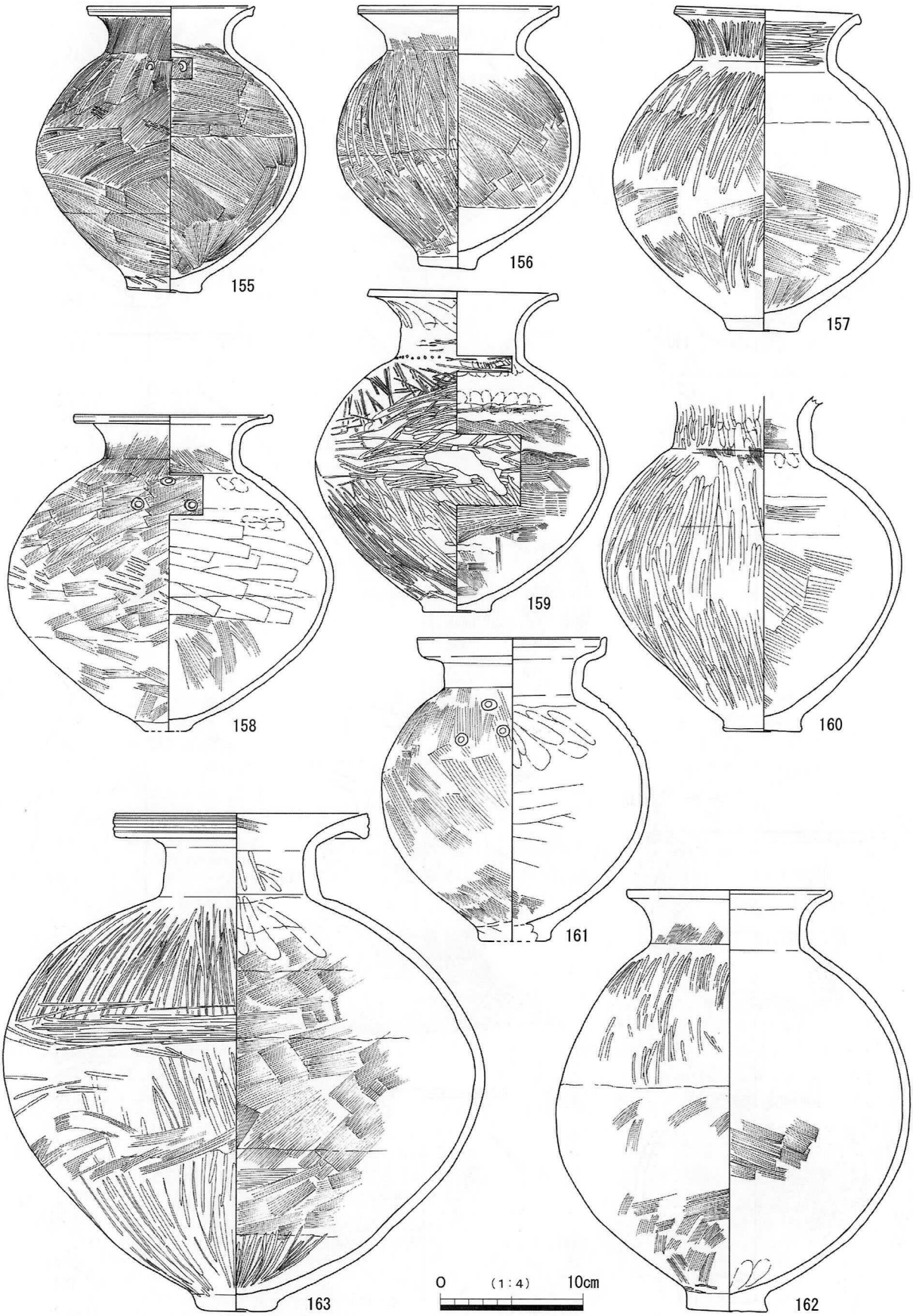
第32図　A区SD301下層出土遺物実測図-1



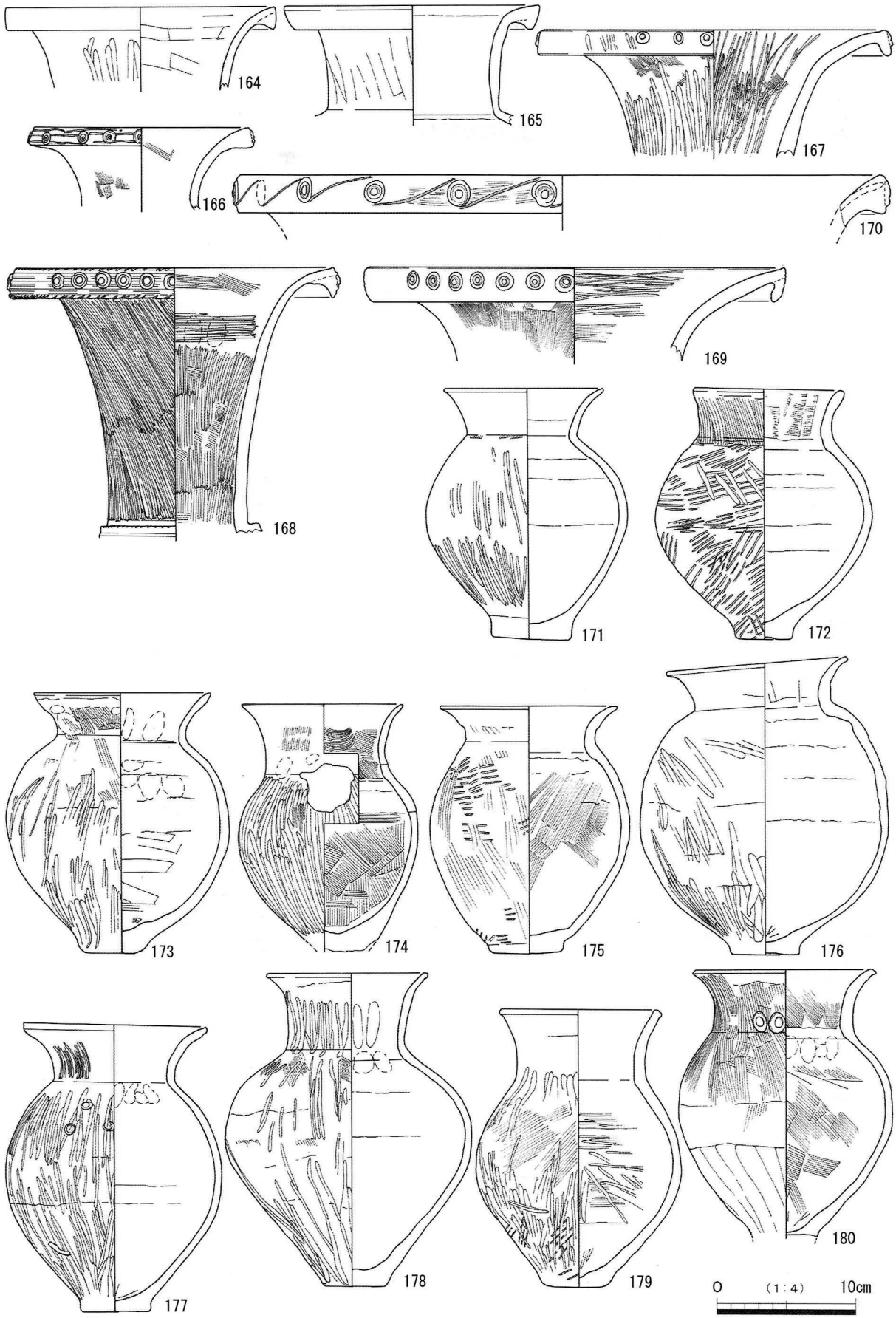
第 33 図　A区ＳＤ301 下層出土遺物実測図−２



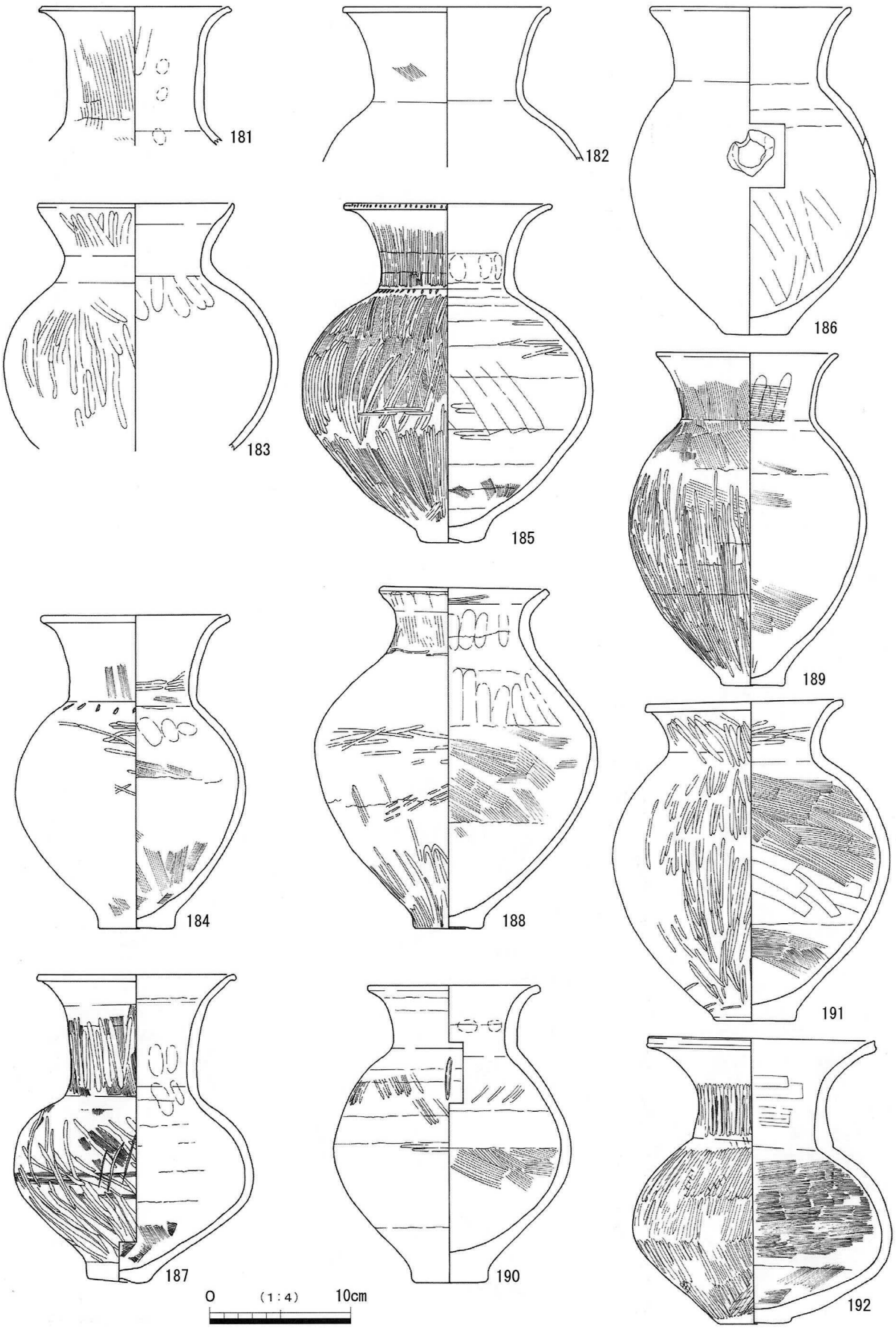
第 34 図　A区ＳＤ301 下層出土遺物実測図-３



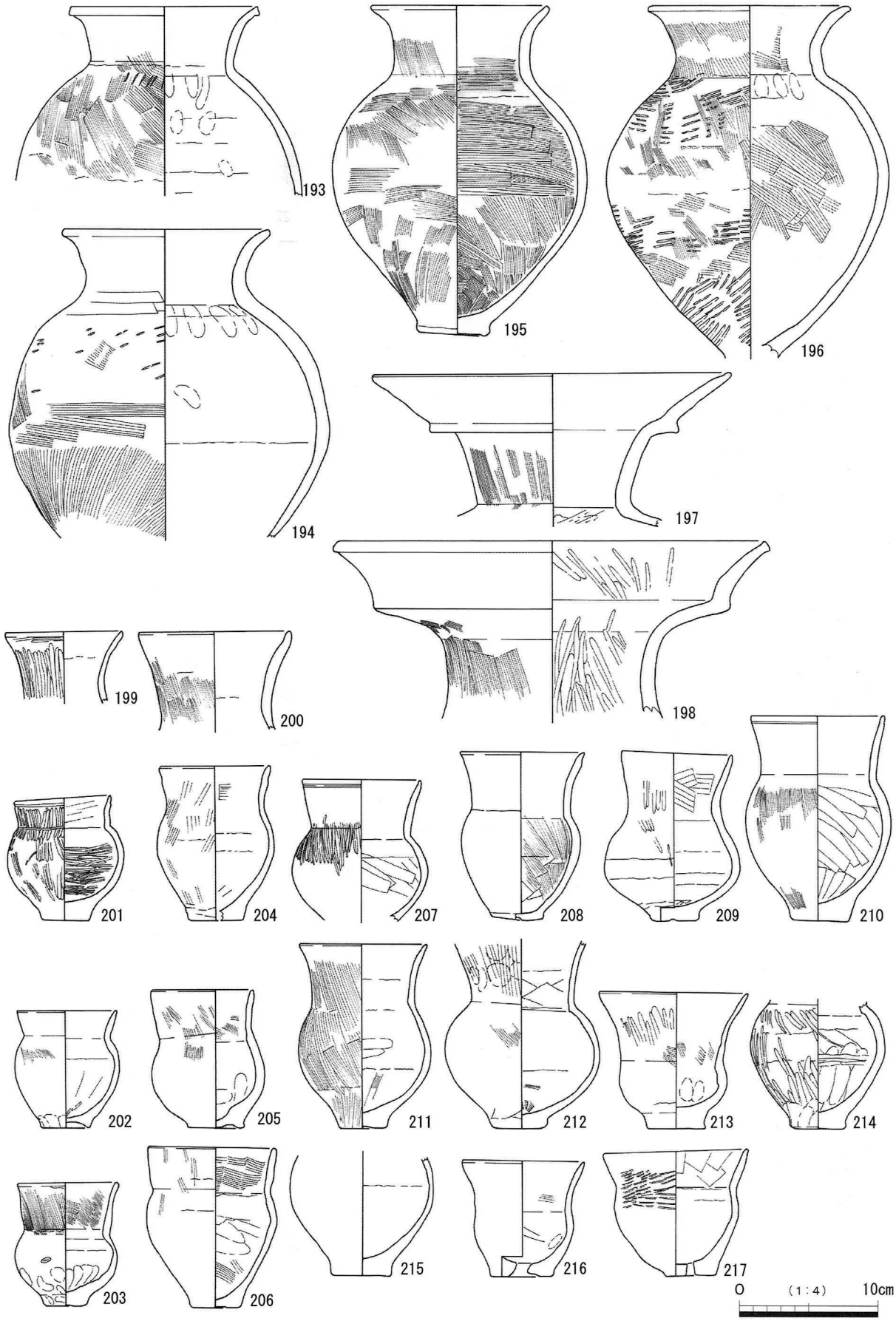
第35図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-4



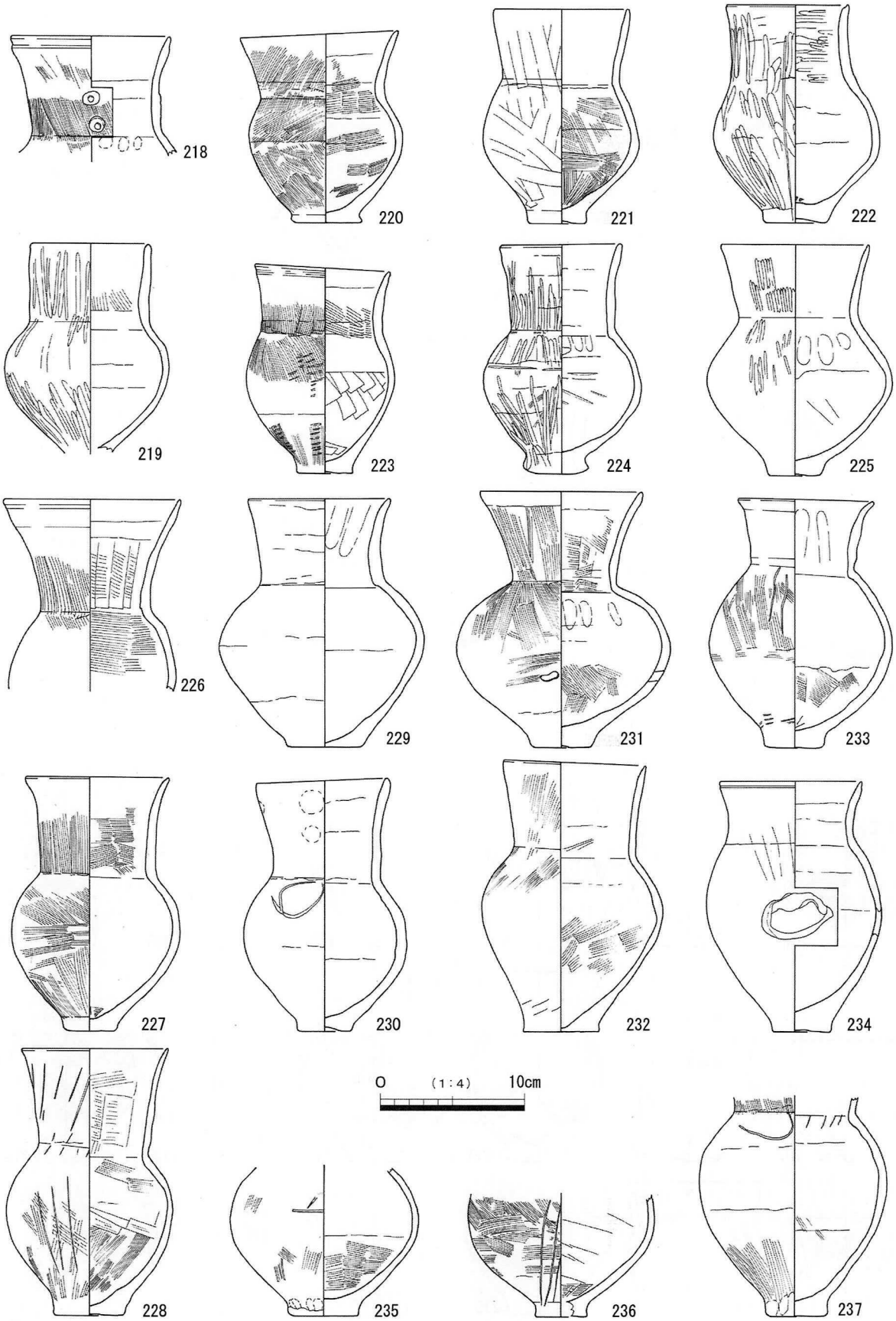
第 36 図　A区ＳＤ301 下層出土遺物実測図-５



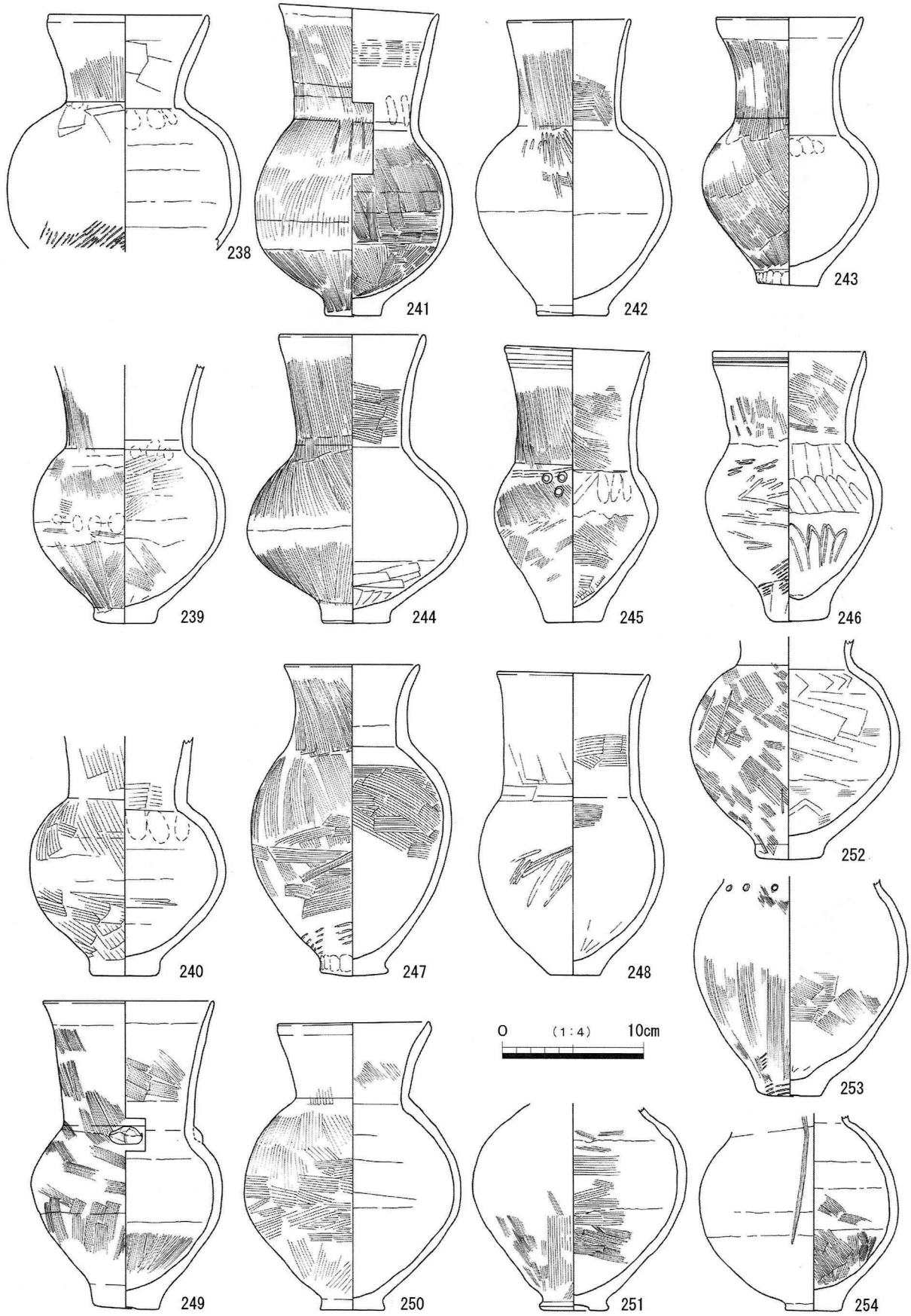
第37図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-6



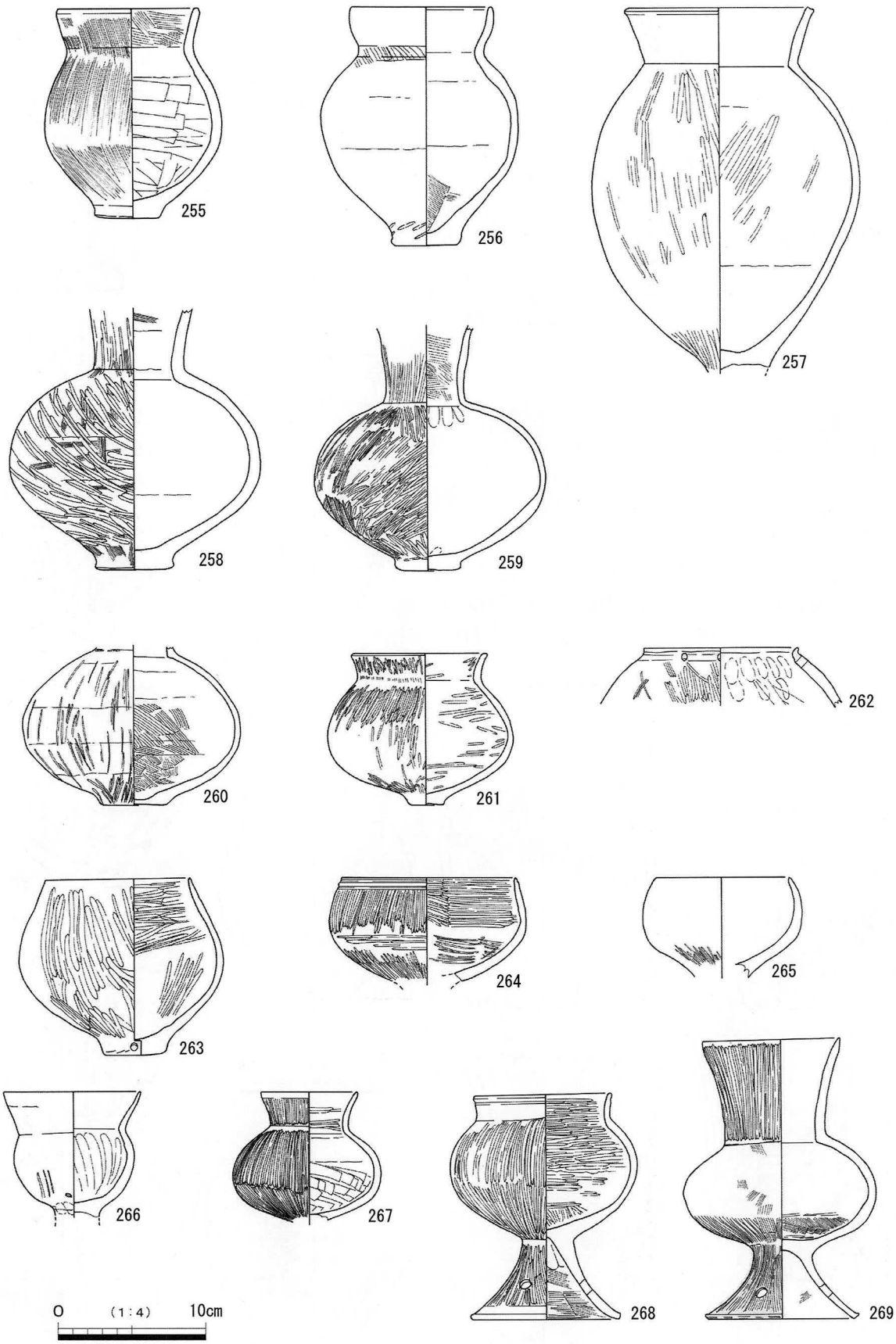
第 38 図　A区ＳＤ301 下層出土遺物実測図-7



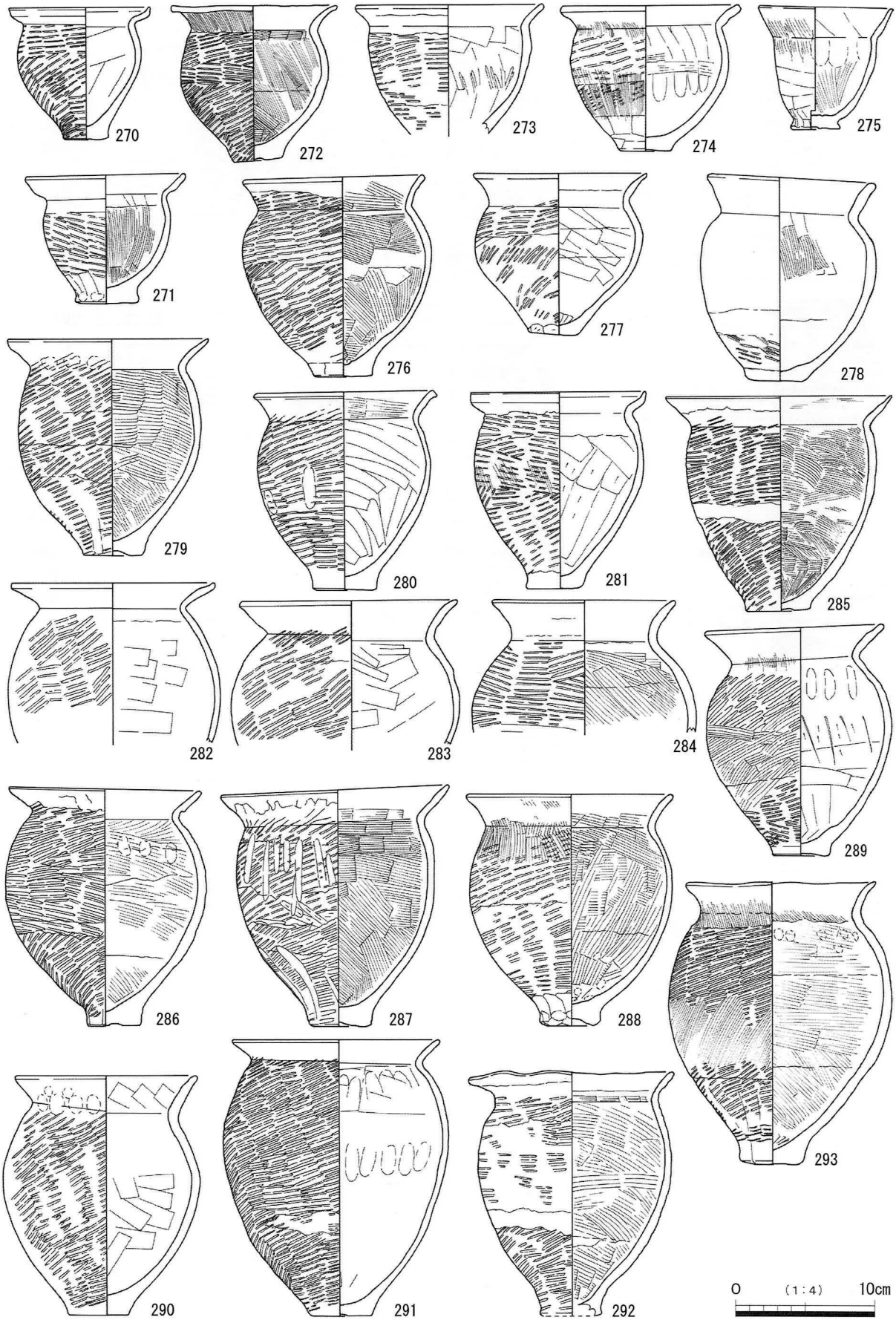
第 39 図　A区ＳＤ301 下層出土遺物実測図−８



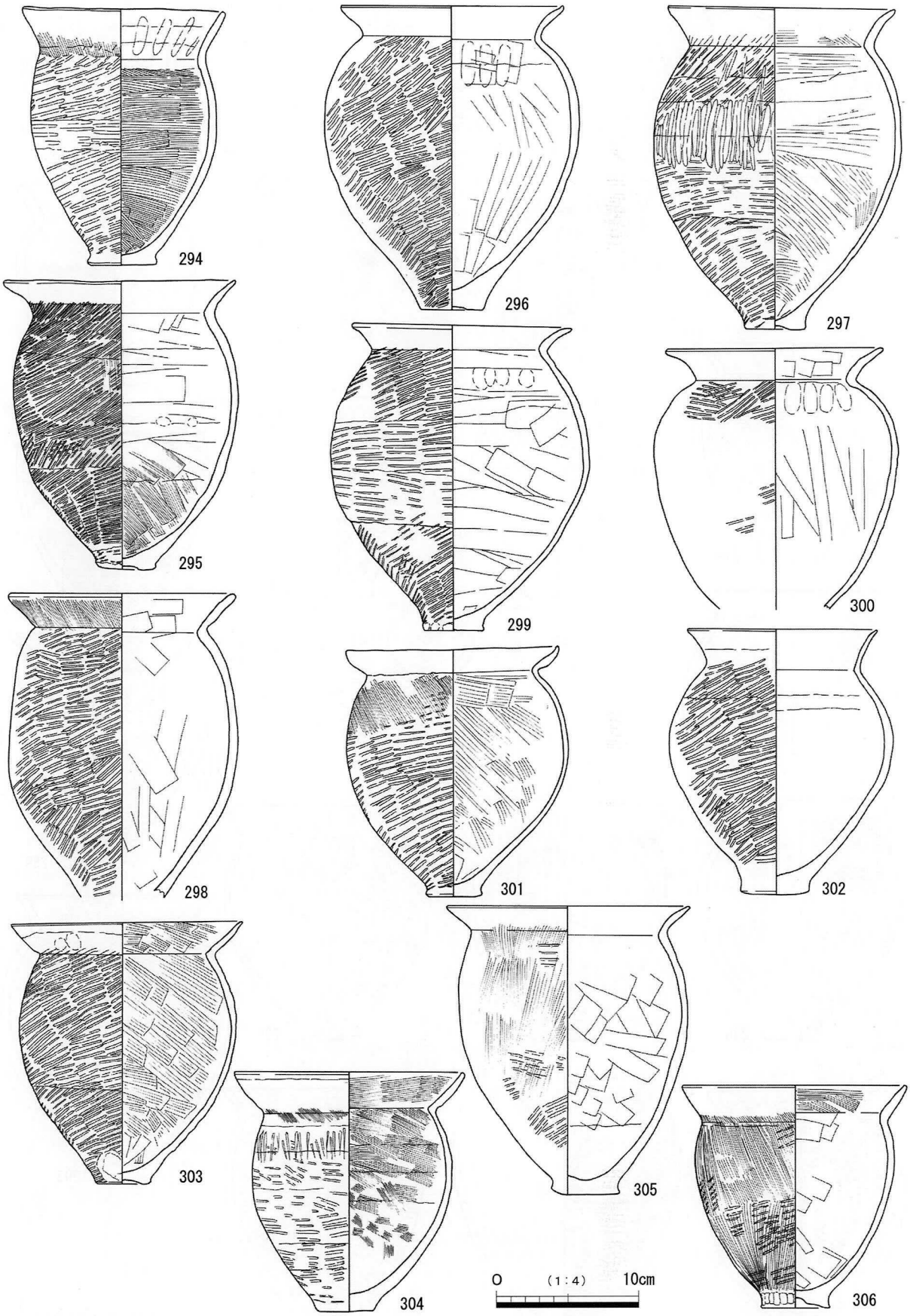
第 40 図　A区ＳＤ301 下層出土遺物実測図−９



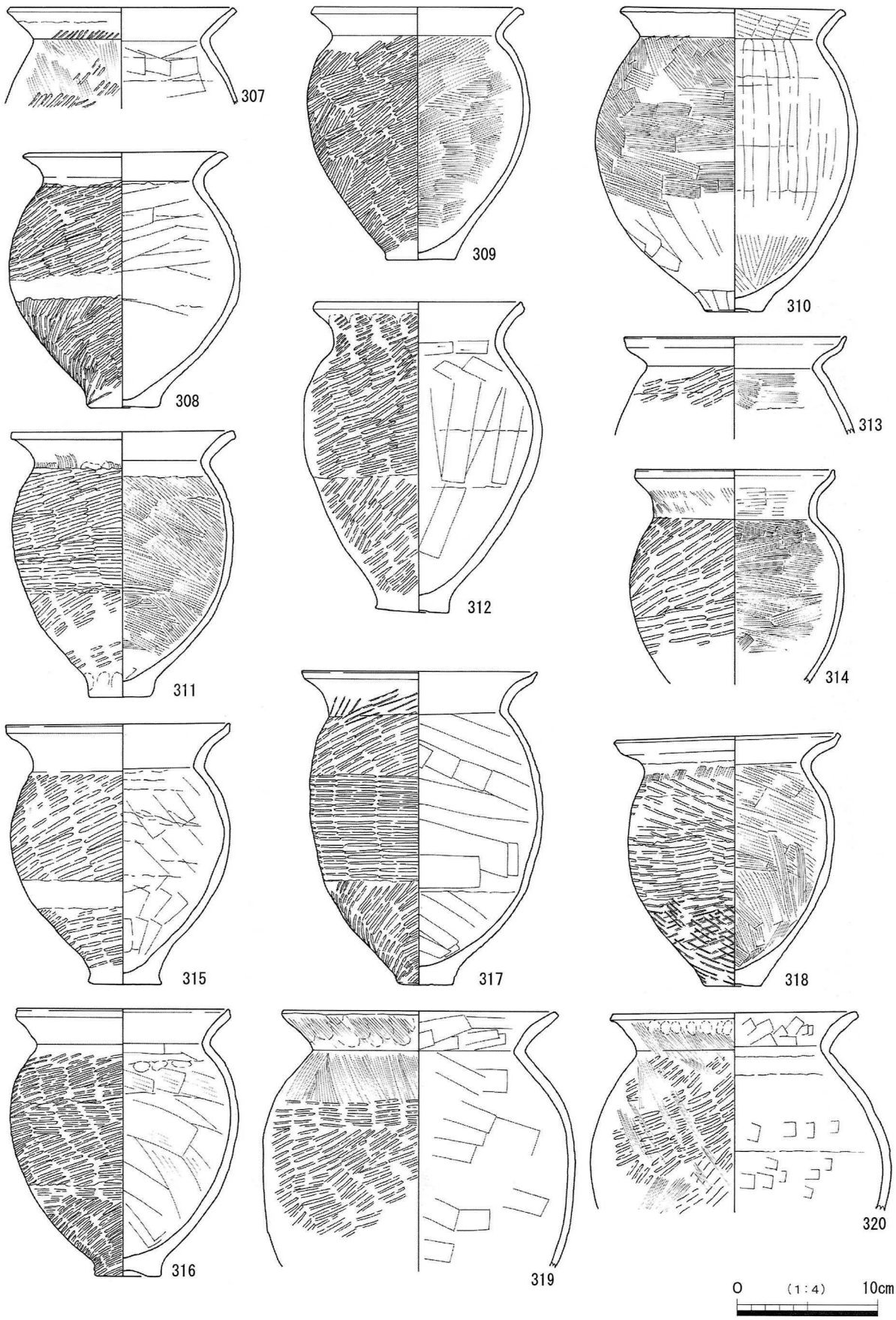
第 41 図　A区ＳＤ301 下層出土遺物実測図-10



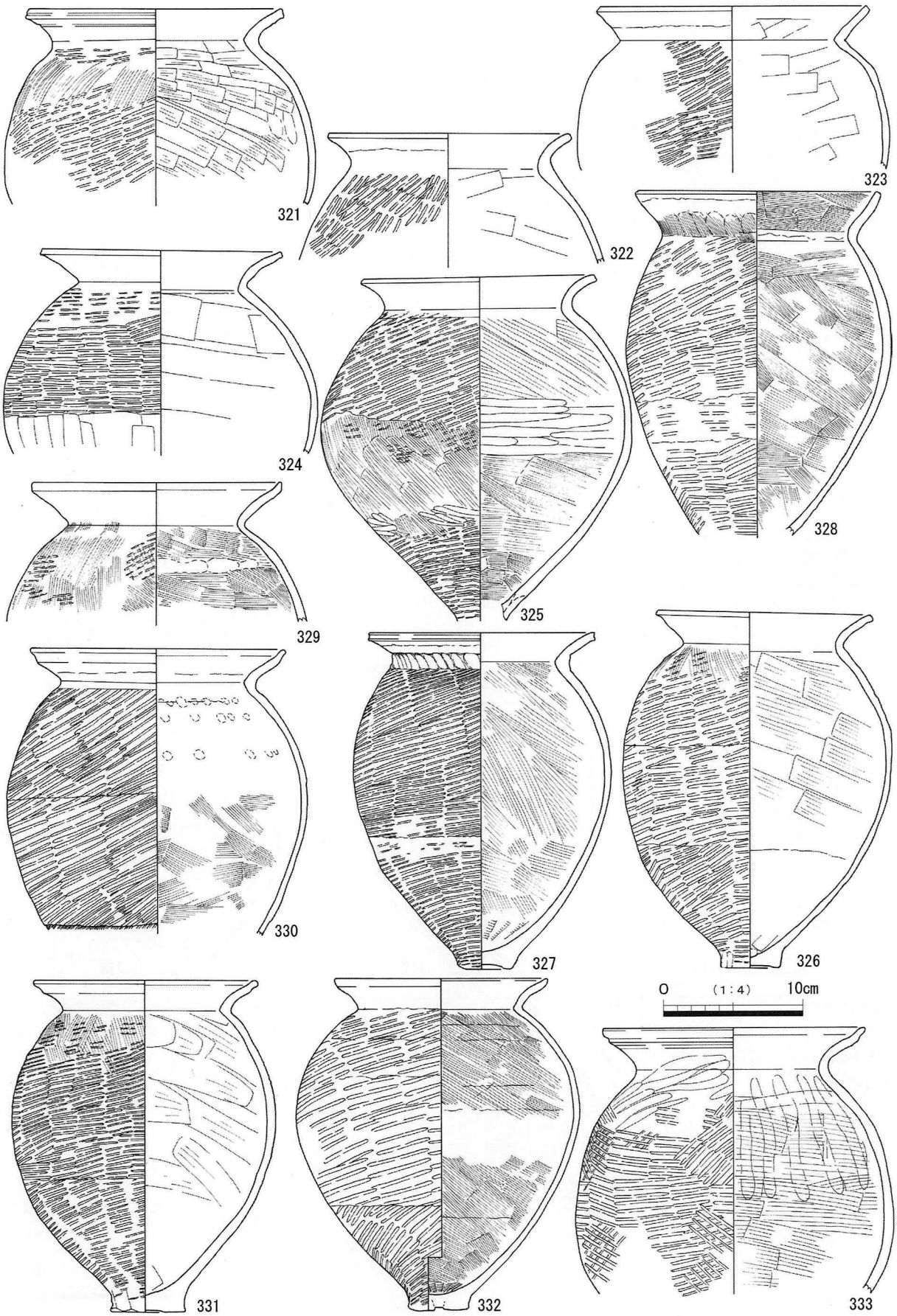
第 42 図　A区ＳＤ301 下層出土遺物実測図-11



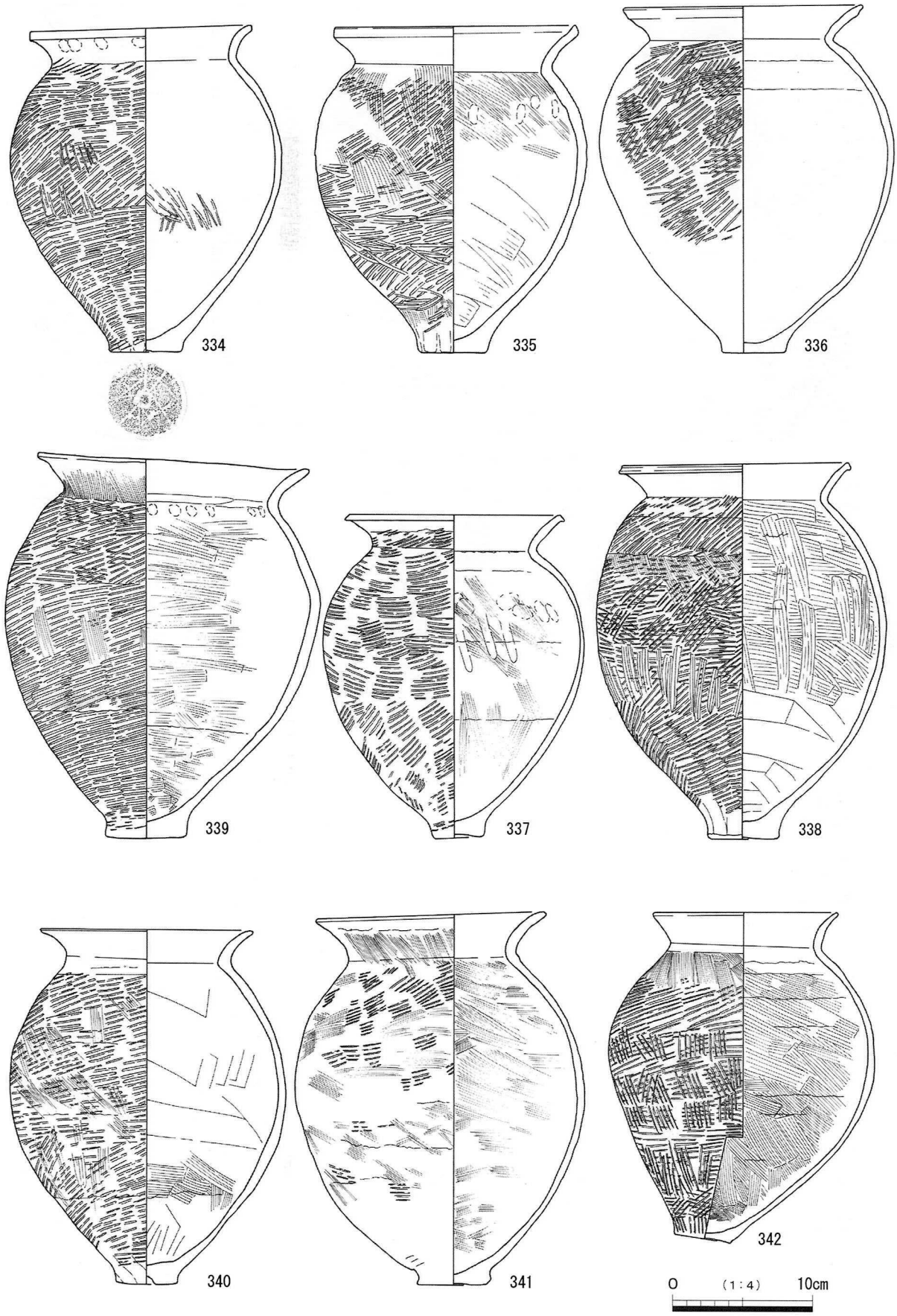
第 43 図　A区ＳＤ301 下層出土遺物実測図-12



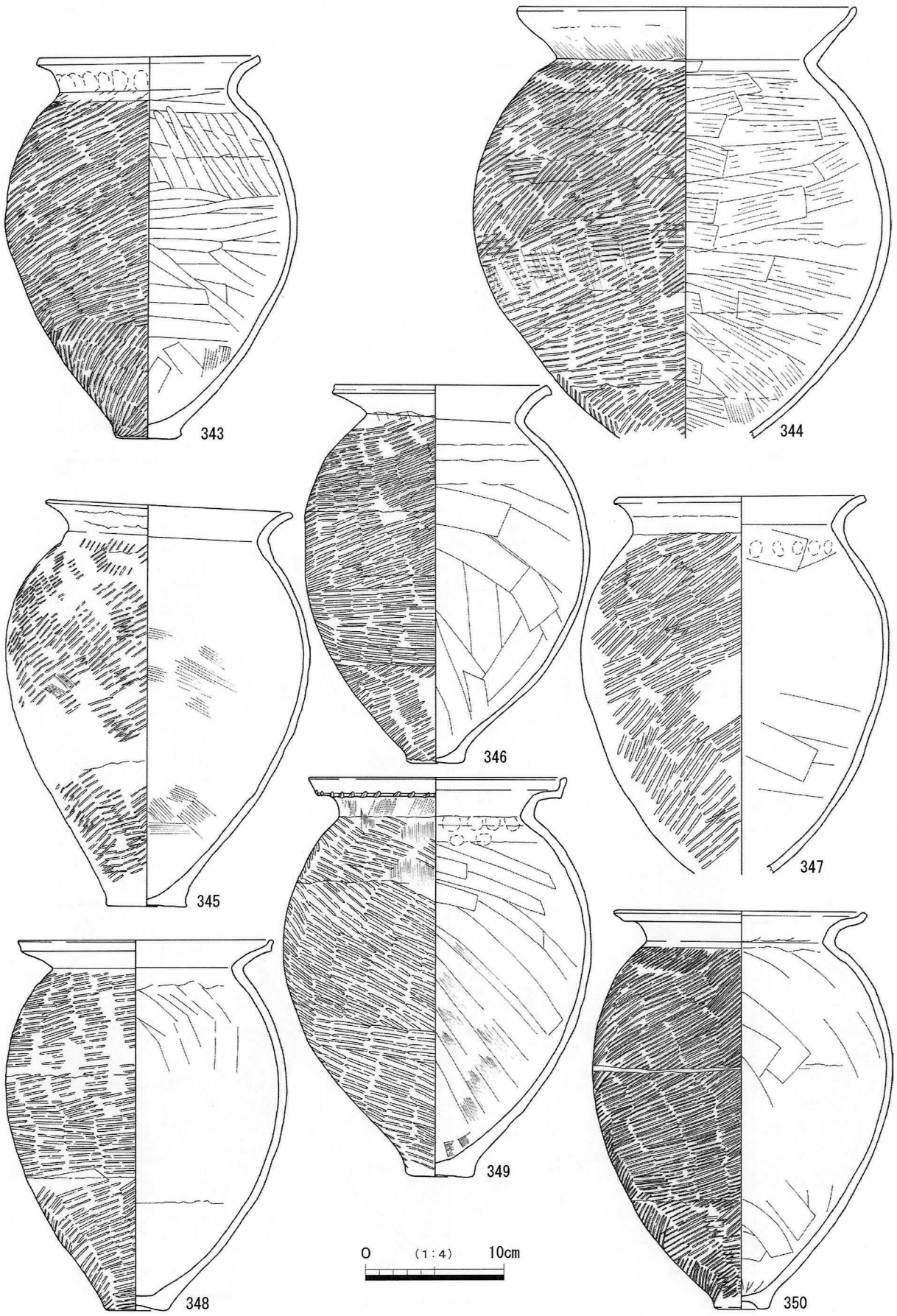
第44図　A区SD301下層出土遺物実測図-13



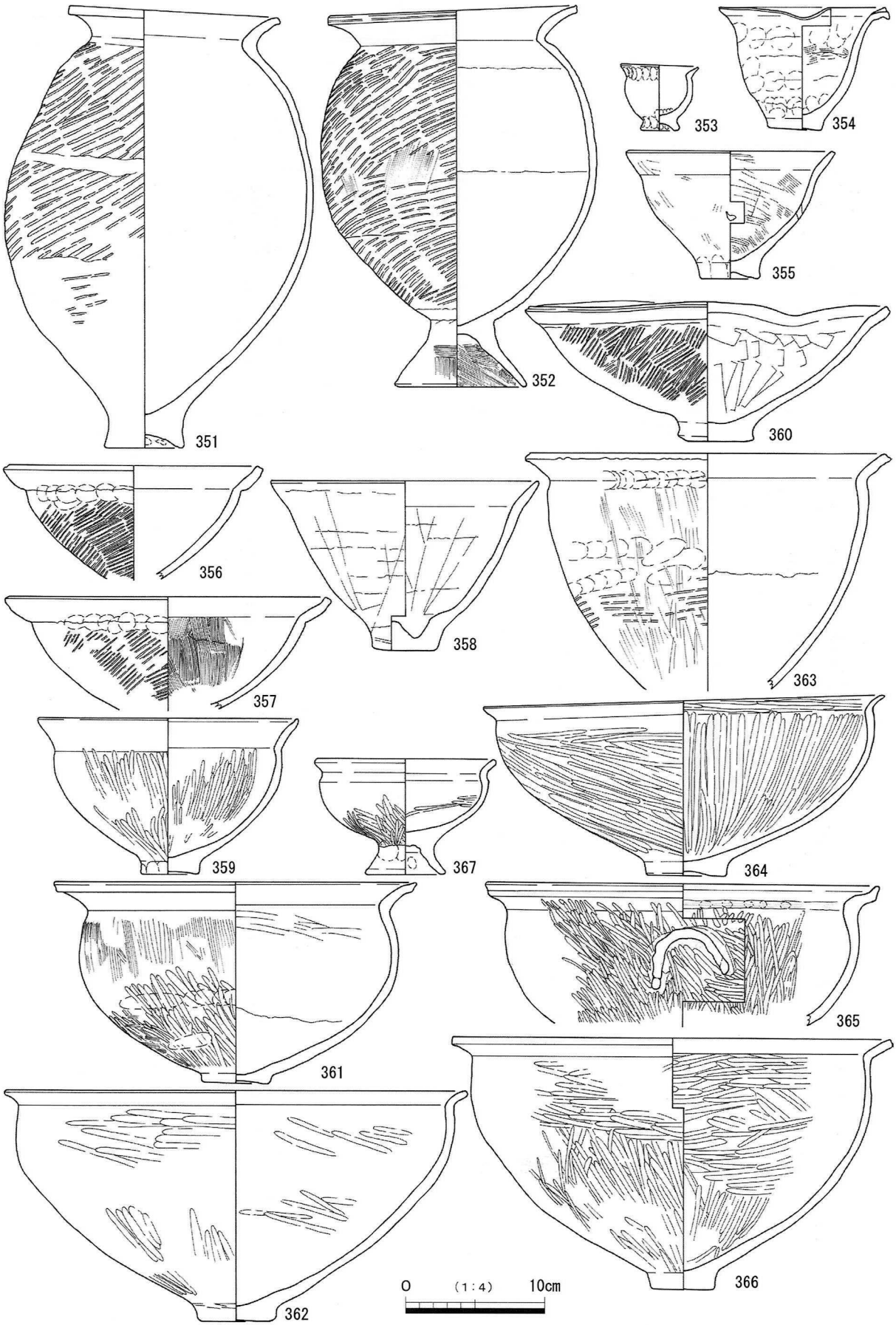
第 45 図　A区ＳＤ301 下層出土遺物実測図-14



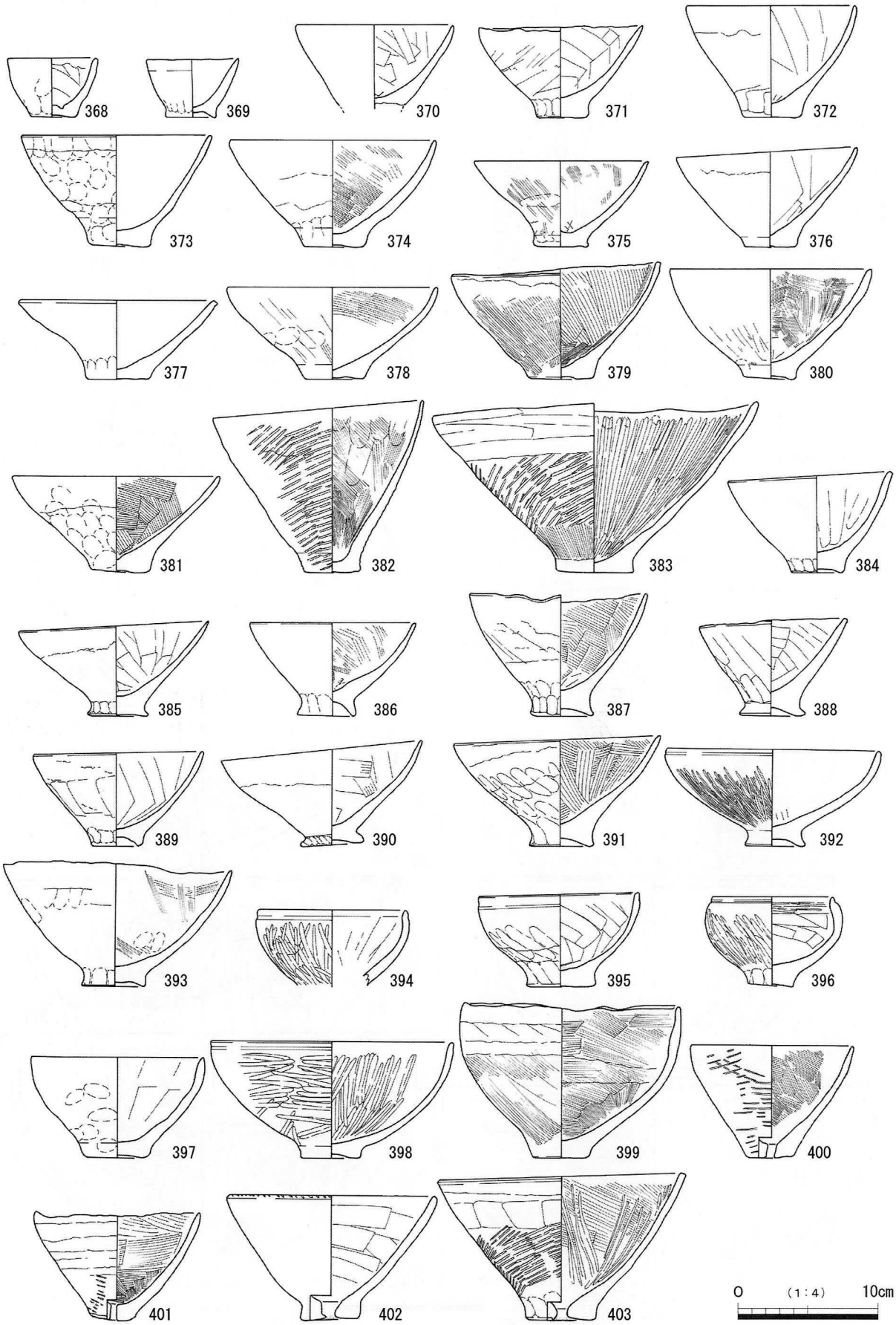
第 46 図　A区ＳＤ301 下層出土遺物実測図-15



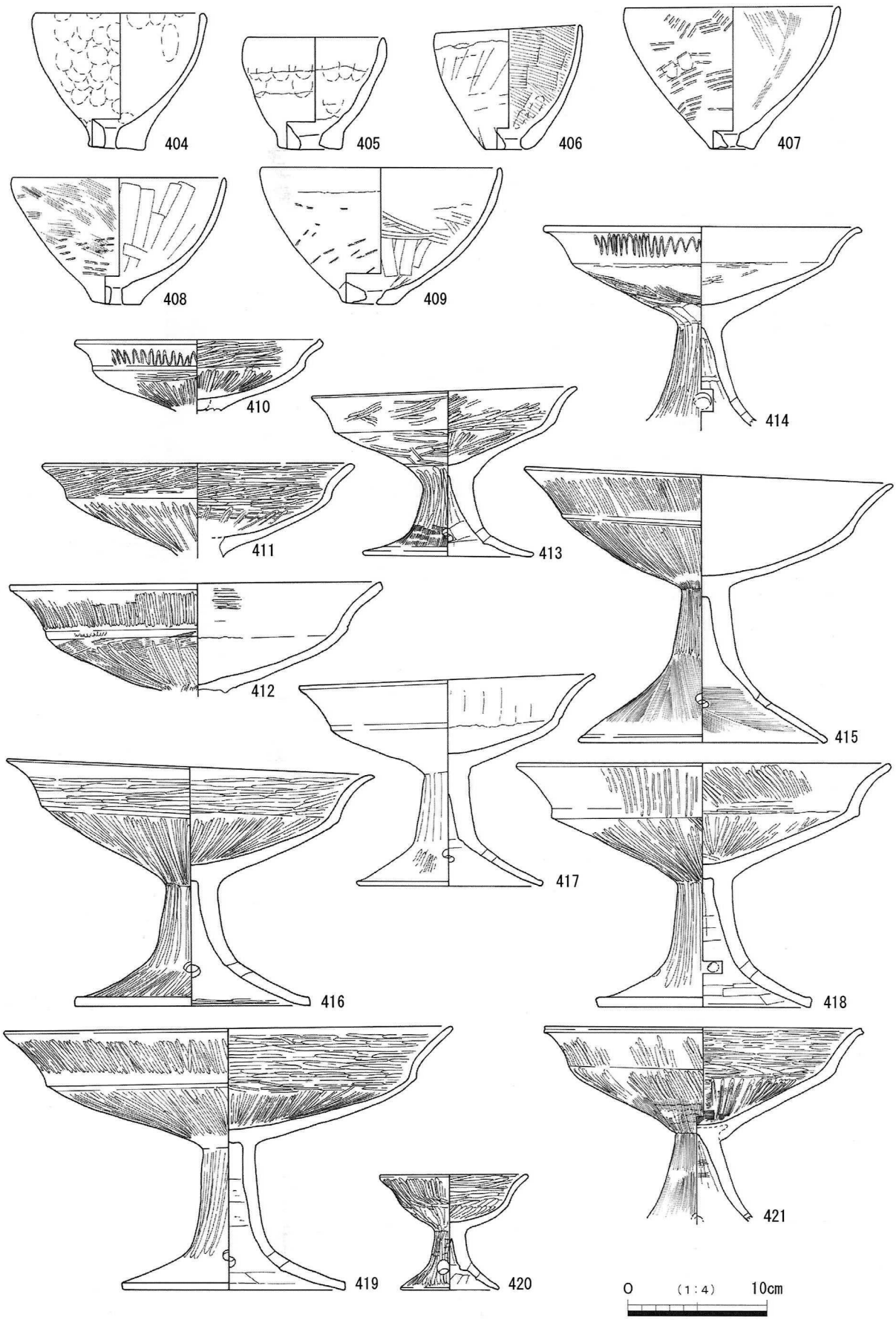
第47図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-16



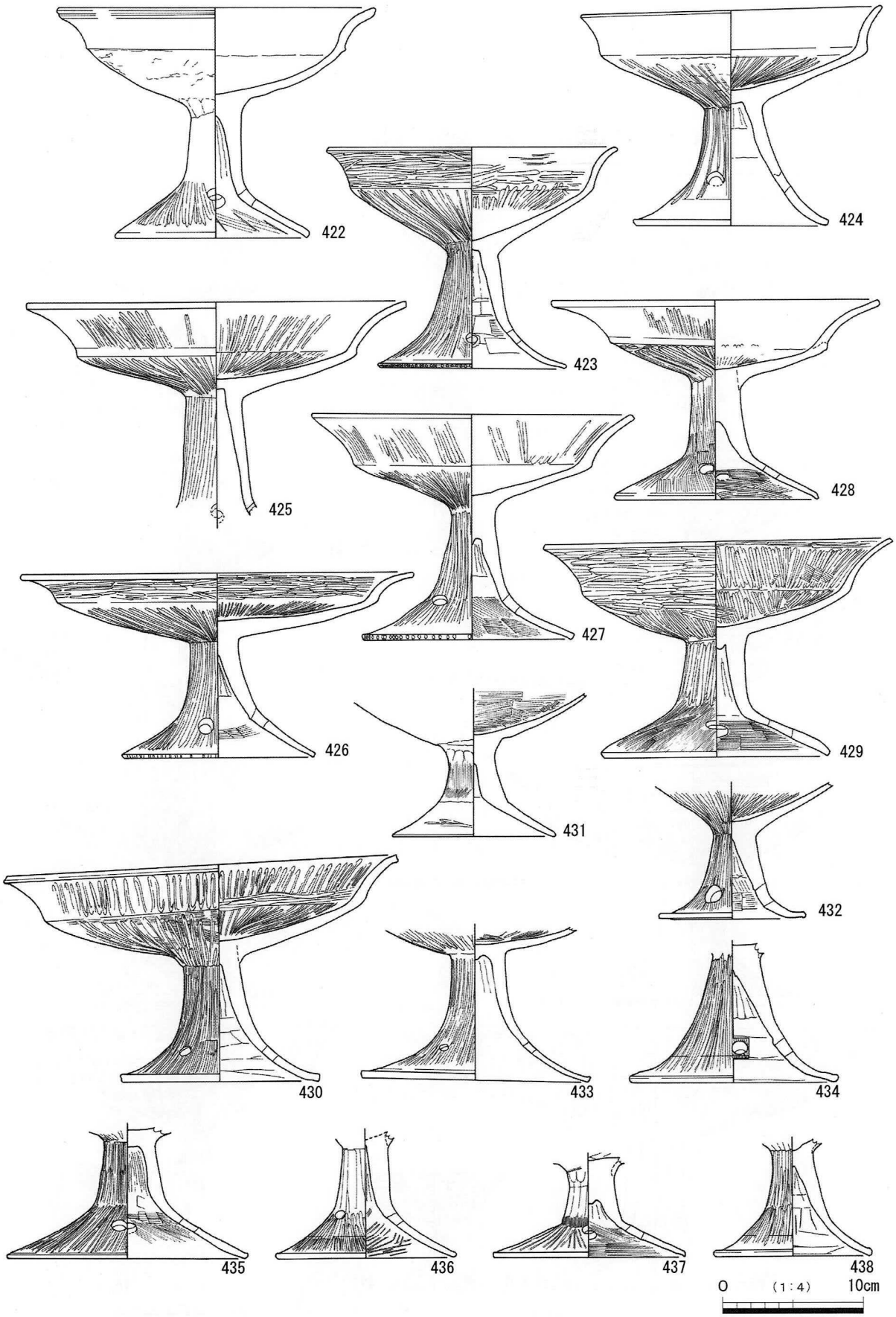
第 48 図　A区ＳＤ301 下層出土遺物実測図-17



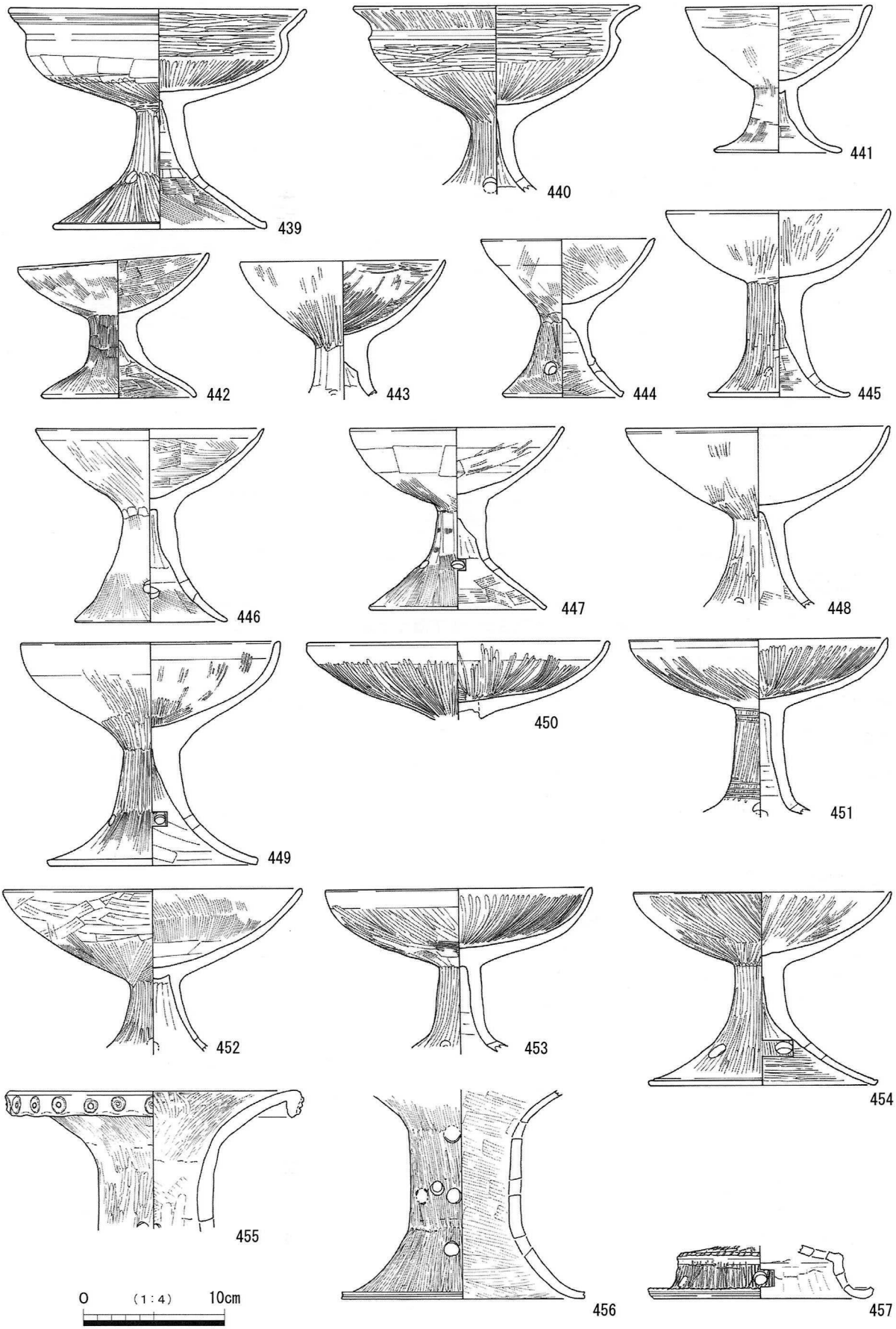
第 49 図　A区ＳＤ301 下層出土遺物実測図-18



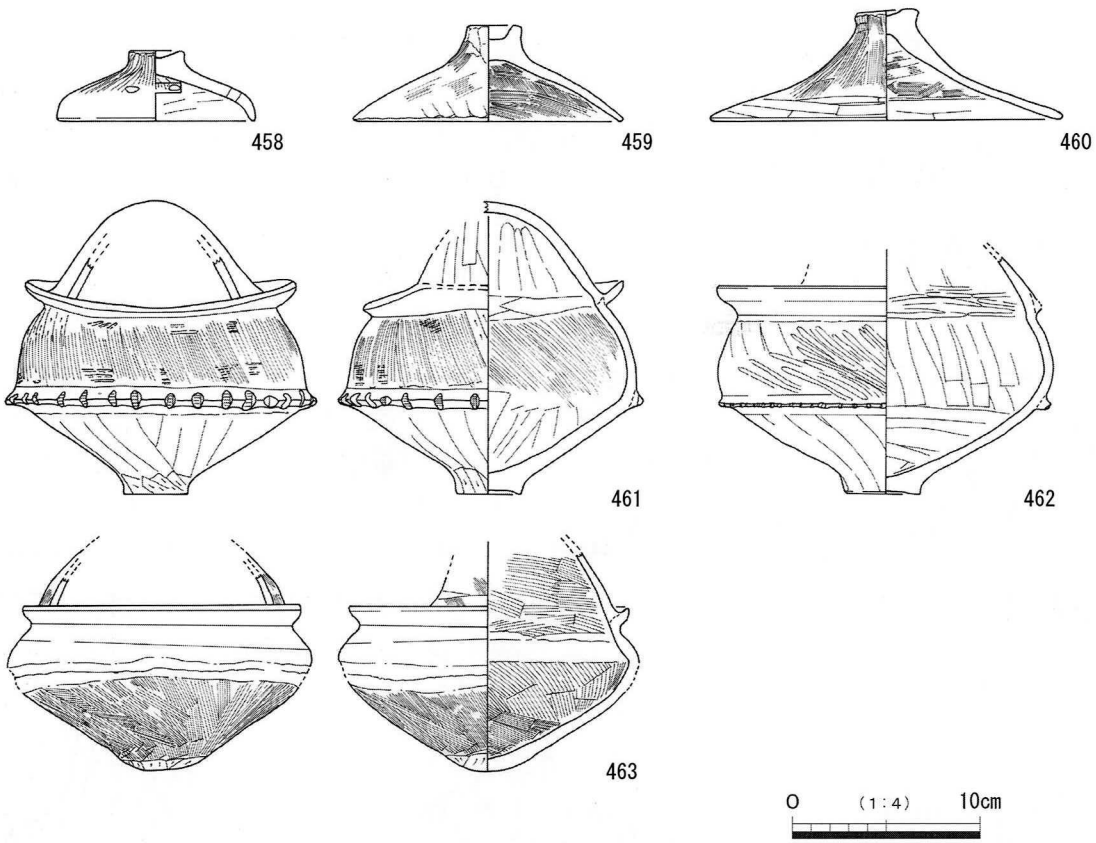
第 50 図　A区ＳＤ301 下層出土遺物実測図-19



第 51 図　A区ＳＤ301 下層出土遺物実測図-20

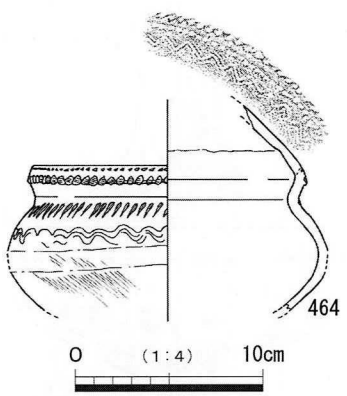


第 52 図　A区ＳＤ301 下層出土遺物実測図-21



第53図　A区ＳＤ301下層出土遺物実測図-22

464は、Ｂ区ＳＤ301から出土した。受口状口縁の鉢の口縁端部上に覆部を付ける。覆部の外面には波状文を、体部の外面には刺突文、キザミ目、波状文を施す。体部最大径の位置には突帯が付いていたが、剥がれ落ち欠損している。覆部および体部の内面はナデを施し、覆部には粘土接合の痕跡が確認できる。施文は近江系の影響を受けていると考える。



第54図　Ｂ区ＳＤ301出土遺物実測図

ＳＤ302

Ｂ区の３Ａ地区で検出した。検出長 10.55m、最大幅 4.0m、深さ 0.85mを測る。断面形状は半球形で、埋土はシルト混粘土を主体とする５層が堆積している。遺物は弥生時代中期後半(河内Ⅳ－１～２様式)に比定される弥生土器が出土した。16点(465～470・472・473・475～480・482・483)を図化した。465～467は中期後半の壺である。465の体部の最大径は下方にある。口縁部と頸部に簾状文を施す。466は口縁部の端面に簾状文を、頸部の外面に直線文を施す。467は、口縁部の内面に円形浮文を貼り付ける。端面には簾状文とキザミ目を施す。468～470は有段口縁壺で、468・470には簾状文と刺突文を、469には列点文、扇形文、簾状文を施す。472・475・476は甕である。「く」の字に外反する口縁部で、475・476の端部は面を形成する。473は鉢で、口縁部の端面と体部の外面に簾状文を施す。477～479は壺あるいは甕の底部である。477・479は外面に縦方向の、478は横方向のヘラミガキを施す。480は大形の鉢で、口縁端部は面を形成する。口縁部の端面と体部の外面に簾状文と列点文を施す。482は高杯の脚部から裾部である。483は鉢の脚台部で、外面には竹管文を施す。

ＳＤ303

Ｂ区の２ＡＢ地区で検出した。南北方向に伸びるもので、北端は調査区外に至る。検出長 3.74ｍ、幅 0.79ｍ、深さ 0.18ｍを測る。埋土は上から灰色細砂混粘土、灰色シルト混粘質土で、弥生時代中期後半(河内Ⅳ－１～２様式)に比定される弥生土器が出土した。３点(**471・474・484**)を図化した。**471** は甕で、口縁部はゆるやかに外反する。**474** は鉢で、口縁部の端面と体部の外面に簾状文を施す。**484** は鉢の脚台部で、外面に竹管文を施す。

ＳＤ304

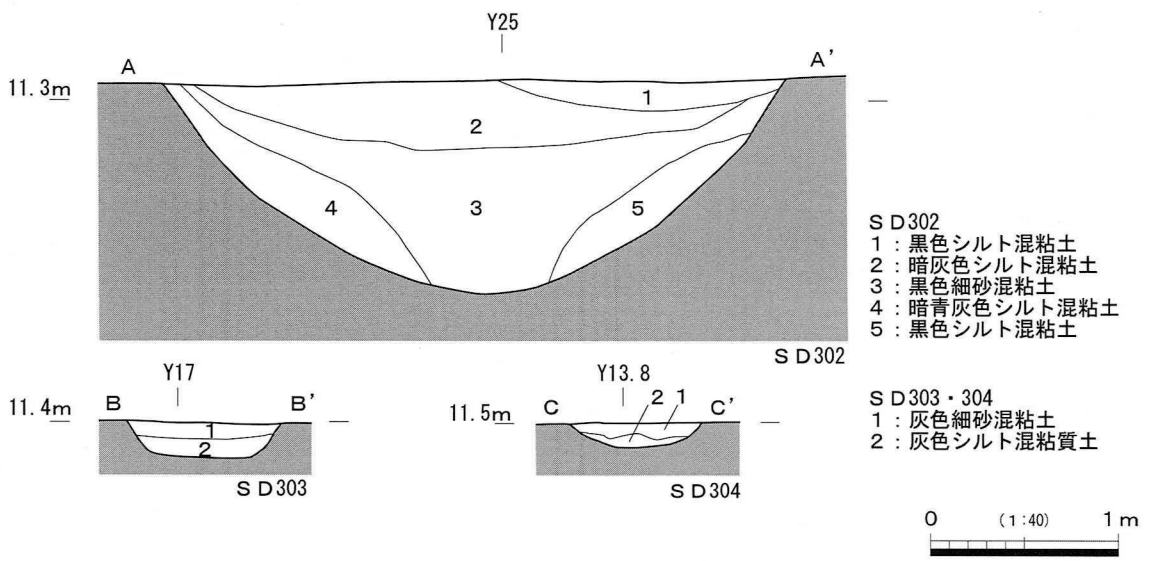
Ｂ区の２Ａ地区で検出した。北西～南東に伸びる溝である。全長 4.08ｍ、幅 0.8ｍ、深さ 0.14ｍを測る。埋土は上から灰色細砂混粘土、灰色シルト混粘質土で、弥生時代中期後半(河内Ⅳ－１～２様式)に比定される弥生土器が出土した。１点(**481**)を図化した。**481** は大形の鉢で、口縁端部は面を形成する。口縁部の端面と体部の外面に簾状文と列点文を施す。

小穴(ＳＰ)

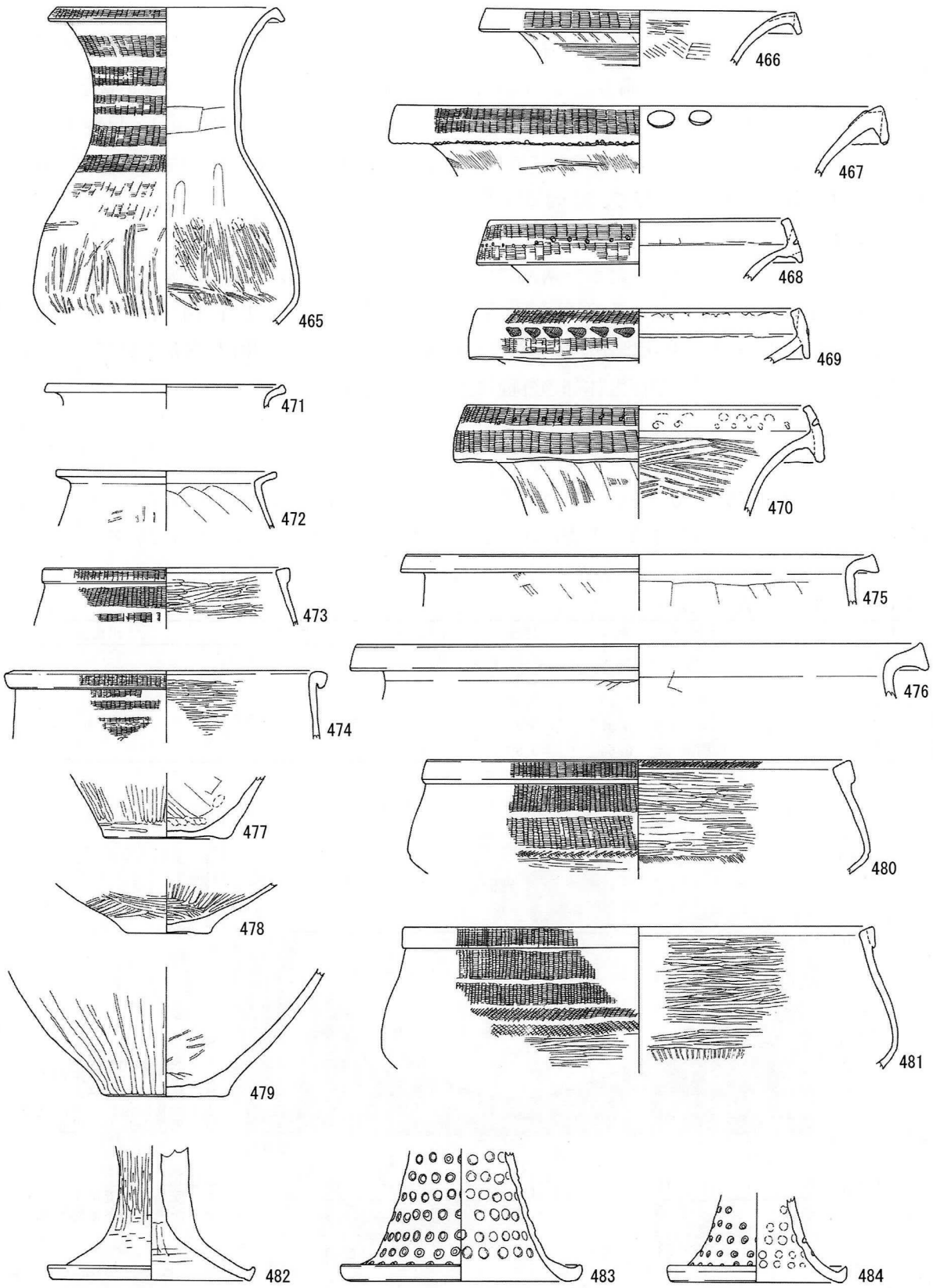
総数で５個(**ＳＰ301～305**)を検出した。その内訳はＢ区で４個(**ＳＰ301～304**)、Ｃ区で１個(**ＳＰ305**)である。Ｂ区については、調査区北西部で４個が密集した形で検出されている。

第４表　第３面　小穴法量表(ｍ)

遺構名	地区	平面形状	長径	短径	深さ	埋土	出土遺物
ＳＰ 301	４ＡＢ	円形	0.43	0.40	0.16	灰茶色細粒混粘土	なし
ＳＰ 302	４Ｂ	〃	0.48	0.44	0.15	〃	〃
ＳＰ 303	〃	〃	0.39	0.36	0.21	〃	〃
ＳＰ 304	〃	〃	0.37	0.31	0.18	〃	〃
ＳＰ 305	１Ｇ	楕円形	0.54	0.39	0.10	茶灰色シルト	〃



第 55 図　Ｂ区ＳＤ302～304 断面図



SD302：465～470・472・473・475～480・482・483
SD303：471・474・484
SD304：481

0 (1:4) 10cm

第56図　SD302～304出土遺物実測図

第５表　出土遺物観察表

報告番号	挿図番号	図版番号	調査地区	遺構・層位	時期	器種	法量：単位cm、()復元値	残存部	色調	胎土	焼成	備考(弥生土器：角閃石を多く含むものは、生駒西麓産、含まないものは非生駒西麓と記す)
001	5		B区	ＳＥ101	奈良時代中期	土師器杯Ａ	口径：(14.3)　器高：2.7 底径：(11.0)	1/3	内：2.5Ｙ7/3浅黄色 外：2.5Ｙ6/2灰黄色	緻密	良好	
002	5		B区	ＳＥ101	奈良時代中期	土師器杯Ａ	口径：14.8　器高：3.65 底径：12.6	4/5	内：2.5Ｙ７/3浅黄色 外：2.5Ｙ8/3淡黄色	緻密	良好	外面に煤
003	5	11	B区	ＳＥ101	奈良時代中期	土師器皿Ａ	口径：(15.3)　器高：(2.1) 底径：(13.5)	1/3	内：10YR7/3にぶい黄橙色 外：10YR７/2にぶい黄橙色	緻密	良好	放射状及び螺旋状暗文
004	5		B区	ＳＥ101	奈良時代中期	土師器鉢	口径：(19.7)　器高：5.5 底径：(11.3)	1/8	内：2.5Ｙ8/4淡黄色 外：7.5YR8/3浅黄色	緻密	良好	線状の暗文
005	5	11	B区	ＳＥ101	奈良時代中期	土師器壺Ｂ	口径：9.1　器高：6.1 体部最大径：8.9　底径：5.8	完形	内：7.5YR6/4にぶい橙 外：10YR7/2にぶい黄橙色	密	良好	底部1/2に黒斑
006	5	11	B区	ＳＥ101	奈良時代中期	土師器壺Ｂ	口径：10.5　器高：6.5　体部最大径：10.2　底径：5.5	ほぼ完形	内：2.5Ｙ7/2灰黄色 外：2.5Ｙ6/2灰黄色	密	良好	口縁煤付着　外面1/3黒斑
007	5	11	B区	ＳＥ101	奈良時代中期	須恵器杯Ｂ蓋	つまみ径：2.8　つまみ高：0.7	不明	内：10Y5/1灰色 外：N5/0灰色	密	良好	
008	5		B区	ＳＥ101	奈良時代中期	須恵器長頸壺	体部最大径：17.2	不明	内：5Y7/1灰白色 外：2.5Y6/1黄灰色	密	良好	
009	7	11	B区	ＳＥ102	古墳時代後期中葉	須恵器短頸壺	口径：13.15　器高：15.3　体部最大径：18.0　底径：12.7	ほぼ完形	内：5BG2/1青黒色 外：5Y7/1灰白色	密	良好	古墳時代後期中葉(田辺編年ＴＫ10　６世紀中葉)
010	10		C区	ＳＥ103	奈良時代末期～平安時代初頭	土師器皿	口径：15.6　器高：2.5 底径：12.1	1/2	内外：10YR7/4にぶい黄橙色	密	良好	体部外面に黒斑がある
011	10	11	C区	ＳＥ103	奈良時代末期～平安時代初頭	土師器椀	口径：13.9器高：4.1	4/5	内外：10YR7/3にぶい黄橙色	密	良好	
012	10	11	C区	ＳＥ103	奈良時代末期～平安時代初頭	土師器椀	口径：(16.3)　器高：4.4	2/3	内外：10YR7/3にぶい黄橙色	密	良好	
013	10	11	C区	ＳＥ103	奈良時代末期～平安時代初頭	土師器椀	口径：13.5　器高：3.8	完形	内：10YR7/3にぶい黄褐色 外：10YR6/2灰黄褐色	密	良好	ヘラ記号あり
014	10	11	C区	ＳＥ103	奈良時代末期～平安時代初頭	土師器椀	口径：14.45　器高：4.2	2/3	内外：10YR7/3にぶい黄褐色	密	良好	ヘラ記号あり　灯芯痕あり
015	10	12	C区	ＳＥ103	奈良時代末期～平安時代初頭	土師器甕	口径：(18.3)　器高：15.4 体部最大径：18.5	口縁部1/2 体部完存	内外：10YR7/4明黄褐色	やや粗	良好	
016	10	12	C区	ＳＥ103	奈良時代末期～平安時代初頭	土師器甕	口径：13.9　器高：11.5 体部最大径：15.2	ほぼ完形	内：7.5YR4/2褐灰色 外：7.5Ｙ R5/3にぶい褐色	密	良好	外面口縁部～体部：煤　内面底部：コゲ
017	10	12	C区	ＳＥ103	奈良時代末期～平安時代初頭	土師器甕	口径：17.75　器高：14.3 体部最大径17.55	口縁部及び底部を欠く	内外：7.5Ｙ R5/2灰褐色	密	良好	外面口縁部～体部：煤　内面底部：コゲ
018	10	12	C区	ＳＥ103	奈良時代末期～平安時代初頭	土師器甕	口径：16.5　器高：13.4	完形	内外：7.5Ｙ R5/2灰褐色	密	良好	墨書人面土器
019	10		C区	ＳＥ103	奈良時代末期～平安時代初頭	土師器片口鉢	口径：24.0　器高：12.7	ほぼ完形	内外：10YR7/6明黄褐色	密	良好	片口鉢
020	10	12	C区	ＳＥ103	奈良時代末期～平安時代初頭	土師器高杯	口径：6.0　器高：4.9 裾径：3.2	杯部1/3	内外：7.5YR5/2灰褐色	密	良好	ミニチュア品
021	10	12	C区	ＳＥ103	奈良時代後期	銅銭	径：2.4　厚み：0.2	完形				『神功開寶』初鋳鋳765年天平神護元年９月
022	11		B区	ＳＫ101	奈良時代後半	須恵器杯Ｂ	器高：4.7　高台径：9.8 高台高：0.6	底部1/2	内：7.5YR6/2灰褐色 外：2.5Y7/2灰黄色	密	良好	
023	11		B区	ＳＫ101	奈良時代後半	須恵器杯Ｂ	口径：(17.9)　器高：4.75 高台径：(13.6)　高台高：0.6	底部1/3	内外：N5/1灰色　断面：5YR5/2灰褐色	密	良好	
024	14	12	C区	ＳＫ102	奈良時代中期	土師器杯Ａ	口径：15.0　器高：3.5	1/2	内外：7.5YR8/8黄橙色	密	良好	
025	14	12	C区	ＳＫ102	奈良時代中期	土師器皿Ｂ	口径：(21.2)　器高：3.85 高台径：(15.9)　高台高：0.6	口縁部1/4	内外：5YR6/6橙色	密	良好	内面体部放射状ヘラミガキ
026	14		C区	ＳＫ102	奈良時代中期	土師器小形甕	口径：(17.5)	口縁部1/6	内外：5YR6/4にぶい橙色	密	良好	口縁部内面煤
027	14	12	C区	ＳＫ102	奈良時代中期	土師器高杯		杯部1/5	内外：5YR8/6浅黄橙色	密	良好	
028	14	13	C区	ＳＫ102	奈良時代中期	須恵器杯Ｂ	口径：(15.5)　器高：2.35 つまみ径：2.9　つまみ高：0.3	約1/2	内外：10GY6/1	緻密	良好	
029	14		C区	ＳＫ102	奈良時代中期	平瓦		細片	内外：N7/0灰白色	やや粗	良好	
030	14		C区	ＳＫ103	奈良時代中期	土師器杯Ａ	口径：(15.0)　器高：3.6	1/2	内外：7.5YR7/6橙色	密	良好	
031	14	13	C区	ＳＫ103	奈良時代中期	土師器杯Ａ	口径：(14.9)　器高：3.8	約2/3	内外：7.5YR7/6橙色	密	良好	内底面には「×」の記号がある。
032	14		C区	ＳＫ103	奈良時代中期	土師器杯Ａ	口径：(16.1)　器高：3.1	1/4	内外：7.5YR7/8黄橙色	密	良好	外面底部に木の葉文
033	14	13	C区	ＳＫ103	奈良時代中期	土師器杯Ａ	口径：(19.7)　器高：3.8	1/2	内外：7.5YR7/8黄橙色	密	良好	外面底部に木の葉文
034	15	13	A区	ＳＤ104	古墳時代中～後期	土師質円筒埴輪		細片	内：5YR4/3にぶい赤褐色 外：5YR7/4にぶい橙色	密	良好	
035	15	13	A区	ＳＤ104	古墳時代中～後期	須恵質円筒埴輪		細片	内：N4/1灰色 外：5B3/1暗青灰色	やや粗	良好	
036	15	13	A区	ＳＤ117	古墳時代中～後期	土師質円筒埴輪		細片	内：7.5YR7/2明褐灰色 外：2.5Y7/2灰黄色	密	良好	
037	15	13	A区	ＳＤ117	古墳時代中～後期	土師質家形埴輪		細片	内：10YR8/3浅黄橙色 外：10YR8/2灰白色	密	良好	
038	15	14	A区	ＳＤ103	古墳時代中～後期	土師質盾形埴輪		細片	内：2.5Y8/2灰白色 外：7.5YR7/4にぶい橙色	密	良好	盾面側部片
039	15		A区	ＳＤ117	古墳時代中期	須恵器器台		細片	内：7.5Y5/1灰色　外：10Y5/1灰色　断：2.5YR5/1赤灰色	緻密	良好	脚部
040	15		C区	ＳＤ131	奈良時代中期	土師器杯Ａ	口径：(14.6)　器高：(3.1) 底径：(12.3)	1/3	内：7.5YR8/3浅黄橙色 外：7.5YR6/6橙色	密	良好	身込に輪状の暗文
041	15		C区	ＳＤ129	奈良時代中期	土師器杯Ａ	口径：(15.7)　器高：(2.1)	細片	内：5YR6/6橙色 外：5YR7/6橙色	密	良好	内面斜方向のヘラミガキ
042	15		C区	ＳＤ129	奈良時代中期	土師器杯Ｃ	口径：(12.8)　器高：(3.4)	細片	内：5YR6/4にぶい橙色 外：5YR5/6明赤褐色	密	良好	
043	15	14	C区	ＳＤ129	奈良時代中期	土釜	口径：(26.7)　鍔径：(30.0)	口縁部～体部上位1/4	内外：7.5YR7/4にぶい橙色	やや粗	良好	
044	20	14	B区	ＳＫ301	弥生時代中期後半	広口壺	口径：(24.8)	口縁部　細片	内外：7.5YR6/4にぶい橙色	やや粗	良好	口縁端面-簾状文・刺突文・簾状文 生駒西麓産
045	20	14	B区	ＳＫ301	弥生時代中期後半	広口壺	口径：(27.5)	口縁部～頸部1/4	内外：2.5Y5/2暗灰黄色	やや粗	良好	口縁部列点文・扇形文・刺突文・簾状文・扇形文 体部簾状文　生駒西麓産
046	20		B区	ＳＫ301	弥生時代中期後半	細口壺		体部片	内：2.5Y5/1黄灰色 外：10YR7/4にぶい黄橙色	やや粗	良好	体部簾状文・貼付円形浮文 生駒西麓産
047	20	14	B区	ＳＫ301	弥生時代中期後半	壺底部	底径：6.5	体部下半～底部	内：2.5Y6/1黄灰色 外：2.5Y5/2暗灰黄色	粗い	良好	生駒西麓産
048	20	14	B区	ＳＫ301	弥生時代中期後半	甕	口径：(28.4)	口縁部～体部上位1/6	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
049	20		B区	ＳＫ301	弥生時代中期後半	甕	口径：(14.4)　体部最大径：18.0	口縁部～体部上位1/8	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	やや粗	良好	体-外面ススキ・内面コゲ　生駒西麓産
050	20	14	B区	ＳＫ301	弥生時代中期後半	甕	口径：14.2　体部最大径：15.1	口縁部～体部下位2/3	内外：10YR5/3にぶい黄褐色	やや粗	良好	体-外面ススキ・内面中位以下コゲ 生駒西麓産
051	20		B区	ＳＫ301	弥生時代中期後半	高杯		柱状部	内外：10YR5/3にぶい黄褐色	やや粗	良好	生駒西麓産
052	20	14	B区	ＳＫ301	弥生時代中期後半	高杯	裾部径：14.55	脚部1/3	内：7.5YR5/1褐灰色 外：10YR6/4にぶい黄橙色	やや粗	良好	脚部外面に格円形の竹管文 生駒西麓産
053	20	14	B区	ＳＫ303	弥生時代中期後半	広口壺	口径：(29.7)	口縁部1/8	内外：2.5Y6/2灰黄色	やや粗	良好	口縁端部-２段の簾状文・２段の刺突文 生駒西麓産
054	20	14	B区	ＳＫ303	弥生時代中期後半	甕	口径：(21.8)　体部最大径：(20.8)	口縁部～体部中位1/6	内外：10YR5/2灰黄褐色	粗い	良好	口縁部～体部-黒斑　　生駒西麓産
055	20		B区	ＳＫ303	弥生時代中期後半	壺	底径：8.35	底部	内：2.5Y8/1灰白色 外：2.5Y5/1黄灰色	密	良好	生駒西麓産

報告番号	挿図番号	図版番号	調査地区	遺構・層位	時期	器種	法量：単位cm、()復元値	残存部	色調	胎土	焼成	備考(弥生土器：角閃石を多く含むものは、生駒西麓産、含まないものは非生駒西麓と記す)
056	26		A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	広口壺A1	口径：14.2	口縁部～体部中位	内：10YR7/2にぶい黄橙色 外：10YR7/2にぶい黄橙色	密	良好	生駒西麓産
057	26	15	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	広口壺A1	口径：12.6	口縁部～体部中位1/2	内外：7.5YR7/4にぶい橙色	やや粗	良好	体部外面上位ススキ 生駒西麓産
058	26		A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	広口壺A1	口径：14.3　体部最大径：21.7	口縁部～体部下位	内：10YR6/1褐灰色 外：10YR7/2にぶい黄橙色	やや粗	良好	口縁部内面・体部下半外面-黒斑 生駒西麓産
059	26	15	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	広口壺A2	口径：13.6　器高：21.8　体部最大径：20.3　底径：4.5	口縁部一部欠損以外完存	内外：7.5YR7/6橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
060	26	15	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	広口壺A1	口径：17.6　器高：25.9　体部最大径：24.95　底径：5.0	完形	内外：7.5YR7/6橙色	やや粗	良好	口縁端部にキザミ目 非生駒西麓産
061	26	15	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	広口壺A2	口径：14.0　器高：22.4　体部最大径：20.5　底径：4.8	ほぼ完形	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	やや粗	良好	口縁部ひずみ　体部上位-竹管文1個・黒斑 生駒西麓産
062	26		A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	広口壺B1	口径：16.2	口頸部1/2	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	粗い	良好	生駒西麓産
063	26	15	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	広口壺B1	口径：(11.2)　体部最大径：(15.8)	口縁部～体部中位	内外：10YR7/3にぶい黄橙色	密	良好	生駒西麓産
064	26		A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	広口壺B1	口径：14.4　器高：24.75　体部最大径：24.0　底径：4.6	完形	内外：2.5YR7/6橙色	密	良好	体部中位以下-ススキ　口縁部内面-黒斑 非生駒西麓産
065	26	15	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	広口壺B1	口径：12.2　器高：21.1　体部最大径：23.6　底径：4.15	完形	内外：10YR4/3にぶい黄褐色	やや粗	良好	体部上位黒斑　体部中位以下煤 生駒西麓産
066	26	15	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	広口壺B2	口径：18.5　器高：27.8 体部最大径：32.5　底径：5.8	ほぼ完形	内：2.5Y5/1黄灰色 外：10YR7/4にぶい黄橙色	密	良好	体部中位竹管文1個　口縁部外面竹管文端部刻み目 体部下位黒斑　生駒西麓産
067	26	15	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	広口壺B2	口径：16.6　器高：25.8　体部最大径：27.1　底径：5.7	口縁部一部欠損以外完存	内：2.5Y5/1黄灰色 外：10YR7/4にぶい黄橙色	密	良好	体部中位竹管文1個　口縁部外面竹管文端部刻み目 生駒西麓産
068	27	16	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	口径：7.9		内外：2.5YR6/8橙色	密	良好	非生駒西麓産
069	27		A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	口径：12.3　体部最大径：17.8	口縁～体部下位	内外：2.5Y6/1	やや粗	良好	生駒西麓産
070	27	16	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	体部最大径：14.6　底径：4.5	口縁部一部欠損以外完存	内外：2.5Y6/2灰黄色	やや粗	良好	体部外面上部にヘラによる直線文 生駒西麓産
071	27	16	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	口径：10.5　器高：21.9　体部最大径：14.5　底径：4.4	口縁部1/2を欠く以外完存	内：2.5YR4/2灰赤色 外：7.5YR5/4にぶい褐色	粗い	良好	生駒西麓産
072	27	16	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	口径：9.9　器高：19.1　体部最大径：11.8　底径：4.4	ほぼ完形	内：7.5YR4/6褐色 外：10YR5/1褐灰色	やや粗	良好	生駒西麓産
073	27	16	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	短頸直口壺B	口径：12.4	口縁部完存	内外：10YR7/4にぶい黄橙色 外：	やや粗	良好	口縁部及び体部上半波状文　頸部及び体部上方刺突文　生駒西麓産
074	27	16	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	台付壺	口径：10.6　体部最大径：14.3	脚部以外は完存	内外：10YR7/4にぶい黄橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
075	27	16	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	広口長頸壺A2	口径：(22.2)	口縁部1/5	内：10YR5/4にぶい黄褐色 外：10YR6/4にぶい黄橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
076	27		A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	体部最大径：19.9　底径：4.8	体部1/2	内：10YR6/2灰黄褐色 外：10YR6/4にぶい黄橙色	粗い	良好	生駒西麓産
077	27	16	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	細頸壺	体部最大径：15.7　底径：3.4	体部完存	内：10YR4/1褐灰色 外：7.5YRにぶい橙色	密	良好	体部中位黒斑 非生駒西麓産
078	27		A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	壺	体部最大径：25.8　底径：5.3	体部2/1	内：10YR6/4にぶい黄橙色 外：10YR3/1黒褐色	やや粗	良好	生駒西麓産
079	27	17	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕AI	口径：(11.6)　器高：9.7　体部最大径：(10.8)　底径：3.8	口縁部から体部の一部を欠く	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
080	27	17	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕AI	口径：11.4　器高：12.4　体部最大径：11.0　底径：4.5	完形	内外：10YR5/1褐灰色	やや粗	良好	体部外面中位に煤 生駒西麓産
081	27	17	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕AI	口径：(14.1)　器高：11.45 底径：3.7	口縁部～体部の一部を欠く以外完存	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	密	良好	体部外面下位に黒斑 生駒西麓産
082	27	17	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕AI	口径：12.25 器高：13.15	ほぼ完形	内外：2.5YR7/6橙色	やや粗	良好	非生駒西麓産
083	27	17	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕AI	口径：12.7 器高：14.9	口縁部の一部を欠く以外は完存	内外：5YR7/6橙色	やや粗	良好	体部上位から中位に煤 非生駒西麓産
084	27	17	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕AI	口径：(12.0) 器高：15.2	口縁部～底部1/2	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	やや粗	良好	体部上位から中位に煤 生駒西麓産
085	27		A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕AI	口径：14.0　体部最大径：14.0	口縁部～体部1/4	内：10YR8/2灰白色 外：10YR6/1褐灰色	やや粗	良好	体部外面中位に煤 生駒西麓産
086	27		A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕AI	口径：(11.6)　体部最大径：(12.4)	口縁部～体部中位	内外：5YR7/6橙色	やや粗	良好	体部上位に黒斑 非生駒西麓産
087	28		A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕AII	口径：(15.0)	口縁部～体部上位I/2	内外：5YR7/6橙色	密	良好	口縁部に煤 非生駒西麓産
088	28		A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕AII	口径：(14.2)	口縁部～体部上位I/6	内外：10YR5/2灰黄褐色	やや粗	良好	生駒西麓産
089	28		A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕AII	口径：(13.6)	口縁部～体部上位1/3	内外：10YR7/3にぶい黄橙色	密	良好	生駒西麓産
090	28		A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕AII	口径：15.0	口縁部～体部上半1/6	内外：10YR6/2灰黄褐色	密	良好	生駒西麓産
091	28		A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕AII	口径：14.4	口縁部～体部中位	内外：10YR8/3浅黄橙色	やや粗	良好	口縁部及び体部中位に煤 非生駒西麓産
092	28		A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕AII	口径：15.8　器高：17.8　体部最大径：15.1　底部：3.8	ほぼ完形	内外：5Y7/6橙色	密	良好	体部中位～下位に煤　体部内面中位コゲ 非生駒西麓産
093	28		A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕AII	口径：15.6　器高：22.5 体部最大径：19.3　底径：4.7	完形	内外：5YR6/6橙色	やや粗	良好	体部中位に煤　体部下位に穿孔あり 生駒西麓産
094	28		A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕AII	口径：(12.8)　器高：22.5　体部最大径：16.8　底径：4.3	口縁部1/4 体部完存	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	やや粗	良好	体部外面黒斑2ヶ所 生駒西麓産
095	28		A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕AII	口径：(13.6)　器高：20.2 体部最大径：16.2　底径：3.6	口縁部～底部1/2	内外：5YR7/6橙色	やや粗	良好	口縁部、体部中位煤 非生駒西麓産
096	28	18	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕AII	口径：15.1　器高：20.0　体部最大径：16.0　底径：(2.1)	ほぼ完形	内外：2.5YR6/6橙色	やや粗	良好	体部外面上位～中位煤　体部内面中位以下コゲ　体部外面二次焼成による剥離　非生駒西麓産
097	28		A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕AII	底径：4.5	体部中位以下1/2	内：5YR7/2明褐灰色 外：5YR6/1褐灰色	密	良好	体部外面煤 非生駒西麓産
098	28	18	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕AIII	口径：15.2　器高：24.9　体部最大径：18.3　底径：5.6	完形	内外：7.5YRにぶい橙色	粗い	良好	体部外面中位に煤　体部中位以下コゲ 生駒西麓産
099	28	18	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕AIII	口径：16.8　器高：26.3　体部最大径：19.2　底部：4.5	完形	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	粗い	良好	口縁部、体部外面中位煤　体部内面中位以下コゲ 生駒西麓産
100	28		A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕AIII	体部最大径：19.5　底径：4.1	口縁部体部1/2	内：10YR3/1黒褐色 外：10YR7/4にぶい黄橙色	粗い	良好	体部中位に煤 生駒西麓産
101	29	18	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕AIV	口径：16.8　器高：26.7　体部最大径：21.0　底径4.8	完形	内外：5YR6/6橙色	やや粗	良好	体部中位に煤 生駒西麓産
102	29	18	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕AIV	口径：22.5　器高：30.1　体部最大径：22.7　底径：4.8	完形	内外：7.5YR8/6浅黄橙色	やや粗	良好	体部外面上位～中位煤　体部内下半コゲ 非生駒西麓産
103	29	18	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕AIV	口径：22.5　器高：34.4　体部最大径：28.3　底径：5.9	完形	内外：10YR7/4にぶい黄橙色	やや粗	良好	体部外面下位煤　体部内面上位以下コゲ 生駒西麓産
104	29	19	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	甕B	口径：15.2	口縁部～体部上位1/4	内外：7.5YR6/4にぶい橙色	やや粗	良好	口縁端面下端にキザミ目　体部上位から直線文、列点文、波状文　生駒西麓産
105	29	19	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	小形鉢A1	口径：11.7　器高：7.0 底径：3.4	完形	内外：7.5YR7/8黄橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
106	29	19	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	中形鉢A1	口径：20.0　器高：8.6 底径：3.1	完形	内：10YR8/3浅黄橙色 外：2.5YR6/6橙色	密	良好	生駒西麓産
107	29	19	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B2	口径：13.5　器高：7.8 底径：4.0	完形	内外：10YR6/4にぶい黄橙色	密	良好	生駒西麓産
108	29	19	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B2	口径：14.2　器高：8.05 底径：3.6	完形	内：7.5YR6/3にぶい褐色 外：7.5YR6/2灰褐色	やや粗	良好	体部内面下部に黒斑 生駒西麓産
109	29		A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	高杯A2	口径：21.3　稜径：16.9	杯部完存	内外：5YR6/4にぶい橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
110	29	19	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	高杯A2	口径：17.7　器高：11.3 裾部径：8.5	完形	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	密	良好	生駒西麓産

報告番号	挿図番号	図版番号	調査地区	遺構・層位	時期	器種	法量：単位cm、()復元値	残存部	色調	胎土	焼成	備考(弥生土器：角閃石を多く含むものは、生駒西麓産、含まないものは非生駒西麓と記す)
111	29		A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	高杯A3	口径：(23.8)　器高：15.1 裾部径：14.2	杯部1/3 脚部：1/6	5YR7/6橙色	やや粗	良好	非生駒西麓産
112	29	19	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	高杯A3	口径：22.2　器高：16.0 裾部径：14.4	完形	内：7.5YR8/6あさぎ橙色 外：2.5YR6/6橙色	やや粗	良好	非生駒西麓産
113	29	19	A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	高杯A3	口径：22.8 器高：14.5	杯部完存 裾部3/4	内外：5YR6/6橙色	やや粗	良好	スカシ4個 非生駒西麓産
114	29		A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	高杯	裾部径：10.6	脚部完存	内外：7.5YRにぶい橙色	密	良好	スカシ4個 生駒西麓産
115	29		A区	SD301上層	弥生時代後期後半古相	高杯	裾部径：11.6	脚部完存	内：2.5Y8/3淡黄色 外：2.5YR7/6橙色	密	良好	スカシ3個 生駒西麓産
116	32		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A1	口径：15.4	口縁部～体部上位	内外：5YR7/6橙色	密	良好	体部上位に貼付突起が1ヶ所あり 生駒西麓産
117	32		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A1	口径：(16.0)	口縁部～体部上位1/4	内外：10YR5/2灰黄褐色	やや粗	良好	生駒西麓産
118	32		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A1	口径：(13.4)　体部最大径：22.0	口縁部～体部2/3	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	やや粗	良好	口縁部外面及び体部中位煤 生駒西麓産
119	32		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A1	体部最大径：20.2　底径：4.9	口縁部を欠く以外は完存	内外：10YR7/4にぶい黄橙色	やや粗	良好	体部外面上部に黒斑　体部に棒状の突起あり 生駒西麓産
120	32	20	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A1	口径：(13.0)　器高：20.7 体部最大径：(22.7) 底径 (4.0)	口縁部及び体部の一部を欠く	内：10YR3/1黒褐色 外：10YR7/4にぶい黄橙色	密	良好	口縁部打ち欠き　体部中～下位煤 生駒西麓産
121	32	20	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A1	口径：13.5　器高：23.5　体部最大径：24.4　底径6.1	体部の一部を欠く以外は完存	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	密	良好	口縁部打ち欠き　体部外面中位煤　燃焼により器面剥離　内面炭化物　底面モミ圧痕　生駒西麓産
122	32	20	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A1	口径：15.4　器高：24.2　体部最大径：25.6　底径：4.7	完形	内外：7.5YR6/6にぶい橙色 外：	密	良好	体部下半に細長い楕円形状の穿孔あり 生駒西麓産
123	32		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A1	口径：(15.8)　体部最大径：(23.2)	口縁部～体部中位の1/2	内：10YR7/1黒 外：10YR5/2灰黄褐色	密	良好	体部上半竹管文1個 生駒西麓産
124	32		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A1	口径：15.1　体部最大径：(13.5)	口縁部～体部下半	内外：7.5YR8/3浅黄橙色	密	良好	口縁部の4ヶ所に打欠き 非生駒西麓産
125	32	20	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A1	口径：12.0　器高：21.9　体部最大径：22.0　底径：5.3	口縁部2ヶ所の欠損以外は完存	内外：10YR5/2灰黄褐色	やや粗	良好	2ヶ所に打欠き　外面上半と下半に黒斑 生駒西麓産
126	33	20	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A2	口径：(15.5)	口縁部完存	内外：10YR6/1褐灰色	密	良好	生駒西麓産
127	33	20	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A2	口径：12.0	口縁部～頸部完存	内外：2.5Y8/3浅黄色	やや粗	良好	非生駒西麓産
128	33	20	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A2	口径：15.0	口縁部～頸部完存	内外：2.5Y7/2灰黄色	密	良好	生駒西麓産
129	33		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A2	口径：(12.6)	口縁部3/4 底部を欠く	内外：10YR5/3にぶい黄褐色	密	良好	口縁部～体部煤付着 生駒西麓産
130	33	20	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A2	口径：13.0　体部最大径：19.9	口縁部～体部下半	内外：7.5Y7/4にぶい橙色	密	良好	体部中位煤 生駒西麓産
131	33	20	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A2	口径：13.0　器高：20.4　体部最大径：19.45　底径：5.0	口縁部の一部を欠く以外は完存	内外：7.5YR6/6にぶい橙色	密	良好	口縁部打ち欠き　体部中位1ヶ所黒斑 生駒西麓産
132	33	21	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A2	口径：14.4　器高：21.6　体部最大径：22.5　底径：5.0	口縁部を欠く以外は完存	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	密	良好	口縁部打ち欠き　体部中位煤　燃焼により器面剥離 生駒西麓産
133	33	21	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A2	口径：15.2　器高：22.25　体部最大径：23.8　底径：4.6	体部の一部を欠く以外は完存	内：10YR5/1褐灰色 外：10YR8/3浅黄色	密	良好	体部上半に円形貼付浮文 非生駒西麓産
134	33	21	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A2	口径：13.5　器高：22.6　体部最大径：18.6　底径：4.8	口縁部の一部を欠く以外は完存	内外：10YR7/4にぶい黄橙色	密	良好	口縁部打ち欠き　体部上半にヘラ先による刺突文 体部中位に煤
135	33		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A2	口径：12.4	口縁部～体部上位	内外：10YR8/4浅黄橙色	密	良好	非生駒西麓産
136	33	21	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A2	口径：13.0　器高：20.0　体部最大径：19.1　底径：5.1	口縁部を欠く以外は完存	内外：10YR5/1褐灰色	密	良好	口縁部打ち欠き　底部をのぞく部分に煤 生駒西麓産
137	33	21	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A2	口径：15.9　器高：25.4　体部最大径：24.6　底径：5.7	体部中位を欠く	内外：10YR8/4浅黄橙色	密	良好	底部外面木の葉文 非生駒西麓産
138	33	21	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A2	口径：21.4	口頸部	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	密	良好	口縁部2ヶ所に打ち欠き 生駒西麓産
139	33	21	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A2	口径：29.4　器高：64.6　体部最大径：52.7　底径：7.0	完形	内：N3/0暗灰色 外：2.5Y8/2灰白色	密	良好	体部上面に記号文（スタンプ文） 非生駒西麓産
140	34	22	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A2	口径：14.3　器高：24.3　体部最大径：22.0　底径：4.4	口縁部の一部を欠く以外完存	内外：10YR5/2灰黄褐色	やや粗	良好	体部打ち欠き　体部上半に記号文　体部下半黒斑 体部中位大きな剥離面あり　生駒西麓産
141	34	22	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺B2	口径：14.8　器高：28.2　体部最大径：23.8　底径：(3.3)	完形	内：10YR7/1灰白色 外：10YR7/4にぶい黄橙色	密	良好	生駒西麓産
142	34	22	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A2	口径：13.4　器高：21.3　体部最大径：16.9　底径：4.9	完形	内外：10YR5/2灰黄褐色	密	良好	体部中位煤　一部燃焼により器面剥離 生駒西麓産
143	34		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A3	口径：14.3　器高：22.5　体部最大径：22.0　底径：5.4	口縁部と体部の一部を欠く	内外：10YR7/3にぶい黄橙色	密	良好	底部～体部下半黒斑 生駒西麓産
144	34	22	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A3	口径：13.6　器高：20.9　体部最大径：23.0　底径：4.4	口縁部の一部を欠く以外は完存	内外：10YR5/3にぶい黄褐色	密	良好	体部中位黒斑　体部中位以下煤付着　底面にモミの圧痕とヘラ記号　生駒西麓産
145	34		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺A3	口径：12.9　体部最大径：19.1	口縁部と底部を欠く	内外：10YR4/1褐灰色	密	良好	体部上半と中位に黒斑 生駒西麓産
146	34	22	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺B1	口径：10.7	口縁～体部上位	内外：10YR7/3にぶい黄橙色	密	良好	口縁部～体部黒斑 生駒西麓産
147	34	22	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺B1	口径：14.9	口縁の一部を欠く	内外：10YR6/4にぶい黄橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
148	34	22	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺B1	口径：12.2	口縁部完存	内：2.5Y7/1灰白色 外：2.5Y8/2灰白色	密	良好	非生駒西麓産
149	34	22	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺B1	口径：15.5	口縁端部を一部欠く	内：10YR7/4にぶい黄橙色 外：10YR5/3にぶい黄褐色	やや粗	良好	口縁端部に2個組みの竹管文6ヶ所あり 生駒西麓産
150	34		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺B1	口径：(14.8)	口縁～体部中位	内外：10YR8/3浅黄橙色	やや粗	良好	体部中位に黒斑 生駒西麓産
151	34		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺B1	体部最大径：16.1　底径：4.4	口縁部及び体部の一部を欠く	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	密	良好	体部中位、底部に黒斑 生駒西麓産
152	34	23	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺B1	口径：11.4　器高：14.9　体部最大径：13.9　底径：4.0	口縁部の一部を欠く	内外：10YR6/4にぶい黄橙色	密	良好	体部中位に黒斑1ヶ所 生駒西麓産
153	34	23	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺B1	口径：11.4　器高：19.0　体部最大径：16.4　底径5.1	口縁部の一部を欠く以外完存	内外：2.5Y7/2灰黄色	密	良好	ドーナツ底 生駒西麓産
154	34	23	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺B1	口径：13.8　体部最大径：19.9	口縁部～体部（口縁の一部を欠く）	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	やや粗	良好	体部にヘラ記号あり　体部中位に黒斑 生駒西麓産
155	35	23	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺B1	口径：11.8　器高：20.0　体部最大径：18.8　底径5.1	口縁部の一部を欠く以外完存	内外：10YR5/2灰黄褐色	密	良好	体部上位以下煤付着　内面炭化物　体部上位2個一対の竹管文あり　生駒西麓産
156	35	23	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺B1	口径：14.2　器高：18.4　体部最大径：17.2　底径：3.9	口縁部の一部を欠く以外完存	内外：5YR6/4にぶい橙色	やや粗	良好	体部中位に煤付着 生駒西麓産
157	35	23	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺B1	口径：12.8　器高：22.5　体部最大径：20.8　底径：	口縁部の一部を欠く	内外：10YR7/4にぶい黄橙色	密	良好	体部以下煤　内面炭化物　被熱し器面剥離 生駒西麓産
158	35	23	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺B1	口径：13.9　器高：22.2　体部最大径：22.7　底径：2.6	体部及び底部を一部欠く	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	やや粗	良好	体部上位に竹管文3個 生駒西麓産
159	35	23	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺B1	口径：13.15　器高：22.65　体部最大径：20.6　底径：4.8	完形	内外：7.5YR8/4浅黄橙色	やや粗	良好	体部上位黒斑 非生駒西麓産
160	35		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺B1	体部最大径：21.2　底径：5.2	口縁端部を欠く以外完存	内外：7.5YR7/6橙色	やや粗	良好	体部中位以下燃により器面剥離　体部以下煤付着 非生駒西麓産
161	35	24	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺B1	口径：13.2　器高：21.4　体部最大径：(18.8)　底径：	体部～底部の一部を欠く	内外：2.5Y5/2暗灰黄色	密	良好	体部上位に竹管文3個　体部上位に黒斑　中位以下煤付着　非生駒西麓産
162	35	24	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺B1	口径：14.2　器高：29.5　体部最大径：24.9　底径：5.7	完形	内：10YR5/2灰黄褐色 外：10YR5/4にぶい黄褐色	やや粗	良好	体部外面一部に煤付着 生駒西麓産
163	35	24	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口壺B2	口径：17.7　器高：34.85　体部最大径：33.8　底径：5.0	口縁部の一部を欠く	内外：10YR4/1褐灰色	密	良好	生駒西麓産
164	36		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長頸壺A1	口径：(19.2)	口縁部1/3	内外：10YR5/2灰黄褐色	密	良好	生駒西麓産
165	36		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長頸壺A1	口径：(18.2)	口頸部1/2	内外：10YR5/1褐灰色	密	良好	口縁部内面～頸部外面煤 生駒西麓産

報告番号	挿図番号	図版番号	調査地区	遺構・層位	時期	器種	法量：単位cm、()復元値	残存部	色調	胎土	焼成	備考(弥生土器：角閃石を多く含むものは、生駒西麓産、含まないものは非生駒西麓と記す)
166	36	24	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長頸壺A2	口径：(15.3)	口頸部完存	内外：7.5YR6/4にぶい橙色	やや粗	良好	口縁端面3条の沈線と竹管押圧円形浮文 生駒西麓産
167	36		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長頸壺A2	口径：(24.6)	口縁部1/5	内外：10YR8/4浅黄橙色	密	良好	口縁部に竹管押圧円形浮文 生駒西麓産
168	36	24	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長頸壺A2	口径：22.7　頸部高：17.1	口頸部ほぼ完存	内外：10YR7/4にぶい黄橙色	密	良好	端面沈線と竹管押圧円形浮文　斜方向のキザミ目、体部と頸部の境キザミ目凸帯　生駒西麓産
169	36		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長頸壺A2	口径：(29.7)	口縁部完存	内外：10YR6/2灰黄褐色	やや粗	良好	垂下項口縁端面に2重の竹管文 生駒西麓産
170	36		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長頸壺A2	口径：(46.0)	口縁部1/3	内外：10YR6/2灰黄褐色	粗い	良好	口縁端面に円形竹管文を押した円形浮文を貼り付け間を沈線で結ぶ満文（S字状文）生駒西麓産
171	36	24	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：11.2　器高：17.9　体部最大径：14.6　底径：5.5	口縁の一部を欠く以外完存	内外：10YR5/1褐灰色	密	良好	体部外面一部煤 生駒西麓産
172	36		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：10.4　器高：17.9　体部最大径：15.6　底径：3.6	口縁の一部を欠く以外完存	内外：7.5YR6/2灰褐色	やや粗	良好	生駒西麓産
173	36	24	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：12.6　器高：18.65　体部最大径：16.0　底径：3.7	ほぼ完形	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	やや粗	良好	体部上位に黒斑 生駒西麓産
174	36		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：11.2　体部最大径：12.9	底部欠損	内：10YR6/2灰黄褐色 外：10YR5/1褐灰色	やや粗	良好	体部2ヶ所黒斑 生駒西麓産
175	36	24	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：12.5　器高：17.7　体部最大径：14.35　底径：5.1	口縁部1/3を欠損	内外：10YR7/3にぶい黄橙色	やや粗	良好	体部中位以下に煤付着 生駒西麓産
176	36	25	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：12.8　器高：17.7　体部最大径：14.35　底部4.9	完形	内外：10YR7/4にぶい黄橙色	やや粗	良好	体部下半に黒斑1ヶ所 生駒西麓産
177	36	25	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：12.9　器高：20.5　体部最大径：15.6　底径：(4.7)	底部の2/1を欠損	内外：10YR6/1褐灰色	やや粗	良好	体部「○」記号文3個　体部中部以下煤付着、器面剥離　生駒西麓産
178	36		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：11.1　器高：22.4　体部最大径：17.6　底径：4.2	完形	内外：7.5YR5/6浅黄橙色	やや粗	良好	外面体部上位に黒斑 生駒西麓産
179	36		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：11.0　器高：19.9　体部最大径：14.8　底部：4.6	完形	内外：7.5YR5/3にぶい褐色	やや粗	良好	生駒西麓産
180	36	25	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：12.8　体部最大径：15.45	底部を欠く以外完存	内外：7.5YR6/3にぶい褐色	やや粗	良好	外面項縁部～体部下半煤　内面体部上位～下位にコゲ　頸部に竹管文2個　生駒西麓産
181	37		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：(13.1)	口縁～頸部	内：10YR8/2灰白色 外：2.5YR8/1灰白色	やや粗	良好	非生駒西麓産
182	37		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：14.6	口縁～体部上位	内外：5YR7/4にぶい橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
183	37		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：13.8　体部最大径：19.3	口縁部～体部中位	内外：5YR6/3にぶい橙色	やや粗	良好	外面口縁部～体部中位に煤 生駒西麓産
184	37	25	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：13.0　器高：22.5　体部最大径：16.25　底径5.2	口縁部及び体部の一部を欠く	内外：10YR6/2灰黄褐色	やや粗	良好	外面体部上位に黒斑　体部上位に列点文 生駒西麓産
185	37	25	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：(14.4)　器高：23.7　体部最大径：20.8　底径：4.5	体部の1/2を欠く	内外：10YR6/2灰黄褐色	やや粗	良好	外面口縁部～体部中位に煤　内面体部下位コゲ 生駒西麓産
186	37	25	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：(14.0)　器高：23.2　体部最大径：(17.3)　底径4.6	口縁部の一部を欠く以外完存	内外：10YR6/2灰黄褐色	粗い	良好	体部上位に箆孔あり 生駒西麓産
187	37	25	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：13.6　器高：21.9　体部最大径：17.0　底径：4.5	完形	内外：7.5YR7/4にぶい橙色	密	良好	外面体部中位以下煤　体部中位に直線文4条の記号 生駒西麓産
188	37	25	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：12.6　器高：24.55　体部最大径：20.1　底径：4.9	完形	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
189	37	26	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：12.4　器高：23.8　体部最大径：16.9　底径：4.2	完形	内外：5YR6/6橙色	やや粗	良好	体部中位以下煤　体部中位にコゲ 生駒西麓産
190	37	26	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：11.8　器高：21.1　体部最大径：16.9　底径：4.8	ほぼ完形	内外：10YR7/3にぶい黄橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
191	37	26	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：13.9　器高：22.8　体部最大径：19.6　底径：5.8	完形	内外：10YR5/2灰黄褐色	やや粗	良好	口縁部～体部下位煤　体部内面コゲ 生駒西麓産
192	37		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：(15.9)　器高：20.5　体部最大径：18.4　底径：5.2	口縁部を欠く以外は完存	内外：2.5Y8/1灰白色	密	良好	非生駒西麓産
193	38		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：(13.3)	体部中位以下欠損	内外：5YR6/6橙色	密	良好	体部上位に6本の直線文で構成される記号文 生駒西麓産
194	38	26	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：14.6　体部最大径：23.0	体部下位以下を欠く	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	粗い	良好	体部外面中位に煤付着 生駒西麓産
195	38	26	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：12.6　器高：23.6　体部最大径：19.2　底径：5.1	ほぼ完形	内外：2.5Y7/1灰白色	やや粗	良好	体部上位に黒斑 生駒西麓産
196	38	26	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	広口長径壺B	口径：(13.9)　体部最大径：20.4	底部を欠く以外完損	内外：10YR6/2灰黄褐色	やや粗	良好	体部外面中位煤付着　体部内面コゲ 生駒西麓産
197	38	26	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	二重口縁壺	口径：25.8	口頸部完存	内外：2.5YR7/4淡赤橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
198	38	26	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	二重口縁壺	口径：30.4	口頸部完存	内外：10YR7/3にぶい黄橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
199	38		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	口径：8.2	口頸部完存	内外：7.5YR7/4にぶい橙色	密	良好	生駒西麓産
200	38		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	口径：10.7	口頸部完存	内外：5YR7/6橙色	やや粗	良好	非生駒西麓産
201	38	27	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	口径：6.8　器高：8.9　体部最大径：8.4　底径：3.2	完形	内外：2.5Y7/2灰黄色	やや粗	良好	生駒西麓産
202	38		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	口径：(7.1)　器高：(8.4)　体部最大径：(7.6)　底径：3.3	口縁部～底部1/2	内：7.5YR6/3にぶい褐色 外：5YR7/6橙色	密	良好	非生駒西麓産
203	38	27	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	口径：7.1　器高：8.85　体部最大径：7.45　底径：3.0	完形	内外：5YR6/3にぶい橙色	やや粗	良好	体部中位にモミ圧痕 生駒西麓産
204	38		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	口径：(7.8)　器高：11.05　体部最大径：(8.4)　底径：3.9	口縁部～底部1/3	内外：10YR7/2にぶい黄橙色	密	良好	体部外面黒斑 非生駒西麓
205	38	27	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	口径：(7.1)　器高：9.9　体部最大径：8.1　底径：4.0	口縁部の一部を欠く以外完存	内外：5YR7/2明褐灰色	やや粗	良好	体部下位～底部に黒斑 生駒西麓産
206	38	27	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	口径：8.9　器高：11.5　体部最大径：9.35　底径：3.5	口縁～体部上位を欠く以外完存	内外：10YR6/2灰黄褐色	やや粗	良好	生駒西麓産
207	38		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	口径：8.4　体部最大径：9.8	口縁部、体部2/3	内外：10YR6/2灰黄褐色	やや粗	良好	口頸部及び体部に黒斑 生駒西麓産
208	38	27	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	口径：8.8　器高：12.0　体部最大径：8.6　底径：3.6	ほぼ完形	内外：2.5Y8/1灰白色	粗い	良好	底部内外面に黒斑 非生駒西麓産
209	38	27	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	口径：7.9　器高：12.15　体部最大径：9.9　底径：2.9	完形	内外：5YR7/6橙色	やや粗	良好	非生駒西麓産
210	38	27	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	口径：9.6　器高：14.7　体部最大径：10.4　底径：4.0	完形	内外：10YR7/1灰白色	やや粗	良好	生駒西麓産
211	38	27	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	口径：9.0　器高：13.2　体部最大径：9.5　底径：3.3	ほぼ完形	内外：10YR5/2灰黄褐色	やや粗	良好	生駒西麓産
212	38		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	体部最大径：11.2　底径：3.6	口縁部上位を欠く以外は完存	内外：7.5YR7/4にぶい橙色	やや粗	良好	口縁部～体部上位に煤 生駒西麓産
213	38	27	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	口径：(10.7)　器高：9.4　体部最大径：7.8　底径：4.1	口縁部1/2を欠く以外完存	内外：10YR5/2灰黄褐色	やや粗	良好	口縁部～体部外面煤付着 生駒西麓産
214	38		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	体部最大径：9.7　底径：3.9	体部以下完存	内外：10YR6/1褐灰色	やや粗	良好	生駒西麓産
215	38		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	体部最大径：(10.3)　底径：(4.3)	体部1/2	内外：2.5YR7/4淡赤橙色	やや粗	良好	非生駒西麓産
216	38	28	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	口径：8.7　器高：8.4　体部最大径：7.2　底径：4.5	口縁部を欠く以外は完存	内外：10YR7/2にぶい黄橙色	やや粗	良好	穿孔は焼成前 生駒西麓産
217	38	28	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	口径：10.2　器高：9.1　体部最大径：9.0　底径：3.55	ほぼ完形	内外：10YR6/2灰黄褐色	やや粗	良好	穿孔は焼成前 生駒西麓産
218	39		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	口径：11.0	口頸部完存	内外：7.5YR7/4にぶい橙色	密	良好	径部外面に縦に2個の竹管文 非生駒西麓産
219	39		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	口径：8.0　体部最大径：11.4	底部を欠く	内外：2.5YR6/3にぶい橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
220	39	27	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	口径：(11.0)　器高：13.3　体部最大径：10.7　底径：4.5	口縁部の一部を欠く以外完存	内外：10YR5/2灰黄褐色	やや粗	良好	体部外面中位以下煤 生駒西麓産

報告番号	挿図番号	図版番号	調査地区	遺構・層位	時期	器種	法量：単位cm、()復元値	残存部	色調	胎土	焼成	備考(弥生土器：角閃石を多く含むものは、生駒西麓産、含まないものは非生駒西麓と記す)
221	39	27	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	口径：9.4　器高：14.8　体部最大径：10.8　底径：3.8	口縁部の1/2を欠く以外は完存	内外：2.5Y7/1灰白色	やや粗	良好	体部以下煤　体部内面中位コゲ 体部外面黒斑　生駒西麓産
222	39		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	口径：(8.4)　器高：15.1　体部最大径：11.5　底径：4.5	口縁部2/3を欠く以外完存	内外：10YR8/3浅黄橙色	密	良好	口縁部から底部に縦位の１条の直線文 非生駒西麓産
223	39	27	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	口径：9.3　器高：14.4　体部最大径：10.3　底径：3.8	完形	内外：10YR8/3浅黄橙色	やや粗	良好	口縁部～底部黒斑 生駒西麓産
224	39	28	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	口径：8.3　器高：16.0　体部最大径：11.0　底径：4.55	ほぼ完形	内外：5YR7/6橙色	密	良好	生駒西麓産
225	39		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A1	口径：(10.2)　器高：16.0　体部最大径：12.8　底径：3.6	口縁部の2/3を欠く以外完存	内外：7.5YR7/6橙色	やや粗	良好	体部中位煤　体部～底部黒斑 非生駒西麓産
226	39		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	口径：12.2　体部最大径：11.5	口縁部～体部	内外：10YR6/2灰黄褐色	やや粗	良好	生駒西麓産
227	39	28	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	口径：9.7　器高：17.6　体部最大径：11.5　底径：3.2	口縁部の一部を欠く以外完存	内外：10YR6/2灰黄褐色	やや粗	良好	生駒西麓産
228	39		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	口径：10.1　器高：18.5　体部最大径：11.5　底径：5.0	完形	内外：10YR4/4褐色	やや粗	良好	口縁・体部ヘラ記号文 生駒西麓産
229	39	28	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	口径：9.7　器高：17.6　体部最大径：14.2　底径：5.2	完形	内外：10YR6/2灰黄褐色	粗い	良好	体部中位以下煤付着　体部燃により器面剥離 生駒西麓産
230	39		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	口径：9.0　器高：17.55　体部最大径：11.3　底径：3.7	完形	内外：10YR6/2灰黄褐色	やや粗	良好	体部上面に「U」記号文 生駒西麓産
231	39	28	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	口径：(11.1)　器高：17.75　体部最大径：14.9　底径：4.2	口縁部の2/1を欠く以外完存	内外：7.5YR7/4にぶい橙色	やや粗	良好	体部中位に穿孔 非生駒西麓産
232	39	28	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	口径：9.8　器高：18.85　体部最大径：12.6　底径：5.2	ほぼ完形	内外：10YR5/2灰黄褐色	粗い	良好	生駒西麓産
233	39	28	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	口径：9.3　器高：17.3　体部最大径：12.65　底径：4.1	ほぼ完形	内外：5YR7/6橙色	やや粗	良好	体部上位に縦位のヘラ記号文 非生駒西麓産
234	39	29	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	口径：9.7　器高：17.3　体部最大径：12.1　底径：4.0	ほぼ完形	内外：10YR7/1灰白色	密	良好	体部中位に穿孔 生駒西麓産
235	39		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	体部最大径：13.0　底径：4.5	体部1/2	内外：10YR8/3浅黄橙色	やや粗	良好	体部中位ヘラ記号文 非生駒西麓産
236	39		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	体部最大径：12.9　底径：3.5	体部1/2	内外：10YR8/3浅黄橙色	密	良好	体部にヘラ記号文 非生駒西麓産
237	39		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	体部最大径：13.0　底径：4.2	体部完存	内：10YR6/1褐灰色 外：10YR7/3にぶい黄橙色	やや粗	良好	体部上位に「U」の字ヘラ記号文　体部煤 生駒西麓産
238	40		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	口径：(11.1) 体部最大径：16.3	口縁部～体部	内外：10YR5/2灰黄褐色	やや粗	良好	体部黒斑 生駒西麓産
239	40		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	体部最大径：13.6　底径：4.3	頸部中位～底部	内外：10YR5/1褐灰色	粗い	良好	体部黒斑 生駒西麓産
240	40		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	体部最大径：13.7　底径：4.7	頸部中位以下完存	内外：10YR5/2灰黄褐色	やや粗	良好	体部中位に黒斑 生駒西麓産
241	40	29	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	口径：11.2　器高：21.9　体部最大径：13.9　底径：3.7	完形	内外：5YR7/6橙色	やや粗	良好	頸部上位に縦方向のヘラ記号文 非生駒西麓産
242	40	29	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	口径：8.6　器高：20.8　体部最大径：13.8　底径：4.8	完形	内：10YR7/4にぶい黄橙色 外：10YR6/4にぶい黄橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
243	40	29	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	口径：10.3　器高：18.9　体部最大径：12.3　底径：4.2	完形	内外：10YR7/3にぶい黄橙色	密	良好	生駒西麓産
244	40		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	口径：10.1　器高：20.3　体部最大径：15.4　底径：4.6	口縁部の一部を欠く以外完存	内：10YR5/2灰黄褐色 外：10YR6/3にぶい黄橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
245	40	29	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	口径：10.0　器高：19.45　体部最大径：11.5　底径：4.0	完形	内外：10YR6/2灰黄褐色	やや粗	良好	体部上位に竹管文３個 生駒西麓産
246	40	29	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	口径：10.7　器高：19.0　体部最大径：12.4　底径：4.0	完形	内外：7.5YR7/3にぶい橙色	やや粗	良好	非生駒西麓産
247	40	30	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	口径：9.4　器高：21.8　体部最大径：14.1　底径：4.6	完形	内外：7.5YR7/4にぶい橙色	粗い	良好	体部に煤 生駒西麓産
248	40	30	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	口径：10.7　器高：21.25　体部最大径：12.9　底径：3.4	完形	内外：2.5Y8/2灰白色	粗い	良好	非生駒西麓産
249	40	30	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	口径：12.0　器高：21.6　体部最大径：13.5　底径：4.4	完形	内外：2.5Y8/1灰白色	やや粗	良好	口頸部と体部の境に突起を貼り付ける 非生駒西麓産
250	40	30	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	口径：10.5　器高：20.3　体部最大径：15.3　底径：4.4	完形	内外：7.5YR7/6橙色	やや粗	良好	体部中位に煤 生駒西麓産
251	40		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	体部最大径：15.15　底径：4.9	体部ほぼ完形	内：10YR5/1褐灰色 外：10YR5/2灰黄褐色	やや粗	良好	生駒西麓産
252	40	30	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	体部最大径：14.7　底径：4.7	体部完存	内：5YR8/4淡橙色 外：5YR7/3にぶい橙色	やや粗	良好	体部上位にヘラ記号文　体部中位に黒斑 生駒西麓産
253	40	30	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	体部最大径：15.0　底径：4.4	体部約2/3	内外：10YR6/1褐灰色	やや粗	良好	体部上位に竹管文３個 生駒西麓産
254	40	30	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	長頸壺A2	体部最大径：14.0　底径：3.8	体部完存	内：10YR7/1灰白色 外：5YR7/6橙色	やや粗	良好	口頸部～体部に縦方向のヘラ記号文　体部上・下位の２ヶ所に黒斑　生駒西麓
255	41	30	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	短頸直口壺B	口径：9.5　器高：14.2　体部最大径：12.0　底径：4.4	ほぼ完形	内外：10YR8/1灰白色	密	良好	体部上位と中位に黒斑 非生駒西麓産
256	41		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	短頸直口壺B	口径：(9.3)　器高：16.15　体部最大径：13.4　底径：3.9	口縁部の2/3を欠く以外完存	内外：10YR8/1灰白色	やや粗	良好	体部上位～中位に煤 生駒西麓産
257	41		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	短頸直口壺B	口径：(12.0) 体部最大径：18.1	口縁部及び体部の一部を欠く	内外：7.5YR7/6橙色	やや粗	良好	体部中位以下煤 生駒西麓産
258	41	31	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	細頸壺	体部最大径：17.0　底径：5.3	口頸部下位以下完存	内：2.5Y8/1灰白色 外：10YR8/3浅黄橙色	密	良好	体部中位に黒斑 非生駒西麓産
259	41	31	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	細頸壺	体部最大径：15.75　底径：4.2	口頸部上位以下完存	内外：5YR6/3にぶい橙色	やや粗	良好	体部中位に黒斑 生駒西麓産
260	41		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	細頸壺	体部最大径：14.7　底径：4.4	体部完存	内外：10YR7/1灰白色	やや粗	良好	体部上意と下位の２ヶ所に黒斑 生駒西麓産
261	41	31	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	短頸直口壺A	口径：(8.7)　器高：10.3　体部最大径：(12.6)　底径：2.4	全体の2/3	内外：10YR6/1褐灰色	やや粗	良好	生駒西麓産
262	41	31	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	無頸壺	口径：(10.4)	口縁部1/2	内外：10YR6/1褐灰色	やや粗	良好	体部上位に２個一対の穿孔 生駒西麓産
263	41	31	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	無頸壺	口径：9.7　器高：12.0　体部最大径：13.8　底径：4.2	ほぼ完形	内外：10YR6/2灰黄褐色	密	良好	底部中央を貫通する焼成前の穿孔あり 生駒西麓産
264	41		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	無頸壺	口径：(11.7)	体部1/3	内外：10YR7/4にぶい黄橙色	密	良好	口縁部に擬凹線文 生駒西麓産
265	41		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	無頸壺	口径：(9.0)	底部を欠く	内外：10YR8/2灰白色	密	良好	非生駒西麓産
266	41	31	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	台付壺	口径：9.2　体部最大径：8.1	脚台部を欠く	内外：10YR5/2灰黄褐色	やや粗	良好	体部下位にヘラ記号文 生駒西麓産
267	41		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	台付壺	口径：6.5　体部最大径：10.1	脚台部を欠く	内外：5YR7/4にぶい橙色	密	良好	生駒西麓産
268	41	31	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	台付壺	口径：9.0　器高：15.3　体部最大径：12.6　裾径：9.8	ほぼ完形	内外：10YR5/2灰黄褐色	粗い	良好	口縁部に擬凹線文 生駒西麓産
269	41	31	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	台付壺	口径：9.2　器高：19.0　体部最大径：13.0　裾径：9.8	完形	内外：7.5YR7/4にぶい橙色	やや粗	良好	非生駒西麓産
270	42	32	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AI	口径：10.05　器高：9.45　体部最大径：8.8　底径：3.1	完形	内外：5YR7/6にぶい橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
271	42		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AI	口径：11.2　器高：9.3　体部最大径：9.0　底径：4.4	口縁部1/2を欠く以外完存	内外：10YR6/1褐灰色	やや粗	良好	外面体部中～下位に黒斑 生駒西麓産
272	42		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AI	口径：11.6　器高：11.6　体部最大径：10.4　底径：3.5	口縁部の一部を欠く以外は完存	内：7.5YR6/2灰白色 外：2.5YR6/6橙色	やや粗	良好	外面口縁部～体部下位に煤　内面体部上位にコゲ 非生駒西麓産
273	42		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AI	口径：13.2　体部最大径：11.6	口縁部～体部下位1/2	内：10YR7/3にぶい橙色 外：10YR5/1褐灰色	やや粗	良好	外面口縁部～体部中位に煤 生駒西麓産
274	42		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AI	口径：12.5　器高：10.4　体部最大径：11.3　底径：3.4	口縁部の一部を欠く以外完存	内外：5YR8/4淡橙色	やや粗	良好	外面口縁部～体部下位煤 非生駒西麓産
275	42		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AI	口径：9.4　器高：8.8　体部最大径：7.2　底径：3.6	完形	内外：7.5YR8/4浅黄橙色	やや粗	良好	生駒西麓産

報告番号	挿図番号	図版番号	調査地区	遺構・層位	時期	器種	法量：単位cm、()復元値	残存部	色調	胎土	焼成	備考(弥生土器：角閃石を多く含むものは、生駒西麓産、含まないものは非生駒西麓と記す)
276	42	32	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅠ	口径：12.6　器高：14.35　体部最大径：13.45　底径：4.15	完形	内：5YR7/4にぶい橙色 外：7.5YR6/6橙色	やや粗	良好	外面8割に煤付着　体部下位二次焼成のため剥離 生駒西麓産
277	42		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅠ	口径：12.2　器高：11.5　体部最大径：11.9　底径：3.4	口縁部1/3を欠く以外は完存	内外：5YR7/6橙色	粗い	良好	外面体部中位に黒斑 非生駒西麓産
278	42		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅠ	口径：11.4　器高：14.8　体部最大径：12.5　底径：4.2	口縁部を欠く以外は完存	内外：10YR5/1褐灰色	粗い	良好	体部外面に黒斑 生駒西麓産
279	42		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅠ	口径：14.2　器高：15.4　体部最大径：13.0　底径：4.3	完形	内外：10YR7/4にぶい黄橙色	粗い	良好	生駒西麓産
280	42	32	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅠ	口径：12.6　器高：14.2　体部最大径：12.4　底径：4.5	完形	内外：10YR4/6褐色	粗い	良好	生駒西麓産
281	42		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅠ	口径：12.4　器高：14.0　体部最大径：12.1　底径：4.0	完形	内外：10YR4/1褐灰色	粗い	良好	外面口縁部～体部下位煤　内面体部中位コゲ 生駒西麓産
282	42		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅠ	口径：14.4　体部最大径：15.1	口縁部～体部	内外：7.5YR8/2灰白色	やや粗	良好	外面体部中位煤 非生駒西麓産
283	42		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅠ	口径：15.3　体部最大径：16.3	口縁部から体部中位	内：10YR8/2灰白色 外：10YR7/1灰白色	やや粗	良好	非生駒西麓産
284	42		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅠ	口径：(12.9)　体部最大径：15.9	口縁部～体部上位1/2	内外：10YR7/2にぶい黄橙色	やや粗	良好	外面口縁部、体部中位に煤 生駒西麓産
285	42		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅠ	口径：16.1　器高：15.3　体部最大径：13.6　底径：4.6	完形	内：10YR8/3浅黄橙色 外：10YR7/2にぶい黄橙色	やや粗	良好	外面口縁部～体部上位煤内面体部中位コゲ 非生駒西麓産
286	42		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：13.6　器高：17.0　体部最大径：14.3　底径：3.9	口縁部の一部を欠く以外は完存	内外：10YR5/1褐灰色	やや粗	良好	外面口縁部、体部中位に煤 生駒西麓産
287	42		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：16.0　器高：17.2　体部最大径：14.1　底径：4.5	完形	内外：7.5YR6/3にぶい橙色	やや粗	良好	外面体部中位煤 非生駒西麓産
288	42		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：(14.5)　器高：16.4　体部最大径：14.5　底径：4.4	口縁部～体部の一部を欠く	内：7.5YR7/3にぶい橙色 外：10YR6/1褐灰色	密	良好	外面口縁部、体部中位以下煤　内面底部、体部上位にコゲ　非生駒西麓産
289	42		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：12.5　器高：16.55　体部最大径：13.2　底径：4.3	口縁部の一部を欠く以外は完存	内外：10YR6/2灰黄褐色	やや粗	良好	外面口縁部、体部中位に煤 生駒西麓産
290	42		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：(12.8)　器高：17.0　体部最大径：14.0　底径：4.2	口縁部の一部を欠く以外完存	内：10YR6/2灰黄褐色 外：10YR5/2灰黄褐色	粗い	良好	外面口縁部、体部中位に煤 生駒西麓産
291	42	32	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：(14.6)　器高：19.65　体部最大径：16.1　底径：4.4	口縁部の一部を欠く以外は完存	内外：7.5YR6/3にぶい褐色	粗い	良好	外面体部中位以下煤 生駒西麓産
292	42		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：14.8　器高：17.3　体部最大径：14.0　底径：(4.5)	体部下半～底部を欠く以外完存	内外：10YR6/2灰黄褐色	やや粗	良好	外面未使用 生駒西麓産
293	42		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：13.4　器高：20.1　体部最大径：16.0　底径：4.6	完形	内外：7.5YR8/3浅黄橙色	やや粗	良好	外面口縁部、体部中～下位に煤 非生駒西麓産
294	43		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：14.0　器高：18.1　体部最大径：13.0　底径：5.0	口縁部の一部を欠く以外は完存	内外：7.5YR5/2灰褐色	やや粗	良好	外面口縁部～体部中位煤　内面体部上位にコゲ 生駒西麓産
295	43		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：16.1　器高：20.3　体部最大径：15.8　底径：4.0	口縁部の一部を欠く以外は完存	内：7.5YR7/6にぶい橙色 外：7.5YR6/4にぶい橙色	やや粗	良好	外面体部中位～下位煤 非生駒西麓産
296	43		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：15.6　器高：21.3　体部最大径：17.0　底径：4.4	口縁部～体部中位の一部を欠く	内外：7.5YR7/3にぶい橙色	やや粗	良好	外面口縁部、体部中位に煤 生駒西麓産
297	43		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：15.9　器高：22.7　体部最大径：17.3　底径：4.1	完形	内外：10YR5/4にぶい黄褐色	やや粗	良好	生駒西麓産
298	43		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：(15.7)　体部最大径：16.0	口縁部～体部下半	内：7.5YRにぶい橙色 外：10YR6/2灰黄褐色	やや粗	良好	外面口縁部～体部下半煤 生駒西麓産
299	43	32	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：15.4　器高：21.6　体部最大径：18.1　底径：4.2	完形	内：7.5YR7/3にぶい橙色 外：7.5YR6/1褐灰色	やや粗	良好	外面口縁部、体部中位～底部に煤　内面体部下半コゲ　生駒西麓産
300	43		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：15.0　体部最大径：17.0	口縁部～体部下半	内：10YR8/3浅黄橙色 外：10YR7/2にぶい黄橙色	やや粗	良好	外面口縁部～体部下半煤　内面体部中位コゲ 生駒西麓産
301	43	32	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：14.9　器高：17.6　体部最大径：15.7　底径：4.0	口縁部と体部の一部を欠く	内外：10YR6/1褐灰色 外：	やや粗	良好	外面口縁部、体部中位～下位煤 生駒西麓産
302	43		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：(13.2)　器高：18.6　体部最大径：15.7　底径：4.8	ほぼ完形	内外：7.5YR5/2灰褐色	やや粗	良好	外面口縁部、体部中位煤 生駒西麓産
303	43		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：16.1　器高：18.6　体部最大径：15.1　底径：3.6	完形	内：7.5YR6/4にぶい橙色 外：7.5YR5/1褐灰色	粗い	良好	外面口縁部、体部中位に煤　内面体部下位にコゲ 生駒西麓産
304	43		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：15.9　器高：16.8　体部最大径：14.1　底径：3.9	口縁部の一部を欠く以外は完存	内：7.5YR7/3にぶい橙色 外：7.5YR7/4にぶい橙色	やや粗	良好	口縁部打ち欠き？　外面口縁部～体部下位に煤　内面体部中～下位コゲ　生駒西麓産
305	43		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：(17.0)　器高：20.3　体部最大径：(16.0)　底径：	口縁部～体部上半を一部欠く	内外：7.5YR6/4にぶい橙色	やや粗	良好	外面口縁部～体部下位に煤　内面体部下半コゲ 生駒西麓産
306	43		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：15.5　器高：15.6　体部最大径：14.0　底径：4.8	口縁部～底部1/2	内外：10YR6/2灰黄褐色	やや粗	良好	生駒西麓産
307	44		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：(15.8)	口縁部～体部上位1/2	内外：10YR8/2灰白色	密	良好	外面口縁部煤 非生駒西麓産
308	44		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：13.6　器高：18.05　体部最大径：16.25　底径：5.15	完形	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	粗い	良好	未使用 生駒西麓産
309	44		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：14.6　器高：17.8　体部最大径：15.65　底径：4.9	完形	内外：10YR7/2にぶい黄橙色	やや粗	良好	外面体部上位～下位に煤　内面底部コゲ 生駒西麓産
310	44	32	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：15.3　器高：21.5　体部最大径：18.5　底径：4.15	ほぼ完形	内外：10YR5/1褐灰色	粗い	良好	外面体部中位に煤　内面体部下位にコゲ 生駒西麓産
311	44		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：15.6　器高：18.8　体部最大径：15.5　底径：4.5	ほぼ完形	内：10YR8/1灰白色 外：10YR7/2にぶい黄橙色	やや粗	良好	外面口縁部から体部中位に煤　内面体部上位にコゲ 生駒西麓産
312	44		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：14.4　器高：21.8　体部最大径：16.8　底径：5.2	完形	内外：10YR5/1褐灰色	やや粗	良好	未使用 生駒西麓産
313	44		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：(15.6)	口縁部～体部上位1/2	内外：7.5YR6/3にぶい褐色	やや粗	良好	外面口縁部、体部上位煤 生駒西麓産
314	44		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：(14.0)　体部最大径：15.1	体部下位以下欠損	内外：10YR6/1褐灰色	やや粗	良好	外面体部上位以下煤　燃焼による器面剥離 生駒西麓産
315	44		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：15.8　器高：18.4　体部最大径：15.4　底径：5.2	口縁部の一部を欠く以外完存	内：10YR8/2灰白色 外：10YR7/1灰白色	やや粗	良好	外面口縁部、体部上位～中位煤　内面体部中位にコゲ　生駒西麓産
316	44		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：14.8　器高：18.9　体部最大径：16.0　底径：4.7	完形	内外：7.5YR7/6橙色	やや粗	良好	外面体部中～底部煤　燃焼により器面剥離　内面体部下半にコゲ　非生駒西麓産
317	44	33	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：16.4　器高：22.1　体部最大径：16.4　底径：3.9	ほぼ完形	内：10YR7/2にぶい黄橙色 外：2.5YR7/6橙色	やや粗	良好	外面口縁部～体部下位に煤　内面体部中位にコゲ 生駒西麓産
318	44	33	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：15.6　器高：17.9　体部最大径：14.65　底径：4.15	完形	内：7.5YR7/4にぶい橙色 外：7.5YR6/3にぶい褐色	やや粗	良好	外面口縁部、体部上位～下位煤　内面底部コゲ 生駒西麓産
319	44		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：(19.2)　体部最大径：22.0	口縁部～体部1/2	内：7.5YR7/3にぶい橙色 外：10YR6/2灰黄褐色	やや粗	良好	外面口縁部～体部煤 生駒西麓産
320	44		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅡ	口径：17.2　体部最大径：21.4	口縁部～体部中位2/3	内：10YR6/3にぶい黄橙色 外：10YR5/3にぶい黄褐色	やや粗	良好	外面口縁部、体部中位に煤 生駒西麓産
321	45		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅢ	口径：18.0　体部最大径：22.2	口縁部～体部中位	内外：10YR8/4浅黄橙色	やや粗	良好	口縁部打ち欠き　外面口縁部～体部上位煤 生駒西麓産
322	45		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅢ	口径：17.2	口縁～体部上半	内外：7.5YR6/4にぶい橙色	粗い	良好	口縁部打ち欠き 生駒西麓産
323	45		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅢ	口径：(18.8)　体部最大径：(22.2)	口縁部～体部中位1/3	内：7.5YR6/4にぶい橙色 外：10YR6/1褐灰色	やや粗	良好	体部中位に煤 生駒西麓産
324	45		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅢ	口径：17.0　体部最大径：22.45	口縁部～体部中位	内外：7.5YR8/6浅黄橙色	やや粗	良好	外面体部中位に煤 非生駒西麓産
325	45		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅢ	口径：16.3　体部最大径：22.2	底部欠損以外ほぼ完存	内外：10YR7/3にぶい黄橙色	やや粗	良好	外面体部中位に煤 生駒西麓産
326	45		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅢ	口径：15.1　器高：25.7　体部最大径：19.1　底径：4.2	ほぼ完形	内：7.5YR7/4にぶい橙色 外：10YR7/4にぶい黄橙色	やや粗	良好	外面口縁部～底部煤付着　内面体部下半炭化物付着 生駒西麓産
327	45	33	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅢ	口径：15.9　器高：24.2　体部最大径：18.5　底径：3.9	ほぼ完形	内：7.5YR7/4にぶい橙色 外：10YR5/1褐灰色	やや粗	良好	外面体部上位～中位煤　内面体部下半に炭化物 生駒西麓産
328	45		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅢ	口径：17.0　体部最大径：19.0	底部欠損	内外：10YR7/2にぶい黄橙色	やや粗	良好	外面体部中位に煤 生駒西麓産
329	45		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅢ	口径：17.5	口縁部～体部上半1/2	内外：10YR7/2にぶい黄橙色	やや粗	良好	外面煤付着 生駒西麓産
330	45		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅢ	口径：18.0　体部最大径：21.5	底部欠損	内外：10YR5/4にぶい黄褐色	やや粗	良好	外面煤付着 生駒西麓産

報告番号	挿図番号	図版番号	調査地区	遺構・層位	時期	器種	法量：単位cm、()復元値	残存部	色調	胎土	焼成	備考(弥生土器：角閃石を多く含むものは、生駒西麓産、含まないものは非生駒西麓と記す)
331	45	33	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅢ	口径：15.6　器高：23.8　体部最大径：18.9　底径：5.4	完形	内：10YR8/4浅黄橙色 外：10YR6/2灰黄褐色	やや粗	良好	外面口縁部～体部中位に煤　内面体部中位以下コゲ 生駒西麓産
332	45	33	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅢ	口径：15.2　器高：23.8　体部最大径：20.4　底径：4.4	口縁部の一部を欠く以外完存	内外：10YR8/3浅黄橙色	やや粗	良好	外面体部中位煤　内面体部下位ドーナツ状コゲ 非生駒西麓産
333	45		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅢ	口径：18.55　体部最大径：22.8	体部中位以下を欠く	内外：10YR8/3	やや粗	良好	外面体部上位煤 非生駒西麓産
334	46	33	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅢ	口径：15.6　器高：23.3　体部最大径：19.2　底径：5.2	口縁部～体部中位1/2	内外：10YR5/3にぶい黄褐色	やや粗	良好	外面体部中位煤　底部外面木の葉圧痕 生駒西麓産
335	46		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅢ	口径：16.9　器高：23.3　体部最大径：19.3　底径：4.9	口縁部と体部の一部を欠く	内外：10YR5/2灰黄褐色	粗い	良好	外面口縁部から体部上位煤　内面体部下位コゲ 生駒西麓産
336	46		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅢ	口径：16.6　器高：24.7　体部最大径：21.0　底径：4.5	体部中～下位を欠く以外完存	内外：7.5YR8/8黄橙色	やや粗	良好	外面体部上位以下煤　内面体部以下コゲ 生駒西麓産
337	46		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅢ	口径：14.8　器高：23.0　体部最大径：18.6　底径：3.6	ほぼ完形	内外：10YR6/2にぶい黄橙色	やや粗	良好	外面体部中位煤、器面剥離　内面体部中位以下コゲ 生駒西麓産
338	46	33	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅢ	口径：16.0　器高：26.7　体部最大径：20.6　底径：5.0	完形	内外：10YR7/4にぶい黄橙色	やや粗	良好	外面体部中位煤　内面体部中位と下位にコゲ 生駒西麓産
339	46		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅢ	口径：19.0　器高：27.4　体部最大径：22.3　底径：5.8	ほぼ完形	内外：10YR5/1褐灰色	やや粗	良好	外面口縁部～体部中位に煤　内面体部中位以下コゲ 生駒西麓産
340	46		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅢ	口径：(14.8)　器高：25.2　体部最大径：19.5　底径：	口縁部の一部を欠く以外完存	内外：10YR5/2灰黄褐色	やや粗	良好	外面口縁部～体部中位に煤　内面体部下位コゲ 生駒西麓産
341	46		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅢ	口径：16.0　器高：26.6　体部最大径：20.65　底径：5.0	ほぼ完形	内外：10YR6/2灰黄褐色	やや粗	良好	外面口縁部・体部中位に煤　内面体部下半コゲ 生駒西麓産
342	46	33	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅢ	口径：13.0　器高：23.5　体部最大径：19.1　底径：(4.0)	体部の上位～中位を欠く	内外：10YR6/2灰黄褐色	やや粗	良好	外面体部中位煤　内面体部中位に円形状コゲ 生駒西麓産
343	47	34	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅣ	口径：15.5　器高：27.6　体部最大径：20.9　底径：4.7	体部中位の一部を欠く以外完存	内：10YR5/1褐灰色 外：10YR8/3浅黄橙色	やや粗	良好	外面体部中位煤　内面底部コゲ 生駒西麓産
344	47		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅣ	口径：24.0　体部最大径：29.9	底部を欠く	内外：10YR5/3にぶい黄褐色	粗い	良好	外面体部中位煤　内面体部下位にコゲ 生駒西麓産
345	47	34	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅣ	口径：17.2　器高：29.25　体部最大径：21.75　底径：5.8	完形	内：10YR7/1灰白色 外：10YR6/4にぶい黄橙色	やや粗	良好	外面口縁部・体部上位・中位煤　内面体部以下コゲ 生駒西麓産
346	47	34	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅣ	口径：15.2　器高：27.2　体部最大径：20.45　底径：4.2	口縁部の一部を欠く以外完存	内外：7.5YR7/6橙色	やや粗	良好	外面体部中位に煤　内面体部下位にコゲ 非生駒西麓産
347	47		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅣ	口径：17.6　体部最大径：22.0	体部下半を欠く	内外：10YR8/1灰白色	やや粗	良好	外面上位～中位に煤 非生駒西麓産
348	47	34	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅣ	口径：18.05　器高：26.7　体部最大径：20.1　底径：4.5	完形	内：10YR5/1褐灰色 外：10YR7/IVにぶい黄橙色	やや粗	良好	外面口縁部・体部中位煤　燃焼により剥離 生駒西麓産
349	47	34	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅣ	口径：18.2　器高：28.7　体部最大径：22.1　底径：4.9	完形	内：10YR6/1褐灰色 外：7.5YR6/4にぶい橙色	やや粗	良好	口縁部端面にキザミ目　外面体部中位に黒斑 生駒西麓産
350	47	34	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	甕AⅣ	口径：17.6　器高：28.7　体部最大径：21.6　底径：3.9	完形	10YR5/4にぶい黄褐色	やや粗	良好	非生駒西麓産
351	48	34	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	台付甕	口径：15.0　器高：31.7　体部最大径：22.05　底径：5.4	完形	内外：7.5YR8/3浅黄橙色	やや粗	良好	外面口縁部・体部中位煤　内面体部下位煤 非生駒西麓産
352	48	34	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	台付甕	口径：17.6　器高：27.35　体部最大径：19.8　底径：9.4	完形	内外：10YR5/1褐灰色	やや粗	良好	外面口縁部・体部上位～下位煤　内面体部下位コゲ 生駒西麓産
353	48	35	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢A	口径：5.4　器高：4.75　体部最大径：4.8　底径：2.5	完形	内：2.5Y5/3黄褐色 外：2.5Y6/3にぶい黄橙色	やや粗	良好	ミニチュア品 生駒西麓産
354	48	35	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢A	口径：11.7　器高：8.75 底径：3.9	完形	内外：10YR6/2灰黄色	やや粗	良好	生駒西麓産
355	48	35	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢A	口径：(14.6)　器高：9.15 底径：4.1	口縁部の一部を欠く	内：7.5YR8/6浅黄橙色 外：7.5YR7/4にぶい橙色	やや粗	良好	外面体部に煤 非生駒西麓産
356	48		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	中形鉢A2	口径：(17.8)	口縁部～体部1/5	内：2.5Y5/1黄灰色 外：2.5Y5/2灰黄色	やや粗	良好	外面下半黒斑 生駒西麓産
357	48		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	中形鉢A2	口径：(22.6)	口縁～体部6/1	内外：5Y5/1灰色	やや粗	良好	生駒西麓産
358	48	35	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	中形鉢A1	口径：19.0　器高：12.2 底径：4.6	全体の3/4	内外：10YR5/3にぶい黄褐色	やや粗	良好	底部内面に窪み 生駒西麓産
359	48	35	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	中形鉢A1	口径：(18.5)　器高：11.5 底径：4.0	全体の1/2	内外：10YR7/3にぶい黄橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
360	48	35	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	大形鉢A	口径：25.6　器高：10.0 底径：5.5	ほぼ完形	内外：2.5Y6/2灰黄色	やや粗	良好	生駒西麓産
361	48	35	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	大形鉢B	口径：25.8　器高：14.4 底径：4.9	全体の5/4	内外：10YR5/3にぶい黄褐色	やや粗	良好	生駒西麓産
362	48	35	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	大形鉢B	口径：32.9　器高：16.5 底径：5.4	完形	内：10YR7/3にぶい黄橙色 外：10YR6/2灰黄褐色	やや粗	良好	外面体部中位に黒斑 生駒西麓産
363	48	35	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	大形鉢B	口径：(25.4)	口縁～体部1/6	内外：2.5Y8/3淡黄色	やや粗	良好	生駒西麓産
364	48	36	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	大形鉢B	口径：27.4　器高：13.1 底径：5.9	ほぼ完形	内外：7.5YR5/3にぶい褐色	やや粗	良好	生駒西麓産
365	48	36	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	大形鉢C	口径：28.0	口縁～体部1/4	内外：10YR8/3浅黄橙色	密	良好	把手あり 生駒西麓産
366	48	36	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	大形鉢B	口径：31.4　器高：18.0 底径：4.3	口縁～体部の一部を欠く以外完存	内外：10YR6/4にぶい黄橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
367	48	36	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	台付鉢A	口径：(12.6)　器高：8.3 裾径5.4	脚部完存 鉢部1/3	内外：7.5YR7/4にぶい橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
368	49	36	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B1	口径：6.2　器高：4.3 底径：3.3	完形	内：10YR7/1灰白色 外：10YR5/1褐灰色	密	良好	ミニチュア品 生駒西麓産
369	49	36	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B1	口径：6.5　器高：4.2 底径：3.5	ほぼ完形	内外：10YR2/1黒色	粗い	良好	ミニチュア品 生駒西麓産
370	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B1	口径：11.2	底部を欠く	内外：2.5Y5/2暗灰黄色	密	良好	生駒西麓産
371	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B1	口径：11.7　器高：6.55 底径：3.6	口縁部の一部を欠く以外は完存	内外：2.5Y7/2灰黄色	やや粗	良好	波状口縁 生駒西麓産
372	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B1	口径：12.0　器高：8.0 底径：4.15	口縁部の一部を欠く以外完存	内外：10YR7/4にぶい黄橙色	密	良好	生駒西麓産
373	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B1	口径：13.3　器高：8.0 底径：3.75	口縁部の一部を欠く以外完存	内外：10YR5/2灰黄褐色	粗い	良好	生駒西麓産
374	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B1	口径：(14.6)　器高：7.6 底径：4.2	約1/2	内外：10YR5/3にぶい黄褐色	やや粗	良好	生駒西麓産
375	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B1	口径：(12.4)　器高：6.1 底径：3.7	1/4	内外：10YR7/1灰白色	やや粗	良好	生駒西麓産
376	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B1	口径：12.85　器高：7.2 底径：3.5	口縁部の一部を欠く以外完存	内外：10YR8/4浅黄橙色	やや粗	良好	体部内面黒斑 非生駒西麓産
377	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B1	口径：(13.8)　器高：5.65 底径：4.5	口縁部の一部を欠く	内：10YR3/1黒褐色 外：10YR5/3にぶい黄褐色	粗い	良好	生駒西麓産
378	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B1	口径：14.8　器高：6.6 底径：4.1	口縁部の一部を欠く以外完存	内外：10YR6/4にぶい黄橙色	やや粗	良好	口縁部黒斑２ヶ所 生駒西麓産
379	49	36	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B1	口径：14.6　器高：8.25 底径：4.4	口縁部の一部を欠く以外完存	内外：10YR5/3にぶい黄褐色	やや粗	良好	生駒西麓産
380	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B1	口径：14.2　器高：7.85 底径：3.4	口縁部の一部を欠く以外完存	内外：10YR5/3にぶい黄褐色	粗い	良好	生駒西麓産
381	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B1	口径：14.6　器高：6.9 底径：4.2	完形	内：10YR5/3にぶい黄褐色 外：10YR4/2灰黄褐色	やや粗	良好	体部外面に煤 生駒西麓産
382	49	36	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B1	口径：14.9　器高：12.35 底径：3.6	完形	内外：10YR6/4にぶい黄橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
383	49	36	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	中形鉢B	口径：23.0　器高：12.2 底径：5.5	完形	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	やや粗	良好	体部に黒斑 生駒西麓産
384	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B2	口径：11.5　器高：7.2 底径：3.5	完形	内外：10R5/8赤色	密	良好	非生駒西麓産
385	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B2	口径：13.5　器高：6.8 底径：4.1	完形	内：10YR8/2灰白色 外：10YR7/2にぶい黄橙色	密	良好	生駒西麓産

報告番号	挿図番号	図版番号	調査地区	遺構・層位	時期	器種	法量：単位cm、()復元値	残存部	色調	胎土	焼成	備考(弥生土器：角閃石を多く含むものは、生駒西麓産、含まないものは非生駒西麓と記す)
386	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B2	口径：11.6　器高：6.7 底径：4.0	完形	内外：10YR6/2灰黄褐色	密	良好	生駒西麓産
387	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B2	口径：12.5　器高：8.7 底径：4.1	ほぼ完形	内外：10YR7/2にぶい黄橙色	密	良好	波状口縁　口縁部外面黒斑 生駒西麓産
388	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B2	口径：10.4　器高：7.0 底径：4.1	ほぼ完形	内外：2.5Y7/2灰黄色	やや粗	良好	波状口縁　口縁部外面黒斑 生駒西麓産
389	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B2	口径：12.0　器高：6.75 底径：3.2	完形	内外：7.5YR7/6橙色	密	良好	非生駒西麓産
390	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B2	口径：(14.3)　器高：7.6 底径：4.5	口縁部の一部を欠く	内外：7.5YR8/6浅黄橙色	やや粗	良好	非生駒西麓産
391	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B2	口径：14.6　器高：7.9 底径：4.2	完形	内外：10YR6/2灰黄褐色	密	良好	体部外面下位、体部内面下位、高台部、黒斑 生駒西麓産
392	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B2	口径：15.0　器高：6.9 底径：4.3	完形	内外：10YR6/4にぶい黄橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
393	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢B2	口径：16.2　器高：8.9 底径：4.6	完形	内外：10YR5/2灰黄褐色	やや粗	良好	波状口縁 生駒西麓産
394	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢C	口径：10.4	1/2	内外：2.5Y5/2暗灰黄色	やや粗	良好	生駒西麓産
395	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢C	口径：11.4　器高：6.7 底径：4.6	完形	内外：10YR6/4にぶい黄橙色	密	良好	生駒西麓産
396	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢C	口径：8.6　器高：6.4 底径：3.3	ほぼ完形	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	密	良好	生駒西麓産
397	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	小形鉢C	口径：12.2　器高：7.15 底径：4.1	完形	内外：10YR7/6明黄褐色	密	良好	生駒西麓産
398	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	中形鉢C	口径：17.1　器高：8.3 底径：4.1	ほぼ完形	内外：10YR5/3にぶい黄褐色	密	良好	生駒西麓産
399	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	中形鉢C	口径：15.3　器高：11.0 底径：4.0	完形	内外：10YR7/4にぶい黄橙色	密	良好	口縁端部未成形 生駒西麓産
400	49	37	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有孔鉢	口径：11.4　器高：8.0 底径：3.1	完形	内外：2.5Y7/3浅黄色	密	良好	波状口縁　焼成後穿孔 生駒西麓産
401	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有孔鉢	口径：11.7　器高：7.8 底径：2.7	口縁部の一部を欠く	内外：5Y6/6橙色		良好	波状口縁　焼成後穿孔　内面の大半が黒斑 生駒西麓産
402	49	37	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有孔鉢	口径：14.7　器高：8.9 底径：4.1	完形	内外：10YR5/2灰黄褐色		良好	口縁部外面及び口縁部から体部下位内面に黒斑　焼成前穿孔　生駒西麓産
403	49		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有孔鉢	口径：17.2　器高：10.6 底径：4.8	ほぼ完形	内外：2.5Y6/1黄灰色	やや粗	良好	焼成前穿孔 生駒西麓産
404	50		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有孔鉢	口径：12.0　器高：9.75 底径：3.9	1/2	内外：7.5YR7/4にぶい橙色	やや粗	良好	焼成前穿孔 生駒西麓産
405	50		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有孔鉢	口径：(9.6)　器高：8.0 底径：(4.3)	1/2	内外：2.5Y7/3浅黄色	粗い	良好	体部中位～底部黒斑　焼成前穿孔 生駒西麓産
406	50	37	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有孔鉢	口径：(10.2)　器高：8.9 底径：3.0	口縁部の一部を欠く以外完存	内外：2.5Y8/2灰白色	密	良好	波状口縁　体部上位黒斑　焼成前穿孔 生駒西麓産
407	50	37	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有孔鉢	口径：15.2　器高：10.2 底径：3.0	完形	内外：7.5YR6/4にぶい橙色	やや粗	良好	焼成前穿孔 生駒西麓産
408	50		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有孔鉢	口径：15.2　器高：9.0 底径：3.4	口縁部の一部欠損	内外：10YR7/4にぶい黄橙色	やや粗	良好	焼成前穿孔 非生駒西麓産
409	50		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有孔鉢	口径：17.0　器高：9.75 底径：3.6	完形	内外：10YR6/1褐灰色	やや粗	良好	体部外面に黒斑　焼成前穿孔 生駒西麓産
410	50		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有稜高杯A2	口径：17.3	杯部完存	内外：10YR5/1褐灰色	密	良好	杯部内外面に煤 生駒西麓産
411	50		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有稜高杯A2	口径：21.6	杯部ほぼ完存	内外：10YR7/4にぶい黄橙色	密	良好	口縁部黒斑 生駒西麓産
412	50		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有稜高杯A2	口径：26.2	杯部3/4	内：7.5YR5/2灰褐色 外：7.5YR7/4にぶい橙色	やや粗	良好	口縁部黒斑 生駒西麓産
413	50		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有稜高杯A2	口径：18.8　器高：12.2 裾部径：(11.8)	杯部4/5 脚部1/2	内外：10YR8/4浅黄橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
414	50	37	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有稜高杯A2	口径：22.4	杯部1/2 裾部を欠く	内外：10YR7/6明黄褐色	やや粗	良好	口縁部黒斑 生駒西麓産
415	50	37	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有稜高杯A2	口径：26.0　器高：19.6 裾部径：17.4	ほぼ完形	内外：7.5YR7/6橙色	密	良好	非生駒西麓産
416	50		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有稜高杯A2	口径：25.9　器高：17.6 裾部径：16.6	口縁部の一部を欠く以外完存	内外：2.5Y8/1灰褐色	粗い	良好	非生駒西麓産
417	50		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有稜高杯A2	口径：21.0　器高：15.1 裾部径13.0	ほぼ完形	内：7.5YR6/4にぶい橙色 外：7.5YR8/6浅黄橙色	やや粗	良好	非生駒西麓産
418	50	38	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有稜高杯A2	口径：26.4　器高：17.3 裾部径：13.0	ほぼ完形	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	密	良好	口縁部外面黒斑 生駒西麓産
419	50	38	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有稜高杯A2	口径：31.5　器高：18.8 裾部径：15.2	ほぼ完形	内外：10YR5/2灰黄褐色	やや粗	良好	生駒西麓産
420	50		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有稜高杯A3	口径：10.4　器高：8.3 裾部径：6.9	ほぼ完形	内外：7.5YR8/4浅黄橙色	密	良好	非生駒西麓産
421	50	38	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有稜高杯A1	口径：22.7	杯部3/4 裾部欠損	内外：　2.5Y5/2暗灰黄色	やや粗	良好	口縁部内面黒斑 生駒西麓産
422	51		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有稜高杯A1	口径：22.2　器高：16.3 裾部径：13.5	完形	内外：10YR5/8黄褐色		良好	生駒西麓産
423	51	38	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有稜高杯A1	口径：(20.4)　器高：15.8 裾部径：13.1	杯部1/2 脚部完存	内外：10YR7/4にぶい黄橙色	やや粗	良好	裾端部にキザミ目 非生駒西麓産
424	51		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有稜高杯A3	口径：21.2　器高：10.6 裾部径：(13.7)	杯部1/2 脚部1/3	内：2.5Y6/2灰黄色 外：10YR4/1褐灰色	やや粗	良好	生駒西麓産
425	51		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有稜高杯A3	口径：(25.9)	杯部1/3 裾部欠損	内外：10YR7/4にぶい黄橙色	やや粗	良好	口縁部外面黒斑 生駒西麓産
426	51		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有稜高杯A3	口径：(27.6)　器高：13.1 裾部径：13.5	杯部1/4 裾部1/6	内外：2.5Y8/2灰白色	密	良好	裾端部にキザミ目　口縁部内外面黒斑 非生駒西麓産
427	51	38	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有稜高杯A3	口径：22.7　器高：16.1 裾部径：14.8	ほぼ完形	内：7.5YR8/6浅黄橙色 外：2.5YR7/8橙色	やや粗	良好	裾端部にキザミ目　口縁部外面煤 非生駒西麓産
428	51		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有稜高杯A3	口径：(23.2)　器高：14.2 裾部径：14.3	杯部1/2 脚部2/3	内外：5YR6/4にぶい橙色	密	良好	生駒西麓産
429	51		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有稜高杯A3	口径：24.5　器高：15.55 裾部径：16.0	杯部ほぼ完存 裾部1/2	内外：5YR6/4にぶい橙色	密	良好	生駒西麓産
430	51	38	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	有稜高杯A3	口径：27.7　器高：16.0 裾部径：(13.9)	杯部ほぼ完存 裾部2/3	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	密	良好	生駒西麓産
431	51		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	高杯	部径：11.6	杯口縁部を欠く	内外：10YR7/6明黄褐色	密	良好	生駒西麓産
432	51		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	高杯	裾部径：(10.5)	杯底部～裾部	内外：2.5Y8/3浅黄色	密	良好	非生駒西麓産
433	51		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	高杯	裾部径：16.2	杯底部～裾部	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
434	51		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	高杯脚部	裾部径：14.4	脚部完存	内外：10YR7/2にぶい黄橙色	密	良好	生駒西麓産
435	51		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	高杯脚部	裾部径：16.4	裾部1/2	内外：7.5YR7/6橙色	密	良好	生駒西麓産
436	51		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	高杯脚部	裾部径：(12.6)	脚部完存	内外：10YR7/3にぶい黄橙色	密	良好	生駒西麓産
437	51		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	高杯脚部	裾部径：13.7	脚部ほぼ完存	内外：10YR7/3にぶい黄橙色	密	良好	非生駒西麓産
438	51		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	高杯脚部	裾部径：10.9	脚部4/5	内外：10YR7/4にぶい黄橙色	密	良好	生駒西麓産
439	52	38	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	椀形高杯A2	口径：20.9　器高：15.7 裾部径：14.8	完形	内外：5YR6/6橙色	やや粗	良好	口縁端面に4条の擬凹線文 生駒西麓産
440	52	38	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	椀形高杯A2	口径：20.0	杯部ほぼ完存 裾部欠損	内外：5YR6/6橙色	やや粗	良好	生駒西麓産

報告番号	挿図番号	図版番号	調査地区	遺構・層位	時期	器種	法量：単位cm、()復元値	残存部	色調	胎土	焼成	備考(弥生土器：角閃石を多く含むものは、生駒西麓産、含まないものは非生駒西麓と記す)
441	52		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	椀形高杯B1	口径：13.0　器高：10.4 裾部径：(8.5)	杯部2/3 裾部1/2	内外：7.5YR7/4にぶい橙色	やや粗	良好	口縁部黒斑 生駒西麓産
442	52		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	椀形高杯B1	口径：13.4　器高：10.2 裾部径：10.6	杯部完存 裾部2/3	内外：10YR5/1褐灰色	やや粗	良好	生駒西麓産
443	52		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	椀形高杯B1	口径：14.4	杯部完存 裾部欠損	内外：7.5YR6/4にぶい橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
444	52		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	椀形高杯B1	口径：12.2　器高：11.2 裾部径：8.3	杯部1/2 脚部完存	内外：10YR8/3浅黄橙色	密	良好	非生駒西麓産
445	52	39	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	椀形高杯B2	口径：15.7　器高：13.3 裾部径：9.8	杯部1/2 裾部1/3	内外：10YR8/3浅黄橙色	やや粗	良好	非生駒西麓産
446	52		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	椀形高杯B2	口径：16.1　器高：13.7 裾部径：10.6	杯部1/2 裾部2/3	内外：10YR8/2灰白色	密	良好	生駒西麓産
447	52		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	椀形高杯B2	口径：(15.0)　器高：12.9 裾部径：12.2	杯部1/2 脚部完存	内外：5YR7/6橙色	やや粗	良好	杯口縁部及び裾部に黒斑 生駒西麓産
448	52		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	椀形高杯B2	口径：(18.7)	杯部2/3 裾部欠損	内外：2.5YR8/2灰白色	密	良好	非生駒西麓産
449	52	39	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	椀形高杯B2	口径：18.2　器高：15.8 裾部径：14.7	杯部1/2 脚部3/4	内外：10YR8/3浅黄橙色	やや粗	良好	非生駒西麓産
450	52		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	椀形高杯A1	口径：21.2	杯部ほぼ完存	内外：10YR6/2灰黄褐色	蜜	良好	生駒西麓産
451	52	39	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	椀形高杯A1	口径：18.3	裾部を欠く以外は完存	内外：10YR6/3にぶい黄橙色	やや粗	良好	脚部上位に3条、下位に4条の沈線文 生駒西麓産
452	52		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	椀形高杯A1	口径：21.1	裾部を欠く	内：10YR8/3浅黄橙色 外：7.5YR6/4にぶい橙色	やや粗	良好	杯部口縁部外面に黒斑 生駒西麓産
453	52		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	椀形高杯A1	口径：18.8	裾部を欠く	内外：10YR6/2灰黄褐色	やや粗	良好	口縁部外面に黒斑 生駒西麓産
454	52	39	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	椀形高杯A1	口径：(18.3)　器高：13.7 裾部径：16.1	杯部1/4 脚部完存	内外：10YR6/4にぶい黄橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
455	52		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	器台A	口径：20.3	口縁部100% 脚部50%	内外：10YR5/2灰黄褐色	やや粗	良好	口縁部と端面の外面に部分的に赤色顔料を塗布 生駒西麓産
456	52		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	器台A	裾径：(17.2)	脚部50% 裾部25%	内外：10YR5/1褐灰色	やや粗	良好	生駒西麓産
457	52		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	器台B	裾径：(15.0)	裾部25%	内外：10YR4/2灰黄褐色	やや粗	良好	生駒西麓産
458	53		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	蓋A	口径：11.3　器高：4.1 つまみ径：3.0	全体2/3	内外：10YR6/2灰黄褐色	やや粗	良好	2個一組の穿孔あり 生駒西麓産
459	53		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	蓋A	口径：15.0　器高：5.6 つまみ径：3.2	全体2/3	内外：10YR5/3にぶい黄褐色	蜜	良好	口縁部内外面煤 生駒西麓産
460	53		A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	蓋A	口径：20.2　器高：6.4 つまみ径：3.7	全体1/4	内外：10YR5/2灰黄褐色	蜜	良好	内面口縁部付近煤 生駒西麓産
461	53	39	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	手焙り形土器	器高：16.9 体部最大径：17.6	覆部の一部を欠く以外完存	内外：7.5YR6/6橙色	蜜	良好	体部～覆部に煤 生駒西麓産
462	53	39	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	手焙り形土器	体部最大径：19.3　底径：4.3	覆部を欠く	内外：10YR5/3にぶい褐色	やや粗	良好	内面に煤 生駒西麓産
463	53	40	A区	SD301下層	弥生時代後期後半古相	手焙り形土器	体部最大径：17.3　底径：1.8	覆部の上部を欠く以外完存	内外：7.5YR7/4にぶい橙色	やや粗	良好	体部下位内外面に黒斑　体部上位外面に黒斑 生駒西麓産
464	54	40	B区	SD301	弥生時代後期後半古相	手焙り形土器	体部最大径：16.9	体部1/2	内：10YR5/3にぶい黄褐色 外：7.5YR6/4にぶい橙色	やや粗	良好	外面に波状文、列点文　外面上半一部黒斑 生駒西麓産
465	56		B区	SD302	弥生時代中期後半	壺	口径：(14.8)	口縁～体部1/3	内：7.5YR5/4にぶい橙色 外：7.5YR5/3にぶい橙色	やや粗	良好	生駒西麓産
466	56		B区	SD302	弥生時代中期後半	壺	口径：(20.9)	口縁部1/8	内：10YR7/3にぶい橙色 外：10YR6/2灰黄褐色	やや粗	良好	口縁端面に簾状文　頸部に直線文 生駒西麓産
467	56		B区	SD302	弥生時代中期後半	壺	口径：(32.8)	口縁部1/5	内：10YR5/3 外：10YR6/2灰黄褐色	やや粗	良好	口縁内面に円形浮文　口縁端面にキザミ目 生駒西麓産
468	56		B区	SD302	弥生時代中期後半	有段口縁壺	口径：(20.2)	口縁部1/4	内外：7.5YR5/4にぶい褐色	やや粗	良好	口縁外面に簾状文、刺突文 生駒西麓産
469	56	40	B区	SD302	弥生時代中期後半	有段口縁壺	口径：(21.8)	口縁部1/7	内：10YR5/4にぶい黄褐色 外：10YR6/3にぶい黄橙色	やや粗	良好	口縁外面に櫛描列点文、櫛描扇形文、簾状文 生駒西麓産
470	56	40	B区	SD302	弥生時代中期後半	有段口縁壺	口径：(23.2)	口縁部1/5	内：10YR6/4にぶい黄橙色 外：7.5YR7/4にぶい橙色	やや粗	良好	口縁外面2段の簾状文、簾状文上段に刺突文　頸部縦方向ハケ目　生駒西麓産
471	56		B区	SD303	弥生時代中期後半	甕	口径：(15.9)	口縁部1/9	内：7.5YR5/3にぶい褐色 外：10YR4/2灰黄褐色	やや粗	良好	生駒西麓産
472	56		B区	SD302	弥生時代中期後半	甕	口径：(14.8)	口縁部1/5	内：10YR6/4にぶい黄橙色 外：7.5YR6/4にぶい橙色	やや粗	良好	外面煤付着 生駒西麓産
473	56		B区	SD302	弥生時代中期後半	鉢	口径：(16.3)	口縁部1/7	内：10YR6/3にぶい黄橙色 外：2.5Y6/2灰黄色	やや粗	良好	外面簾状文3段 生駒西麓産
474	56		B区	SD303	弥生時代中期後半	鉢	口径：(20.4)	口縁部1/10	内：7.5YR7/3にぶい橙色 外：7.5YR7/2明褐灰色	やや粗	良好	外面簾状文3段 生駒西麓産
475	56		B区	SD302	弥生時代中期後半	甕	口径：(31.4)	口縁部1/7	内：2.5Y7/2灰黄色 外：2.5Y6/3にぶい黄色	やや粗	良好	生駒西麓産
476	56		B区	SD302	弥生時代中期後半	甕	口径：(37.9)	口縁部1/8	内：10YR5/2灰黄褐色 外：10YR5/3にぶい黄褐色	やや粗	良好	生駒西麓産
477	56		B区	SD302	弥生時代中期後半	壺か甕	底径：(8.0)	底部1/2	内：10YR5/3にぶい黄褐色 外：10YR6/3にぶい黄橙色	やや粗	良好	内外面煤付着 生駒西麓産
478	56		B区	SD302	弥生時代中期後半	壺か甕	底径：5.3	底部完存	内：2.5Y3/1黒褐色 外：10YR4/2灰黄褐色	蜜	良好	外面煤付着 生駒西麓産
479	56		B区	SD302	弥生時代中期後半	壺か甕	底径：7.9	底部完存	内：10YR8/3浅黄橙色 外：10YR7/3にぶい黄橙色	粗い	良好	非生駒西麓産
480	56		B区	SD302	弥生時代中期後半	大形鉢	口径：(28.6)　体部最大径：(31.2)	口縁部～体部1/5	内：10YR6/3にぶい黄橙色 外：10YR5/2灰黄褐色	やや粗	良好	外面簾状文3段 生駒西麓産
481	56	40	B区	SD304	弥生時代中期後半	大形鉢	口径：(31.6)　体部最大径：(34.9)	口縁部～体部1/10	内：N3/0暗灰色 外：2.5Y5/3黄褐色	やや粗	良好	内面黒斑 生駒西麓産
482	56		B区	SD302	弥生時代中期後半	高杯	裾径(13.2)	脚部4/5	内：5YR7/6橙色 外：5YR6/6橙色	やや粗	良好	脚端部一部黒斑 非生駒西麓産
483	56	40	B区	SD302	弥生時代中期後半	台付鉢	裾径(14.6)	台部1/3	内：2.5YR4/4にぶい赤褐色 外：2.5YR4/8赤褐色	やや粗	良好	内面一部黒斑 生駒西麓産
484	56		B区	SD303	弥生時代中期後半	台付鉢	裾径(11.1)	台部1/2	内：2.5YR6/4にぶい黄色 外：10YR5/3にぶい黄褐色	やや粗	良好	外面一部黒斑 生駒西麓産

第3章　まとめ

調査の結果、弥生時代中期後半・弥生時代後期後半古相・古墳時代中期～後期・奈良時代中期～平安時代初頭の遺構・遺物を検出した。以下、周辺の調査結果および八尾市域の調査から出土した類例などを加え、時代順に記述する。

弥生時代中期後半～古墳時代前期

弥生時代中期後半(河内Ⅳ－１～２様式)では、南部のＢ区で、土坑(ＳＫ301・303)や溝(ＳＤ302～304)などを検出した。本調査地以北の調査では、同時期の遺構や遺物は見つかっていないことや、西部の市教委 2009-433(第１図 25)、同 2005-504(第１図 19)、研究会第 11 次(第１図 27)、南西部の研究会第２次(第１図６)、同第 17 次（第１図 33）などでは、遺構や遺物が多く確認されていることから考えると、同時期の集落の北端に本調査地が位置していると推測できる。

本調査地では、後期初頭～前半の遺構および土器はなかった。しかし、南西側の研究会第２次(第１図６)や同第 11 次(第１図 27)では遺物の出土が確認され、また、西側の市教委 97-444(第１図４)では同時期の井戸や溝を検出していることから、居住域は南西部へ移動しているようである。

その後、本調査地での活動は後期後半であり、Ａ～Ｃ区では後期後半の古相に相当する溝(ＳＤ301)を検出した。ＳＤ301 からは、多量の土器が出土しており、これらの土器は河内における第Ⅴ様式の土器を考察するうえで良好な資料といえる。土器の時期は、原田編年の後期後半(畿内第Ⅴ様式後半)古相(原田 2003)に比定できる。多量の土器の中には、淡路型(系)の甕(103)、近江系の甕(104)、手焙り形土器(464)、北近畿系の広口壺(135)・無頸壺(264)・高杯(439)など、他地域からの搬入あるいは影響が考えられる外来系の土器も出土した。また、受口状口縁とした甕のうち 102・270・281・313・314・318・330・333・349・350 は、丹波地域の甕の分類のＢ類(有段口縁)(高野 2009)に類似し、北近畿系の土器の影響を受けた可能性が高いと考えられる。同時期の恩智遺跡ＳＤ13 からは、淡路型の甕(132)や近江系の甕(161)が出土している(今村 1980)。また、成法寺遺跡第５次調査のＳＤ303 下層（坪田 1992）から出土した脚台付の広口壺(164)は、口縁部外面に擬凹線文を施す特徴から北近畿系のもの、甕(192)は、口縁端部にキザミ目、口縁部外面にハケを施す淡路系のものと考える。さらに、四条畷市の雁屋遺跡でも後期後半古段階の周溝状遺構から北近畿系の甕(11)、台付き鉢(18)、高杯(25)が、周溝状遺構に接続する溝からは近江・山城系の鉢(30)、竪穴住居跡からは北近畿系の鉢(31)の出土があった(三好他 2007)。以上の事柄から考えると、同時期における河内地域は、上記の地域との交流が活発に行われていたと推測できる。

また、ＳＤ301 と同時期に比定される恩智遺跡ＳＤ13、成法寺遺跡第５次調査ＳＤ303、郡川遺跡ＳＤ230(西村 2009)、東大阪市の段上遺跡溝 100(菅原 2002・2003)では、大量の土器を廃棄しており、中河内地域の各集落では、一斉に生活用具を廃棄している行為があったことが確認できた。大量廃棄は、居住域移動に伴う通常の行為、あるいは祭祀で使用したものを溝に捨てる忌避行為であった可能性が考えられている(洖 2003)。廃棄の原因には、自然環境の変化または社会情勢の変化による事柄が挙げられると思うが、いずれにしても、日常生活に使用していたものを捨て去らなければならないほどの、強い要因があったことは事実である。

ＳＤ301が埋没した後、居住域は北東へ若干移動するようで、古墳時代初頭～前期の遺物は北東の府教委調査(第１図34)で確認している。

古墳時代中期～後期

同時期になるとまた本調査地で人々が活動する。中期～後期にかけての埴輪34～38や須恵器39が出土していることや、同時期の埴輪は、南部の市教委99－429(第１図７)、研究会第３次(第１図８)で出土していることから、調査地から南東部には墓域が広がっていた可能性が考えられる。また、Ｂ区では、古墳時代後期中葉に比定できるＳＥ102を検出したことから、同時期には居住域が存在していることが判明した。

奈良時代中期～平安時代初頭

同時期には井戸や土坑を検出した。このうちＣ区のＳＥ103からは、墨書人面土器(18)や銅銭『神功開寶』(21)が出土した。八尾市域での墨書人面土器の出土例には、本調査地以外に成法寺遺跡第12次調査ＳＥ201（坪田1994)、成法寺遺跡河川(中村1994)、小阪合遺跡川200・719、第Ⅲ面井戸１(駒井2000)、久宝寺遺跡第23次調査ＳＤ282(原田2006)、植松遺跡自然流路(川瀬2007)がある。成法寺遺跡第12次調査のＳＥ201のものは４方向に顔を描いている。成法寺遺跡の河川からは墨書土器とともに出土した。小阪合遺跡の川200・719からは21点(1768～1787・1793)が出土したがいずれも破片である。第Ⅲ面井戸１から出土したもの(1793)は、目を描いているが鼻、口などは描かれていない。久宝寺遺跡第23次調査のＳＤ282からは、奈良時代後半～平安時代初頭の土師器甕Ａに描いた墨書人面土器が出土した。植松遺跡の古墳時代～平安時代初の自然流路からは、完形の墨書土器とともに人面墨書土器が出土した。また、銅銭『神功開寶』の八尾市域の出土例は、本調査地以外に、志紀遺跡から５枚(山田1995)、池島・福万寺遺跡から１枚(森本1995)、田井中遺跡から１枚(亀島1998)、小阪合遺跡第41次から１枚(樋口2010)がある。志紀遺跡のものは№３トレンチの水田を覆う砂層から『萬年通寶』５枚とともに出土した。池島・福万寺遺跡のものは、『開』の字の部分のみが残る破片で、第14層から『富壽神寶』１枚とともに出土しており、水田の開発などにかかわる地鎮に用いられたものと考えられている。田井中遺跡のものは土坑27から出土した。小阪合遺跡第41次のものは河川(3002ＮＲ)から『隆平永寶』２枚、『富壽神寶』４枚、『承和昌寶』２枚、『長年大寶』３枚、『貞観永寶』１枚とともに出土し、付近から投棄されたものと推測されている。上記から、今回の調査地および各地の遺跡においては、井戸、河川、水田などの水に関連する儀礼が行われたことが考えられる。

参考文献

・寺沢　薫　森岡秀人1989「１河内地域」『弥生土器の様式と編年　近畿Ⅰ』木耳社

・原田昌則2003「第１節　中・南河内地域における弥生時代後期後半～古墳時代初頭前半(庄内式古相)の土器の細分試案について」『久宝寺遺跡第29次発掘調査報告書』―大阪竜華都市拠点地区竜華東西線４工区に伴う―(財)八尾市文化財調査研究会報告74　(財)八尾市文化財調査研究会

・田辺昭三1966『陶邑古窯址群Ⅰ』平安学園考古学クラブ

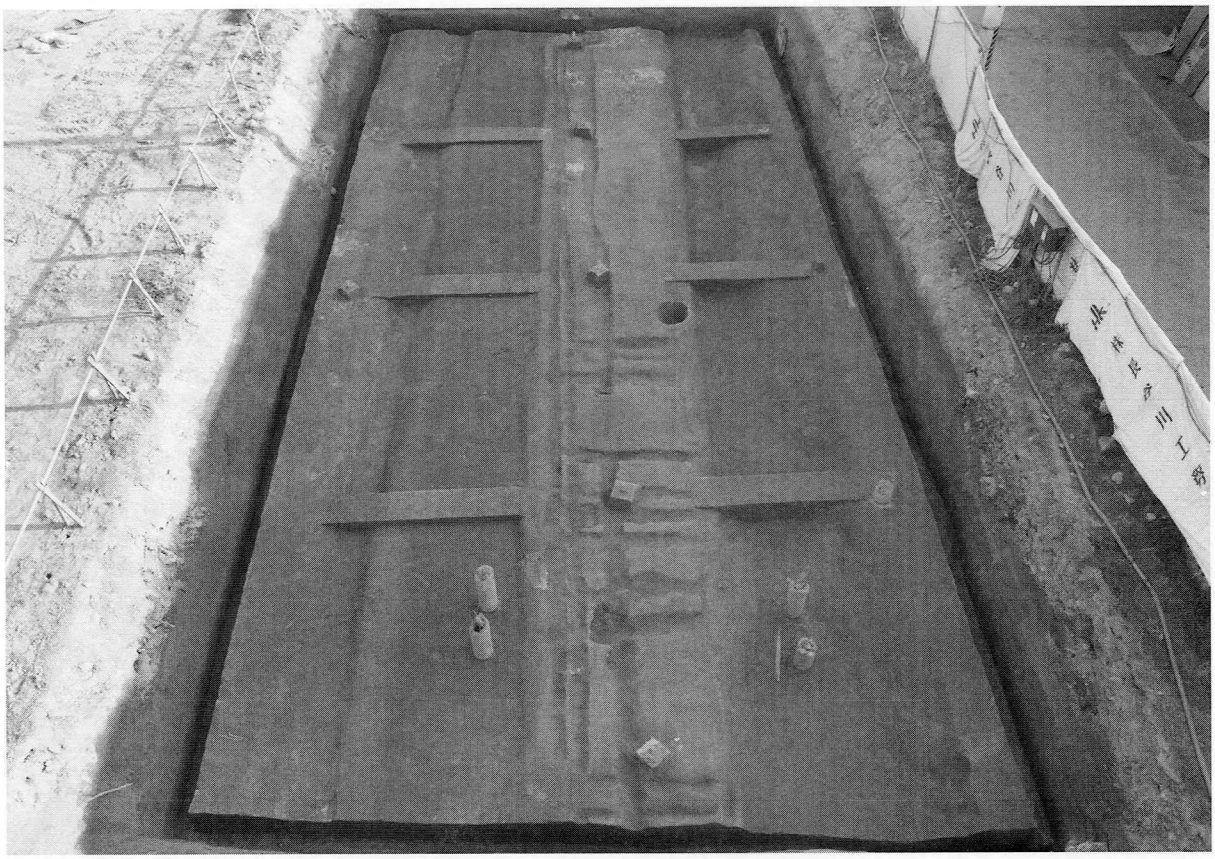
・森　郁夫1992『古代の土器１　都城の土器集成』古代の土器研究会編

・佐藤　隆1992「第Ⅱ章　第２節　平安時代における長原遺跡の動向」『長原遺跡発掘調査報告Ⅴ』　財団法人大阪市文化財協会

・森岡秀人 2003「「淡路型甕」叩き甕の提唱と摂津-環瀬戸内海をめぐる交流の一要素-」『初期古墳と大和の考古学』学生社
・池田　毅 2013「淡路型甕の類型-調整手法の差異とその特徴性-」『みずほ別冊　弥生研究の群像』―七田忠昭・森岡秀人・松本岩雄・深澤芳樹さん還暦記念―　大和弥生文化の会
・高野陽子 2009 「弥生後期土器の地域色とその系統」『京都府埋蔵文化財情報第 108 号』財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
・三好　玄　杉本厚典　野島　稔　深澤芳樹　2007「弥生時代後期周溝状遺構に伴う土器群―大阪府四条畷市雁屋遺跡第３次調査から―」『大阪歴史博物館　研究紀要　第６号』大阪歴史博物館
・今村道雄他 1980『恩智遺跡』瓜生堂遺跡調査会
・坪田真一 1992「Ⅰ　成法寺遺跡(第５次調査)」『平成４年度　八尾市埋蔵文化財発掘調査報告(Ⅱ)』財団法人八尾市文化財調査研究会報告 35　財団法人八尾市文化財調査研究会
・西村公助 2009「Ⅱ　郡川遺跡第７次調査(ＫＲ2007-７)」『郡川遺跡　財団法人八尾市文化財調査研究会報告 125』　財団法人八尾市文化財調査研究会
・菅原章太 2002『段上遺跡第 12 次発掘調査概要報告』　東大阪市教育委員会
・菅原章太 2003『段上遺跡第 13 次発掘調査報告書』　東大阪市教育委員会
・淵　斎 2003「第２節　河内の弥生時代後期土器に現れる２・３の現象 - 溝へ廃棄された土器が語るのも - 」『久宝寺遺跡第 29 次発掘調査報告書』―大阪竜華都市拠点地区竜華東西線４工区に伴う―(財)八尾市文化財調査研究会報告 74　(財)八尾市文化財調査研究会
・坪田真一 1994「Ⅸ　成法寺遺跡第 12 次調査(ＳH93-12)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告 42』　財団法人八尾市文化財調査研究会
・中村清美 1994『成法寺遺跡発掘調査概要・Ⅶ』―八尾市南本町１丁目所在及び八尾市東本町５丁目所在(東郷遺跡)―　大阪府教育委員会
・駒井正明他 2000『八尾市若草町所在　小阪合遺跡』-都市基盤整備公団八尾団地建替えに伴う発掘調査報告書-(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書　第 51 集　(財)大阪府文化財調査研究センター
・原田昌則 2006 「Ⅰ　久宝寺遺跡(第 23 次調査)」『久宝寺遺跡　(財)八尾市文化財調査研究会報告 89』　(財)八尾市文化財調査研究会
・川瀬貴子 2007『八尾市　植松遺跡』大阪府営八尾植松(第１期)住宅(建て替え)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　(財)大阪府文化財センター調査報告書　第 164 集　(財)大阪府文化財センター
・山田隆一 1995.3『八尾市志紀町西 1 丁目所在　志紀遺跡発掘調査概要・Ⅳ―志紀流域調節池築造工事に伴う発掘調査―』大阪府教育委員会
・森本　徹 1995.3『池島･福万寺遺跡発掘調査概要・ＸⅡ』財団法人大阪文化財センター
・亀島重則 1998.3『田井中遺跡発掘調査概要・Ⅶ』大阪府教育委員会
・樋口　薫 2010「小阪合遺跡第 41 次調査出土の古代銭貨」『八尾市内平成 21 年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告 61　平成 21 年度国庫補助事業　八尾市教育委員会
・鐘方正樹 2006『井戸の考古学』同成社

図　版

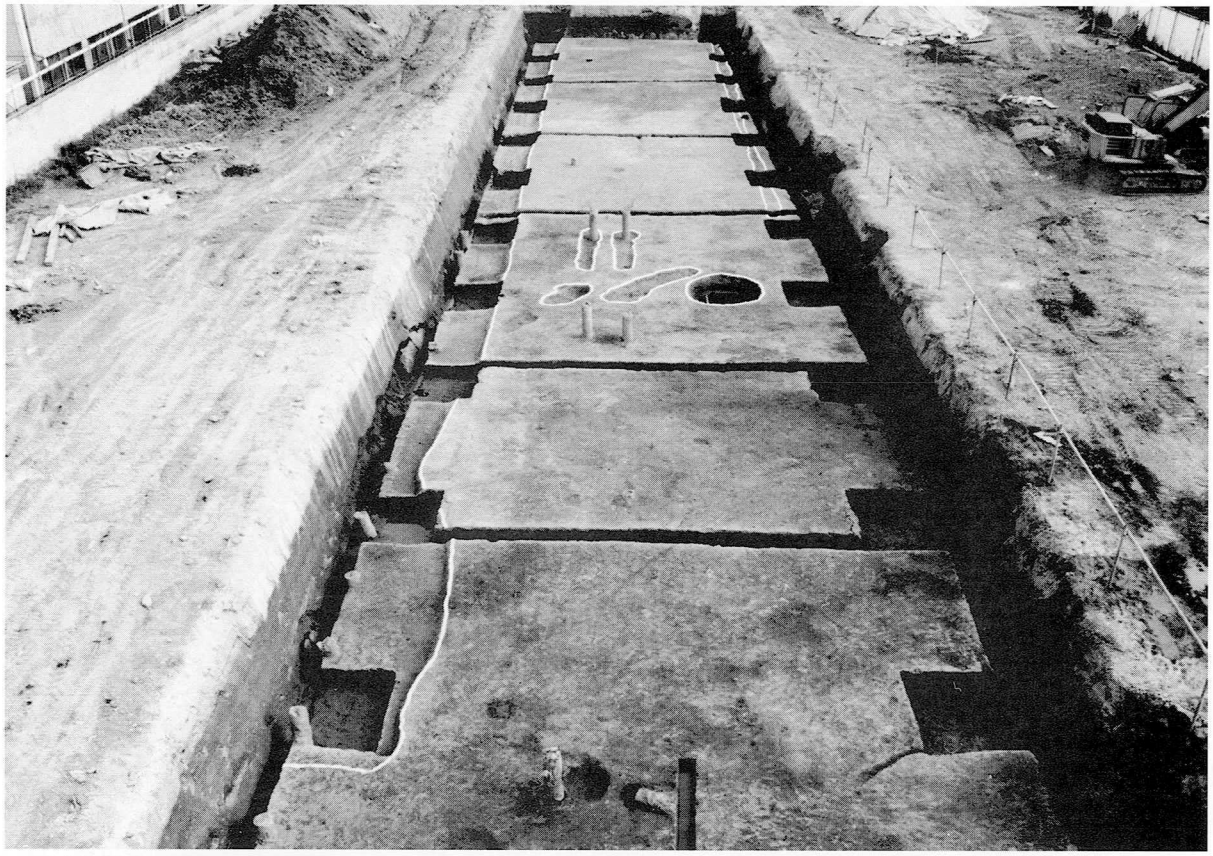
図版1



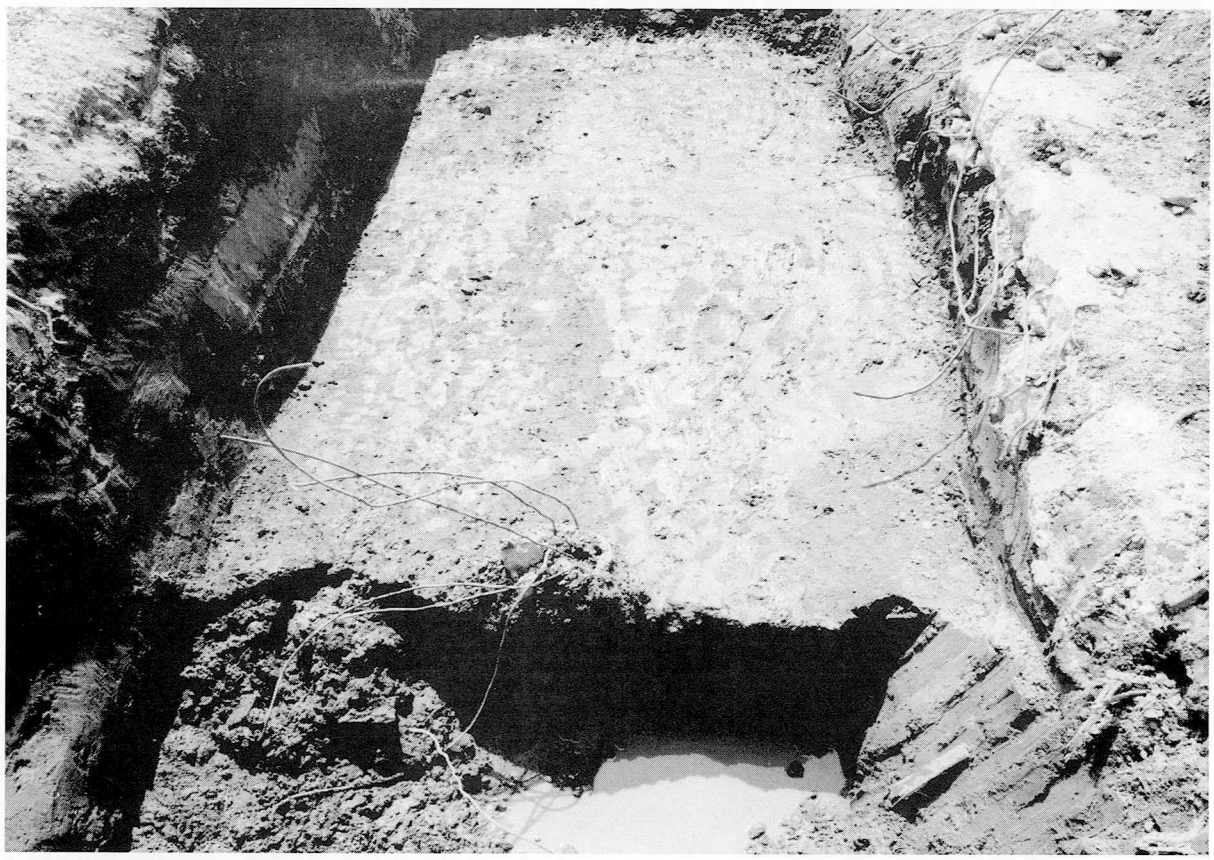
A区　第１面全景（北から）

B区　第１面全景（東から）

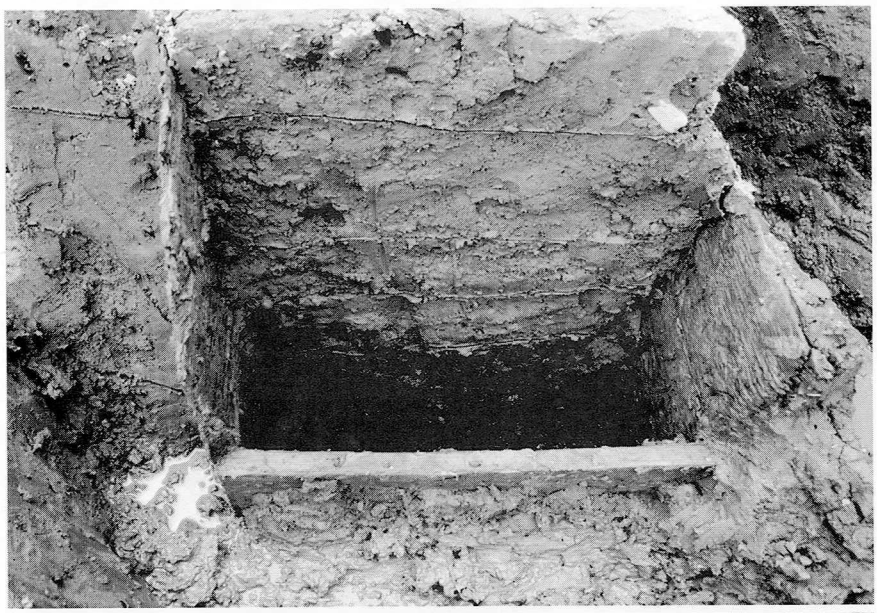
図版2



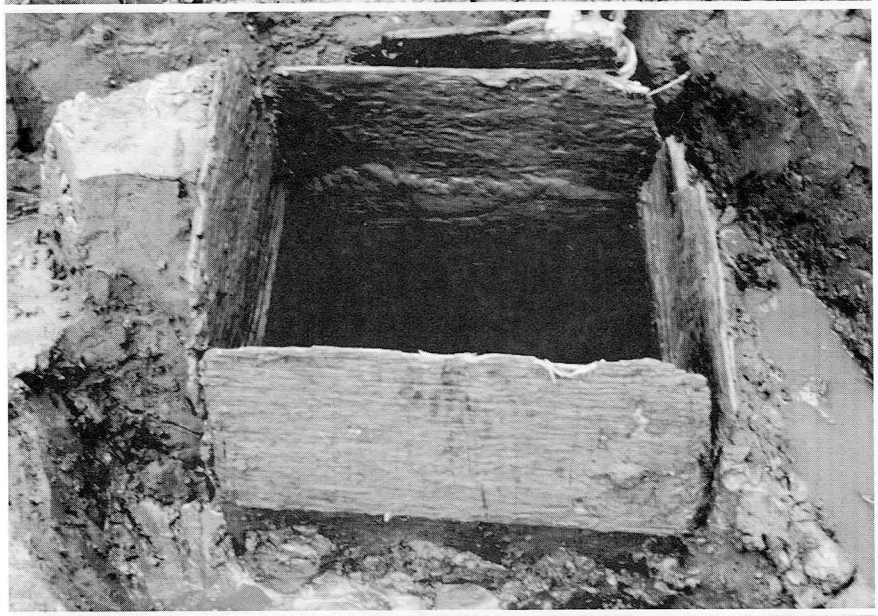
C区　第１・３面全景（北から）



D区　第１面全景（北から）



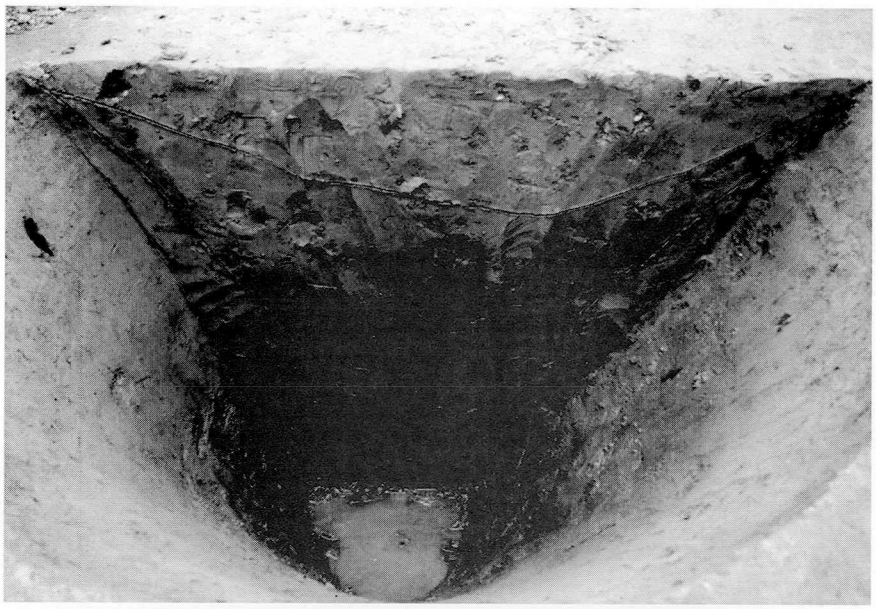
B区 第１面ＳＥ101
井戸枠内断面（南から）



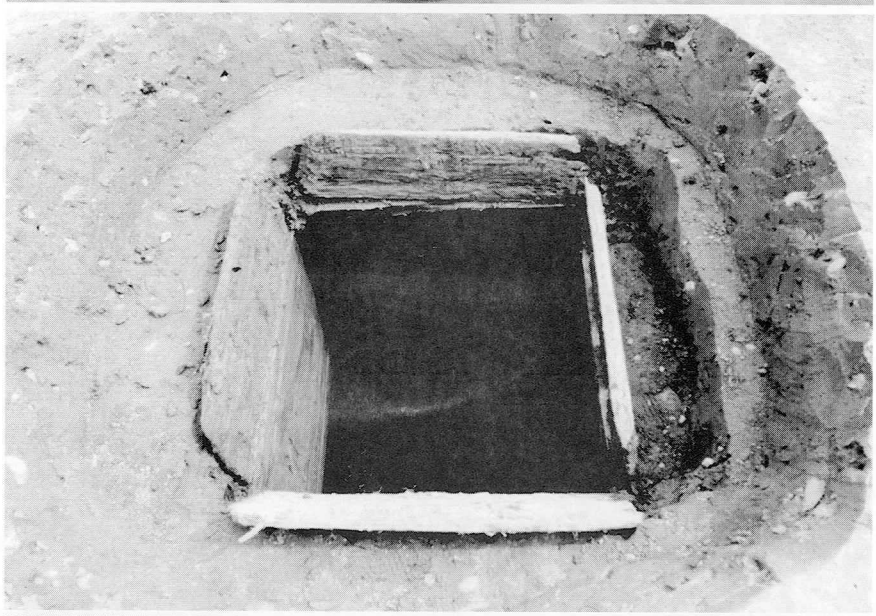
B区 第１面
ＳＥ101（南から）

B区 第１面ＳＥ101
井戸枠内部（南から）

図版4

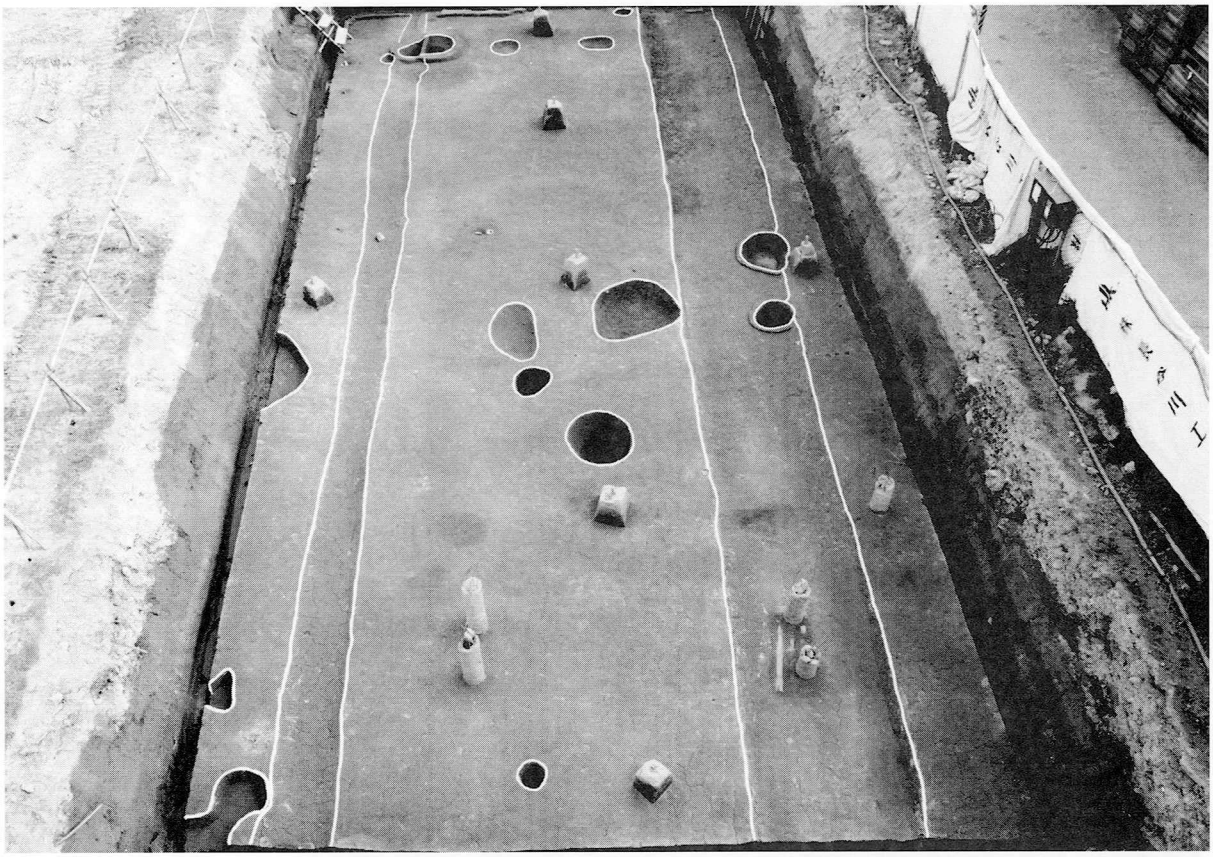


B区 第１面ＳＥ102
断面（南から）

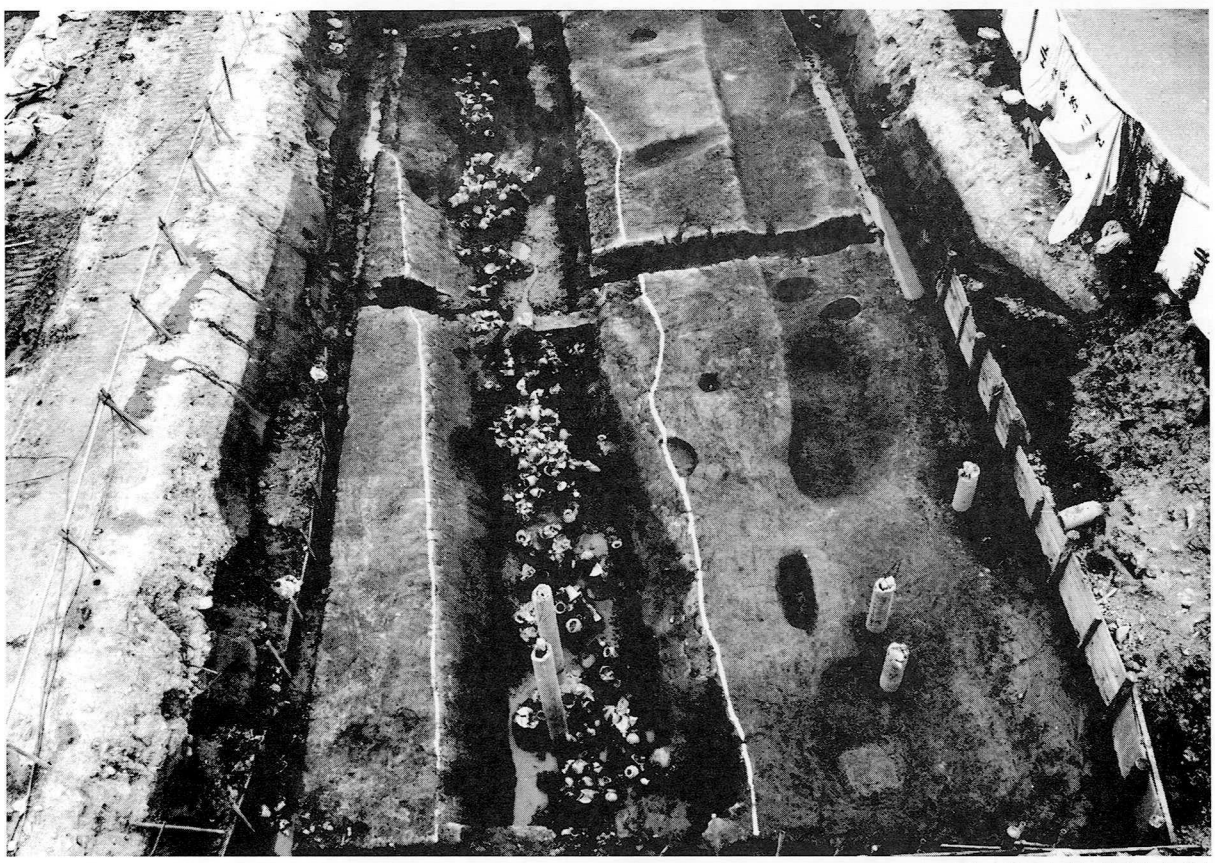


C区 第１面ＳＥ103
（北から）

C区 第１面ＳＥ103
井戸枠検出状況（南から）

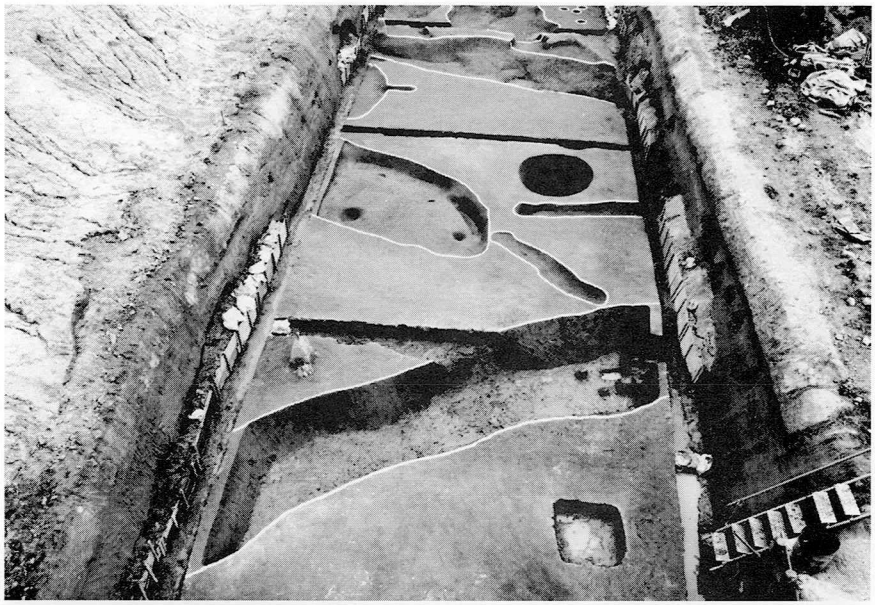


A区　第２面全景（北から）

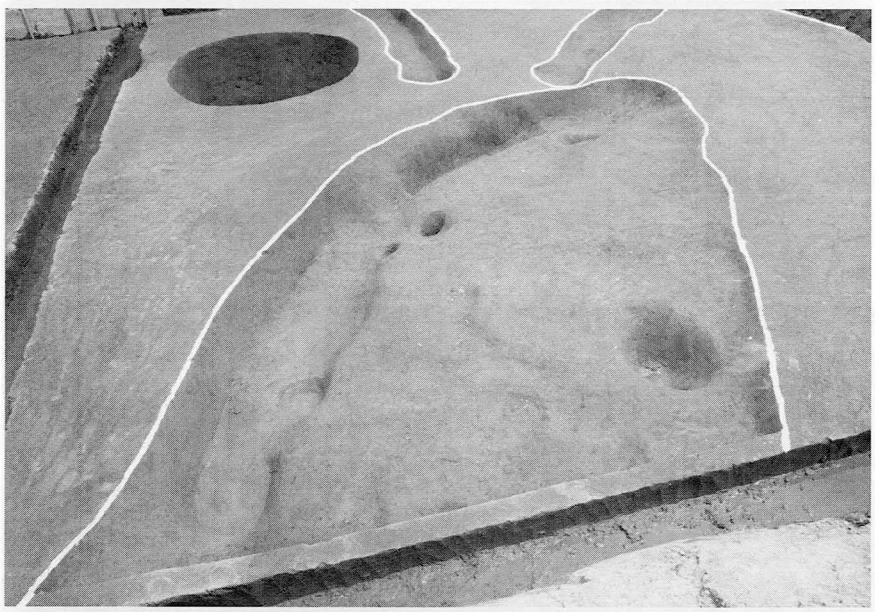


A区　第３面全景（北から）

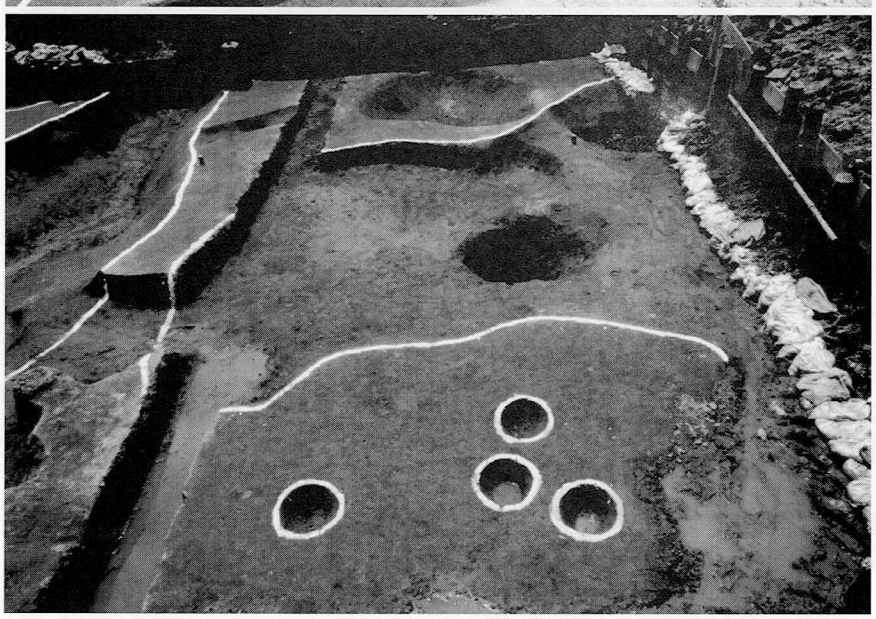
図版6



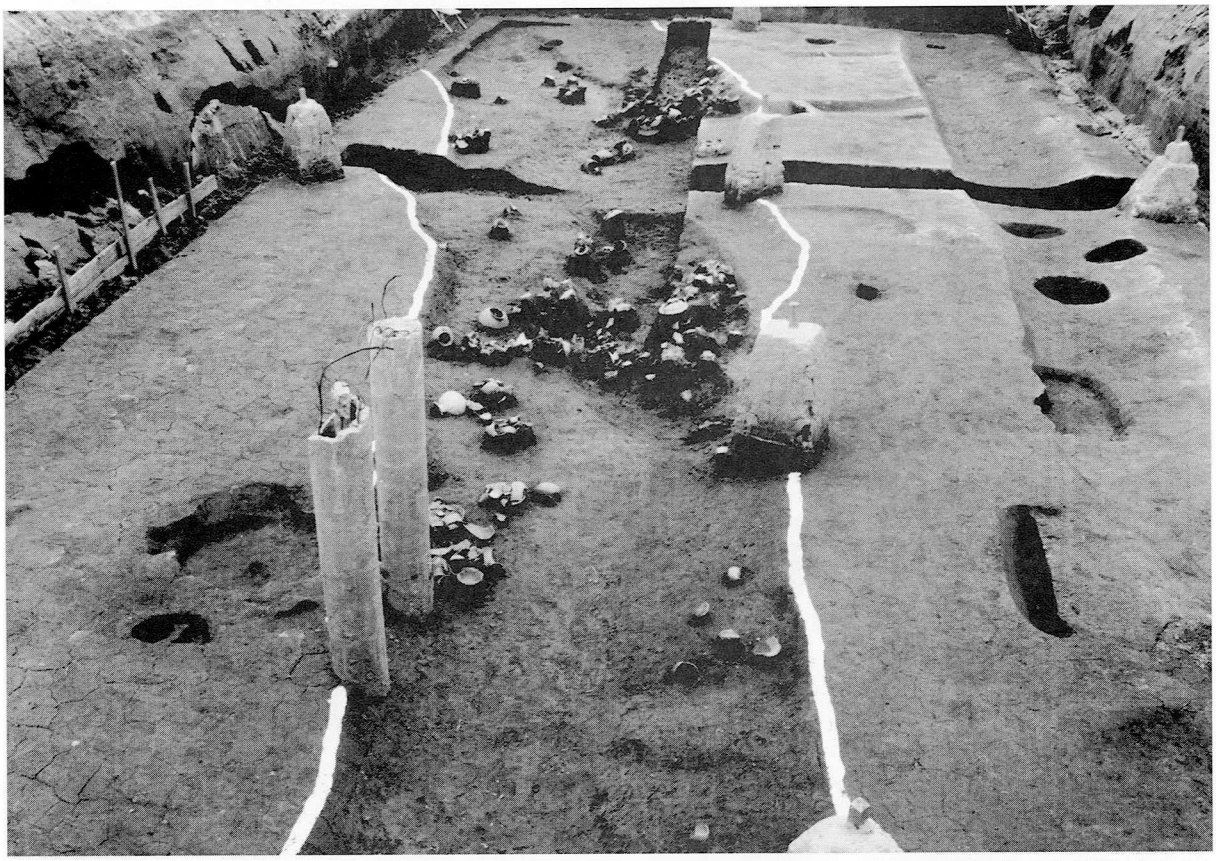
B区 第３面全景
（東から）



B区 第３面ＳＫ303
（南から）



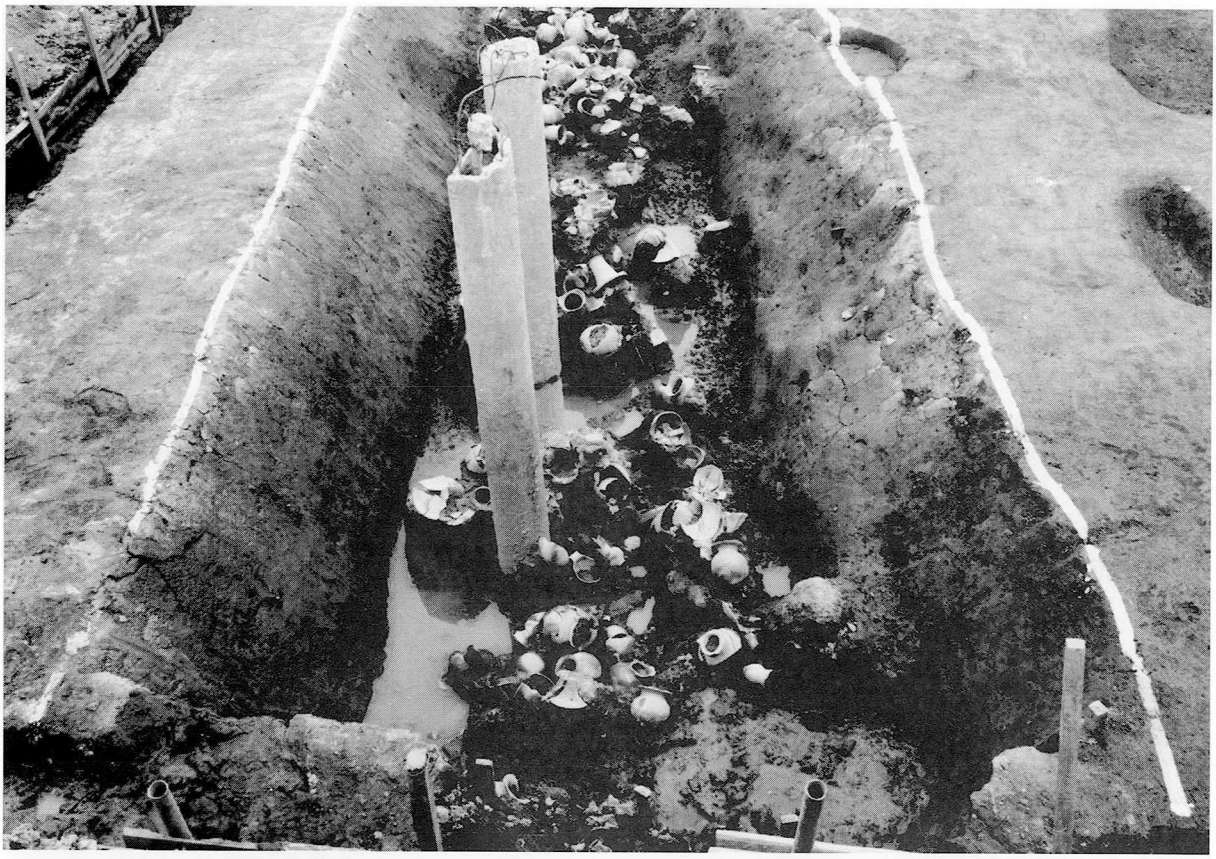
B区 第３面ＳＰ301～304・
ＳＫ301（北から）



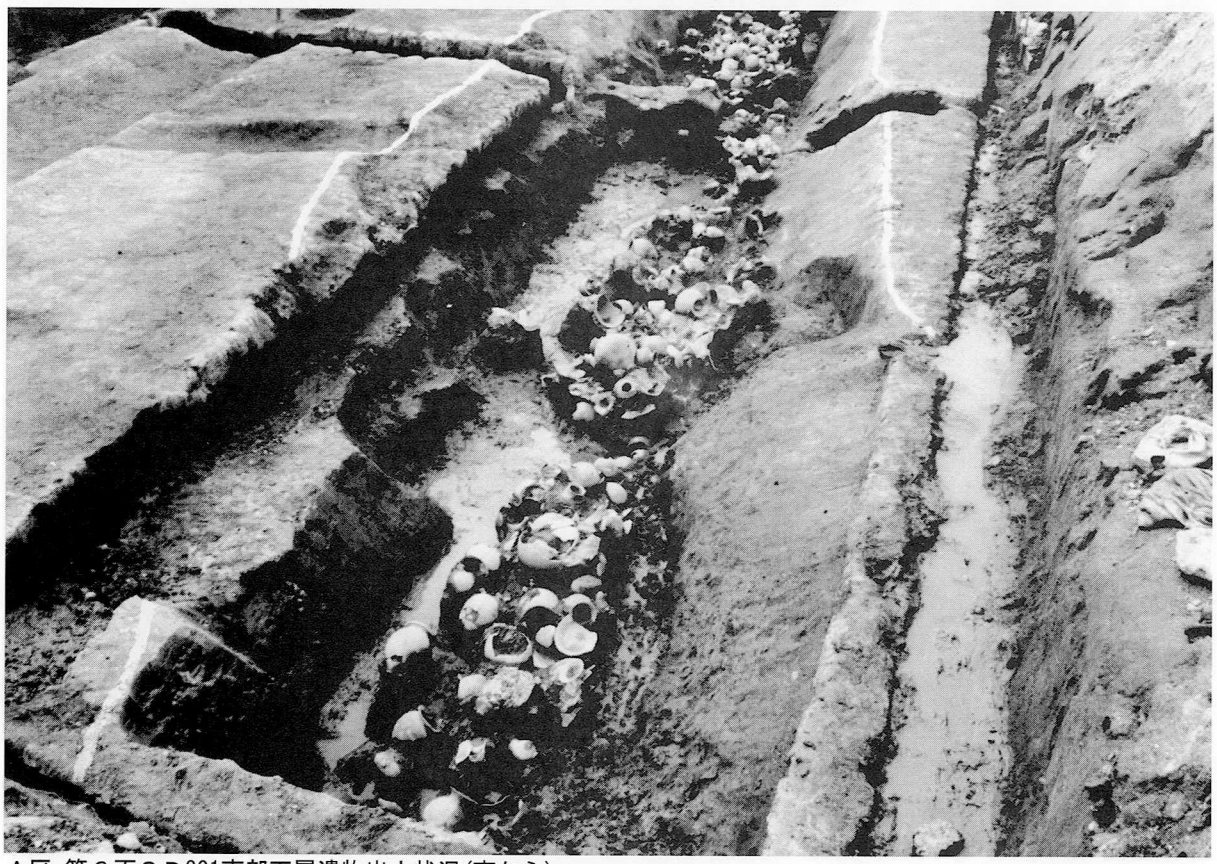
A区 第３面ＳＤ301上層遺物出土状況（北から）

A区 第３面ＳＤ301上層遺物出土状況（南から）

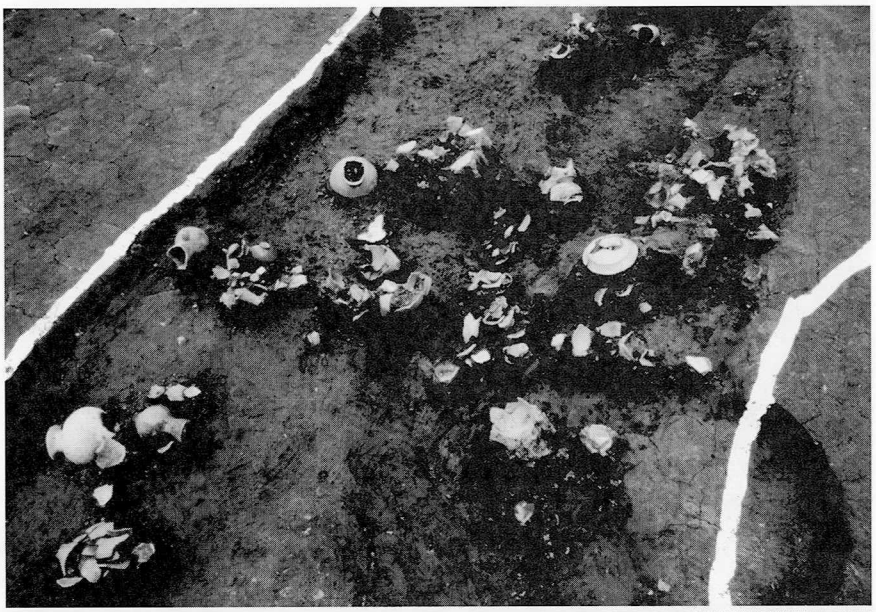
図版8



A区 第３面ＳＤ301北部下層遺物出土状況（北から）

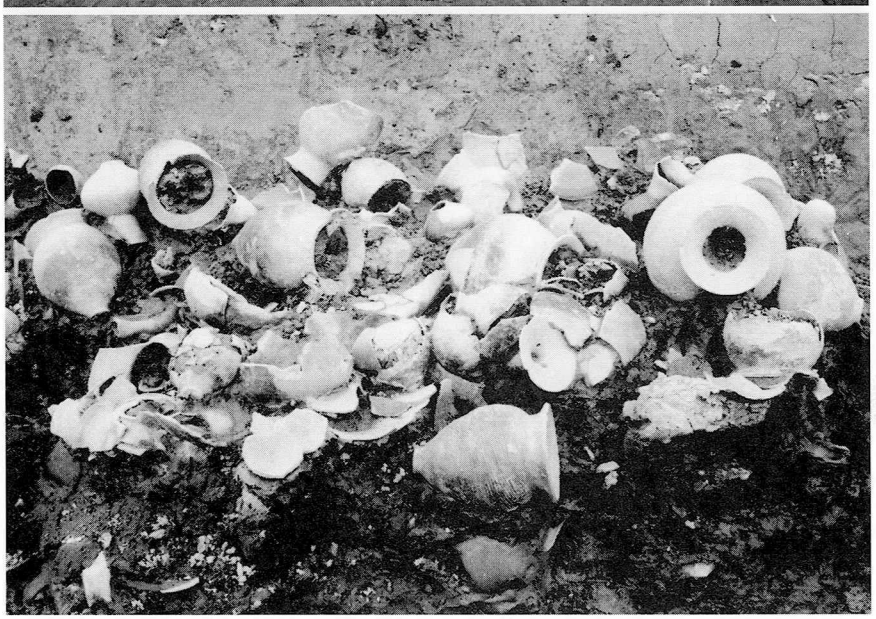


A区 第３面ＳＤ301南部下層遺物出土状況（南から）



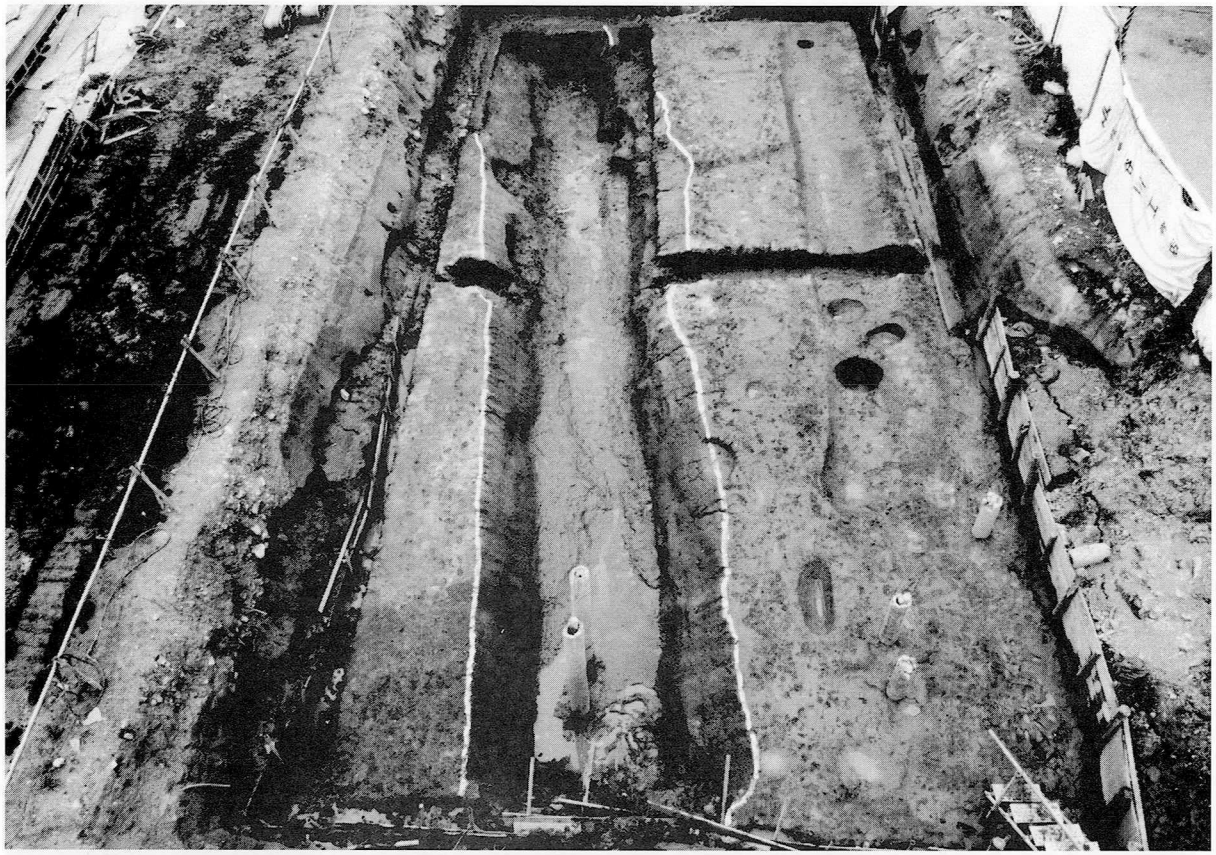
A区 第３面ＳＤ301上層
(X45～42ライン付近)遺物
出土状況(北から)

A区 第３面ＳＤ301上層
(X45～42ライン付近)遺物
出土状況(東から)

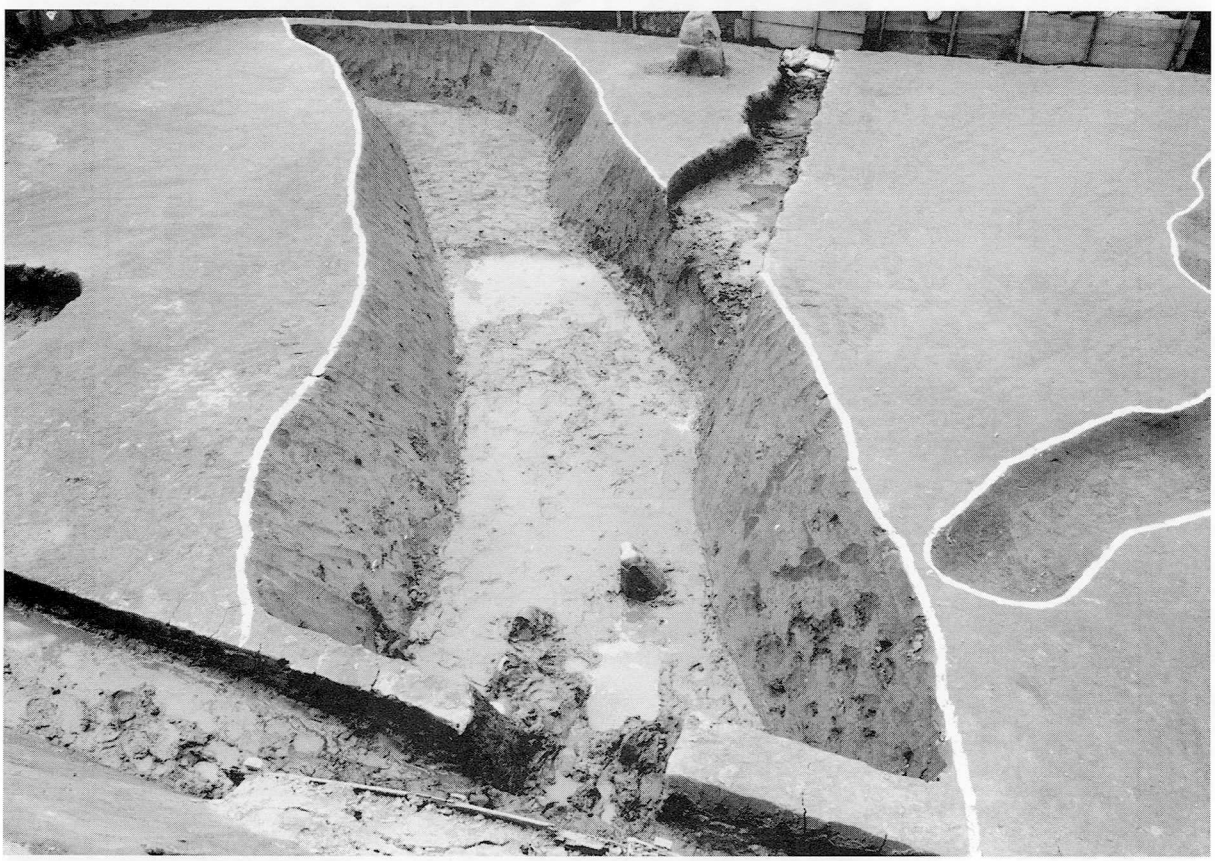


A区 第３面ＳＤ301下層
(X43・42ライン付近)遺物
出土状況(西から)

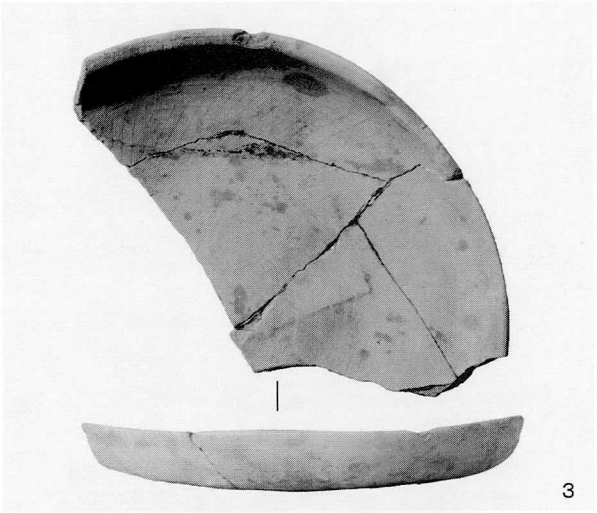
図版10



A区 第３面ＳＤ301完掘状況（北から）

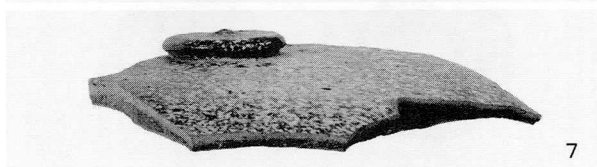


B区 第３面ＳＤ301（南から）

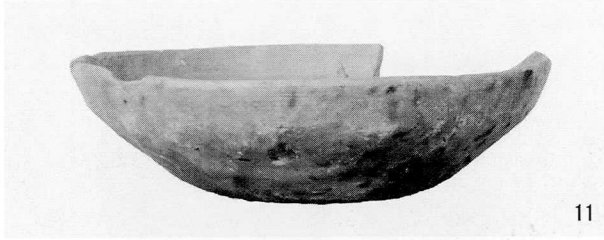

3

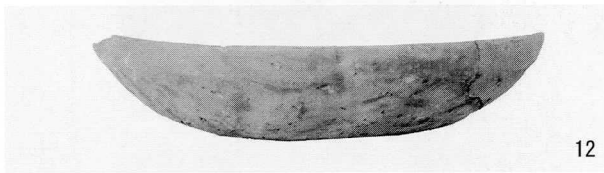
5

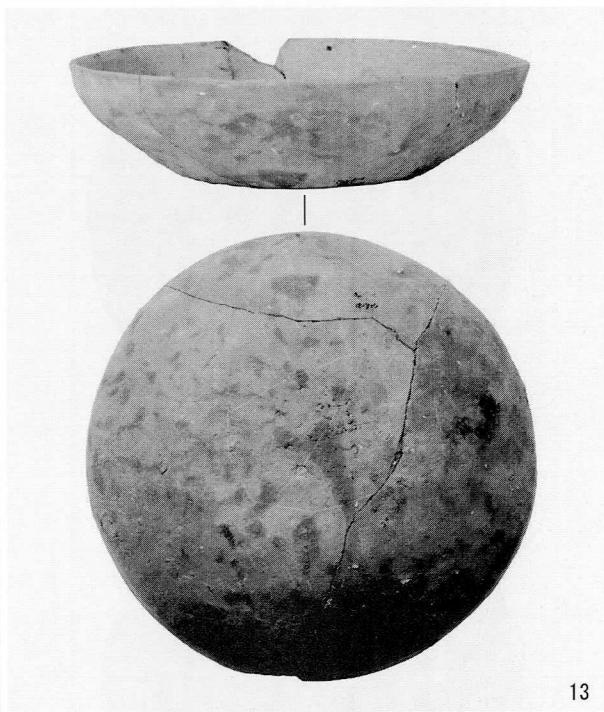
6

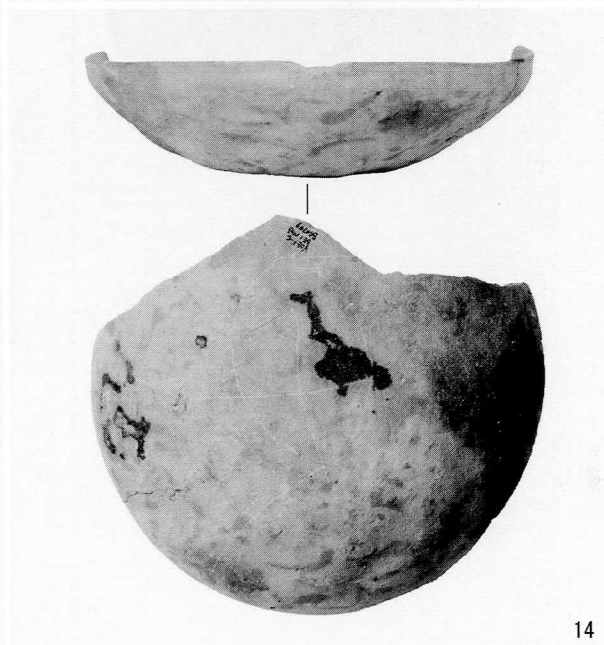

7

9


11


12

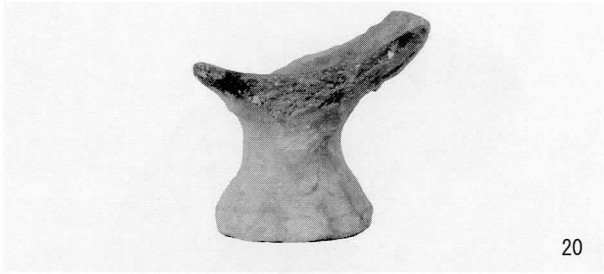

13


14

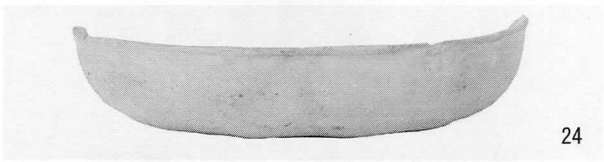
ＳＥ101(３・５・６・７)、ＳＥ102(９)、ＳＥ103(11・12・13・14)出土遺物

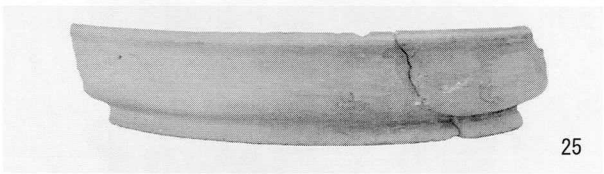
図版12

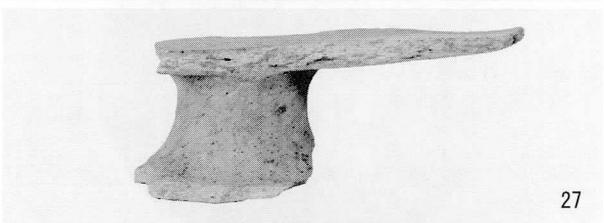
15


20

16

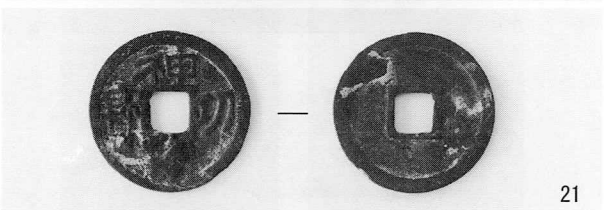

24

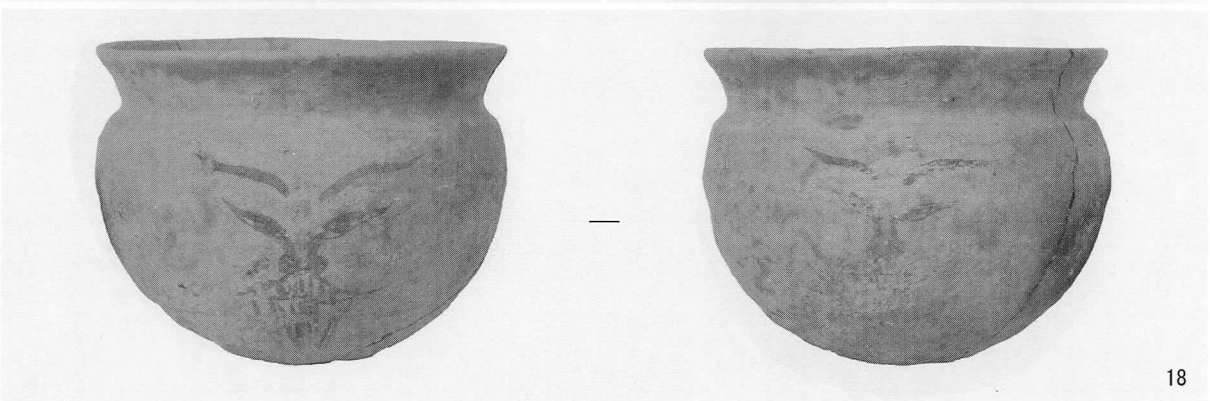

25


27

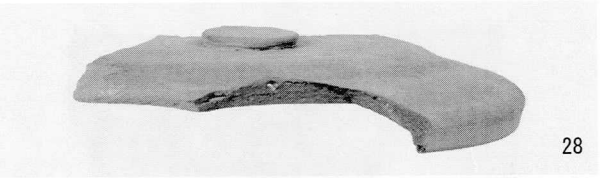
17

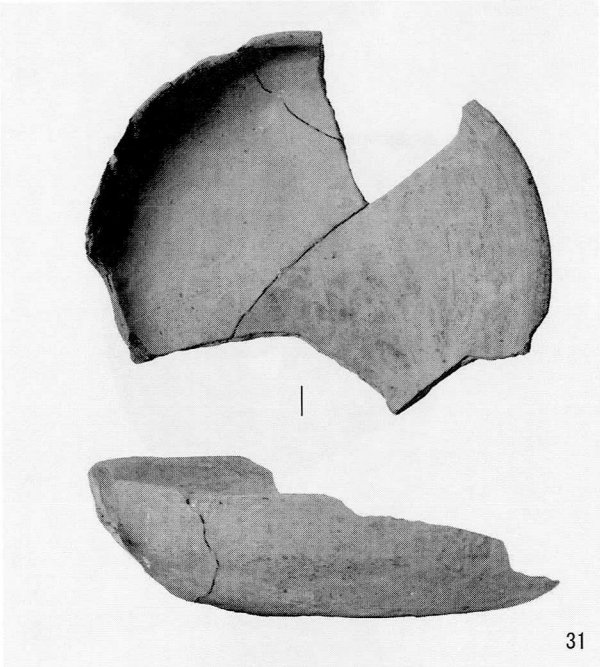
19

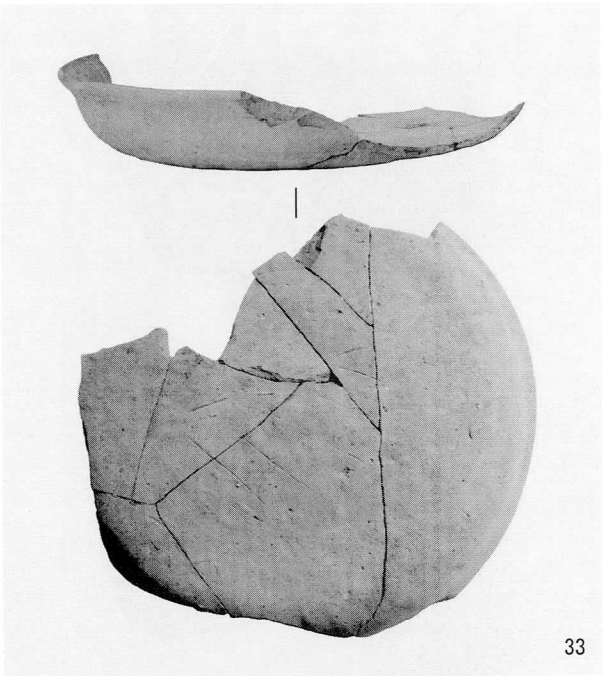

21

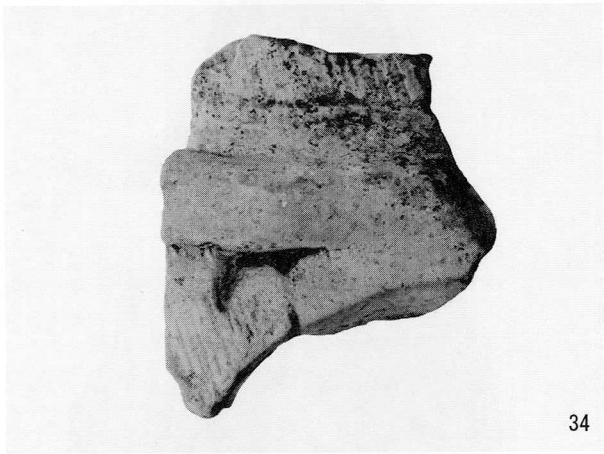

18

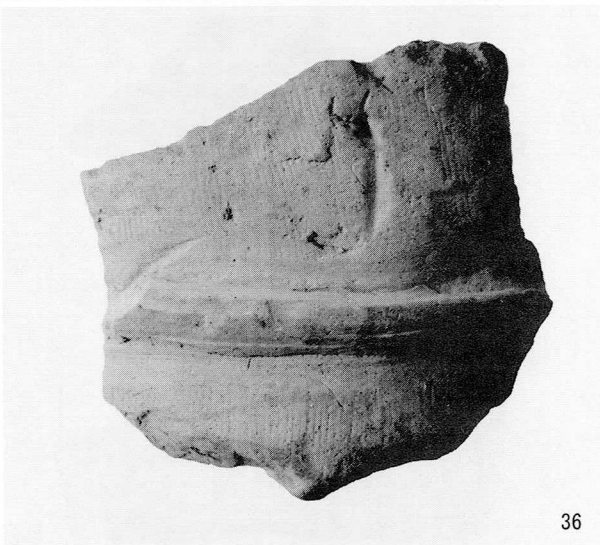
ＳＥ103(15～21)、ＳＫ102(24・25・27)出土遺物

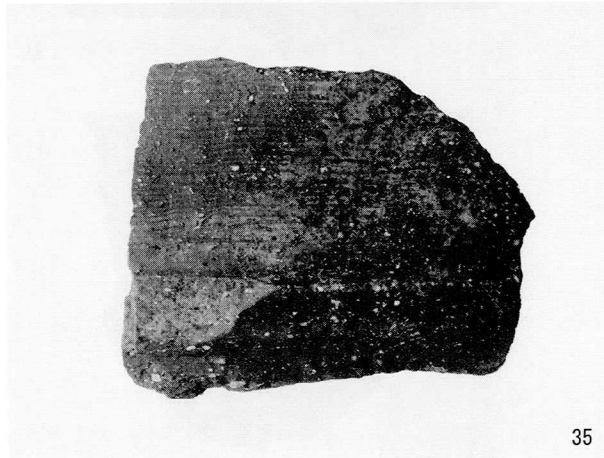

28

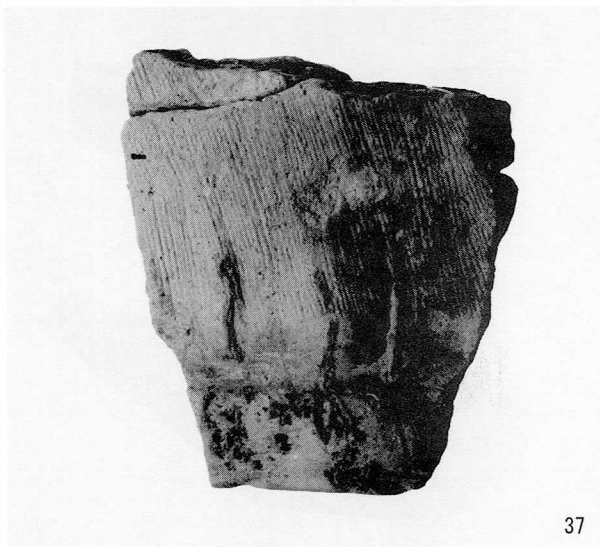

31


33


34

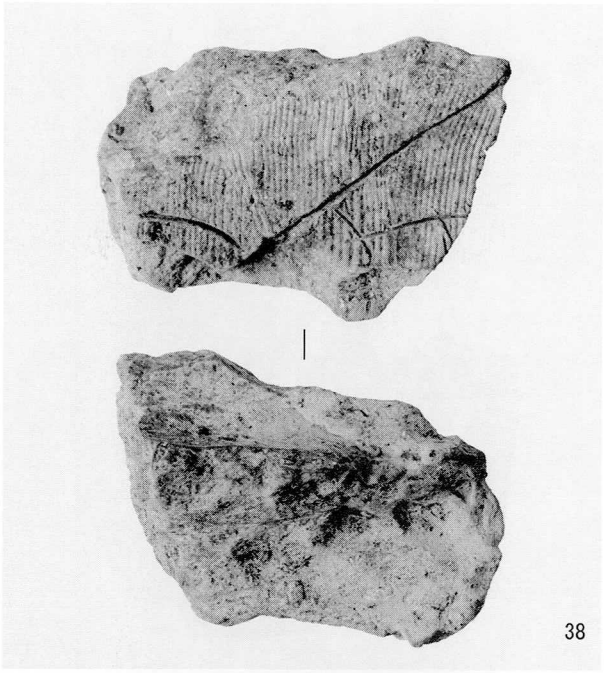

36

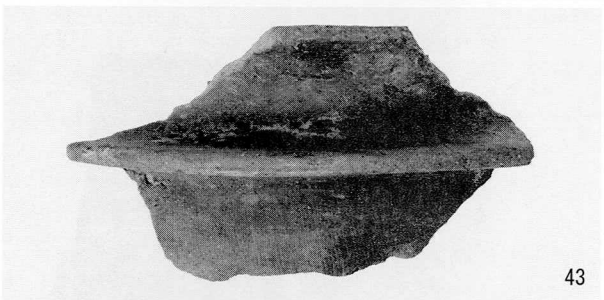

35

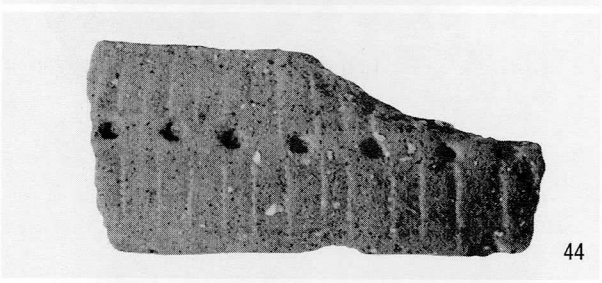

37

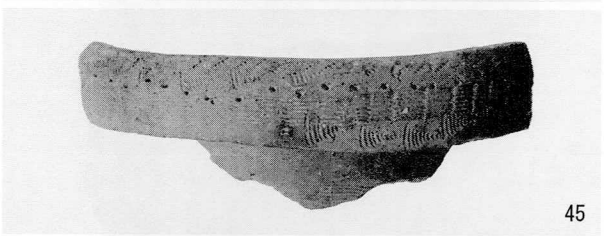
SK102(28)、SK103(31・33)、SD104(34・35)、SD117(36・37)出土遺物

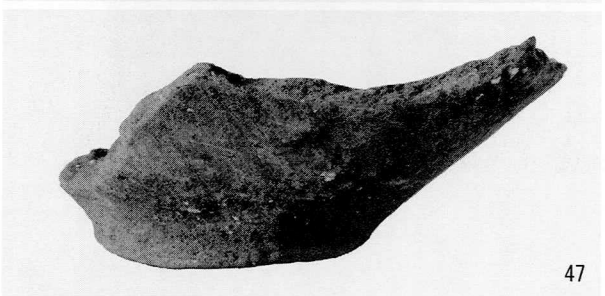
図版14

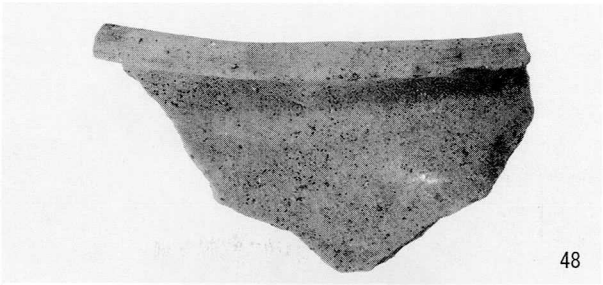

38

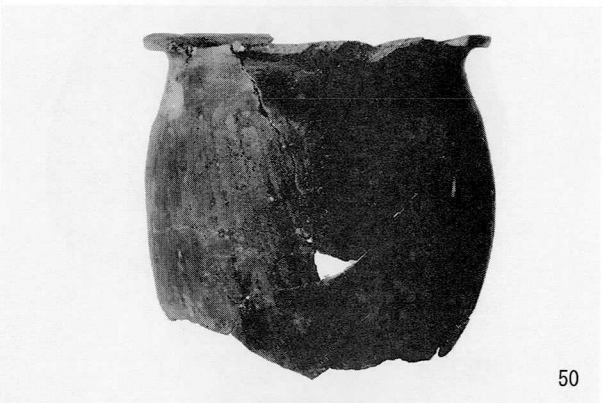

43


44

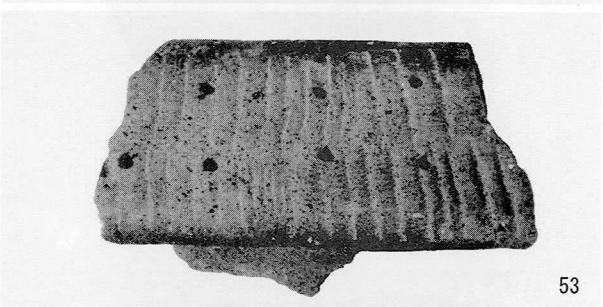

45


47


48


50

52


53

54

ＳＤ103(38)、ＳＤ129(43)、ＳＫ301(44・45・47・48・50・52)、ＳＫ303(53・54)出土遺物

57

63

59

65

60

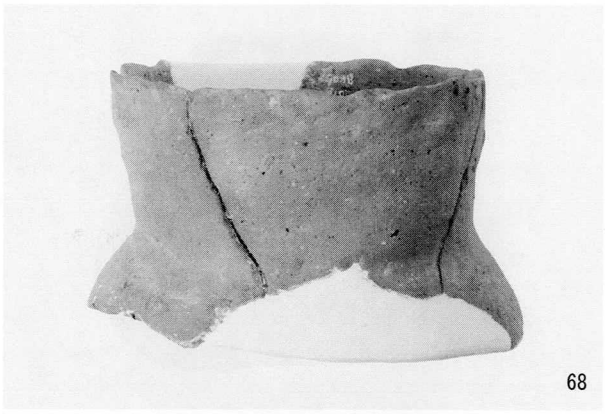
66

61

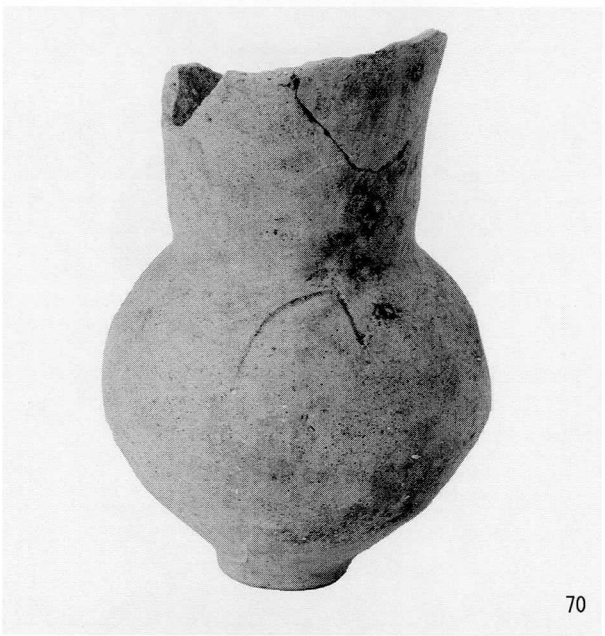
67

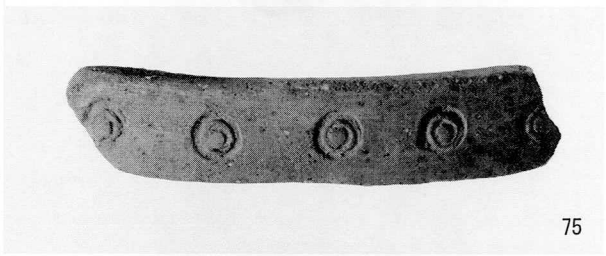
A区 ＳＤ301上層出土遺物

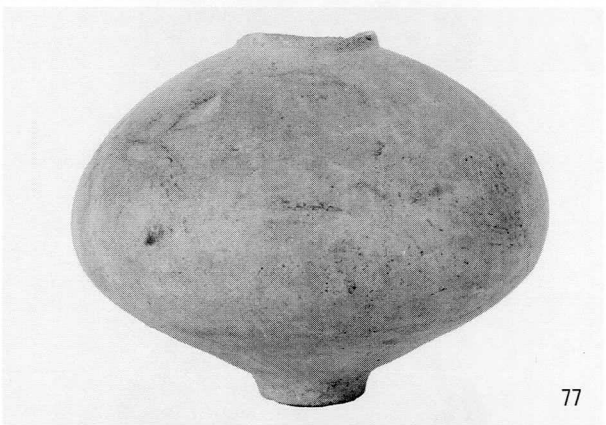
図版16

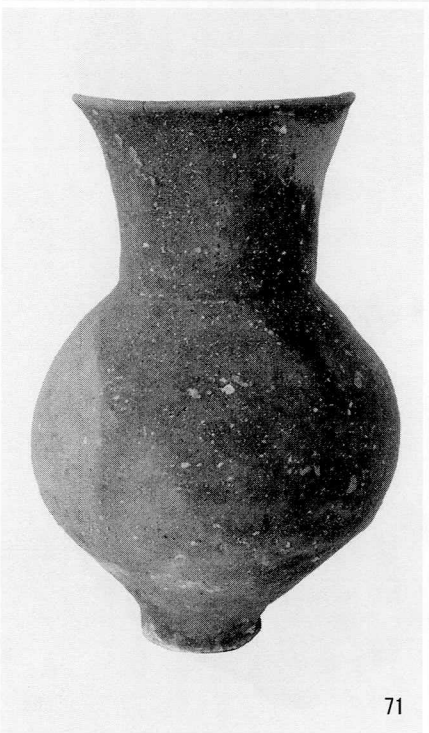

68

73

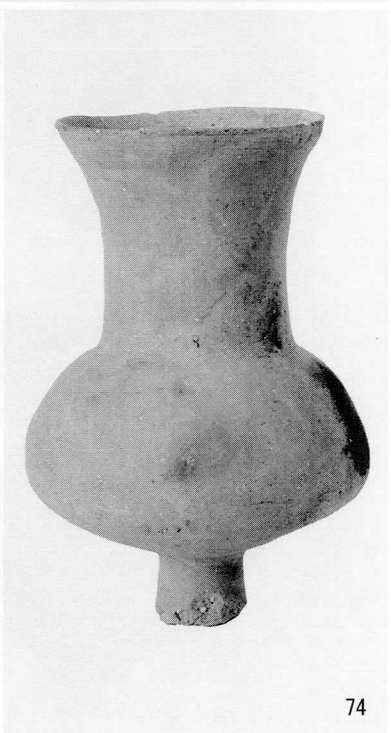

70


75


77

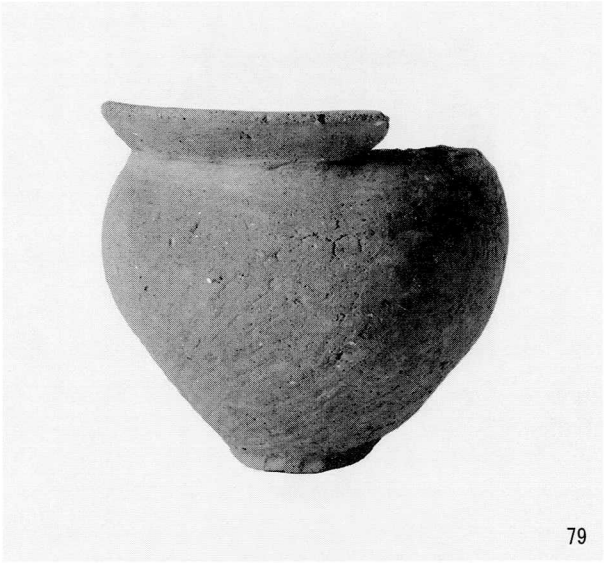

71

72

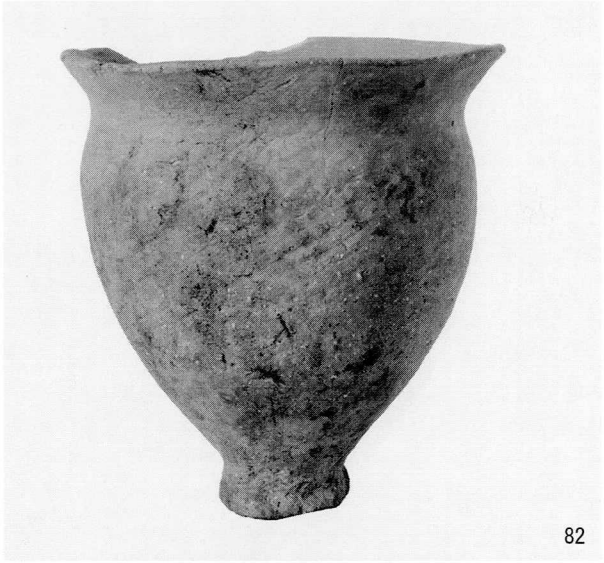

74

A区　ＳＤ301上層出土遺物

図版17



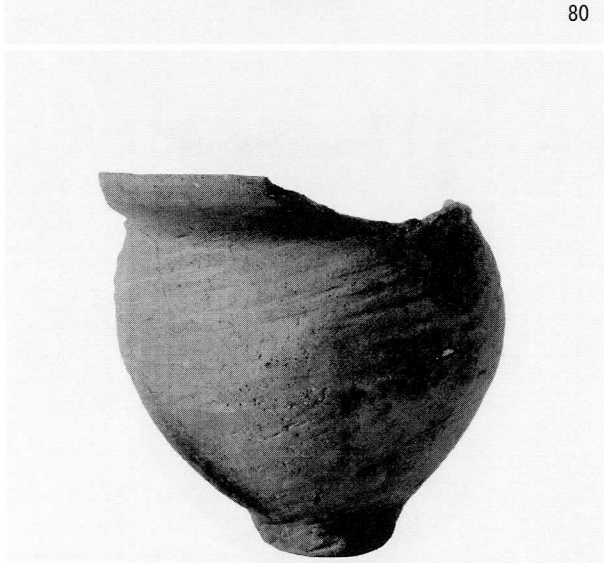
79



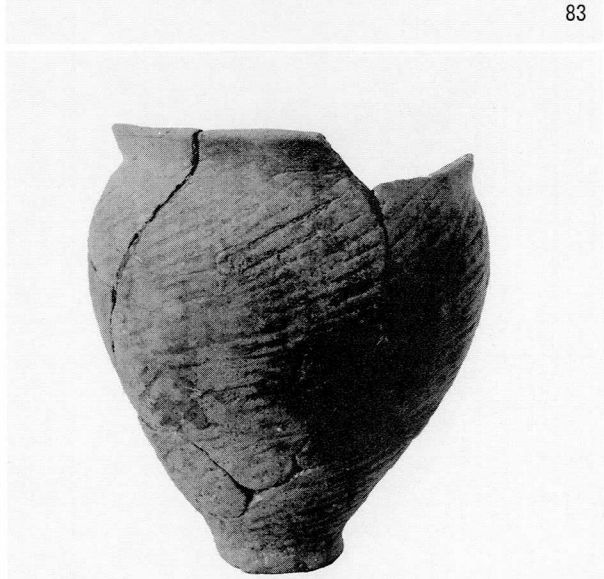
82

80

83



81

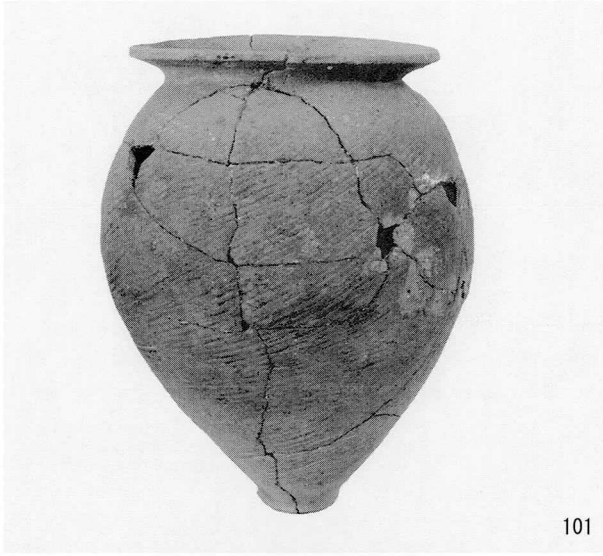


84

A区　SD301上層出土遺物

図版18

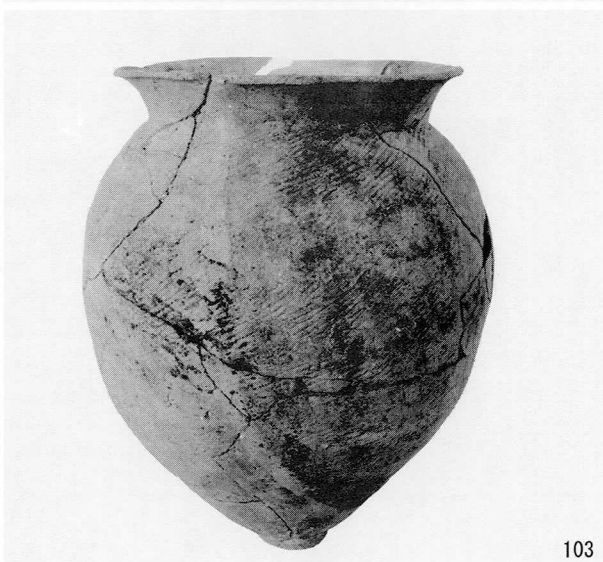
96


101

98

102

99


103

A区　SD301上層出土遺物

図版19

104

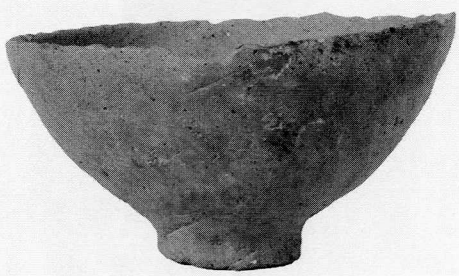
108

105

110

106

112

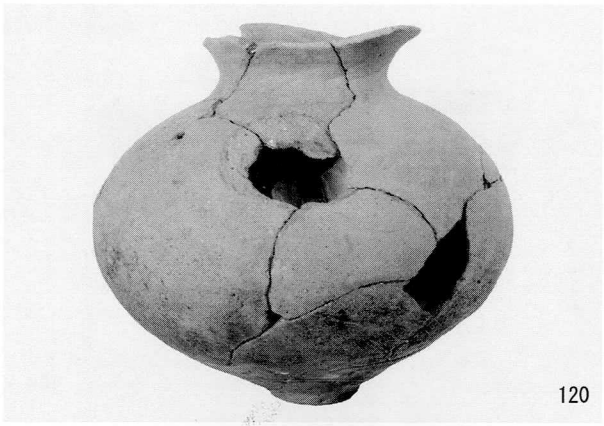


107

113

A区 ＳＤ301上層出土遺物

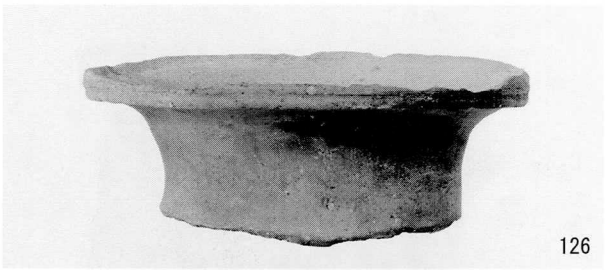
図版20

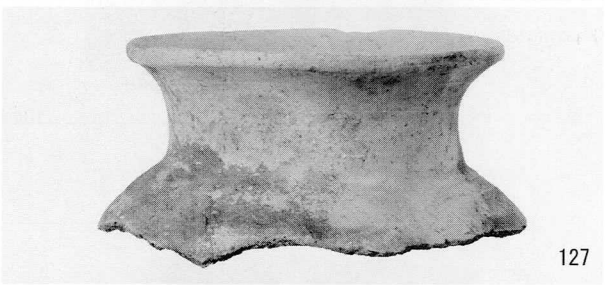

120

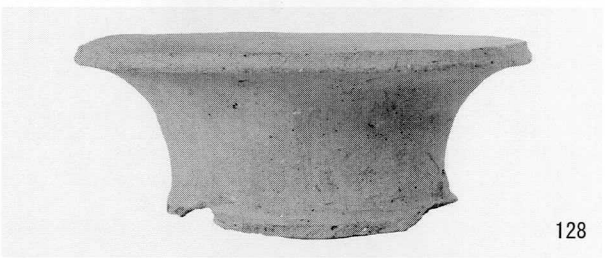
121

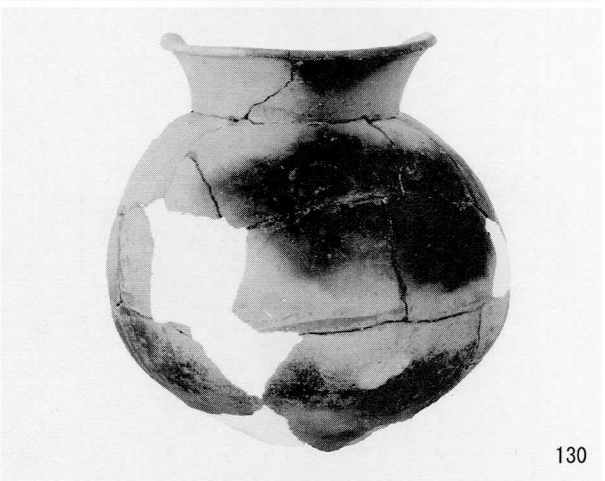
122

125


126


127


128


130

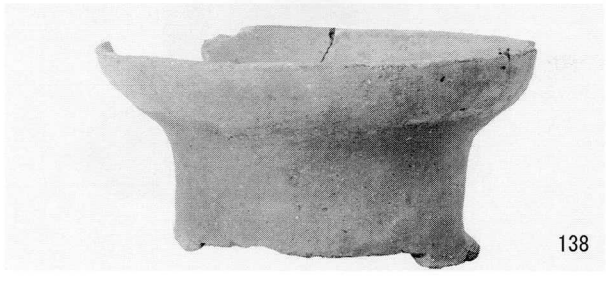
131

A区 ＳＤ301下層出土遺物

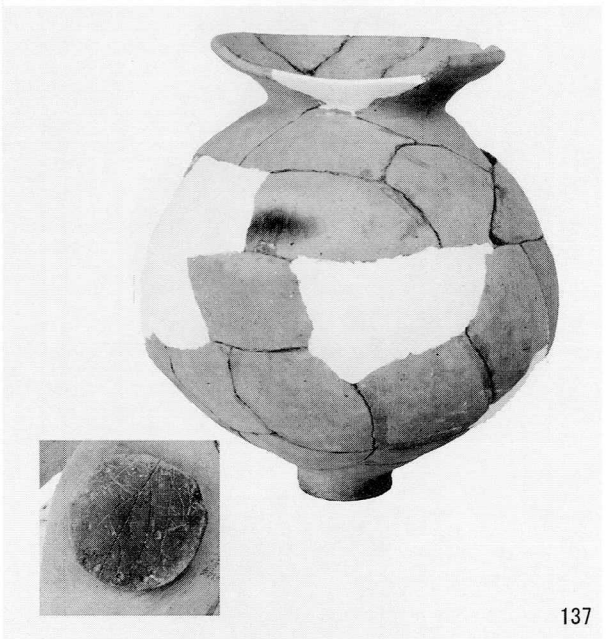
132

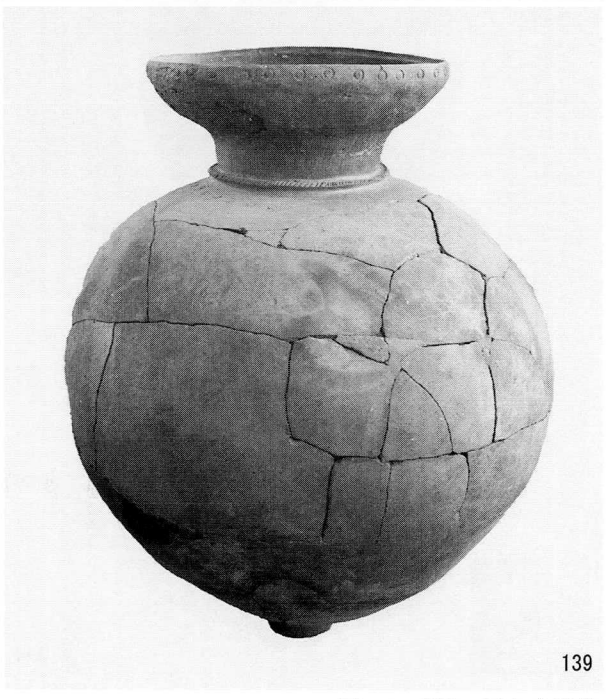
133

134


138

136

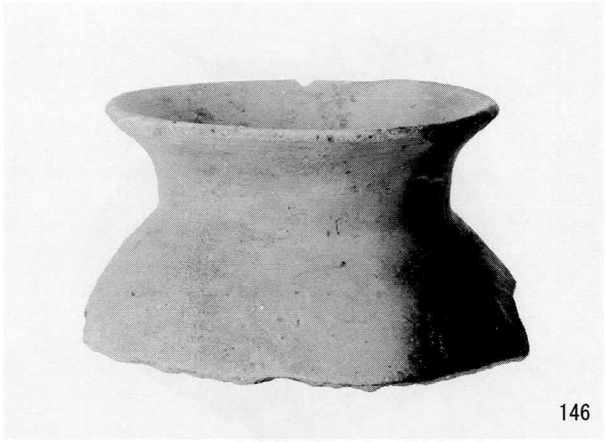

137


139

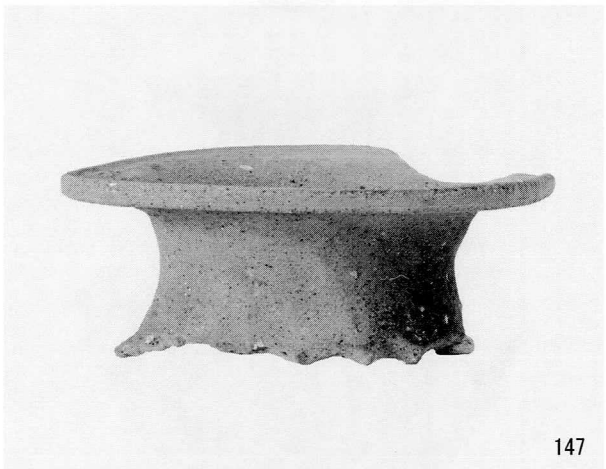
A区 ＳＤ301下層出土遺物

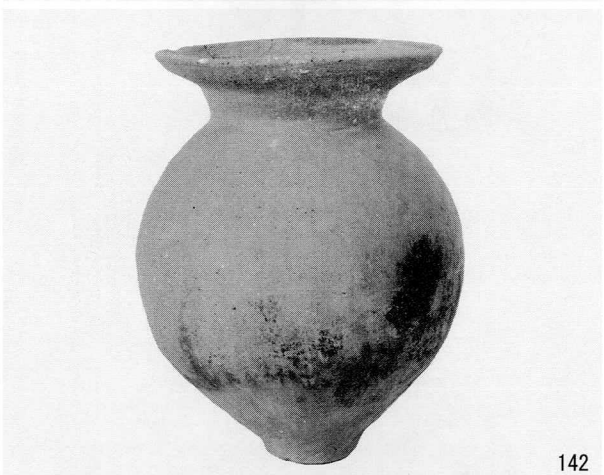
図版22

140

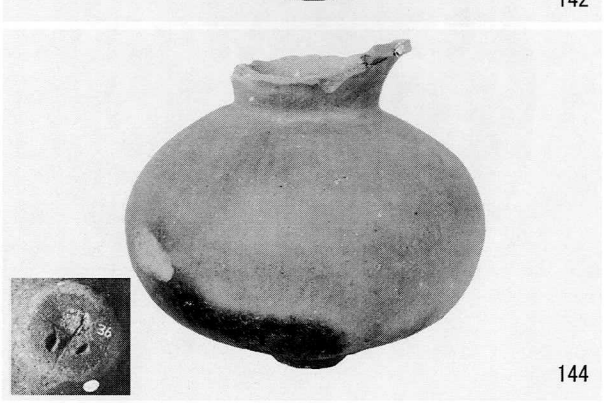

146

141


147


142

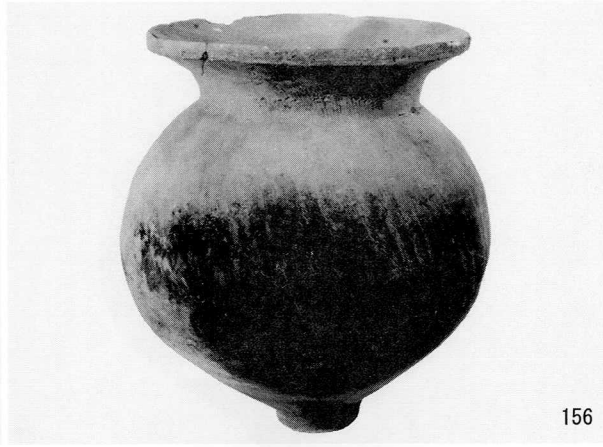
148


144

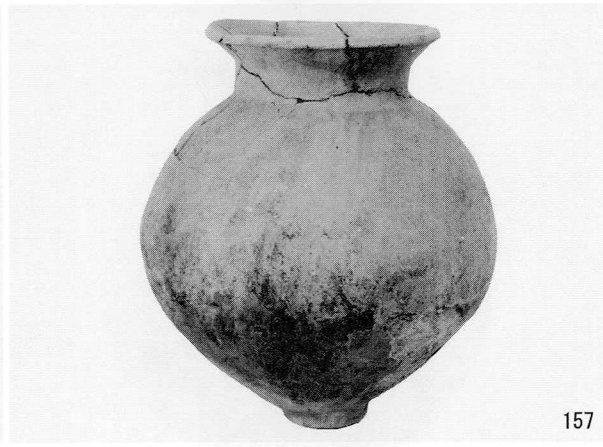
149

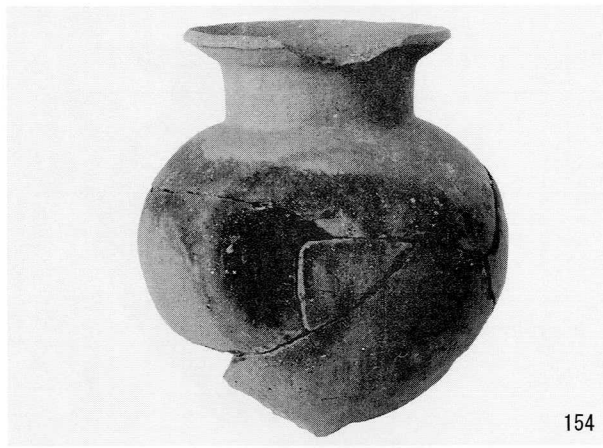
A区　ＳＤ301下層出土遺物

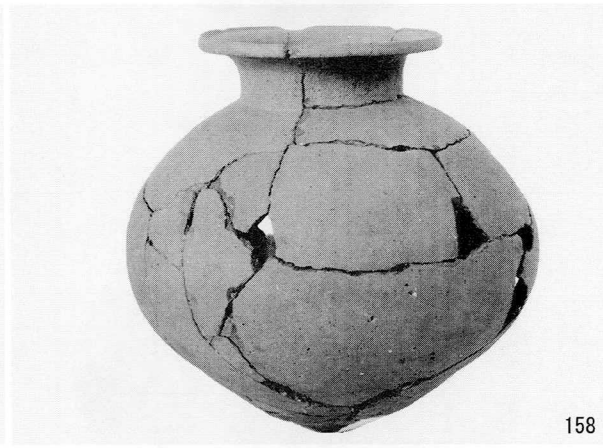
152


156

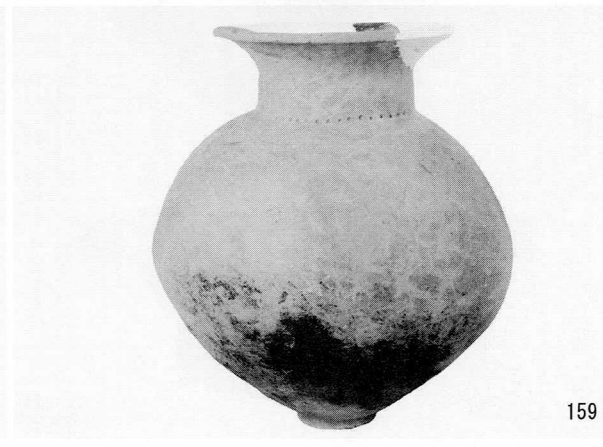
153


157


154


158

155

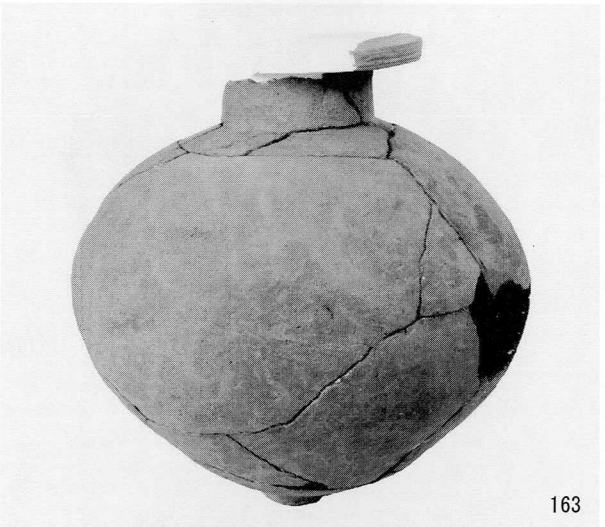

159

A区 ＳＤ301下層出土遺物

図版24

161

162


163

166

168

171

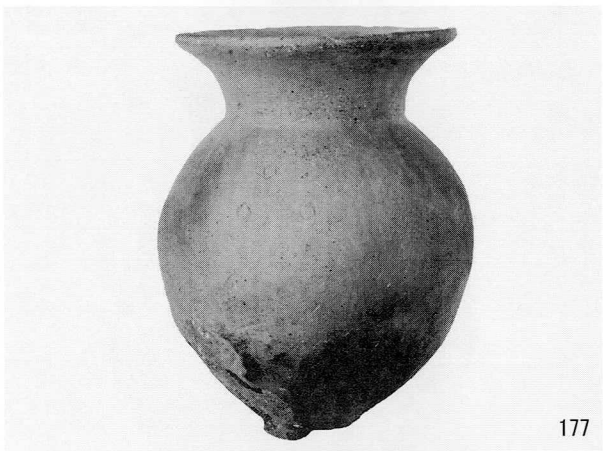
173

175

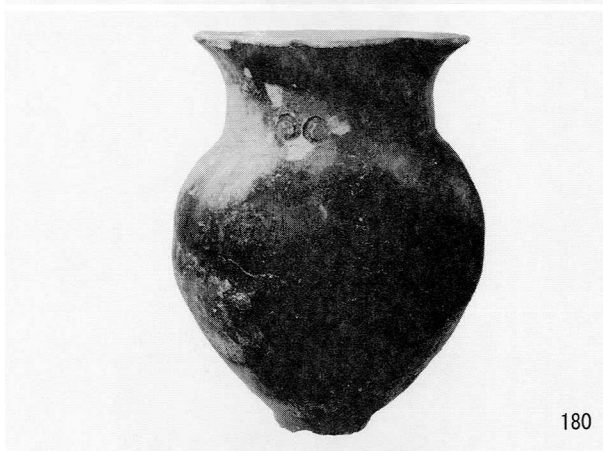
A区 ＳＤ301下層出土遺物

176

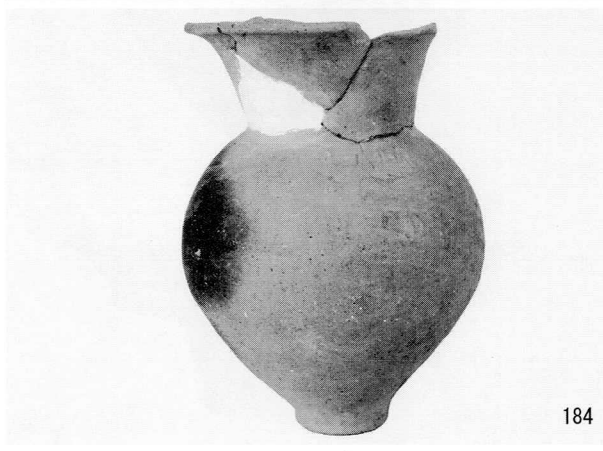
185

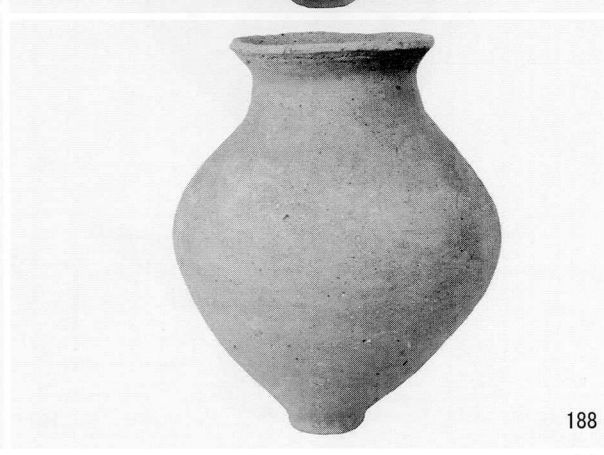

177

186


180

187

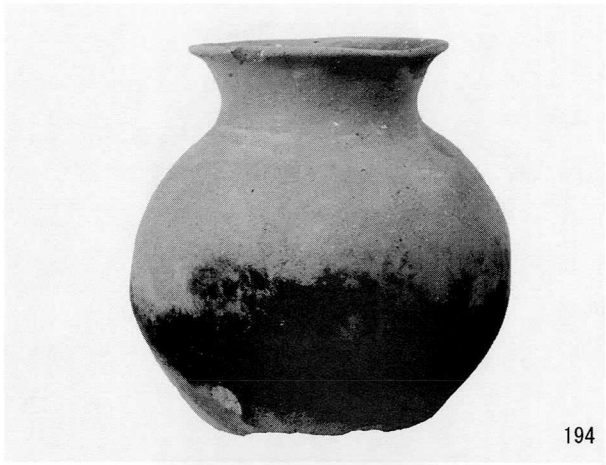

184


188

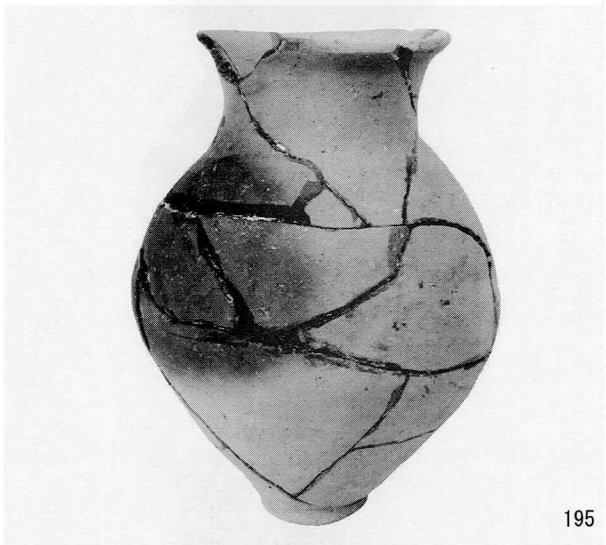
A区　ＳＤ301下層出土遺物

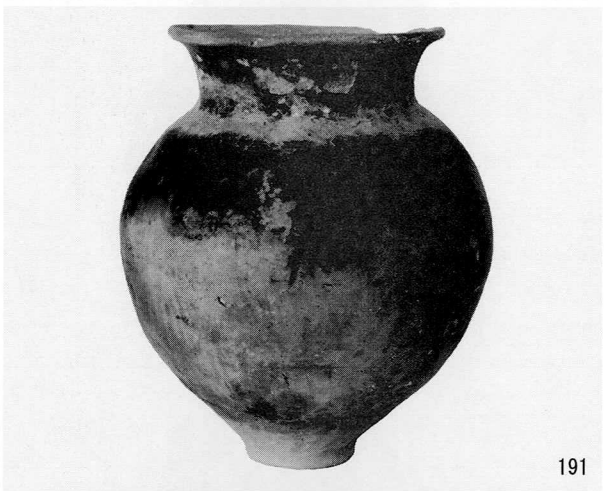
図版26

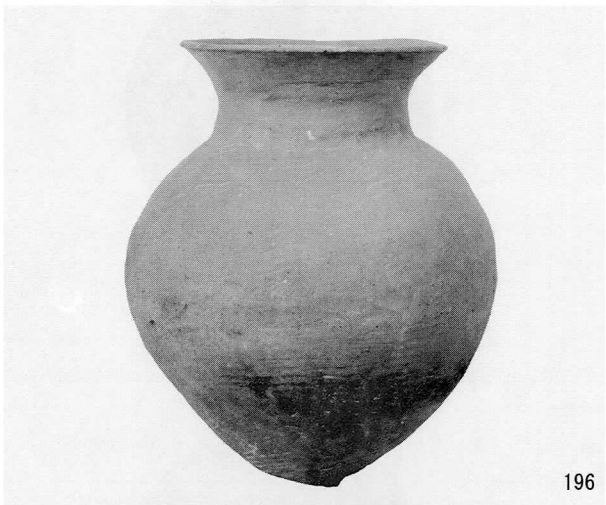
189


194

190


195

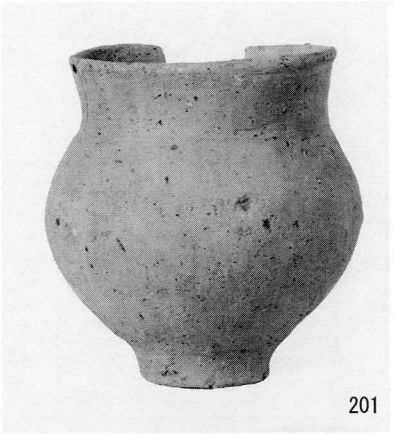

191


196

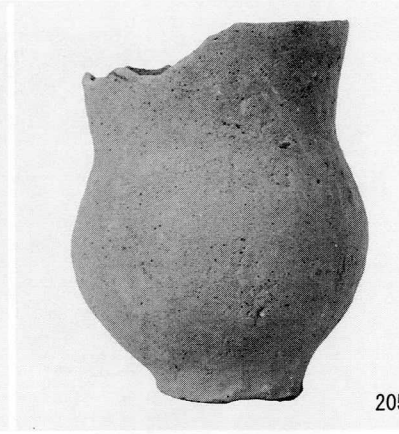
197

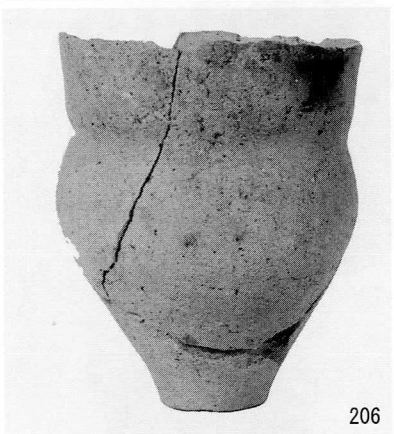
198

A区　ＳＤ301下層出土遺物

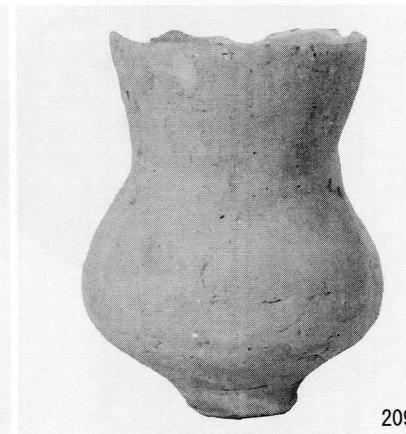

201

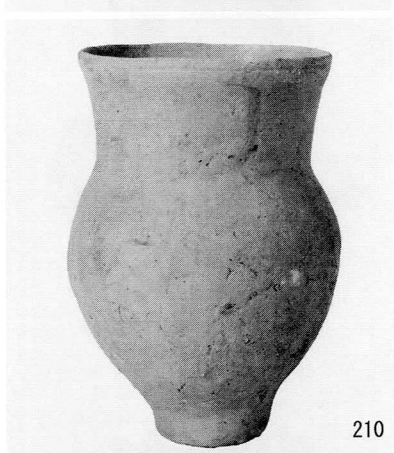
203

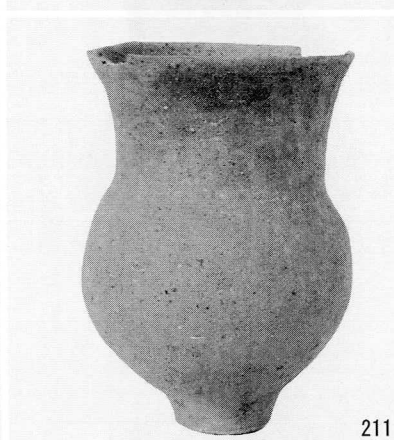

205


206

208

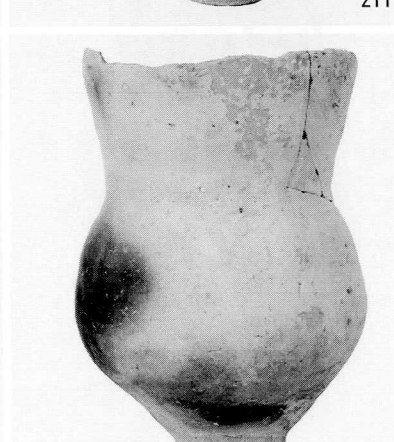

209

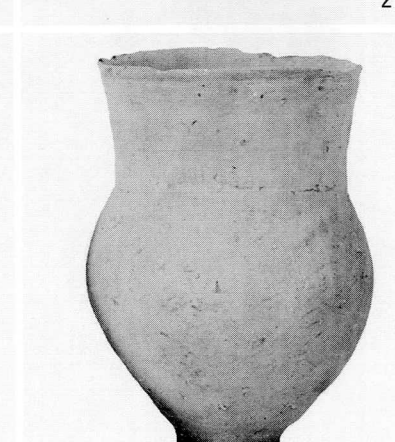

210


211

213

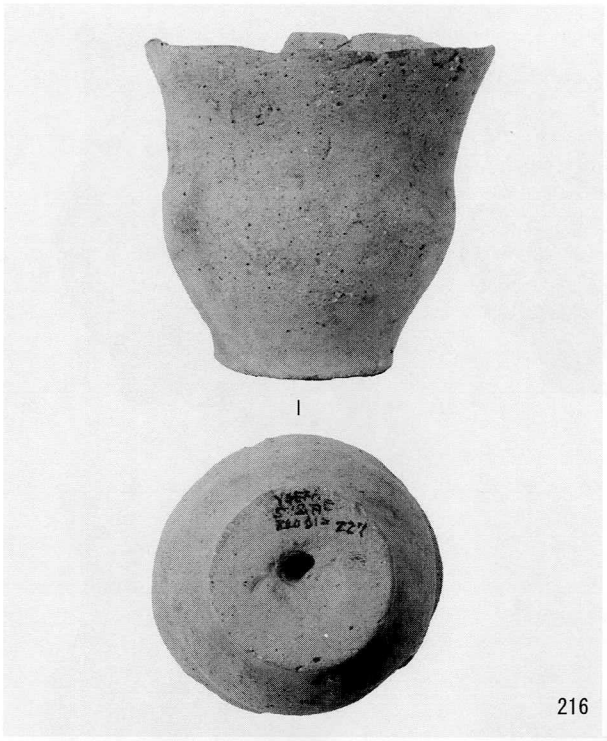
220

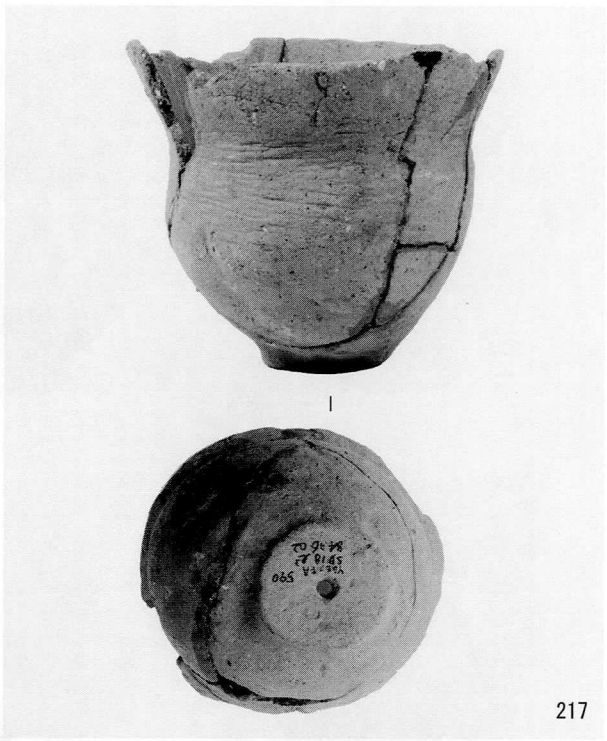

221

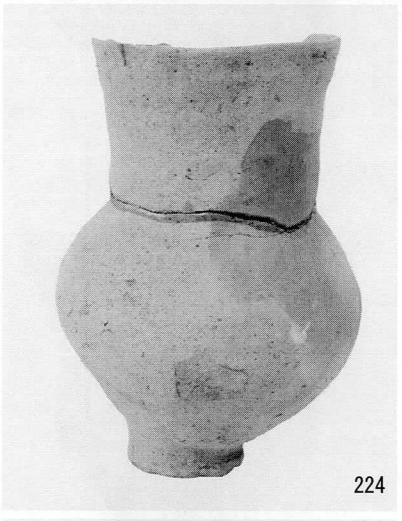

223

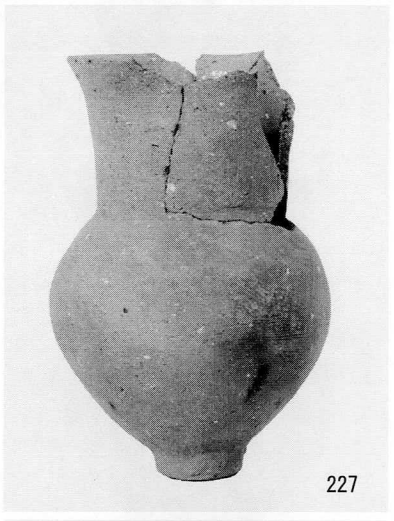
A区 ＳＤ301下層出土遺物

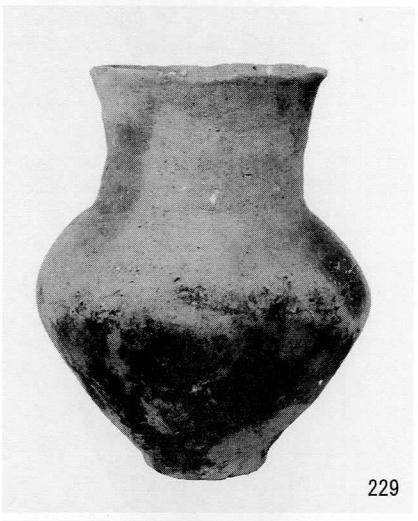
図版28

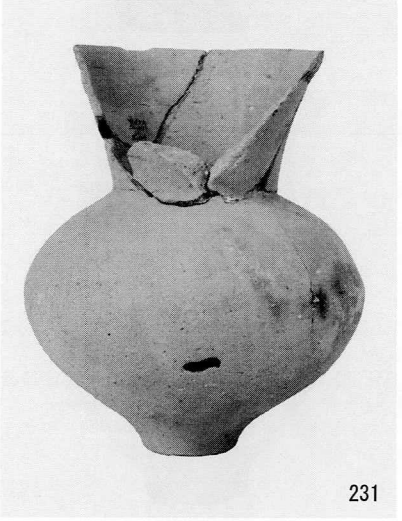

216

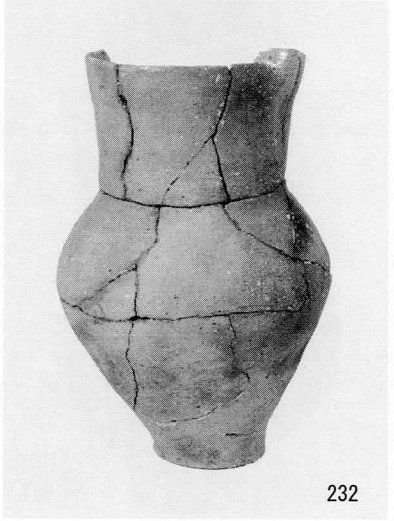

217


224


227

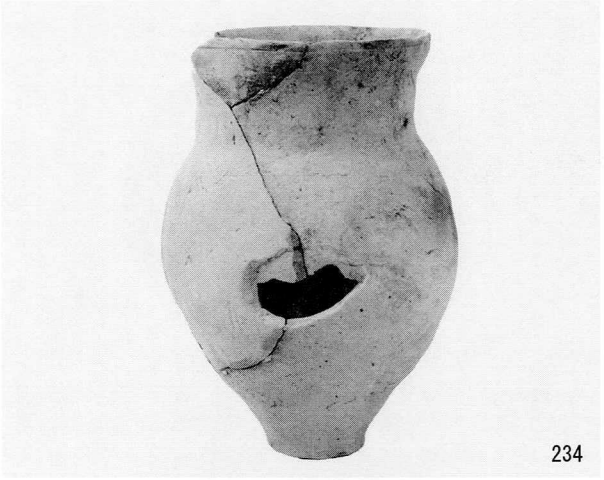

229


231


232

233

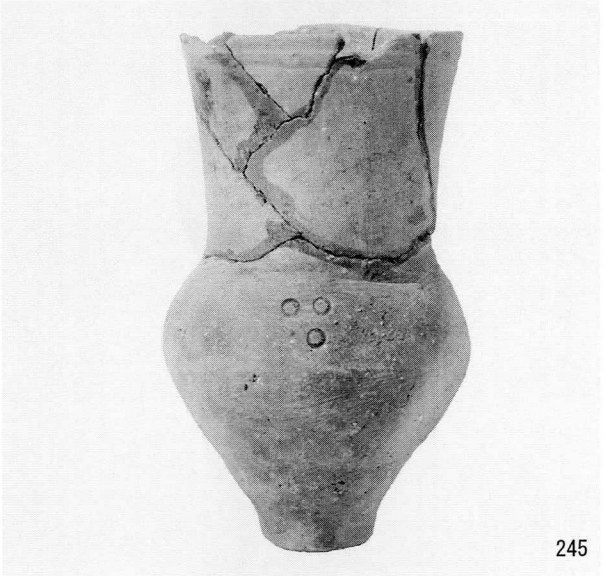
A区　ＳＤ301下層出土遺物


234

241

242

243

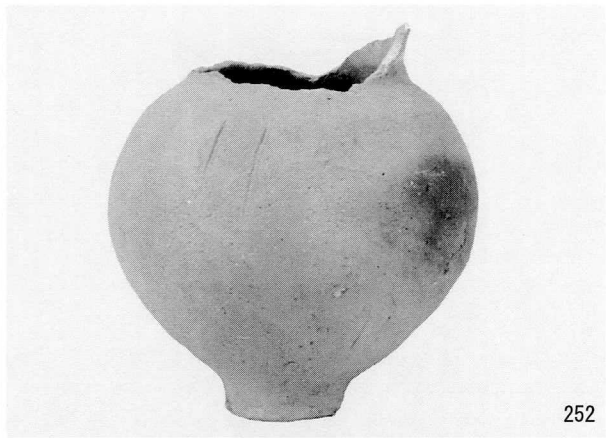

245

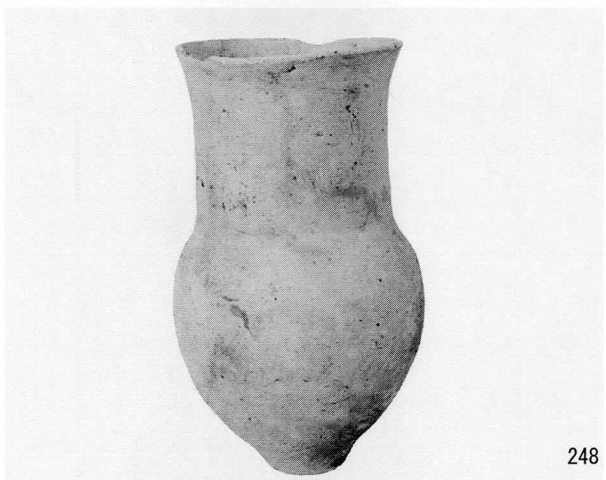
246

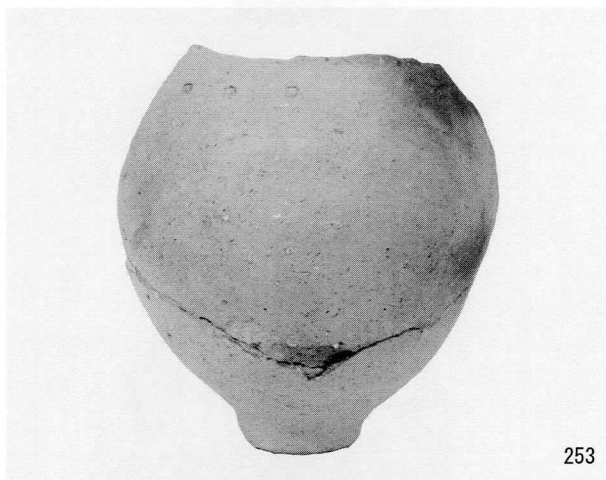
A区 ＳＤ301下層出土遺物

図版30

247


252


248


253

249

254

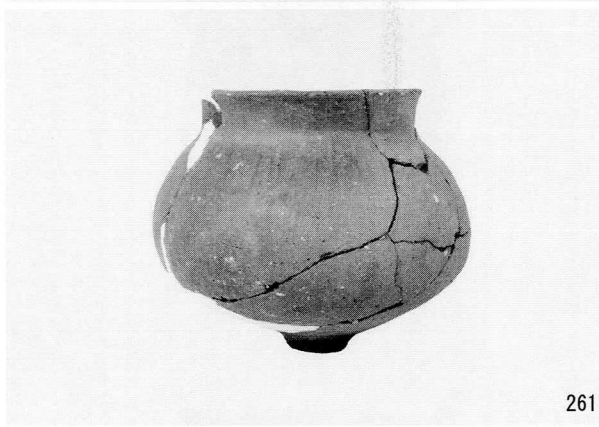
250

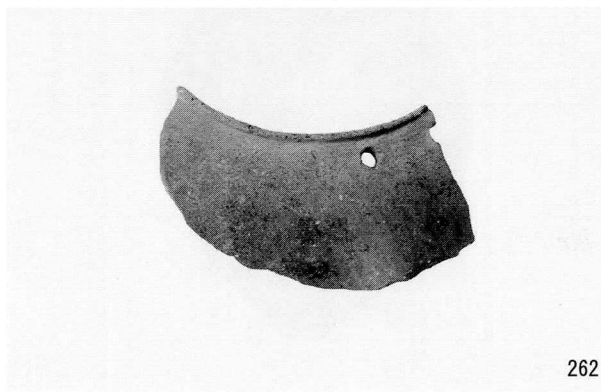
255

A区　ＳＤ301下層出土遺物

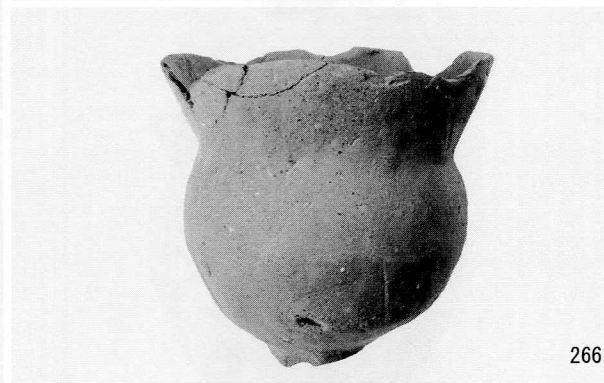
258

259

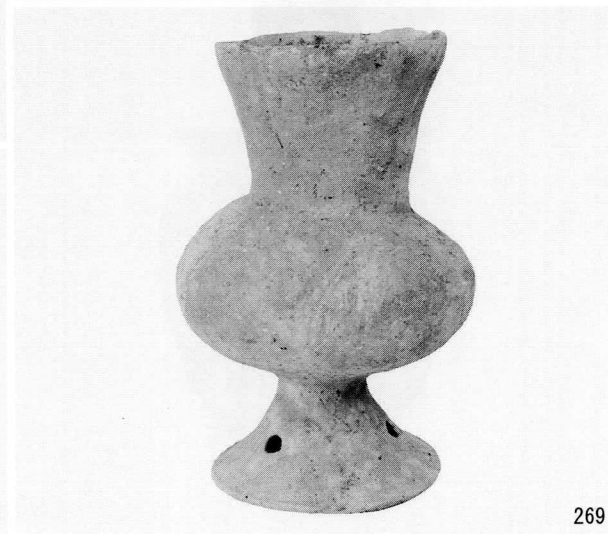

261


262

263


266

268


269

A区 ＳＤ301下層出土遺物

図版32

270

299

276

301

280

304

291

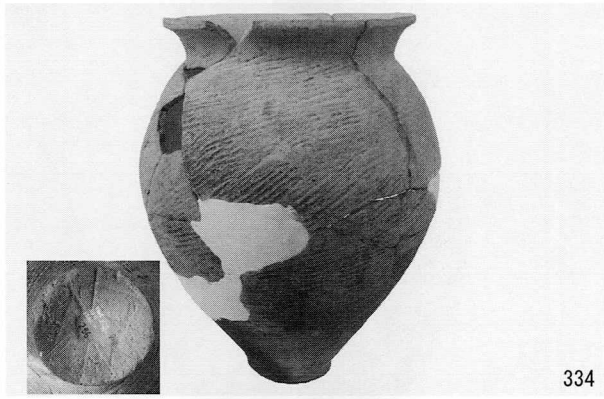
310

A区　ＳＤ301下層出土遺物

317

332

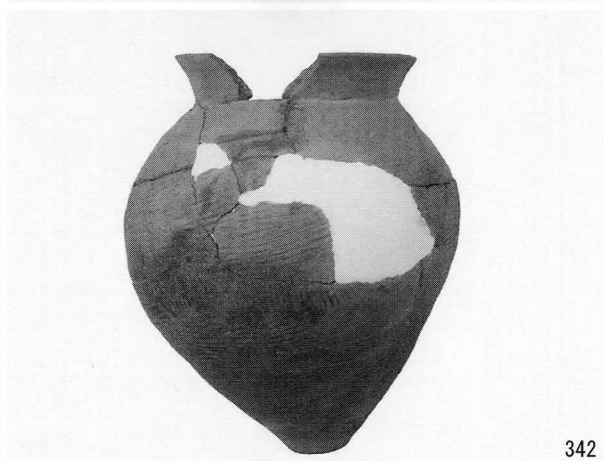
318


334

327

338

331


342

A区 ＳＤ301下層出土遺物

図版34

343

345

346

348

349

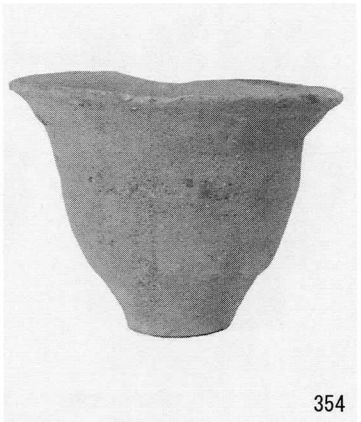
350

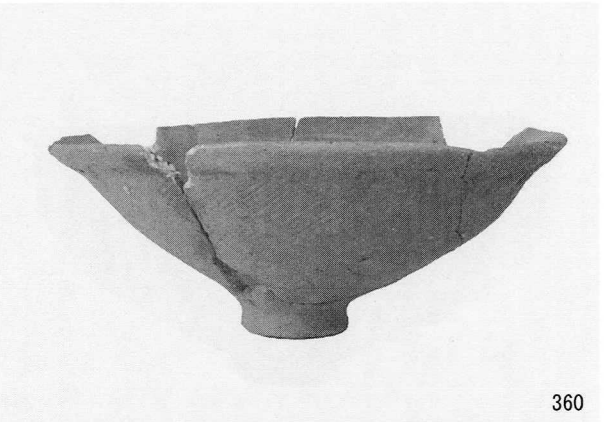
351

352

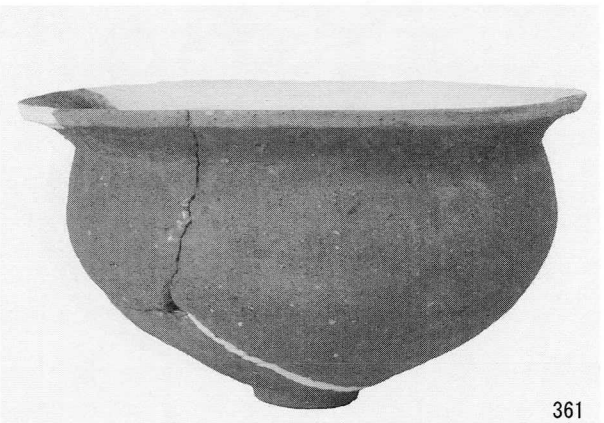
A区 ＳＤ301下層出土遺物

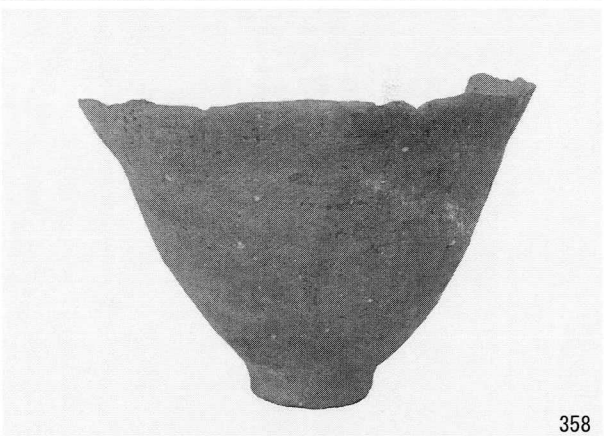
353

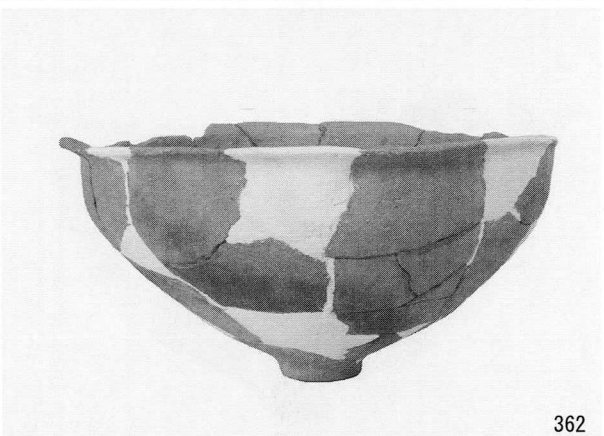

354


360

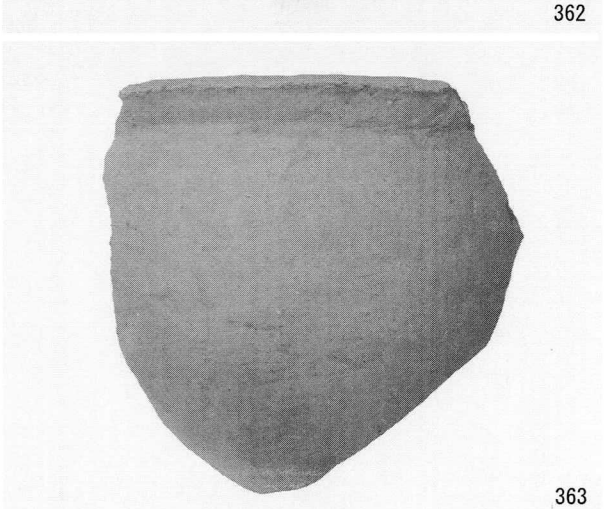
355


361


358

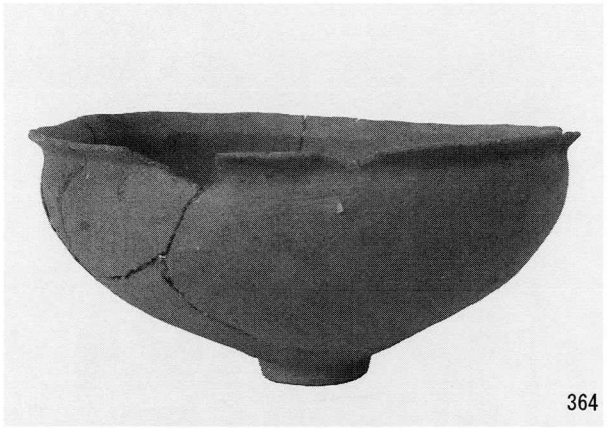

362

359


363

A区 ＳＤ301下層出土遺物

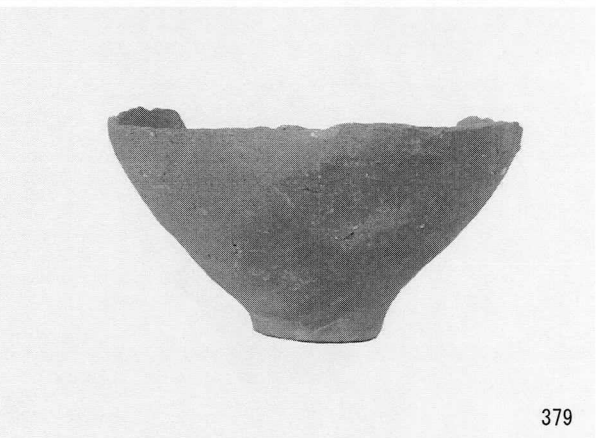
図版36

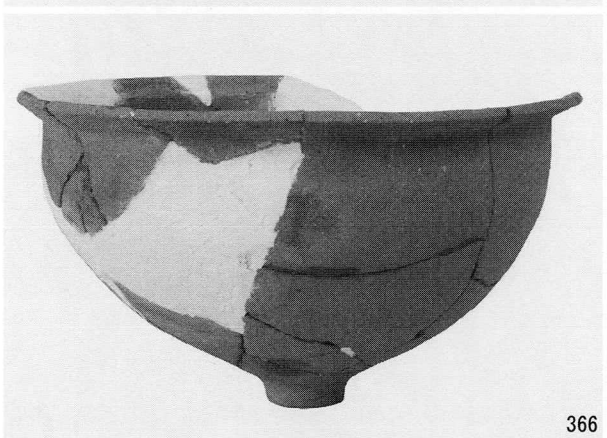

364

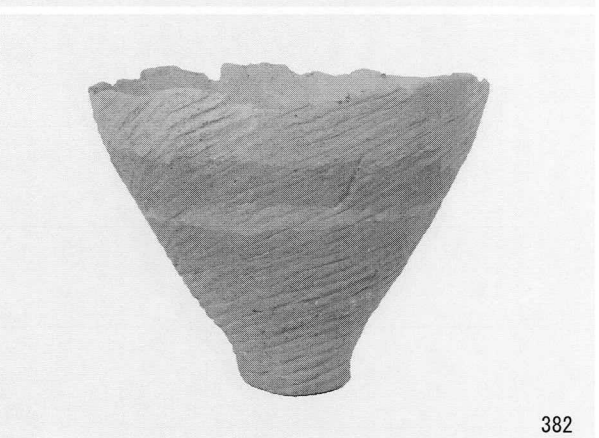
368

369

365


379

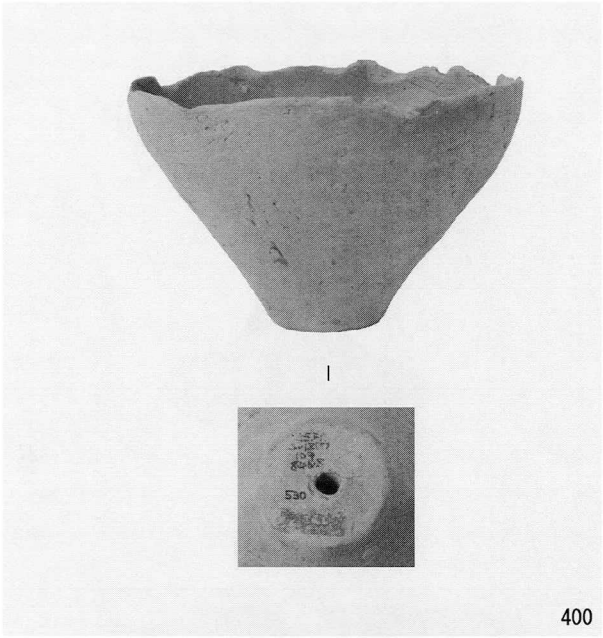

366


382

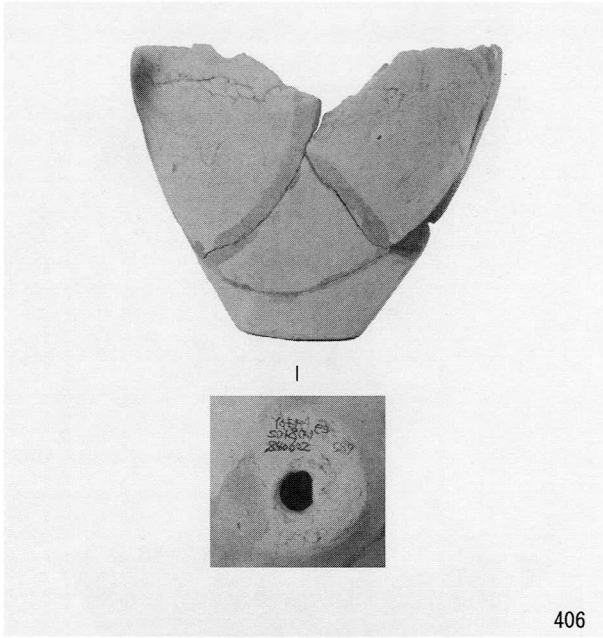
367

383

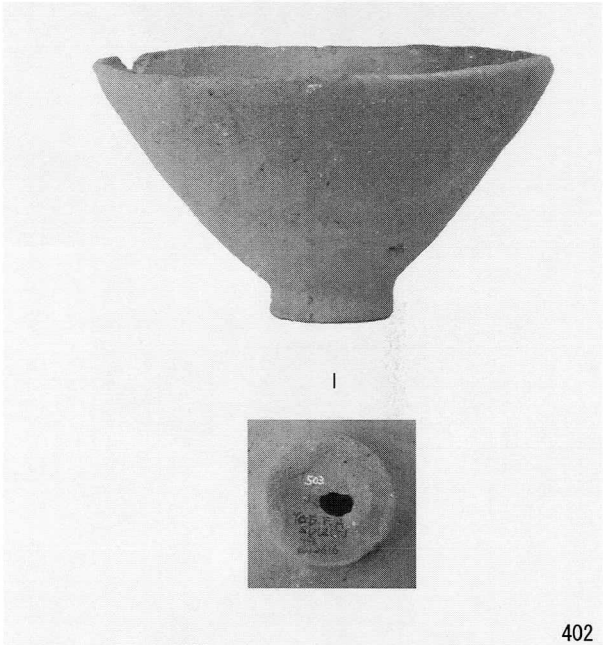
A区 ＳＤ301下層出土遺物



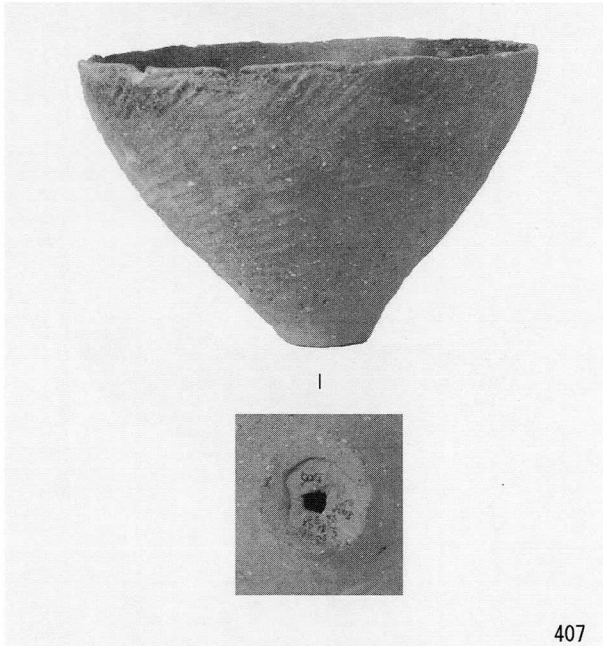
400



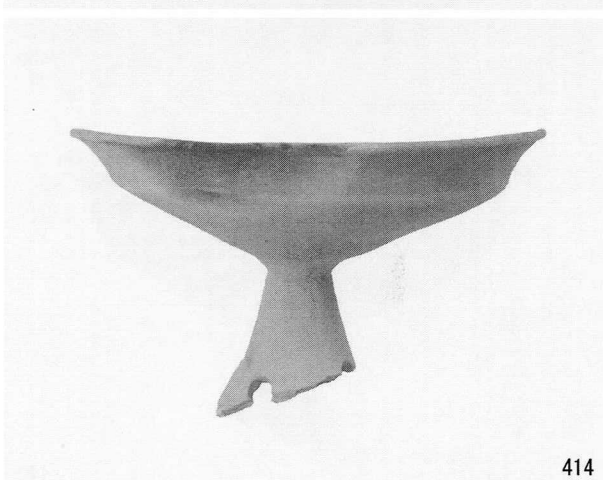
406



402



407



414

415

A区 ＳＤ301下層出土遺物

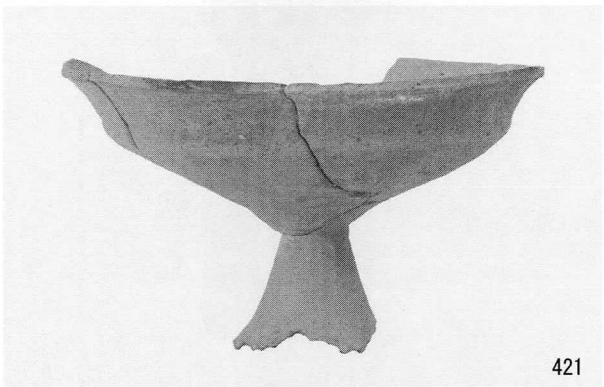
図版38

418

427

419

430

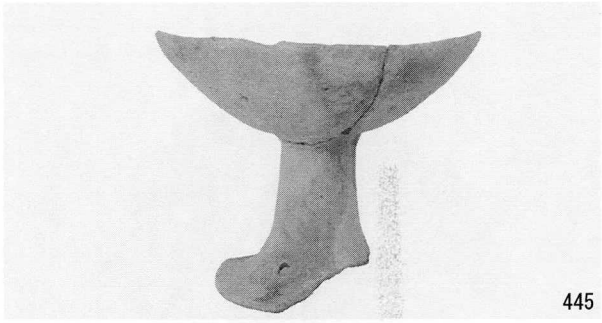

421

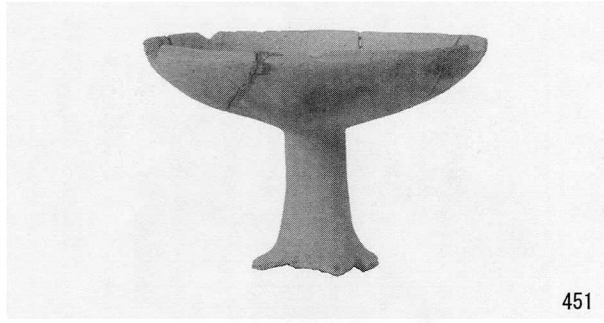
439

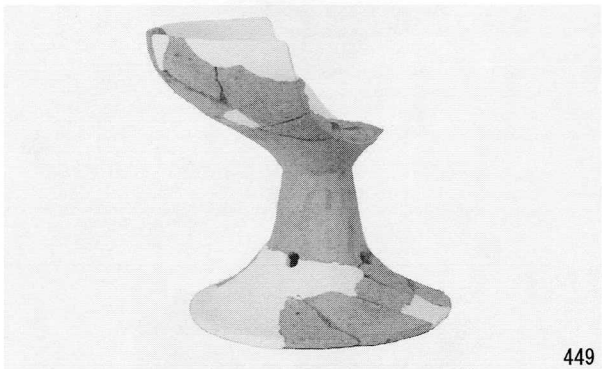
423

440

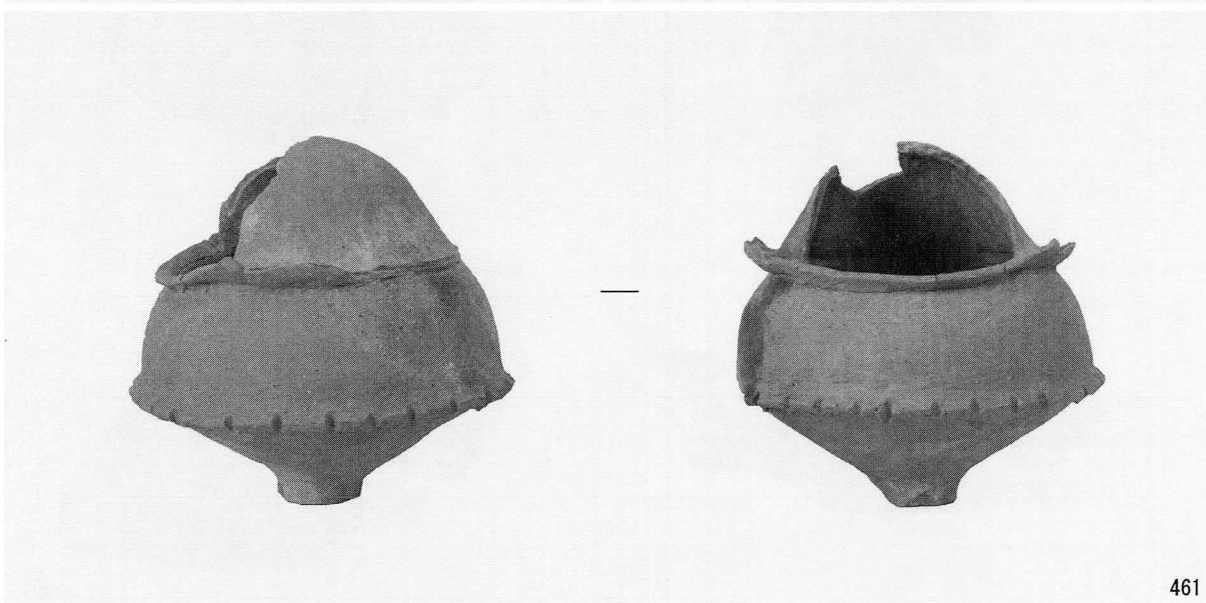
A区　ＳＤ301下層出土遺物

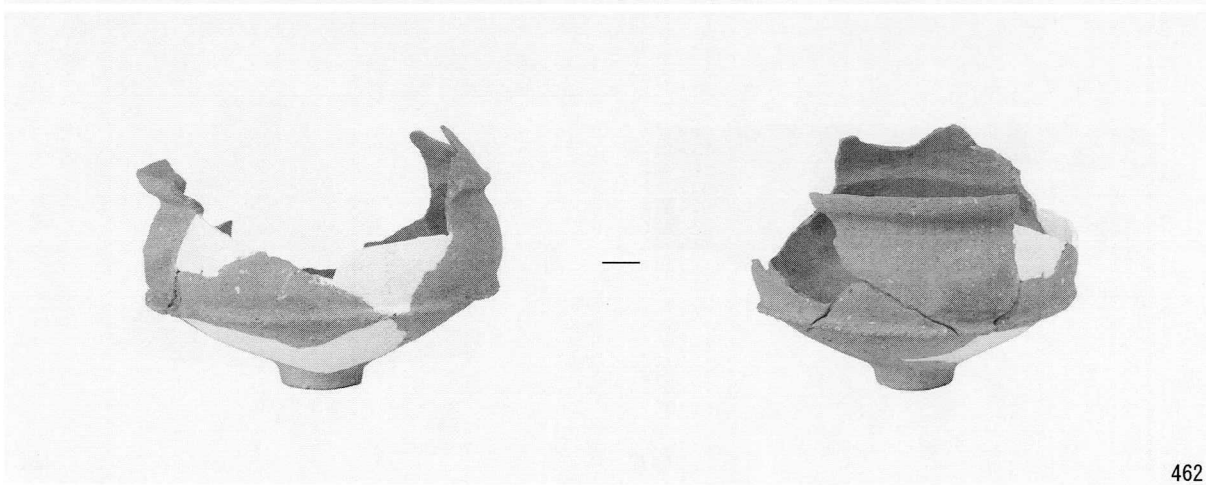

445


451


449

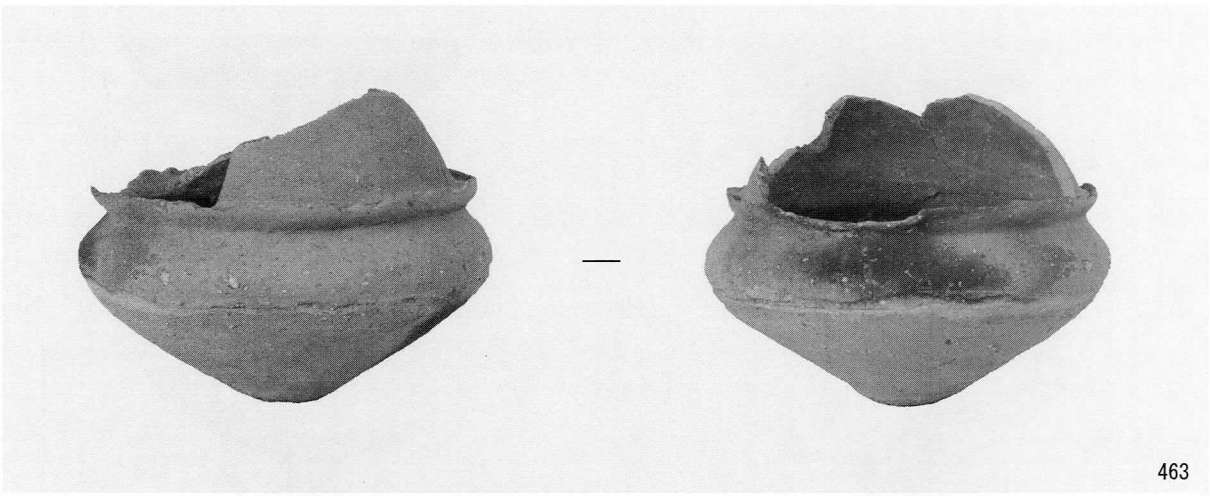
454

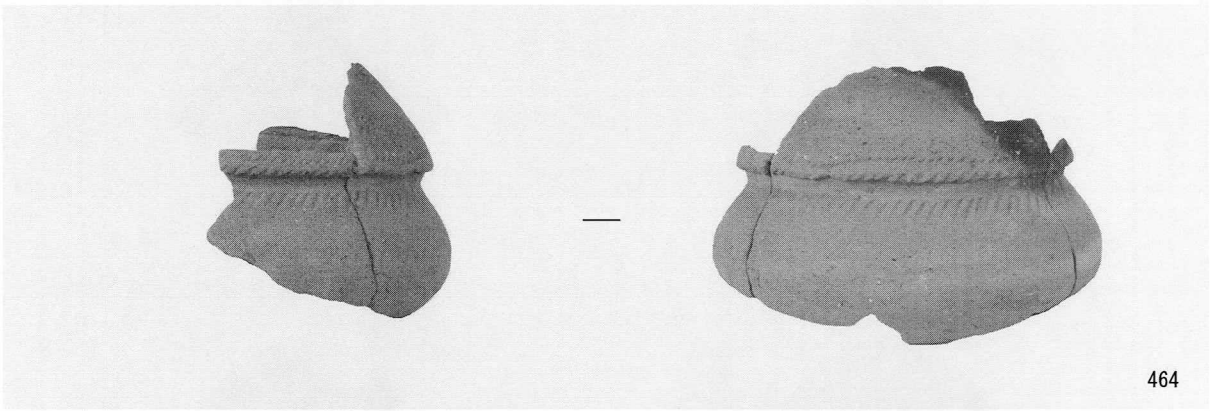

461

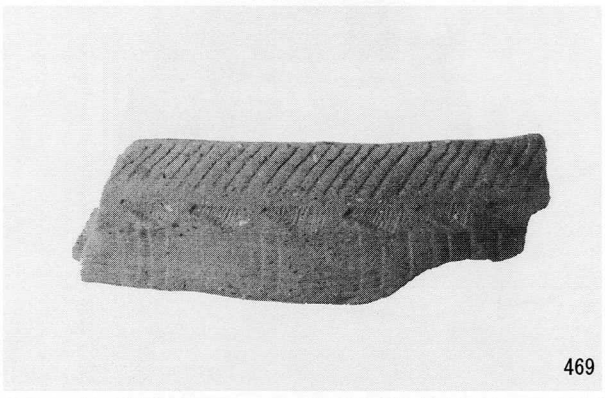

462

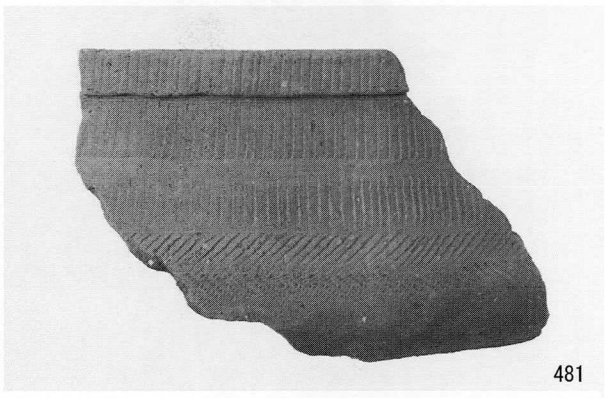
A区 ＳＤ301下層出土遺物

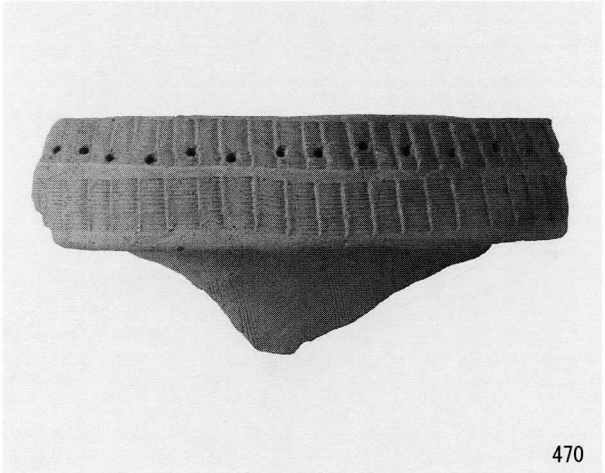
図版40

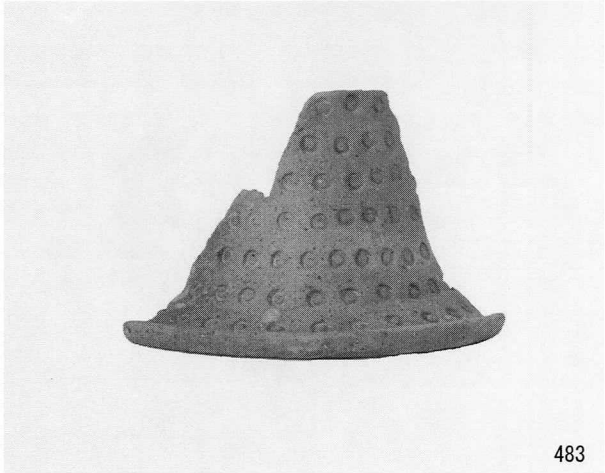

463


464


469


481


470


483

A区　ＳＤ301下層(463・464)、ＳＤ302(469・470・483)、ＳＤ304(481)出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	ゆげいせき　だい１じちょうさ
書　　名	弓削遺跡　第１次調査
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	公益財団法人　八尾市文化財調査研究会報告
シリーズ番号	142
編 集 者 名	西村公助・原田昌則
編 集 機 関	公益財団法人　八尾市文化財調査研究会
所　在　地	〒581－0821　　大阪府八尾市幸町四丁目58－２　TEL・FAX　072－994－4700
発行年月日	西暦2013年10月31日

所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
弓削遺跡（ゆげいせき）（第１次調査）	大阪府八尾市志紀町南二丁目	27212	71	34度35分46秒	135度36分56秒	19840402～19840727	1260	共同住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構・地層	主な遺物	特記事項
弓削遺跡（第１次調査）	集落	弥生時代中期後半	土坑　小穴　溝	弥生土器（河内第Ⅳ－１～２様式）　壺　甕　鉢	
		弥生時代後期後半古相	溝	弥生土器（後期後半古相）壺　甕　鉢　高杯　器台　蓋　手焙形土器	
		古墳時代中期～後期	井戸　土坑	須恵器　壺　埴輪	
		奈良時代中期～平安時代初頭	井戸	土師器　皿　甕　墨書人面土器　銅銭『神功開寶』	
要約	弥生時代中期後半・弥生時代後期後半古相・古墳時代中期～後期・奈良時代中期～平安時代初頭の遺構・遺物を検出した。なかでも、弥生時代後期後半古相に比定できる溝（ＳＤ301）からは、多数の土器が出土しており、これらの土器は河内における第Ⅴ様式の土器を考察するうえで良好な資料といえる。また、平安時代初頭に廃絶した井戸（ＳＥ103）からは墨書人面土器や銅銭『神功開寶』などの出土があり、井戸祭祀を考える上での貴重な資料を得た。			

弓削遺跡

第1次調査

発　行　　平成25年10月
編　集　　公益財団法人八尾市文化財調査研究会
〒581－0821
大阪府八尾市幸町四丁目58番地の2
TEL・FAX（072）994－4700

印　刷　　有限会社ぷりんと工房ヒロノ
表紙　レザック66　＜260kg＞
本文　マットコート　＜70kg＞
図版　マットコート　＜70kg＞